仙台市文化財調査報告書第145集

宮城県仙台市

郡山遺跡

―― 第84次・85次発掘調査報告書 ――

1990.6

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第145集

宮城県仙台市

郡山遺跡

―― 第84次・85次発掘調査報告書 ――

1990.6

仙台市教育委員会

第84次調査Ⅱa層水田跡遺物出土状況

第85次調査B区全景

序　　文

郡山遺跡の調査も12年目を迎え、毎年数々の成果を積みあげ、東北の古代史解明に一石を投じておりますことは、古代史・考古学等の識者のみならず市民の皆様方にも御承知のことと存じます。

最古の役所跡・郡山遺跡の発見は、日本の考古学・古代史学界に大きな反響を巻き起こしたばかりでなく、地方の時代の幕開けを象徴する極めて意義深いものであります。

今回の調査は、方四町II期官衙と、郡山廃寺との間で行なわれ、四面に廂を持つ堂々たる建物が発見された他、官衙の性格を探る上で極めて重要な資料が次々と発見され、古代史研究の前進に寄与するものと確信しております。ここに調査の記録を余すことなく報告、公開するものであります。

政令都市として新たな出発をした本市におきましては、市街地周辺地区での開発がこれまでになく進められております。文化財の保存につきましてもより一層緊密な調整を必要とする状況にありますが、そのような中にあって、調査を実施できますことは、ひとえに市民の皆様方の御協力の賜物と感謝申し上げる次第であります。

祖先の残してくれた貴重な文化遺産を次の世代に継承することは、行政とともに、市民一人一人の先人への理解と子孫への展望なくしては成し得ないものであります。

文化財保護への深い御理解と御協力をお願いするとともに、本書が文化財愛護精神高揚の一助となりますことを願うものです。

平成3年3月

仙台市教育委員会

教育長　東海林　恒　英

例　　言

1．本書は、宅地造成工事に伴なう郡山遺跡第84次・85次発掘調査の本報告書であり、既に公表された略報等に優先するものである。

2．本調査の経費は、申請者仙台市農業協同組合組合長理事佐藤守氏(第84次調査)、庄子孝氏(第85次調査)の負担による。

3．本書の編集は斎野裕彦が行った。

4．本書の作成にあたり、次のとおり分担した。

本文執筆	斎野裕彦
遺構図面整理、トレース	泉美恵子、桜井幸子、畑中ゆかり、斎野
遺物実測・トレース・拓影	伊藤房江、小林史子、片根義幸、畑中、泉、斎野
写真撮影	斎野、伊藤

5．関連科学については、灰像分析を松谷暁子氏、プラント・オパール分析を古環境研究所、使用痕分析を山田しょう氏へ依頼した。

6．石器の材質の鑑定は、仙台市科学館　佐々木隆氏にお願いした。

7．遺構図の平面位置図は相対座標で、座標原点は任意に設置したNo.1原点(X＝0、Y＝0)とし、高さは標高値で記した。

8．文中で記した方位角は磁北線を基準としている。

9．遺構略号は次のとおりで、全遺構に通し番号を付した。

SB　建　物　跡	SI　竪穴住居跡	SX　性格不明遺構
SD　溝　　跡	SK　土　　坑	P　ピット・小柱穴

10．遺物略号は次のとおりで、各々種別毎に番号を付した。

B　弥生土器	D　土師器(ロクロ使用)	F　丸瓦・軒丸瓦
C　土師器(ロクロ不使用)	E　須　恵　器	G　平瓦・軒平瓦

11．遺物実測図の網スクリーントーン貼り込みは黒色処理を示している。

12．本概報の土色については「新版標準土色帳」(小山・佐藤：1970)を使用した。

本 文 目 次

序　　文

例　　言

Ⅰ　調査に至る経過と調査要項……1

1．調査に至る経過……1

2．調査要項……2

Ⅱ　遺跡の立地と環境……3

1．立　　地……3

2．歴史的環境……6

Ⅲ　調査の方法と調査経過……9

1．調査区の設定……9

2．調査経過……9

Ⅳ　第84次調査……11

1．基本層序……11

2．調査概要……12

3．Ⅱa層上面の調査……12

4．Ⅱb層上面の調査……25

5．Ⅱc・Ⅱd層上面の調査……31

6．Ⅱd層上面の調査……35

Ⅴ　第85次調査A区……53

1．基本層序……53

2．調査概要……53

3．Ⅲ層上面の調査……54

Ⅵ　第85次調査B区……59

1．基本層序……59

2．調査概要……59

3．Ⅲ層上面の調査……60

4．Ⅲc層の調査……71

Ⅶ　分析・同定……99

松谷暁子　仙台市郡山遺跡(第84次調査)の灰像……101

古環境研究所　仙台市郡山遺跡(第84次調査)のプラント・オパール分析……107

山田しょう　仙台市郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）出土石庖丁の使用痕分析 ……113
古環境研究所　仙台市郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）のプラント・オパール分析……117
Ⅷ　ま　と　め ……121

挿　図　目　次

第１図　郡山遺跡位置図……1
第２図　郡山低地東半部における旧河道の位置と遺跡分布図……5
第３図　郡山遺跡全体図……7・8
第４図　第84次・85次調査区設定図……10
第５図　第84次調査区セクション図……13・14
第６図　Ⅱa～Ⅱd層全体図……15
第７図　Ⅱa層上面平面図……21・22
第８図　Ⅱa層上面検出遺構平面図セクション図（１）……23
第９図　Ⅱa層上面検出遺構平面図セクション（２）……24
第10図　SK1255・SK1257出土遺物実測図……25
第11図　口径／器高、口径／底径、相関図……26
第12図　Ⅱb層上面平面図……27・28
第13図　Ⅱb層水田跡土器一括出土状況平面図・セクション図……29
第14図　Ⅱb層水田跡一括出土土器実測図……30
第15図　Ⅲc層上面平面図……小溝状遺構群セクション図……33・34
第16図　Ⅱd層上面平面図……37・38
第17図　SI1267平面図・セクション図……39
第18図　SI1267遺物出土分布図……40
第19図　SI1267出土遺物実測図・拓影……41
第20図　SI1268平面図・セクション図……43
第21図　SI1268遺物出土分布図……44
第22図　SI1268出土遺物実測図……45
第23図　SD1266平面図・セクション図……47
第24図　SD1266出土遺物実測図・拓影……48
第25図　Ⅱd層上面検出遺構平面図セクション図……49
第26図　Ⅱd層出土遺物実測図・拓影……51
第27図　瓦拓影……52
第28図　A区基本層序柱状図……53
第29図　第85次調査A区Ⅲ層上面平面図……55・56
第30図　第85次調査A区出土遺物拓影(1)……57
第31図　第85次調査A区出土遺物拓影(2)……58
第32図　第85次調査B区セクション図……61・62
第33図　第85次調査B区Ⅲ層上面平面図……65・66
第34図　SB1277・P29・P33エレベーション図……68
第35図　SB1277柱間寸法図……68
第36図　第85次調査B区出土遺物実測図・拓影……70
第37図　第85次B区Ⅲ層中出土遺物平面・垂直分布図……73・74
第38図　第85次調査区弥生土器実測図・拓影（１）……76
第39図　第85次調査区弥生土器実測図・拓影（２）……77
第40図　第85次調査区弥生土器実測図・拓影（３）……78
第41図　第85次調査区弥生土器実測図・拓影（４）……79
第42図　第85次調査区弥生土器実測図・拓影（５）……80

第43図　第85次調査区弥生土器
実測図・拓影(6)……81
第44図　石器実測図(1)……84
第45図　石器実測図(2)……85
第46図　石器実測図(3)……86
第47図　石器実測図(4)……87
第48図　石器実測図(5)……88
第49図　石器実測図(6)……89
第50図　石器実測図(7)……90
第51図　石器の類別と属性相関図(1)……94
第52図　石器の類別と属性相関図(2)……94
第53図　弥生土器及び石材別石器分布図……95
第54図　第85次調査A区全体図……122
第55図　第85次調査B区全体図……123

挿表目次

第1表　I層出土遺物数量表……16
第2表　IIa層出土遺物数量表……16
第3表　IIb層出土遺物数量表……17
第4表　IIc層出土遺物数量表……17
第5表　IId層出土遺物数量表……17
第6表　IIa層上面検出遺構出土遺物数量表……18
第7表　IIc層上面検出遺構出土遺物数量表……18
第8表　IId層上面検出遺構出土遺物数量表……18
第9表　柱穴ピット土層註記表……20
第10表　小溝計測値・イネP・O分析値一覧表……32
第11表　ピット土層註記表……36
第12表　A区I層中出土遺物数量表……54
第13表　A区SD35埋土中出土遺物数量表……54
第14表　B区基本層出土遺物数量表……60
第15表　SB1277柱穴出土遺物数量表……63
第16表　SB1278柱穴出土遺物数量表……63
第17表　SB1280柱穴出土遺物数量表……63
第18表　SD1283出土遺物数量表……63
第19表　SX1281・SX1282出土遺物数量表……63
第20表　ピット出土遺物数量表……63
第21表　B区柱穴土層註記表……64
第22表　B区柱穴ピット土層註記表……67
第23表　弥生土器類別数量表……72
第24表　IIIc層出土石器類別・石材一覧表……83
第25表　I・II層出土石器類別・石材一覧表……83
第26表　石器観察表(1)—III層……91
第27表　石器観察表(2)—III層……92
第28表　石器観察表(3)—I・II層……93
第29表　III層出土礫観察表……93
第30表　水洗選別検出遺物数量表……96

写真図版目次

写真1　都山遺跡周辺の航空写真……4
写真2　調査区遠景……6
写真3　C−5G南壁セクション……129
写真4　SX1258全景(南から)……129
写真5　SK1256全景(南から)……129
写真6　SK1256セクション(南から)……130
写真7　SK1257全景(東から)……130
写真8　SK1257セクション(東から)……130
写真9　SK1255全景(東から)……131
写真10　SK1255セクション(南から)……131
写真11　SK1259全景(東から)……131
写真12　SK1259確認プラン……132

写真13　SK1259セクション……132
写真14　SX1260・SX1261全景(北から)……132
写真15　SX1260・SX1261
　　確認プラン(北から)……132
写真16　SK1262セクション(西から)……133
写真17　SK1263全景・セクション……133
写真18　C－1～3GⅡa層中遺構確認
　　プラン(西から)……133
写真19　C－1～3GⅡb層上面全景(西から)……134
写真20　A・B－1GⅡa層中遺構確認
　　プラン(南から)……134
写真21　A・B－1GⅡb層上面全景
　　(南から)……134
写真22　Ⅱa層中土器一括出土状況(1)(北から)…135
写真23　Ⅱa層中土器一括出土状況(2)(北から)…135
写真24　Ⅱa層中土器一括出土状況(3)(東から)…135
写真25　Ⅱa層中土器一括出土状況(4)(北から)…135
写真26　C－4～6GⅡc Ⅱd層上面遺構
　　確認プラン(東から)……136
写真27　C－4～6GⅡc Ⅱd層上面小溝状
　　遺構群全景(東から)……136
写真28　小溝①セクション(北から)……136
写真29　小溝②セクション(北から)……136
写真30　小溝③セクション(北から)……136
写真31　小溝④セクション(北から)……136
写真32　小溝⑦セクション(北から)……136
写真33　小溝⑧セクション(北から)……136
写真34　小溝⑨セクション(北から)……136
写真35　小溝⑪セクション(北から)……136
写真36　小溝⑫セクション(北から)……136
写真37　C－2～3GⅡd層上面遺構
　　確認プラン(北から)……137
写真38　Ⅱd層上面小溝状遺構群全景(北から)……137
写真39　小溝⑬セクション(北から)……137
写真40　小溝⑭セクション(北から)……137
写真41　小溝⑮セクション(北から)……137
写真42　小溝⑰セクション(北から)……137
写真43　小溝⑱セクション(北から)……137
写真44　小溝⑲セクション(1)(北から)……137
写真45　小溝⑲セクション(2)(北から)……137
写真46　小溝⑲セクション(3)(北から)……137
写真47　小溝⑳セクション(北から)……137
写真48　Ⅱd層上面全景(西から)……138
写真49　SI1268・SD1266全景(西から)……138
写真50　A・B－1GⅡd層上面遺構
　　確認プラン(北から)……139
写真51　SB1265全景(南から)……139
写真52　SI1267全景(南から)……139
写真53　SI1267カマド全景(南から)……140
写真54　SI1267カマドセクション(東から)……140
写真55　SI 1267P 1遺物出土状況(東から)……140
写真56　SI1267南壁セクション(北から)……140
写真57　SI 1267P 3・P 4全景(上から)……140
写真58　SI 1267P 1セクション(東から)……140
写真59　SI 1267P 3・P 4セクション(西から)……140
写真60　SI 1268P 5セクション(東から)……140
写真61　SI1268全景(南西から)……141
写真62　SI1268セクション(南西から)……141
写真63　SI 1268P 1セクション(東から)……141
写真64　SI1268貼床・P 5セクション
　　(南西から)……141
写真65　SI1268・P 1セクション(東から)……141
写真66　SI 1268P 3セクション(東から)……141
写真67　SI 1268P 4セクション(東から)……141

写真68　SI1268周溝セクション(北から) ……141
写真69　SD1266セクション(北から)……142
写真70　SK1270全景(北西から) …… 142
写真71　SK1271全景(北西から) …… 142
写真72　SX1272全景(北から) …… 143
写真73　SK1273全景(北から) …… 143
写真74　SK1274全景(北から) …… 143
写真75　第85次調査A区・坪掘りA地点
　セクション ……144
写真76　第85次調査A区・坪掘りB地点
　セクション ……144
写真77　第85次調査A区全景(西から) ……144
写真78　第85次調査A区全景(東から) ……144
写真79　第85次調査B区全景(南から) ……145
写真80　SB1278・SB1280全景(南から) ……145
写真81　SB1277全景(南から)……145
写真82　第85次調査B区全景(東から) ……146
写真83　SB1278全景(北から)……146
写真84　SB1280全景(北から) ……146
写真85　SB1277(P5)SB1278(P11)
　セクション(北から) ……147
写真86　SB1280(P65a、P65b)
　セクション(北から) ……147
写真87　IIIc層中弥生土器出土状況……147
写真88　IIIc層中石器(K－34)出土状況……147
写真89　第85次調査B区作業風景
　(北西から) ……147
写真90　第84次調査区出土土器(1) ……148
写真91　第84次調査区出土土器(2) ……149
写真92　第84次調査区出土瓦・弥生土器,
　第85次調査A区出土弥生土器……150
写真93　第85次調査区出土土器 ……151
写真94　第85次調査B区出土弥生土器(1) ……152
写真95　第85次調査B区出土弥生土器(2) ……153
写真96　第85次調査B区出土弥生土器(3) ……154
写真97　第85次調査B区出土石器(1) ……155
写真98　第85次調査B区出土石器(2) ……156
写真99　第85次調査B区出土石器(3) ……157
写真100　第85次調査B区出土石器(4) ……158
写真101　第85次調査B区出土石器(5) ……159
写真102　第85次調査B区出土石器(6) ……160

Ⅰ　調査に至る経過と調査要項

1．調査に至る経過

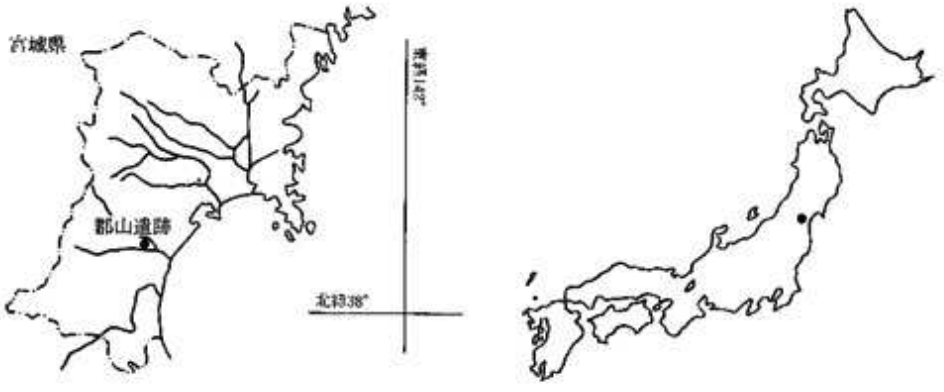
郡山遺跡は、古くから諏訪神社北方の畑を中心に瓦の散布する地区として知られており、その北方に位置する郡山三丁目遺跡には土師器、須恵器が散布することから、2遺跡の関連性が考えられていた。

この遺跡の発掘調査が初めて行なわれたのは、昭和54年の郡山三丁目205－1、206－1において計画された開発行為に伴なう事前調査によるものであった。調査は仙台市教育委員会によって行なわれ、検出された多くの掘立柱建物跡、竪穴住居跡、土坑や、出土した多量の土師器、須恵器などから、遺跡の性格が7世紀末から8世紀初頭の官衙跡であるとの見方が強まった。[註1)]

これらの成果をもとに、仙台市教育委員会では郡山遺跡の範囲拡大を郡山三丁目遺跡を含む形で行ない、文化庁、宮城県教育委員会との協議のうえ、遺跡の範囲と性格を明らかにするため主に国庫補助事業として昭和55年度から発掘調査を実施してきている。[註2~12)]

この間、83次に及ぶ調査が行なわれ、郡山遺跡には7世紀後半から8世紀初頭にかけて、大別2時期の官衙（Ⅰ期官衙・Ⅱ期官衙）の存在が明らかとなっている。また、それ以前や以後の遺構、遺物も検出されており、現在のところ遺跡の年代幅は縄文時代後期から近世に及ぶことが判明している。

こうした状況の中、平成元年3月、仙台市榴ケ岡1丁目2－45、仙台市農業協同組合組合長、理事佐藤守氏により仙台市郡山6丁目231－1他における宅地造成のための発掘届が提出され、また平成元年9月、仙台市郡山3丁目19－21、庄子孝氏により仙台市郡山5丁目46－1他における宅地造成のための発掘届が仙台市教育委員会に提出された。この2箇所は郡山遺跡の範囲内にあることから、両者との協議により、それぞれ記録保存のための事前調査が平成元年度に当教育委員会により行なわれることとなった。



第1図　郡山遺跡位置図

2．調査要項

(1)遺　跡　名　郡山遺跡（仙台市文化財登録番号C－104）

(2)調査名と調査区所在地

郡山遺跡第84次調査：仙台市太白区郡山６丁目231－1他（申請者　仙台市農業協同組合組合長理事　佐藤　守　氏）

郡山遺跡第85次調査：仙台市太白区郡山５丁目46－１他（申請者　庄子　孝　氏）

(3)調査期間

第84次調査　発掘調査　平成元年７月13日から平成元年10月２日

室内整理　平成２年４月11日から平成２年６月30日

第85次調査　発掘調査　平成元年10月４日から平成元年12月４日

室内整理　平成２年４月11日から平成２年６月30日

(4)調査面積

第84次調査：調査面積229.3㎡　対象面積1752㎡

第85次調査：調査面積626.5㎡（A区191.3㎡、B区435.2㎡）　対象面積2704㎡

(5)調査主体　仙台市教育委員会

(6)調査担当　仙台市教育委員会社会教育部文化財課

課長　早坂春一

調査第一係　係長　佐藤　隆　主事　斎野裕彦

(7)発掘調査参加者　赤井沢サダ子　浅見禮子　阿部郁子　安齋商子　泉美恵子　伊藤貞子　伊藤房江　伊藤律子　大友節子　大山のり子　小幡勝子　金沢沙知子　叶　誠　川村　信　菊地つね子　菊地文明　北村宗司　小池房子　斎藤紀子　桜井幸子　桜谷勇作　佐々木義明　佐竹さく子　渋谷佳代　庄子かつえ　菅井民子　高橋秀幸　高橋美香　高橋ヨシ子　高山紀子　田中さと子　谷藤恵子　千田あや子　千田タイ子　永井考仁　永坂宏樹　永田英明　針生えなよ　牧かね子　松木慎一　松田　稔　真山　剛　峯岸りつ子　峯岸安好　吉田アキヨ　米倉節子　渡辺清貴

(8)整理作業参加者　青山博樹　泉美恵子　伊藤房江　海藤　浩　片根義幸　古賀克典　小林史子　斎藤紀子　桜井幸子　佐々木義昭　佐藤光一　高橋秀幸　田中一史　永井考仁　永坂宏樹　畑中ゆかり　半沢　忍　松木慎一　村上令子

(9)発掘調査に際して下記の方々から適切な御教示をいただいた。記して感謝したい。（敬称略）

今泉　隆（東北大学）、岡田茂弘（国立歴史民俗博物館）、桑原滋郎（宮城県教育庁）、佐川政敏（奈良国立文化財研究所）、佐々木隆（仙台市科学館）、須藤　隆（東北大学）、高野芳宏（東北歴史資料館）、豊島正幸（東北農業試験場）、丹羽　茂（多賀城跡調査研究所）、松谷暁子（東京大学）、山田しょう（東北大学）、結城慎一（仙台市博物館）、渡邊泰伸（仙台育英学園高校）

II　遺跡の立地と環境

1．立　　地

宮城県中央部の地形は、山形県境沿いに船形山、面白山を擁し南北に連なる奥羽山脈と、ここより発生する陸前丘陵、さらに東方へ広がる宮城野海岸平野[註13]よりなる。仙台市近傍では、陸前丘陵を広瀬川と名取川が東流しており、その河間丘陵地を青葉山丘陵、広瀬川以北を七北田丘陵、名取川以南を高館丘陵とそれぞれ命名している[註14]。両河川は中流域に下刻作用により4～5段の段丘地形を発達させており、丘陵を貫流したのち、沖積作用により宮城野海岸平野を形成してきている。宮城野海岸平野は地理的条件や成因、地質などから地形区分がなされており、仙台市南部の広瀬川と名取川の合流点付近では河間低地を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼んでいる[註14]。

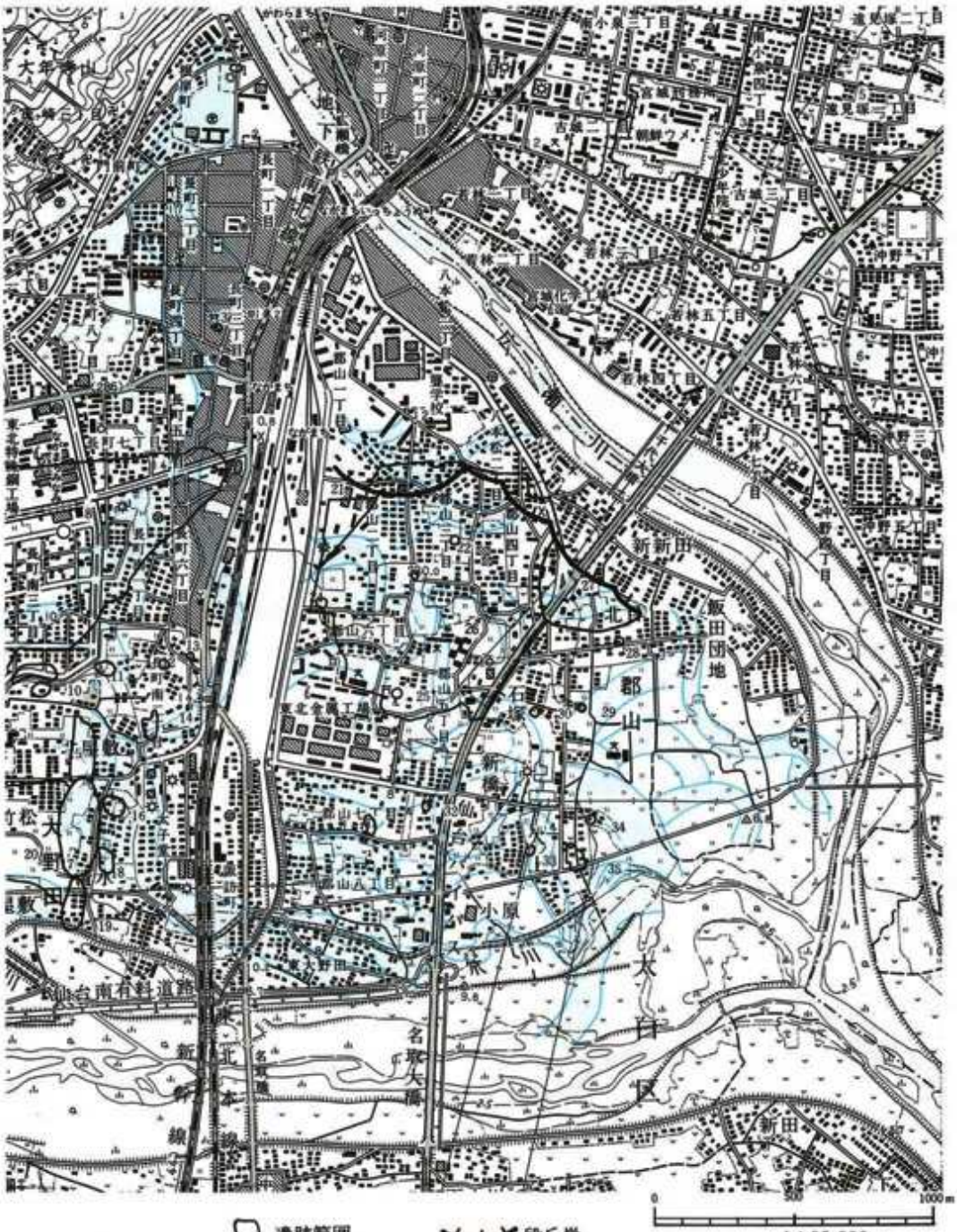
郡山遺跡は、これら低地の中で郡山低地に所在する。郡山低地は、北東縁と南縁を広瀬、名取両河川により他の低地と画され、北西縁には地質構造線（長町－利府線）[註15]が南西－北東方向に走り、青葉山丘陵と名取台地との地形境界をなしている。標高は7m～20mである。豊島正幸氏によれば、「郡山低地は広瀬川沿いでは小規模な段丘崖で画され、名取川沿いでは自然堤防が発達している」地形環境にあり、西半部では自然堤防の背後に後背湿地が広がっているのに対し、東半部では支流も含め、広瀬、名取両河川の合流点に近いこともあり、主に自然堤防とともに多くの旧河道がみられる。

第2図は郡山低地東半部における旧河道及び段丘崖の位置を2万5千分1の地形図に示したもの（航空写真の判読により東北農業試験場の豊島正幸氏に作成していただいた。）で、それに周辺の遺跡範囲等を加えてある。また第3図には郡山遺跡の全体図に旧河道及び段丘崖（太線）、今回の調査地点、関連する調査地点を示している。

郡山遺跡は低地東半部でも北寄りの位置にあり、東西800m、南北900m、面積72万㎡を有している。遺跡北端部は低地東半部でも最も標高の高い場所であり（標高12～11m）、南方へは徐々に標高を減じていき、名取川沿いでやや標高が高くなる傾向にあるが、北方とは段丘崖により標高差が認められる。この段丘崖は郡山遺跡及び隣接する西台畑遺跡、北日城跡の北縁と関連するとともに、郡山遺跡II期官衙外郭北辺の設定など、官衙跡との関連性も考えられる。また旧河道には現況でも河道を認識できるものもあるが、遺跡範囲内では、これまでの旧河道部分の調査でも、I期官衙以前、I期官衙、II期官衙の時期の遺構が検出されており、当時は微起伏はあるものの北高南低の平坦な地面を呈していたものと思われる。遺跡の南縁については、比高差1～2mの二つの旧河道が考えられている。

今回の調査地点は第3図に示すように、II期官衙外部南辺と、郡山廃寺中枢伽藍域の中間地

写真１　郡山遺跡周辺の航空写真



1	兜塚古墳	8	富沢遺跡	15	大野田遺跡	22	郡山三丁目古墳群	29	六田東古碑群
2	小兜塚古墳	9	袋東遺跡	16	北屋敷遺跡	23	八幡社古墳群	30	矢来遺跡
3	蛸薬師古碑群	10	元袋Ⅱ遺跡	17	王ノ壇遺跡	24	長町駅裏古墳	31	的場遺跡
4	若林城跡	11	元袋Ⅲ遺跡	18	長町清水遺跡	25	諏訪社古碑群	32	龍ノ瀬遺跡
5	南小泉遺跡	12	長町南遺跡	19	皿屋敷遺跡	**26**	**郡山遺跡**	33	矢ノ上Ⅰ遺跡
6	砂押Ⅰ遺跡	13	長町六丁目遺跡	20	大野田古墳群	27	北目城跡	34	矢ノ上Ⅱ遺跡
7	砂押Ⅱ遺跡	14	新田遺跡	21	西台畑遺跡	28	宅地古碑群	35	矢ノ上遺跡

第2図　郡山低地東半部における旧河道の位置と遺跡分布図

写真2　調査区遠景

区にあたり、3地点とも旧河道に位置している。

2．歴史的環境

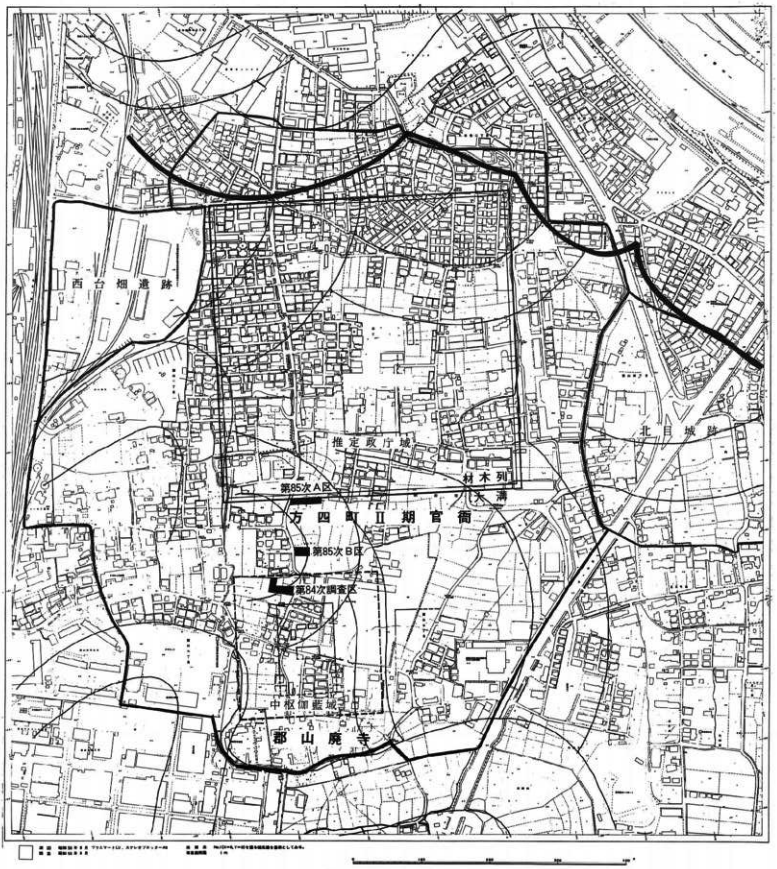
郡山低地東半部には数多くの遺跡が分布しており、現在のところ縄文時代後期から近世にかけての遺構あるいは遺物が検出されている。しかし、郡山遺跡を除き他の遺跡での調査例は少なく西台畑遺跡や欠ノ上Ⅰ遺跡などにおいて行われているにすぎない。

郡山遺跡北西縁に隣接する西台畑遺跡は、1957年（昭和32）に粘土採掘工事に伴ない発見された遺跡で、地表下5mから縄文時代後期の遺物、地表下約2mから弥生時代桝形囲式期の遺物が出土しており[註16]その後の調査により、墓域の存在が推定されている[註17]。また1982年（昭和57）に行われた調査では本流と考えられる南北方向の河川跡が検出されている[註18]。

欠ノ上Ⅰ遺跡では、平安時代後半から中世にかけての水田跡が検出され、旧河道に立地するという地形的制約を受けたなかでの水田耕作の実態が明らかとなっている[註19]。

また、郡山遺跡東縁に隣接する北目城跡は、15世紀に粟野大膳が居館とした後、伊達政宗が居城としていたもので、郡山遺跡で検出される中世～近世の遺構、遺物との関連性は今後の課題とされる。

こうした郡山低地東半部での遺跡のあり方は、旧河道の分布にも示されるような現地形面における複雑性を各時期における河道や地形面の把握により、検出される遺構、遺物との関連性から理解していく必要性があろう。


西台畑遺跡
推定政庁域
第85次A区
材木列
大溝
方四町Ⅱ期官衙
第85次B区
第84次調査区
中枢御館域
郡山廃寺
北目城跡

第3図　郡山遺跡全体図

Ⅲ　調査の方法と調査経過

1．調査区の設定

(1)第84次調査：対象地区は郡山廃寺中枢伽藍北西コーナーの北側にあたる。昭和60年の第62次調査では伽藍の北西コーナーと門跡が確認された他、平安時代の遺構、遺物が検出されており、それに関連した遺構、遺物の検出が予想された。

調査区は主に道路予定地部分に第４図のようにＬ字形に設定した。調査面積は229.3㎡である。調査区北西コーナー付近の任意の点を原点（Ｎ－０－Ｓ、Ｗ－０－Ｅ）とし、ここから調査区の方向に合わせて基準線を設け、これをもとに調査区内に６ｍ×６ｍのグリットを設定し、遺構実測を行なった。測量基準線の方向は真北に対してＮ－18°－Ｅである。また各グリットはさらに３ｍ×３ｍの小グリットに分割し、北西コーナー部分から時計回りにａｂｃｄと名称をつけた。

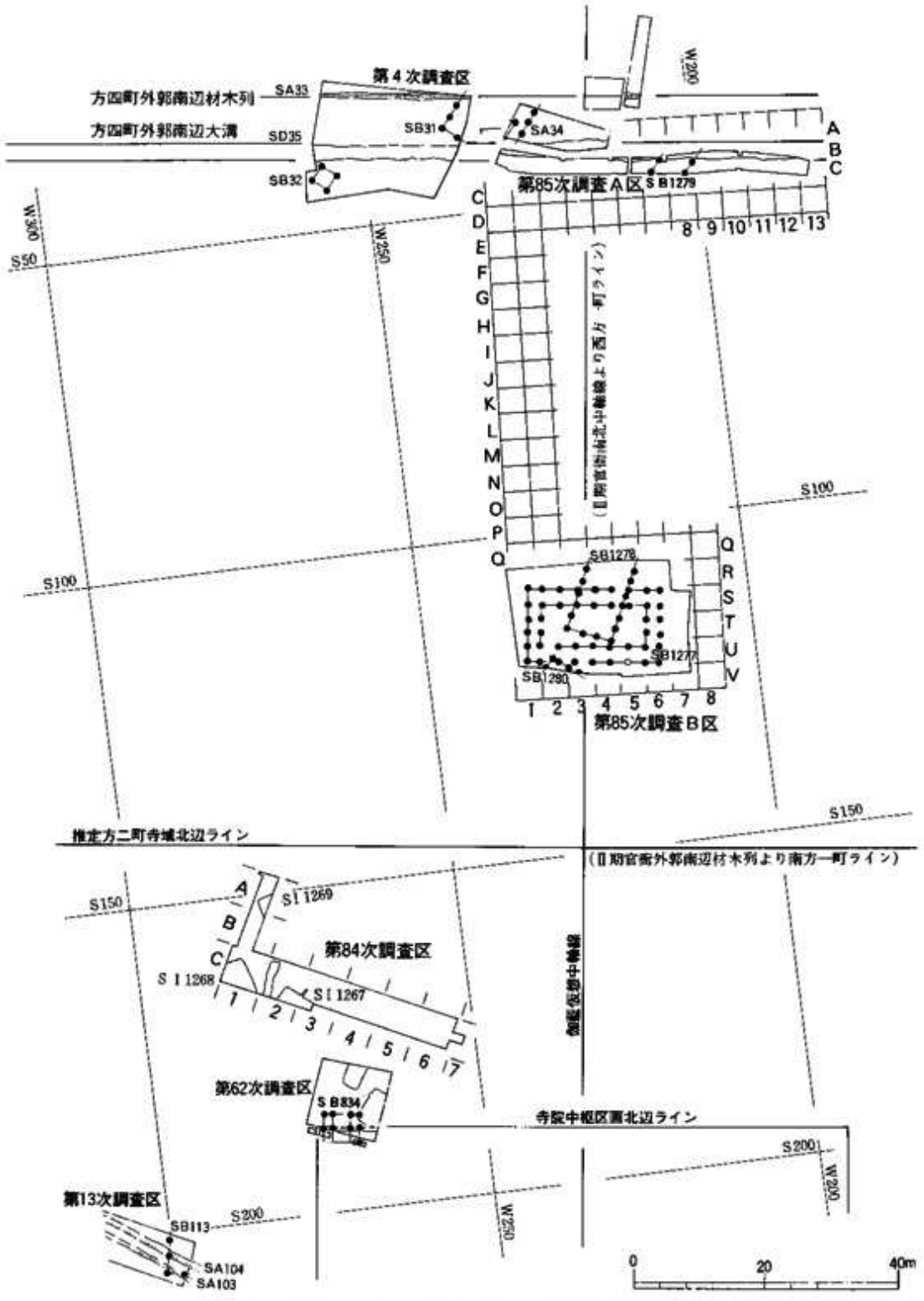
(2)第85次調査：対象地区はⅡ期官衙外郭南辺（南門から西へ約100ｍの地点）から郡山廃寺推定寺域線北辺北側にかけての位置にあたる。北端部において外郭大溝の検出が予想された。

調査区は北側の道路予定地部分191.3㎡をＡ区、南側の道路と宅地予定地部分の435.2㎡をＢ区とし、第４図のように設定した。調査区北西コーナー付近の任意の点を原点（Ｎ－０－Ｓ、Ｗ－０－Ｓ）とし、ここからＢ区の調査区の方向に合わせて基準線を設け、これをもとに調査区内に４ｍ×４ｍのグリットを設定し、遺構実測を行なった。測量基準線の方向は真北に対してＮ－4°－Ｗである。

2．調査経過

(1)第84次調査：発掘調査は平成元年７月13日に開始された。Ⅱａ～ｄ層の各層上面で遺構が検出され、Ⅱｄ層上面ではⅠ期・Ⅱ期官衙跡の遺構面が良好に残っていたことが確認されたことから申請者との協議を行ない、その結果地下遺構を損なわない工法をとることの了解が得られたため、Ⅱｄ層より下層への調査は行なわず、平成元年10月２日発掘調査は終了した。室内整理作業は平成元年４月11日に開始され、平成２年６月30日に終了した。

(2)第85次調査：発掘調査は平成元年10月４日に開始された。第４図のようにＡ区、Ｂ区ともⅠ期・Ⅱ期官衙跡の遺構面が良好に残っていたことが確認されたことから申請者との協議を行ない、その結果地下遺構を損なわない工法をとることの了解が得られたため、より下層への調査は行なわず、平成元年12月４日発掘調査は終了した。室内整理作業は平成元年４月11日に開始され、平成２年６月30日に終了した。



第４図　第84次・85次調査区設定図（官衙期遺構配置図）

IV　第84次調査

1．基本層序

第84次調査区においては、Ⅰ層～Ⅴ層の基本層が確認され、Ⅰ層はａ～ｃ、Ⅱ層はａ～ｄにそれぞれ細分されている。それらの成因については、Ⅰ層には不明な点もあるが、Ⅱ・Ⅲ層は主に河川による砂、シルト、粘土の供給に基づき、Ⅳ・Ⅴ層は主に泥炭の形成と河川による粘土あるいはシルトの供給に基づいているものと考えられる。なかでもⅢ層は、砂粒を比較的多く含む褐色のシルト質粘土層であり、層厚も厚く、下層との間に成因、土性の異なりのあることから、当調査区内ではⅢ層の堆積によって、地形あるいは環境の変化が起きていることが考えられる。又、プラント・オパール分析によって、Ⅰ層の各層、Ⅱａ～Ⅱｃ層、Ⅳ層からイネ機動細胞のプラント・オパールが検出されている（第Ⅶ章参照）。

Ⅰａ層：7.5Y7/1灰色シルト。現水田耕作土

Ⅰｂ層：５Y5/1灰色シルト。現水田床土。しまりがある。

Ⅰｃ層：2.5Y6/1黄灰色シルト。酸化鉄、マンガン斑を多く含む。

Ⅱａ'層：10YR6/1 褐灰色シルト質粘土。上部に酸化鉄を含む。上～中位にマンガン斑を含む。この層は、Ｃ－１～３グリット南半部に分布している。上面におけるⅡａ層との境界ラインは、Ⅱａ層上面で検出された遺構の廃絶時以降にⅡａ'層を耕作土とする水田跡に伴なう畦畔の位置を示す可能性もある。層厚は３cm～14cmである。この層の下面には凹凸が認められ、直下にⅡａ層を残す部分もある。

Ⅱａ層：2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト。上部に酸化鉄を含む。上～中位にマンガン斑を含む。この層は調査区全域に分布している。部分的に灰白色火山灰をわずかに含む。層厚は５cm～18cmである。この層の下面には凹凸が認められる。平安時代水田土壌。

Ⅱｂ層：10YR4/1 褐灰色シルト質粘土。この層は調査区全域に分布している。マンガン斑を含む。層厚は５cm～17cm。この層の下面にはやや凹凸が認められる。

Ⅱｃ層：10YR5/1 褐灰色シルト質粘土。この層はＣ－５グリット以東に分布している。Ｃ－６グリット東壁での層厚は３cm～20cmである。

Ⅱｃ'層：10YR4/1 褐灰色粘土質シルト。この層はＣ－６グリット東壁際のみに分布している。層厚は３cm～20cmである。この層の上面には凹凸が認められる。

Ⅱｄ層：10YR4/1 褐灰色シルト質粘土。黄褐色土をブロック状に多く含む。黒褐色土を部分的に含む。この層は調査区全域に分布している。層厚は５cm～13cmである。

Ⅲ　層：10YR4/6 褐色シルト質粘土。砂粒を比較的多く含む。この層は調査区全域に分布している。SX1259 底面下では層厚は47cmである。

Ⅳ　層：10YR6/1 褐灰色シルト質粘土。植物遺体を含む。SX1259 底面下では層厚5.5cm。この層の下面には凹凸が認められる。

Ⅴ　層：2.5Y7/2 黄灰色シルト質粘土。植物遺体を含む。

2．調査概要

Ⅱａ層、Ⅱｂ層、Ⅱｃ層、Ⅱｄ層の各層上面で遺構を検出している。Ⅱｃ層上面で検出された小溝状遺構群はⅡｃ層の分布しないＣ－５グリット以西ではⅡｄ層上面で検出されていることから、この遺構検出面をⅡｃ・ｄ層上面とした。各層の調査内容は以下の通りである。

Ⅱａ層上面：平安時代の遺構面。土坑５基（SK1255、1256、1257、1259、1262、1263）、性格不明遺構３基（SX1258、SX1260、SX1261）、ピット63基（Ｐ１～Ｐ63）

Ⅱｂ層上面：Ⅱａ層水田跡（Ⅱａ層を水田土壌とする平安時代の水田跡に伴なう擬似畦畔）

Ⅱｃ・ｄ層上面：８世紀初頭～平安時代。小溝状遺構群３群

Ⅱｄ層上面：７世紀後半～８世紀初頭の遺構面。掘立柱建物跡１棟（SB1265）、竪穴住居跡３棟（SI1267、1268、1269）、溝跡１条（SD1266）、土坑４基（SK1270、1271、1273、1274）、性格不明遺構１基（SX1272）、ピット73基（Ｐ64～Ｐ137）。

遺物は遺構と基本層Ⅰ～Ⅱｄ層中から出土しており、その総数は12989点である。基本層出土遺物の大半は小破片である。Ⅰ～Ⅱａ層にかけて、Ｃ－４～６グリットでの出土数量が多い。Ⅱａ層出土遺物の大半はⅡａ層上面及び上部からの出土である。Ⅱｂ層での出土量はⅠ・Ⅱａ層に比べると少なく、Ⅱｃ、Ⅱｄ層からはほとんど遺物は出土していない。尚、遺物の分類にあたっては、対象資料が小破片であることから土師器と赤焼土器の区別のつかないものは土師器 or 赤焼土器の項を設けた。

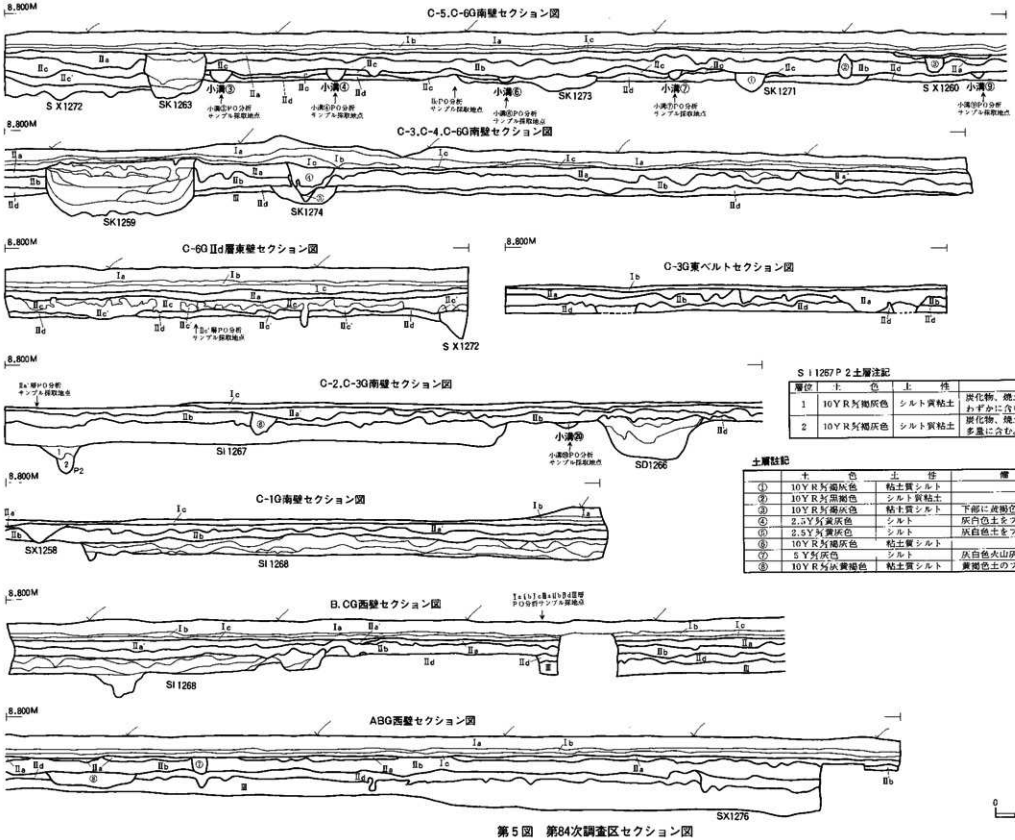
3．Ⅱａ層上面の調査

Ⅱａ層上面では調査区全域から遺構が検出されている。

SK1255（第８図、写真９、10）：Ｃ－２グリットに位置する。平面形は不整楕円形を呈する。上端長軸長194cm、上端短軸長162cm、深さ17cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は１層である。

遺物は埋土中より土器破片７点、底面から赤焼土器坏１点（第10図１）が出土している。埋土中出土遺物のうち１点は、須恵器横瓶の破片であり、後述するⅡｄ層上面で検出されたSD1266 出土の須恵器横瓶と接合した（第24図２）。

SK1256（第８図、写真５）：Ｃ－２グリットに位置する。平面形は不整隅丸長方形を呈する。上端長軸長180cm、上端短軸長103cm、深さ20cmを測る。底面はほぼ平坦である。南半部の底面は



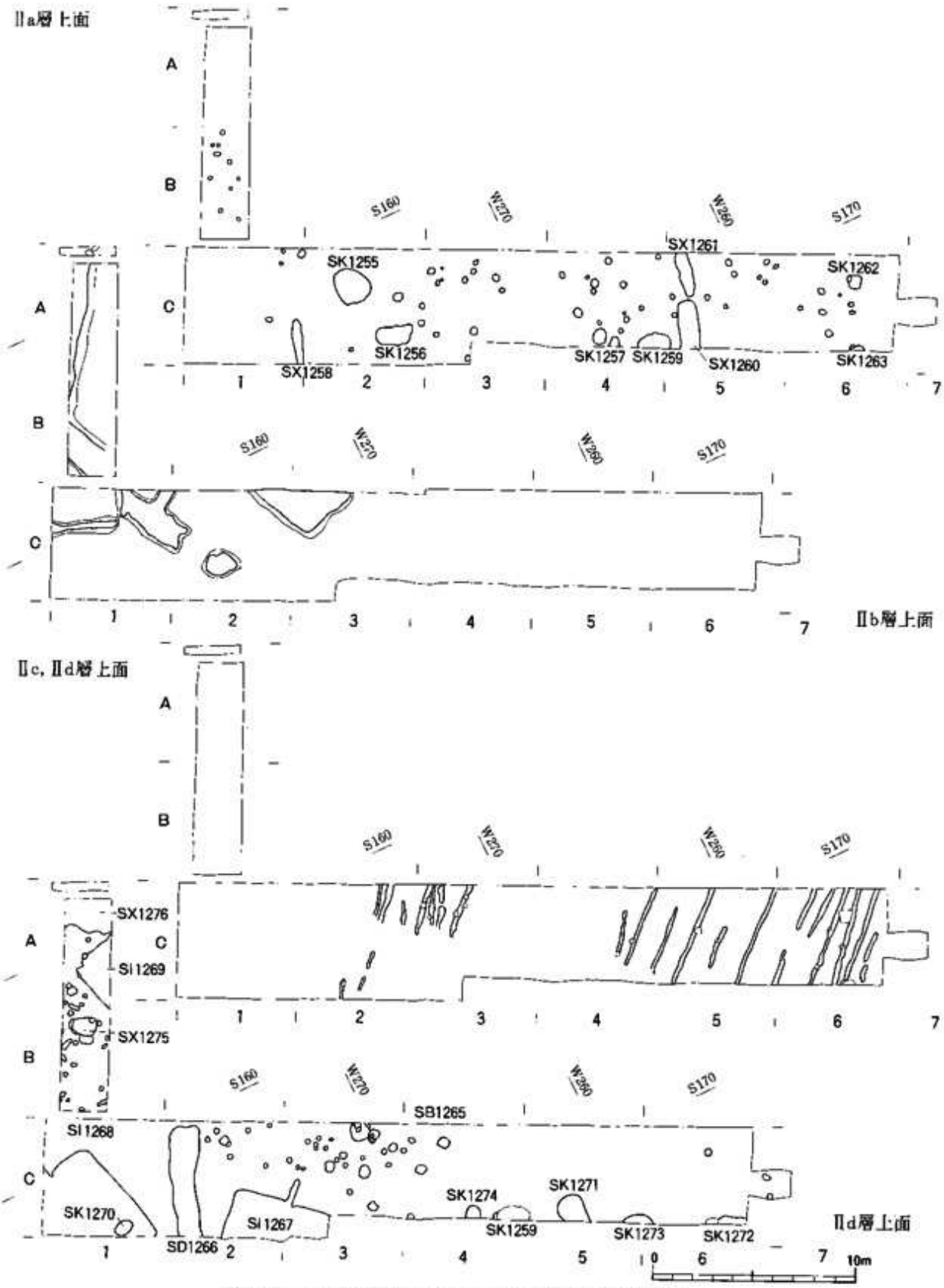
S I 1257 P 2 土層注記

層位	土色	土性	備考
1	10YR3/4暗灰色	シルト質粘土	炭化物、焼土を多量に含む。黄褐色土をブロック状にわずかに含む。
2	10YR3/4暗灰色	シルト質粘土	炭化物、焼土を多量に含む。黄褐色土をブロック状に多量に含む。

土層註記

	土色	土性	備考
①	10YR3/4暗灰色	粘土質シルト	
②	10YR3/4黒褐色	シルト質粘土	
③	10YR3/4暗灰色	粘土質シルト	下部に黄褐色土をブロック状に含む。
④	2.5Y3/4黄灰色	シルト	灰白色土をブロック状に含む。
⑤	2.5Y3/4黄灰色	シルト	灰白色土をブロック状に含む。
⑥	10YR3/4暗灰色	粘土質シルト	
⑦	5Y3/4灰色	シルト	灰白色火山灰を含む。
⑧	10YR3/4暗黄褐色	粘土質シルト	黄褐色土のブロックをわずかに含む。

第5図　第84次調査区セクション図



第6図　第84次調査区Ⅱａ層～Ⅱｄ層各層上面全体図

第1表　Ⅰ層出土遺物数量表

地区・遺構名	弥生土器	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	須恵器	赤焼土器	陶器	磁器	土器小破片	瓦	石器	その他	小　計
A－1－a	0	1	20	5	36	0	0	0	3	0	1	69
d	0	3	10	2	28	0	0	3	4	0	0	48
B－1－a	0	0	30	2	31	0	0	3	1	0	1	68
d	0	1	6	1	32	0	0	4	3	0	0	48
C－1－a	0	1	26	1	63	1	0	2	2	0	2	98
b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c	0	0	0	3	13	1	0	38	4	0	0	59
d	0	3	34	3	70	0	0	33	3	0	2	148
C－2－a	0	5	29	7	24	0	0	21	2	0	1	89
b	0	0	39	4	37	0	0	57	1	1	12	151
c	0	0	25	2	60	0	0	29	3	0	0	119
d	0	0	35	4	55	1	0	23	3	0	3	124
C－3－a	0	1	27	3	28	0	0	23	1	1	0	84
b	0	2	57	1	96	0	0	17	3	0	2	211
c	0	2	58	5	65	0	1	34	0	0	0	165
d	0	0	78	2	47	0	0	34	4	0	0	165
C－4－a	0	1	20	1	73	0	0	5	1	0	0	101
b	0	2	71	0	87	0	0	31	3	0	0	194
c	0	1	48	2	64	0	0	18	0	0	2	135
d	0	0	78	2	160	0	1	37	1	0	2	281
C－5－a	0	0	322	6	225	1	0	45	3	0	3	605
b	0	0	171	8	121	0	0	94	4	0	2	400
c	0	0	156	7	163	0	0	75	2	0	1	404
d	0	0	118	3	88	0	0	50	1	0	4	264
C－6－a	0	0	136	5	109	0	0	273	2	0	13	538
b	0	0	139	18	331	2	0	26	0	1	0	517
c	0	0	45	3	79	0	0	9	0	0	0	136
d	0	0	69	9	123	0	0	86	5	1	1	294
C－7－a	0	0	21	0	38	0	0	0	1	0	0	60
d	0	0	12	0	25	0	0	2	0	0	0	39
地点不明	10	0	37	7	116	0	0	13	0	0	1	184
合　計	10	26	1,917	119	2,486	6	2	1,115	69	1	53	5,798

第2表　Ⅱａ層出土遺物数量表

地区・遺構名	弥生土器	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	須恵器	赤焼土器	陶器	磁器	土器小破片	瓦	その他	小　計
A－1－a	0	3	43	4	60	1	0	7	1	0	119
d	0	15	28	3	36	0	2	12	2	1	99
B－1－a	0	16	46	7	45	0	0	6	0	3	123
d	0	4	13	2	6	0	0	2	0	0	27
C－1－a	0	3	29	1	25	0	0	17	0	0	75
b	0	0	5	2	4	0	0	8	0	0	19
c	0	0	11	1	5	0	0	1	1	0	19
d	0	6	80	4	47	1	0	19	4	0	161
C－2－a	0	2	35	3	32	0	0	19	0	0	91
b	0	2	1	1	10	0	0	4	0	0	21
c	0	21	22	3	45	0	0	10	0	0	101
d	0	0	6	1	6	0	0	3	0	0	16
C－3－a	1	2	22	2	13	0	0	5	0	0	45
b	0	6	67	2	104	1	0	39	0	3	222
c	0	1	55	0	82	0	0	40	2	0	180
d	0	2	29	0	18	16	0	0	0	1	66
C－4－a	0	0	89	5	83	0	0	31	1	0	209
b	0	2	102	2	132	1	0	28	0	0	267
c	0	3	46	2	98	1	0	9	0	0	159
d	0	0	54	1	104	0	0	19	0	1	179
C－5－a	0	0	178	2	114	0	0	48	3	1	346
b	0	1	128	6	159	0	0	63	20	0	377
c	0	0	95	5	136	0	0	14	2	1	253
d	0	0	80	2	74	1	0	27	1	0	165
C－6－a	0	2	222	7	187	0	0	98	1	1	518
b	0	2	67	0	117	0	0	40	1	0	227
c	0	2	84	0	206	0	0	33	1	0	326
d	0	1	83	10	156	0	0	9	1	0	260
C－7－a	0	0	30	0	21	1	0	20	0	1	73
d	0	0	11	0	18	0	0	0	0	0	29
地点不明	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	5
合　計	1	98	1,744	78	2,146	23	2	631	41	13	4,777

第3表　Ⅱb層出土遺物数量表

グリット	弥生土器	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	瓦	その他	小　計
A－1－a	0	1	7	1	3	0	0	12
d	0	5	24	1	49	0	0	79
B－1－a	0	2	8	4	37	0	0	51
d	0	0	0	0	0	0	0	0
C－1－a	0	1	5	2	4	0	0	12
b	0	3	15	1	50	1	0	70
c	0	0	2	0	3	0	0	5
d	0	2	9	0	6	0	0	17
C－2－a	0	2	7	1	8	0	0	18
b	0	0	3	1	5	0	0	9
c	0	0	5	1	0	0	0	6
d	0	0	2	0	8	0	0	10
C－3－a	0	0	2	1	4	0	0	7
b	0	1	32	6	41	0	0	80
c	0	5	13	2	15	0	0	35
d	0	3	4	0	9	0	1	17
C－4－a	0	3	15	1	9	0	0	28
b	0	0	19	0	15	0	0	34
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	3	1	9	0	0	15
C－5－a	0	1	68	4	64	0	0	137
b	0	1	22	3	44	1	0	70
c	0	0	9	3	3	1	0	16
d	0	1	7	0	24	0	0	32
C－6－a	0	1	13	4	19	1	1	39
b	0	1	11	2	37	0	0	51
c	0	0	8	0	30	0	0	38
d	0	0	4	0	4	0	0	8
C－7－a	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	0	33	319	39	500	4	2	896

第4表　Ⅱc層出土遺物数量表

地区・遺構名	弥生土器	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	須恵器・赤焼土器	陶　器	磁　器	土器小破片	瓦	その他	小計
C－5－a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C－6－a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6
c	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
d	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C－7－a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	0	0	0	0	0	0	7	0	0	計7

第5表　Ⅱd層出土遺物数量表

グリット	弥生土器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	瓦	石器	その他	小　計
A－1－a	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0
B－1－a	0	5	1	7	0	0	0	13
d	0	0	0	0	0	0	1	1
C－1－a	0	0	0	0	0	0	0	0
b	0	0	0	0	0	0	0	0
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0
C－2－a	0	0	0	0	0	0	0	0
b	0	3	0	1	0	0	0	4
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0
C－3－a	0	1	0	0	0	0	0	1
b	0	19	0	10	0	0	0	29
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	1	0	2	0	0	0	3
C－4－a	0	7	0	4	0	0	0	11
b	0	0	0	0	0	0	0	0
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0
C－5－a	0	0	0	0	0	0	0	0
b	0	0	0	0	0	0	0	0
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	0	0	0	0	0
C－6－a	0	0	0	0	0	1	0	1
b	1	0	0	2	0	0	0	3
c	0	0	0	0	0	0	0	0
d	0	0	0	1	0	0	0	0
C－7－a	6	10	0	6	0	0	0	22
d	0	4	0	14	0	0	0	18
地点不明	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	7	50	1	47	0	1	1	107

第6表　Ⅱa層上面検出遺構出土遺物数量表

遺構名	層位	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	須恵器	赤焼土器	赤焼土器or土器小破片	土器小破片	その他	合計
SK 1255	埋土中	2	33	2	0	22	12	0	71
	底面	0	1	0	0	0	0	0	1
	小計	2	34	2	0	22	12	0	72
SK 1257	埋土中	0	19	1	1	0	1	0	22
	底面	0	1	0	0	0	0	0	1
	小計	0	20	1	1	0	1	0	23
SK 1259	1層	1	36	2	0	38	0	0	77
	2層	0	9	0	0	9	1	0	19
	4層	5	173	3	0	53	14	0	230
	7層	0	10	0	0	1	1	0	12
	埋土中	1	33	2	0	18	6	0	60
	小計	7	261	9	0	119	22	0	418
SK 1262	埋土中	3	2	0	0	1	2	0	8
SK 1263	埋土中	0	3	0	0	13	3	0	21
SX 1258	埋土中	0	6	1	0	0	0	0	7
SX 1260	埋土中	0	44	2	0	68	6	瓦 1	121
SX 1261	埋土中	0	31	0	0	11	34	0	76
SP 25	埋土中	0	1	0	1	0	1	0	3
SP 28	埋土中	0	3	0	0	0	0	0	3
SP 27	埋土中	0	4	0	0	0	0	0	4
SP 30	埋土中	0	0	0	2	0	0	0	2
SP 39	埋土中	0	3	0	1	0	0	0	4
SP 42	埋土中	0	1	0	4	0	0	0	5
SP 43	埋土中	0	2	0	1	1	0	0	4
SP 46	埋土中	1	1	0	0	0	0	0	2
SP 47	埋土中	0	14	0	0	0	0	0	14
SP 49	埋土中	0	2	0	0	0	0	0	2
SP 51	埋土中	0	1	0	0	0	0	0	1
SP 53	埋土中	1	2	0	2	0	0	0	5
SP 54	埋土中	0	0	0	3	1	0	0	4
SP 55	埋土中	0	1	0	2	0	0	0	3
SP 56	埋土中	1	2	0	6	5	0	0	14
SP 57	埋土中	0	2	0	8	4	0	0	14
SP 58	埋土中	0	1	0	1	0	0	0	2
SP 59	埋土中	0	2	0	0	0	0	0	2
SP 60	埋土中	0	1	0	15	0	0	0	16
SP 61	埋土中	0	0	0	6	0	0	0	6
SP 62	埋土中	0	0	0	2	0	0	0	2
合計		15	446	15	55	245	81	1	858

第7表　Ⅱc層上面検出遺構出土遺物数量表

遺構名	層位	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	須恵器	赤焼土器	赤焼土器or土器小破片	土器小破片	その他	合計
小溝①	埋土中	1	0	0	0	0	0	0	1
小溝③	埋土中	0	0	0	0	0	7	0	7
小溝④	埋土中	1	0	0	0	0	0	0	1
合計		2	0	0	0	0	7	0	9

第8表　Ⅱd層上面検出遺構出土遺物数量表

遺構名	層位	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	瓦	合計
SB. 1265	柱穴・掘方	0	0	0	0	0
SI. 1267	1層	63	10	0	0	73
	床面	12	0	0	0	12
	P. 1	4	0	0	0	4
	小計	79	10	0	0	89
SI. 1268	1層	155	2	0	0	157
	2層	81	0	0	0	81
	3層	14	0	0	0	14
	4層	3	0	0	0	3
	周溝	4	0	0	0	4
	床面	14	0	0	0	14
	P. 2	6	0	0	0	6
	P. 3	4	0	0	0	4
	P. 4	31	0	0	0	31
	P. 5	4	0	0	0	4
	小計	316	2	0	0	318
SI. 1269	埋土上面	2	0	2	0	4
SD. 1266	1層	6	1	6	0	13
	2層	2	4	2	0	8
	3層	1	1	4	0	6
	小計	9	6	12	0	27
SX. 1272	埋土中	4	0	0	0	4
	底面	14	0	0	0	14
SX. 1275	埋土中	1	0	2	0	3
SP. 29	埋土中	5	0	3	0	8
SP. 109	埋土中	7	0	0	0	7
SP. 112	埋土中	2	1	0	0	3
SP. 115	埋土中	4	0	2	1	7
SP. 116	埋土中	2	0	1	0	3
SP. 117	埋土中	13	0	2	0	15
SP. 119	埋土中	1	0	0	0	1
SP. 120	埋土中	14	0	0	0	14
SP. 128	埋土中	1	0	0	0	1
SP. 135	埋土中	18	0	1	0	19
合計		492	19	25	1	537

調査の不手際で検出できなかった。埋土は1層である。

遺物は埋土中より土器破片1点が出土している。

SK1257(第8図、写真7・8)：C－4グリットに位置する。平面形は楕円形を呈する。上端長軸長78cm、上端短軸長65cm、底面はほぼ平坦である。埋土は2層である。

遺物は埋土中より土器破片22点、底面から土師器坏1点（第10図2）が出土している。

SK1259(第8図、写真11～13)：C－4・5グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。上端長軸長160cm、上端短軸長75cm以上、深さ57cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は9層認められた。3層は灰白色火山灰であり、レンズ状の堆積状況を示しており、この土坑の所属時期は灰白色火山灰降下以前であると考えられる。

遺物は1・2・4・7層から土器破片が計418点出土しているが、全て小破片である。

SK1262(第9図、写真16)：C－6グリットに位置する。IIIc層上面で確認された。平面形は隅丸方形を呈する。上端長軸長65cm、上端短軸長63cm、深さ14cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。埋土は1層である。埋土中には灰白色火山灰をブロック状に含むことから、IIa層上面を堀り込み面とする遺構であると判断される。

遺物は埋土中より土器破片8点が出土している。

SK1263(第9図、写真17)：C－6グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は円形あるいは楕円形を呈するものと想定される。上端東西長65cm、深さ46cmを測る。底面にはやや凹凸が認められる。埋土は3層である。1層には灰白色火山灰を含む。

遺物は埋土中より土器破片21点が出土している。

SX1258(第9図、写真4)：C－1グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は溝状を呈する。上端長軸長225cm以上、上端短軸長47cm、深さ17cmを測る。IIa'層の分布範囲では残存状況は良好ではない。底面には段差が認められる。埋土は3層である。1層には灰白色火山灰を含む。

遺物は埋土中より土器破片7点が出土している。

SX1260(第9図、写真14、15)：C－5グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は溝状を呈する。上端長軸長242cm以上、上端短軸長100cm、深さ4cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は1層であり、SX1261の埋土とほぼ同じである。

遺物は埋土中より土器破片120点、瓦破片1点が出土している。

SX1261(第9図、写真14、15)：C－5グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は溝状を呈する。上端長軸長228cm以上、上端短軸長65cm、深さ4cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は1層であり、SX1260の埋土とほぼ同じである。

IIa層上面で検出された遺構のうち、土坑及び性格不明遺構の計9基については、灰白色火

第9表　柱穴・ピット土層註記表

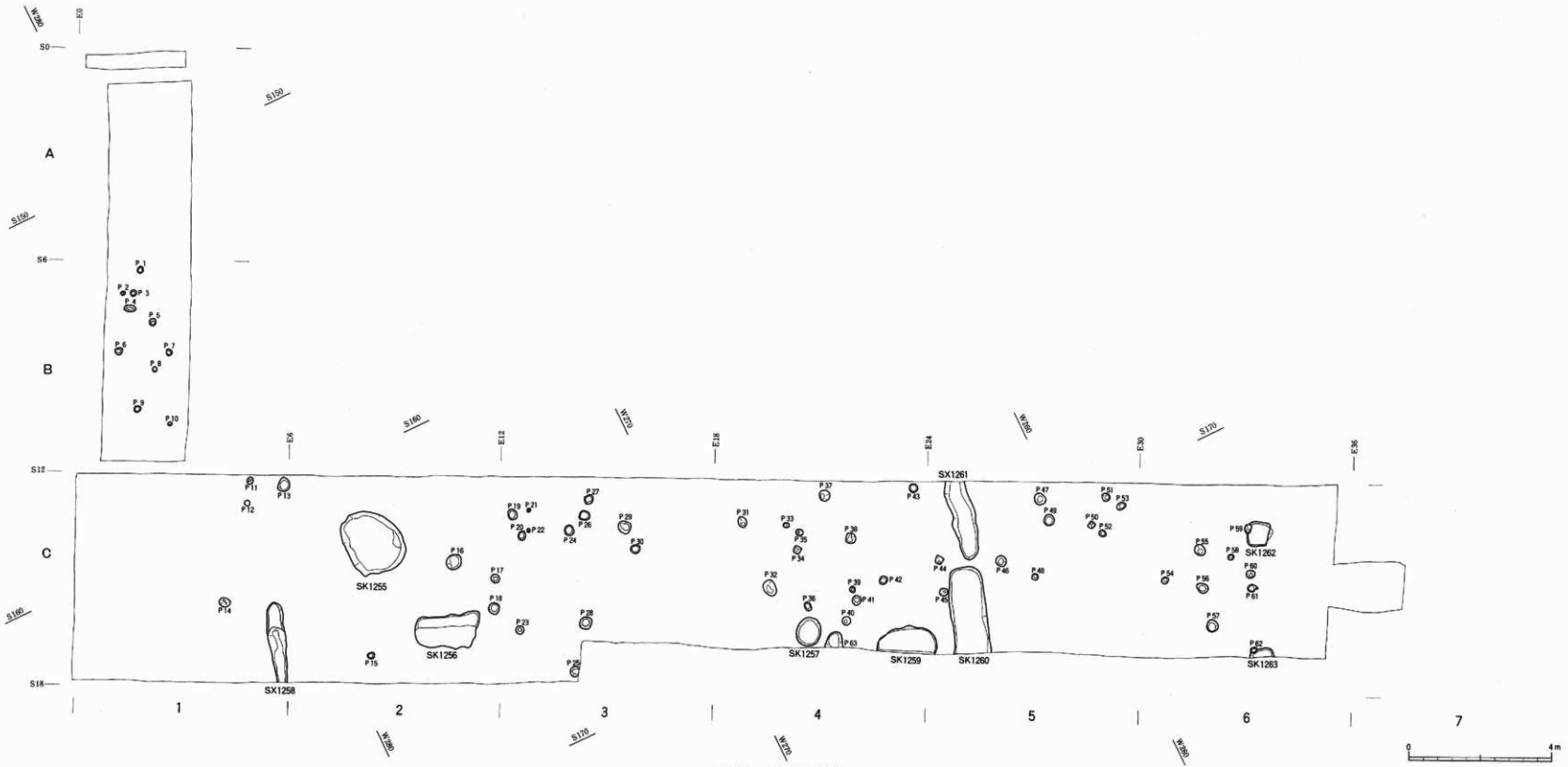
S B1265

	土　色	土　性	備　考
P.118	㊕10YR 5/1褐灰色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に多く含む。
P.123	㊕10YR 3/1黒褐色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に部分的に含む。
	㊟10YR 3/3暗褐色	シルト質粘土	黄褐色土を少量ブロック状に含む。
P.132	㊕10YR 3/2黒褐色	粘土質シルト	Ⅲ層ブロック混入多い。
	㊟2.5Y 5/1黄灰色	シルト質粘土	Ⅲ層ブロック混入多い。
P.133	㊕10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト	黄褐色土をブロック状に少量含む。
	㊟10YR 5/2灰黄褐色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状にわずかに含む。

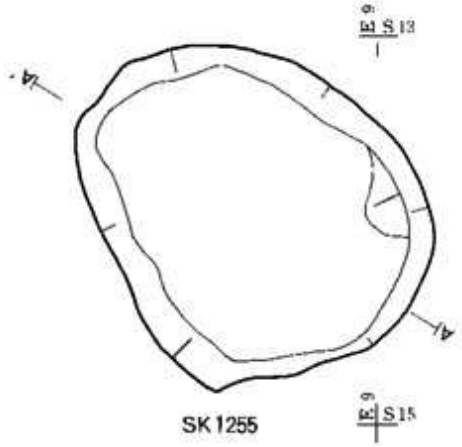
※㊕は掘り方埋土、㊟は柱痕跡埋土

	土　色	土　性
P. 1	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 2	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 3	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 4	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 5	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 6	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 7	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 8	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 9	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 10	10YR 5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト
P. 11	10YR 5/1褐灰色 10YR 6/6明黄褐色土混入	粘土質シルト
P. 12	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 13	不　明	
P. 14	10YR 5/1褐灰色 10YR 6/6明黄褐色土混入	粘土質シルト
P. 15	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 16	10YR 5/1褐灰色 灰白色火山灰を含む。	シルト質粘土
P. 17	10YR 5/1褐灰色	シルト質粘土
P. 18	10YR 5/1褐灰色	シルト質粘土
P. 19	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 20	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 21	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 22	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 23	10YR 5/1褐灰色 10YR 6/6明黄褐色土混入	粘土質シルト
P. 24	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 25	10YR 5/1褐灰色	シルト質粘土
P. 26	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 27	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 28	10YR 5/1褐灰色	シルト質粘土
P. 29	10YR 5/1褐灰色 炭化物、灰白色火山灰を含む。	シルト質粘土
P. 30	10YR 5/1褐灰色	シルト質粘土
P. 31	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 32	2.5Y 5/1黄灰色 明黄褐色土がブロック状に混入。	粘土質シルト
P. 33	2.5Y 5/1黄灰色	粘土質シルト
P. 34	2.5Y 5/1黄灰色 明黄褐色土がブロック状に混入。 炭化物を、わずかに含む。	粘土質シルト
P. 35	10YR 5/2灰黄褐色	シルト質粘土
P. 36	10YR 5/1褐灰色 10YR 6/6明黄褐色土混入	粘土質シルト

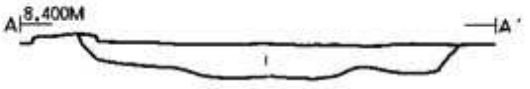
	土　色	土　性
P. 37	2.5Y 5/1黄灰色 明黄褐色土がブロック状に混入 炭化物をわずかに含む。	粘土質シルト
P. 38	2.5Y 5/1黄灰色	粘土質シルト
P. 39	10YR 5/1褐灰色 10YR 6/6明黄褐色土混入	粘土質シルト
P. 40	2.5Y 5/1黄灰色	粘土質シルト
P. 41	2.5Y 5/1黄灰色 明黄褐色土をブロック状に含む。 炭化物を多く含む。	粘土質シルト
P. 42	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 43	10YR 5/1褐灰色 炭化物、灰白色火山灰を含む。	粘土質シルト
P. 44	2.5Y 5/1黄灰白	粘土質シルト
P. 45	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 46	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 47	10YR 5/1褐灰色 炭化物、灰白色火山灰を含む。	粘土質シルト
P. 48	10YR 5/2灰黄褐色	粘土質シルト
P. 49	10YR 5/1褐灰白 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 50	2.5Y 5/1黄灰色	粘土質シルト
P. 51	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 52	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 53	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 54	10YR 5/1褐灰色	粘土質シルト
P. 55	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 56	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 57	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 58	10YR 5/1褐灰色 小溝の埋土、黒褐色土をブロック状に含む	粘土質シルト
P. 59	10YR 6/6明黄褐色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 60	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 61	10YR 5/1褐灰色 灰白色火山灰、にぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。	粘土質シルト
P. 62	10YR 5/1褐灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P. 63	2.5Y 5/1黄灰白 灰白色土をブロック状に含む。	シルト



第7図　Ⅱa層上面平面図



SK1255

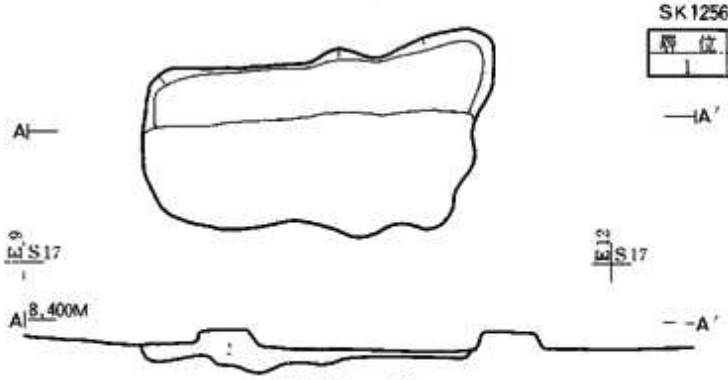


SK1255土層註記

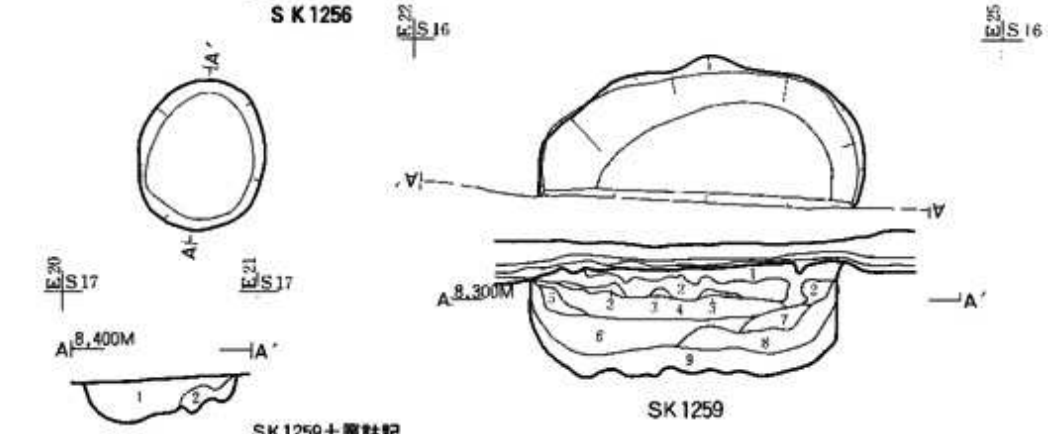
層位	土色	土性	備考
1	2.5Y 3/4暗オリーブ褐色	粘土質シルト	7.5YR 5/6明褐色粘土質シルトを微量含む

SK1256土層註記

層位	土色	土性
1	10YR 3/4暗褐色	粘土質シルト



SK1256



SK1257

SK1259

SK1257土層註記

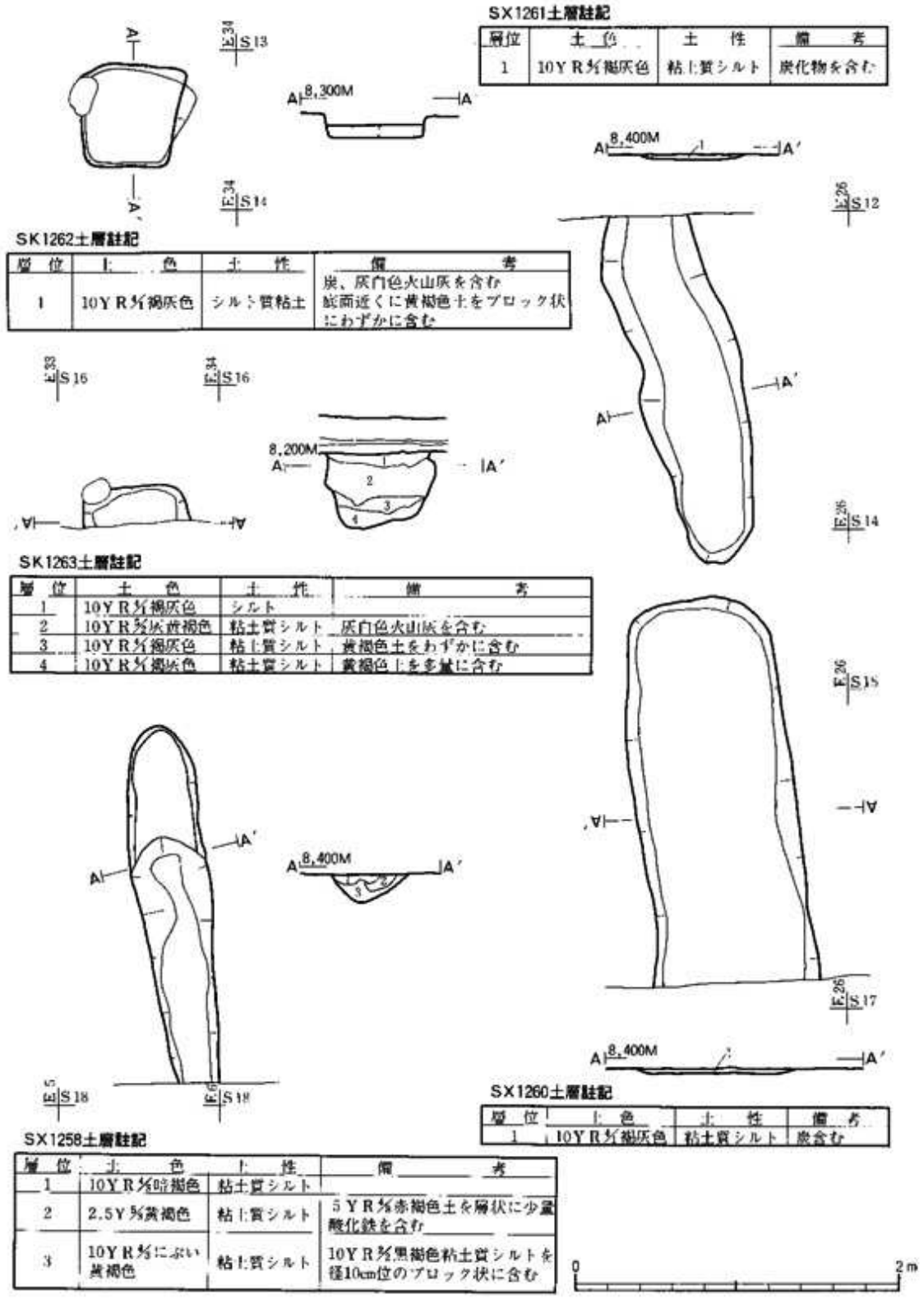
層位	土色
1	10YR 3/4暗褐灰色
2	10YR 3/4暗褐灰色

層位	土性
1	粘土質シルト
2	シルト質粘土

SK1259土層註記

層位	土色	土性	備考
1	2.5Y 3/4黄灰色	粘土質シルト	
2	2.5Y 3/4黄灰色	粘土質シルト	炭をわずかに含む
3	灰白色火山灰		
4	10YR 3/4暗褐灰色	シルト質粘土	炭・炭化物を多く含む
5	2.5Y 3/4黄灰色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に含む
6	10YR 3/4暗褐灰色	シルト質粘土	炭をわずかに含む
7	2.5Y 3/4黄灰色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に多量に含む
8	2.5Y 3/4黄灰色	シルト質粘土	
9	10YR 3/4暗褐灰色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に含む

第8図　IIa層上面検出遺構平面図・セクション図 (1)



第9図　IIa層上面検出遺構平面図・セクション図(2)

観　察　表

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	D-19	赤絶土器	坏	SK-1255	埋土	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.0	12.3	5.1	1/4		90-1
2	D-20	土師器	坏	SK-1257	1層	—	ロクロナデ	回転糸切り	—	ヘラミガキ→黒色処理		1.8以上	—	5.6	1/4		90-2

第10図　SK1255、SK1257出土遺物実測図

山灰との関係から、SK1259のように埋土としてレンズ状の堆積を示すものと、SK1262、SK1263、SX1258のように埋土中に火山灰を含むもの、その他の埋土中に火山灰を含まないものに分けられる。遺物は各遺構から出土しているが、そのほとんどは土器の小破片であり、遺構毎の時期を明確にはできないが、いずれの遺構からも内黒のロクロ土師器坏の破片が出土しており、後述するⅡb層上面の調査結果をもふまえると、これらの遺構は灰白色火山灰[註20]降下時期[註21]を前後する平安時代に所属するものと考えられる。

4．Ⅱb層上面の調査

Ⅱa層を掘り下げていく段階で、A～C－1～3グリットにおいて平面的にⅡa層中位でⅡb層が帯状に走るプラン及びⅡa層とⅡb層が直線的なラインによって分布域を異にする状況が認められた（写真18、20）。この時点ではⅡb層はⅡa'層の分布域にはほとんど認められない。Ⅱa層を除去すると、Ⅱb層上面において畦畔状の高まり及び直線的な方向性をもつ段差が検出された（第12図、写真19、20）。C－1・2グリットでは畦畔状の高まりが一部途切れている状況が認められ、Ⅱa'層の分布する範囲での残存状況は良好ではない。また、畦畔状の高まりで区画された各面には、C－1－aグリットのように高低差をもつところもある。Ⅱb層上面の標高は8.25m～8.35mで、東方に高く、西方に低い傾向にあり、上面には細かな凹凸が認められる。Ⅱb層の直下層はⅡc層、Ⅱd層であり、この2層の上面では細かな凹凸はあまり認められず、畦畔状の高まり及び段差は検出されていない。

これらのことから、Ⅱb層上面で検出された畦畔状の高まりは、Ⅱa層を水田土壌とする水田跡に伴なう擬似畦畔B[註22]として理解することが可能であり、その直上に畦畔の存在が考えられる。また、Ⅱb層上面で検出された段差は、その方向に沿ったⅡa層上面での畦畔の存在を示す可能性がある。この水田跡は、Ⅱa層を耕作土とすることから、Ⅱa層水田跡と名称づけられる。尚、プラント・オパール分析では、Ⅱa層、Ⅱb層ともにイネ機動細胞のプラント・オパールが検出されており、いずれも水田土壌の可能性が指摘されている。

水田跡の構造については不明な部分が多いが、成立基盤では、立地は旧河道であるが、下層

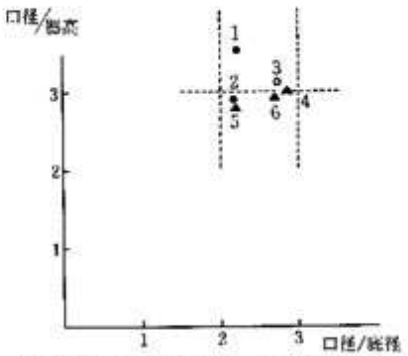
のⅡｄ層上面では官衙跡に関連する遺構が検出されており、湿地的な環境が継続していたとは考えにくく、土壌は粘土質シルトである。また直下に酸化鉄の集積、マンガン斑は認められない。水田域については、Ｃ－４～７グリットではⅡｂ層上面で擬似畦畔等は検出されていないが、Ⅱａ層はＣ－７グリットまで分布しており、その間の層相変化も認められないことから、水田域は調査区のほぼ全域に及んでいたものと考えられる。水田形態は、水田の上面が削なわれているため、畦畔の規模や区画などはわからないが、方向性については擬似畦畔のあり方から、真北方向を基準としている傾向は看取されない。

次に出土遺物についてであるが、前述のように水田土壌であるⅡａ層からは土器の小破片が多く出土している。しかし、それらはⅡａ層上面及びⅡａ層上部からの出土が大半であり、Ⅱａ層の上面が後世の耕作等の影響を受けていることから、これらはⅡａ層上面で検出された遺構に伴なう可能性が高い。

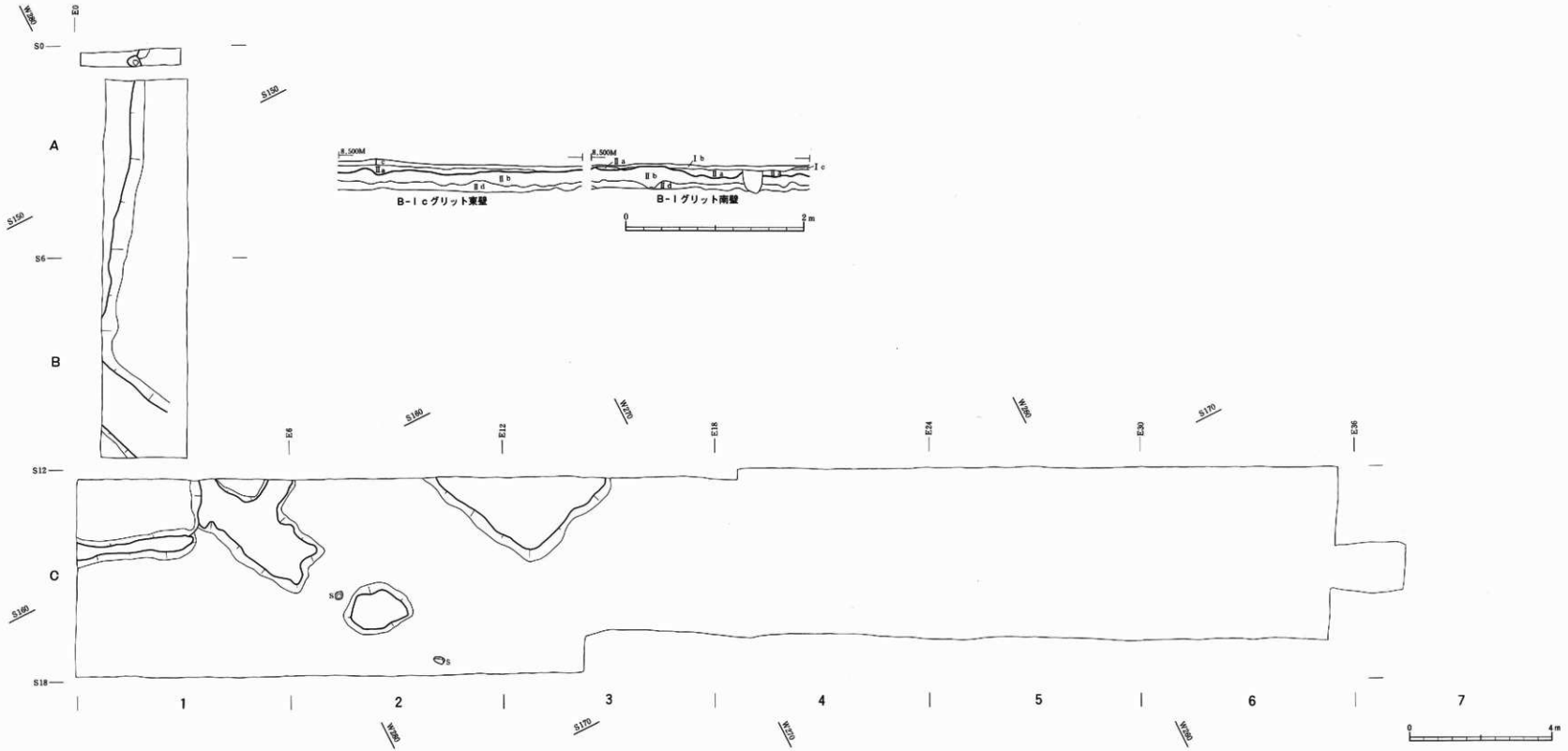
Ⅱａ層水田跡に伴なう遺物としては、Ａ－１－ａグリットから土器８個体が重なって出土している（第13図、写真22～25）。出土位置はⅡｂ層上面で検出された段差部分であり、Ⅱａ層中から全て口縁を上にして出土している。写真22は、Ⅱａ層中におけるⅡａ層（ラインの左）とⅡｂ層（ラインの右）の分布範囲を示している。Ⅱａ層を除去すると、土器の直下にⅡｂ層を掘り込んだ落ち込みのプランが確認された（写真23）。埋土はⅡａ層であり、最も下の土器の底面はこの落ち込みの底面より約１cm浮いている（写真25）。落ち込みの平面形は不整楕円形であり、上端長軸長40cm以上、上端短軸長30cm、段差の下のⅡｂ層上面からの深さは６cmを測る。

出土した８個の土器の種別と重なり方は、上から順に第14図５：赤焼土器坏、７：赤焼土器高台付坏、３：須恵器坏、８：赤焼土器高台付坏、４：赤焼土器坏、１：土師器坏、２：土師器坏、６：赤焼土器坏で、土師器２点、須恵器１点、赤焼土器５点の一括出土である。赤焼土器高台付坏は２点とも高台部分を欠損しているが、他はほぼ完形である。須恵器坏の外面には墨書による文字が一字認められ、「午」あるいは「牛」の可能性が指摘されている。[註23)]

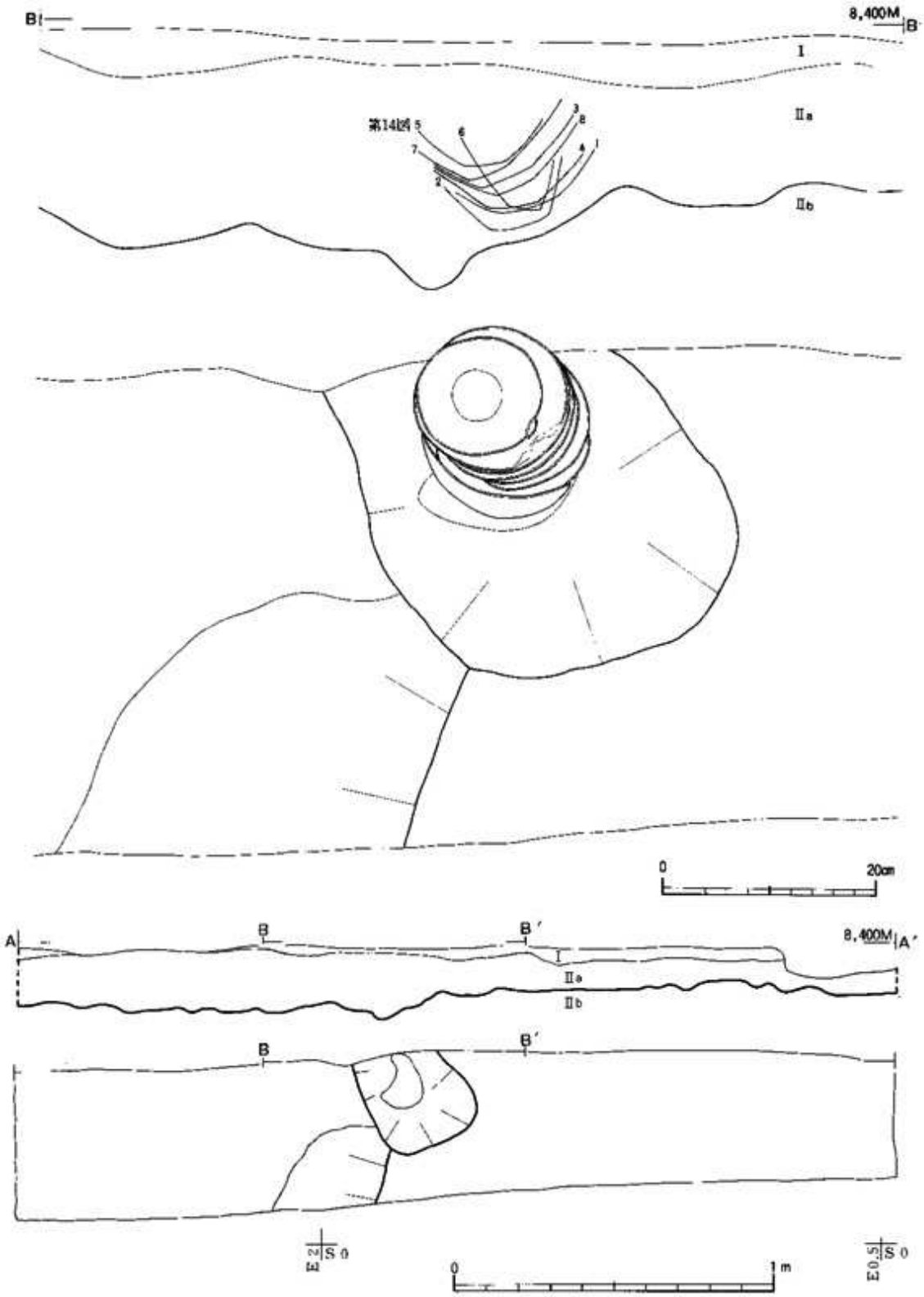
８個の土器の器形、法量については第11図に第14図１～６の口径／器高と口径／底径の比率の相関を示した。観察表に示した法量と合わせて数値的な面から考えると、器形としては土師器、赤焼土器にそれぞれ異なるものが認められること、土師器(2)と赤焼土器(5)の器形は類似するが、規模の点で異なること、須恵器(3)と赤焼土器（４・６）には、器形、規模の点で類似性のあることが知られる。また、赤焼土器高台付坏を含めて考えてみると、体部の傾きについては、土師器坏２点には底部付近に軽い稜があることや、高台付坏２点の



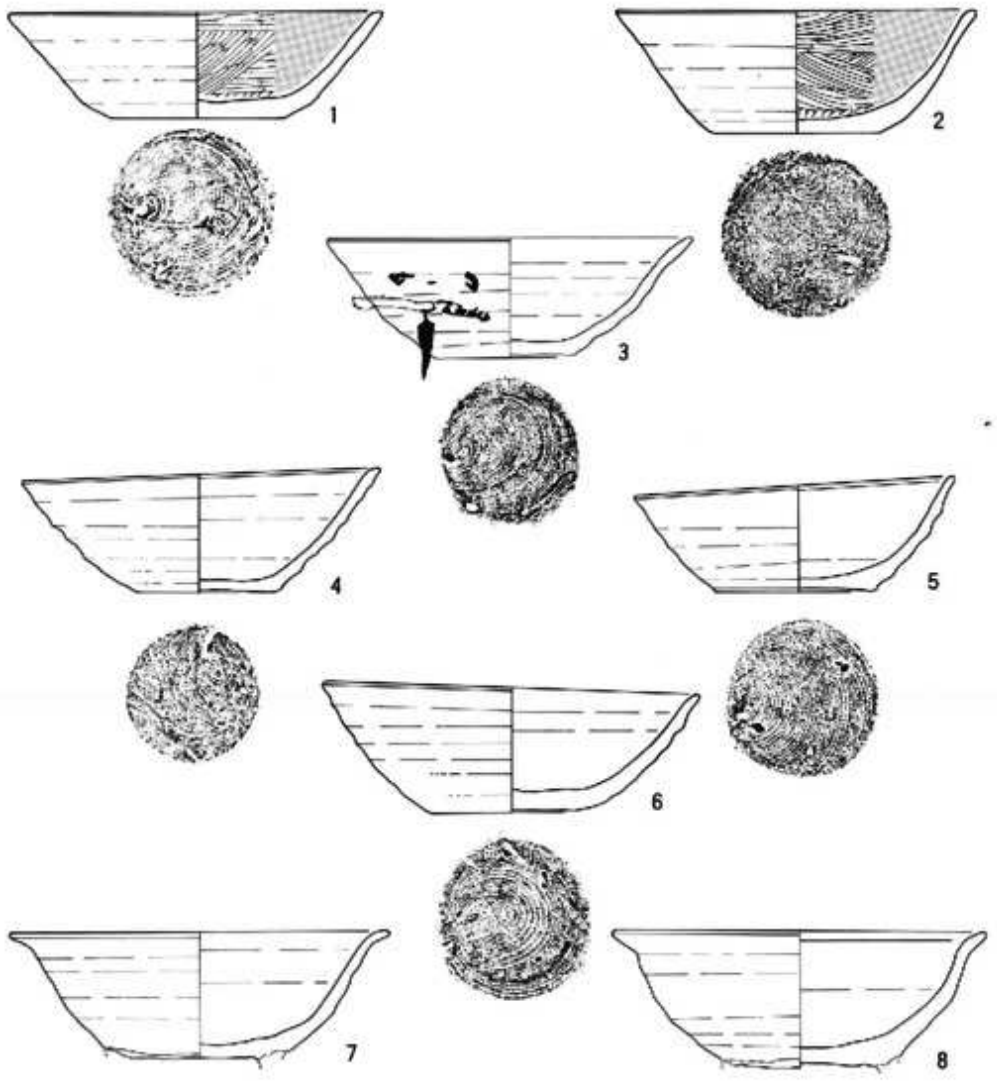
第11図　口径/器高、口径/底径相関図（第14図１～６）



第12図　Ⅱ6層上面平面図



第13図　IIb 層水田跡土器一括出土状況平面図・セクション図



観察表

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	D−21	土師器	坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理			4.1	14.4	6.5	完形	−	90−3
2	D−22	土師器	坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理			4.8	13.8	6.4	ほぼ完形	底面にヘラ状工具で放射状の調整痕	90−4
3	E−326	須恵器	坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.6	14.1	5.2	完形	外面に墨書	90−5
4	D−23	赤土焼器	坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.7	14.1	5.0	完形	−	90−6
5	D−24	赤土焼器	坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.4	12.2	5.6	完形	−	90−7
6	D−25	赤土焼器	坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	5.0	14.5	5.4	完形	−	90−8
7	D−26	赤土焼器	高台付坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り→ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4.8以上	14.6	−	高台部欠損	−	90−9
8	D−27	赤土焼器	高台付坏	Ⅱa層水田跡	Ⅱa層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り→ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	5.3以上	14.5	−	高台部欠損	−	90−10

第14図　Ⅱa層水田跡一括出土土器実測図

口縁にはやや外方へ張り出す形態的特徴のあることの共通性が認められる。器厚では、須恵器(3)と赤焼土器(4)がやや薄手である他は、体部下半から底部にかけて比較的厚手に作られており、器高の歪みについては、土師器、須恵器にはさほど認められないのに対し、赤焼土器坏では顕著に認められる相違がある。

これらの土器の年代については、土師器はその製作技法から表杉ノ入式[注24]の範疇に入ること、IIa層上面で検出された遺構の中に灰白色火山灰を埋土とするものがあることから、灰白色火山灰降下以前の平安時代に位置付けられ、水田跡の年代をも示すものと考えられる。

さて、IIa層水田跡と8個の土器との関係についてであるが、その出土状況から8個の土器は水田区画内に位置していたものとは考えにくく、段差との関連から、畦畔あるいはそれに類するものの中に埋置されたことが想定される。IIa層が最も下の土器の下にあることは、水田土壌が比較的流動性をもっていた時にその行為が行なわれたことを示すものかもしれない。こうした行為は、水田耕作に伴なう何らかの祭祀の存在を示す可能性がある。また、これらの土器がほぼ完形のまま残存した理由には、段差部分の落ち込みのプラン内にあったことにより、耕作の影響を受けにくかったこと、埋置後、あまり時間差をおかずに水田耕作が行なわれなくなったことが考えられる。

5．IIc・IId層上面の調査

IIb層の直下にはC－5グリット以東にIIc層、以西にIId層が分布する。C－5・6グリットではIIc層上面で小溝状遺構群[注25]が検出され、この遺構はC－5グリット以西C－2グリットまで認められ、そこではIId層上面で検出されている（写真26～48）。IId層上面は後述するように、官衙期の遺構面であり、C－1～4グリットで検出された竪穴住居跡や土坑との重複関係では小溝状遺構群が新しく、時期を異にすることから、この遺構の検出面をIIc・IId層上面とした。

小溝状遺構群は、1976～78年の六反田遺跡の調査において「一般の小溝と異なり、少ない所で4～5本、多いところでは15～16本、同じ方向で走るのが特徴[注25]」とされている遺構であり、今回の調査では小溝20本（小溝①～⑳）が検出され、方向の同一性、小溝間の距離からA・B2群の存在が考えられた。第10表には小溝の方向、規模等の計測値及びプラント・オパール分析によるイネ機動細胞の密度を示した。

小溝状遺構群A：8本の小溝（②・④・⑥～⑪）により構成されている。C－4～6グリットに位置する。各小溝の方向はN－38°～41°－Eを示している。小溝間の心心距離は小溝⑥・⑦間の1.8mを除き、他は1.3m～1.6mである。

小溝状遺構群B：3本の小溝（⑬・⑯・⑲）により構成されている。C－2・3グリットに位

第10表　小溝計測値・イネP．O．分析値一覧表

No	群	方　向	検出長	上端幅	深さ	イネP.O.密度	No	群	方　向	検出長	上端幅	深さ	イネP.O.密度
①		N−34°−E	2.53m	18cm	11cm	−	⑪	A	N−40°−E	4.18m	15cm	8cm	−
②	A	N−38°−E	4.90m	23cm	9cm	−	⑫		N−28°−E	2.08m	19cm	6cm	−
③		N−33°−E	4.98m	27cm	6cm	900個/g	⑬	B	N−37°−E	2.80m	28cm	7cm	−
④	A	N−39°−E	5.15m	26cm	6cm	3600個/g	⑭		N−22°−E	2.25m	28cm	9cm	−
⑤		N−44°−E	2.70m	22cm	9cm	−	⑮		N−22°−E	2.02m	28cm	5cm	−
⑥	A	N−40°−E	5.28m	20cm	6cm	1800個/g	⑯	B	N−35°−E	2.60m	26cm	7cm	−
⑦	A	N−41°−E	5.18m	20cm	5cm	1800個/g	⑰		N−20°−E	1.20m	21cm	5cm	−
⑧	A	N−41°−E	2.15m	17cm	7cm	−	⑱		N−26°−E	1.62m	13cm	5cm	−
⑨	A	N−41°−E	5.26m	20cm	9cm	900個/g	⑲	B	N−35°−E	5.64m	31cm	9cm	−
⑩	A	N−39°−E	3.30m	20cm	4cm	−	⑳		N−21°−E	1.04m	22cm	6cm	1800個/g

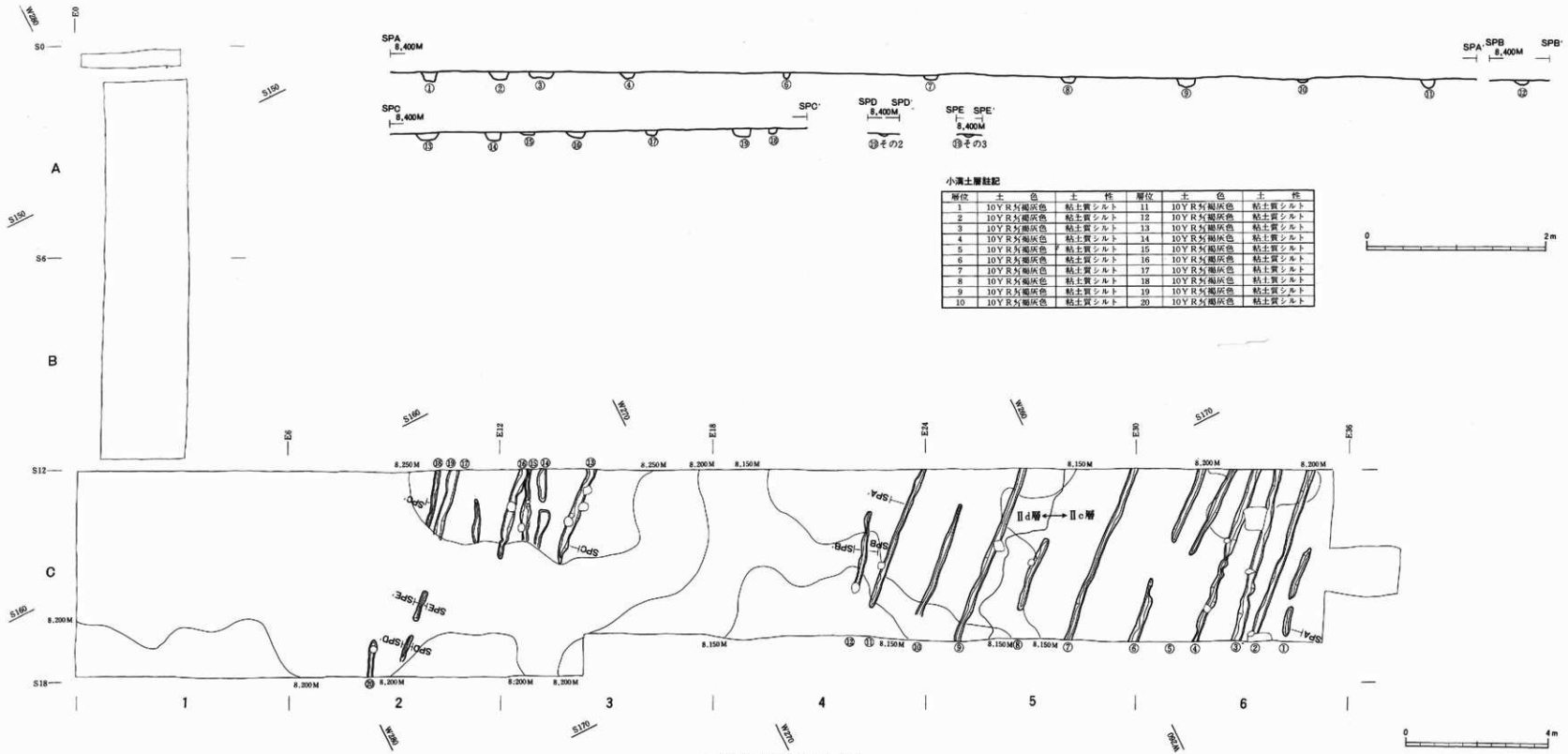
置している。各小溝の方向はN−35°～37°−Eを示している。小溝間の心心距離は1.7m～1.9mである。

小溝はA・B2群の他にも検出されているが、方向、小溝間の距離から群としては把握されないが、他の小溝状遺構群の存在を示すものであろう。又B群の小溝⑯は小溝⑮と重複関係にあり、小溝⑯が小溝⑮より新しく、時期差のあることが知られる。

小溝の埋土については、基本的に1層であるが、より深く、底面がIII層上面より下位にあるものには、III層をブロック状に含んでいることが認められる。底面には凹凸のあるものもあり、埋土の状況から人為的な行為による土壌の撹乱された痕跡を示す。

これらの小溝状遺構群の性格については、畑跡の存在を示す遺構であるとの推定[註25・26]がなされていることから栽培植物としてイネの存在を確認するため、小溝6本の埋土についてプラント・オパール分析の対象とした。結果は第VII章に示されるようにいずれの資料からもイネ機動細胞のプラント・オパールが検出され、イネが栽培されていた可能性が指摘されている。また、この遺構の検出面であるIIc層、IId層、直上層のIIb層については、IIb層、IIc層ではイネ機動細胞のプラント・オパールが検出されているのに対し、IId層では検出されていない。IIb層・IId層のサンプル採取地点はC−1グリット北西コーナーの西壁であり、直上にIIb層がある。このサンプル採取地点は小溝状遺構群の検出された範囲外になるが、IIb層から下層へのイネ機動細胞のプラント・オパールの混入による影響は少ないことが知られる。IIc層上面で検出された小溝の埋土については、IIC層からの混入も考えられるが、IId層上面で検出された小溝⑦・⑳については、小溝に伴なうものと考えるのが妥当である。尚、イネの他に栽培植物のプラント・オパールは検出されていない。又、栽培植物の存在を確認するため、各小溝の埋土の土壌水洗を1mmメッシュで行なったが、種子等は検出されなかった。これには栽培植物の種類や土壌的条件によって残存しにくい状況であった可能性もある。

この小溝状遺構群については、これまで推定されてきているように、農耕に関連する遺構であることが、プラント・オパール分析を通じて考えられ、小溝埋土を耕作土として把え、小溝



小溝土層註記

層位	土色	土性	層位	土色	土性
1	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	11	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
2	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	12	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
3	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	13	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
4	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	14	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
5	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	15	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
6	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	16	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
7	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	17	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
8	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	18	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
9	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	19	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト
10	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	20	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト

第15図　Ⅱc層上面平面図

を耕作の痕跡として理解することが妥当であろう。耕作の痕跡については、水田とは異なることから畑作あるいはそれに近いものであることが想定される。

小溝状遺構群の時期については、小溝埋土からの出土点数は少なく、小破片であることから明確ではなく、上下の層序関係から、郡山官衙期以降、灰白色火山灰降下以前の平安時代として位置付けられる。

6．IIｄ層上面の調査

IIｄ層上面では調査区全域から遺構が検出されている。

SB1265(写真51)：C－3・4グリットに位置する。東西2間以上、総長3.38m以上（柱間寸法174cm)、南北1間以上（柱間寸法161cm）の掘立柱建物跡である。東西柱列の方向はS－54°－Eである。柱痕跡の平面形は円形で、直径は15cm～18cmである。

遺物は掘方埋土中より全く出土していない。

SI1267(第17、18、19図、写真52～59)：C－2・3グリットに位置する。北西コーナーを検出しており、全容は不明であるが、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。東西長4.75m以上、南北長2.75m以上、深さ30cmを測る。北壁における東西ラインは真北に対してN－32°－Eの方向を示す。埋土はカマドでは5層に分かれるが、住居は基本的に1層で埋まっている。1層中には黄褐色土、黒色土をブロック状に含んでおり（写真56)、人為的な堆積状況を呈している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。周溝は認められない。床は基本層III層である。床面はほぼ平坦であるが、部分的に凹凸のみられるところもある。床面にはピットが4基認められ（P1～4)、P2・3・4は柱穴と考えられるが、いずれも柱痕跡は確認されていない。P3と4には重複関係があり、建て替えの行なわれた可能性もある。P1は貯蔵穴と考えられる。上端長軸長117cm、上端短軸長82cm、深さ12cmを測る。北壁にはカマドが付設されており、燃焼部と煙道部が検出された。燃焼部の付近には焼土、炭化物が分布している。燃焼部の底面は堅く焼きしまっている。煙道部は長さ125cm、幅30cmで、先端にはピットが認められる。煙道部の底面は中央部がやや低くなっている。袖は両袖とも残存している。両端には袖石として円礫がそれぞれ1個認められる。また、それに近接して、カマドの天井部に用いられたと考えられる角礫が床面から1個出土している（51×17×12cm)。角礫には面取りがなされており、熱を受けたためか赤変している。石質は凝灰岩である。また、カマド燃焼部の埋土4層の下部には、灰が残存していたため、灰像分析を行ったところ（第VII章参照)、種子は検出されなかったが、少量のイネと、多量のヨシが検出されている。燃料として用いられたものと考えられる。

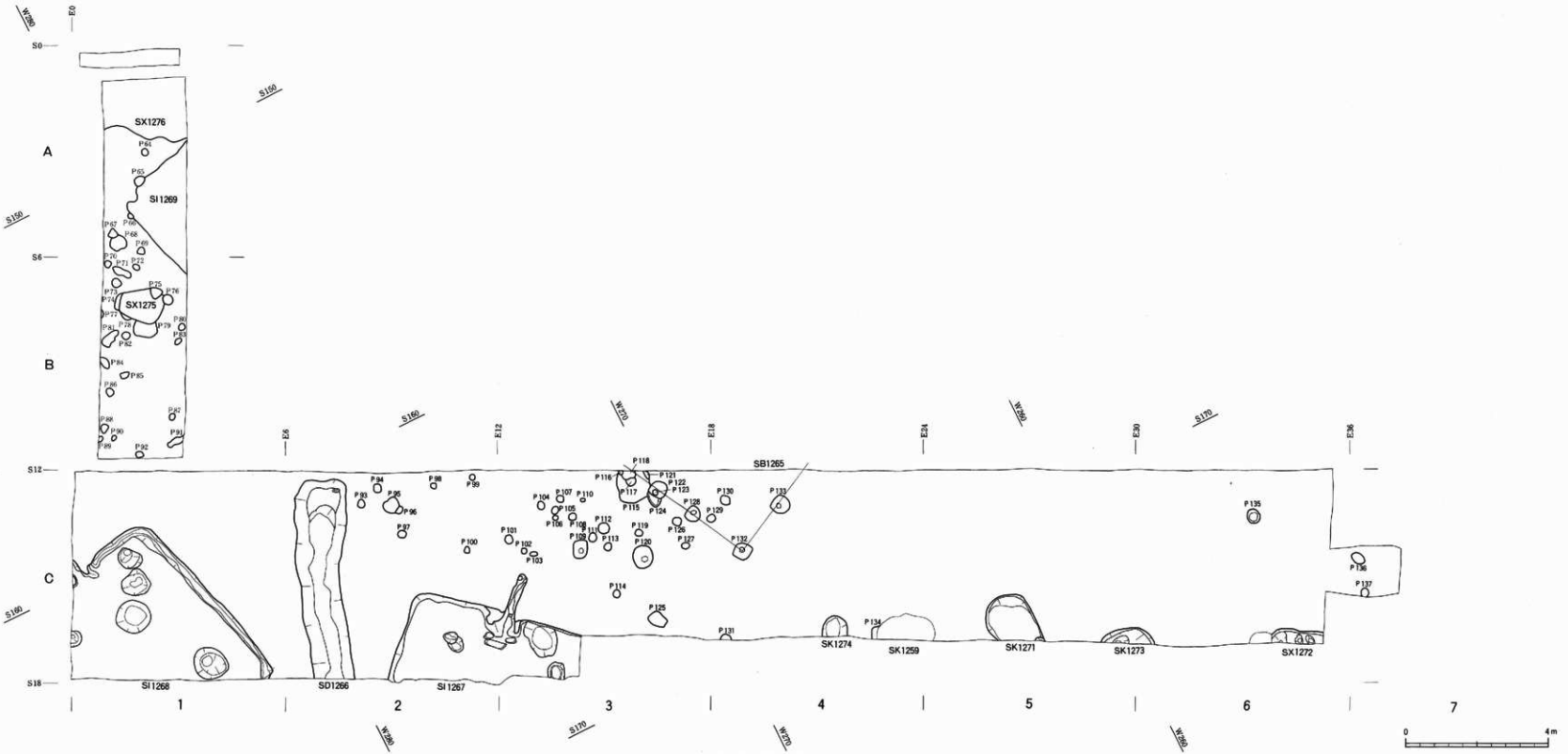
遺物は埋土中から73点、床面から12点、ピット1から4点の計89点が出土している。煙道部からの出土はない。全て土器破片であり、種別ごとでは非ロクロ土器79点、須恵器10点である。

第11表　ピット土層註記表

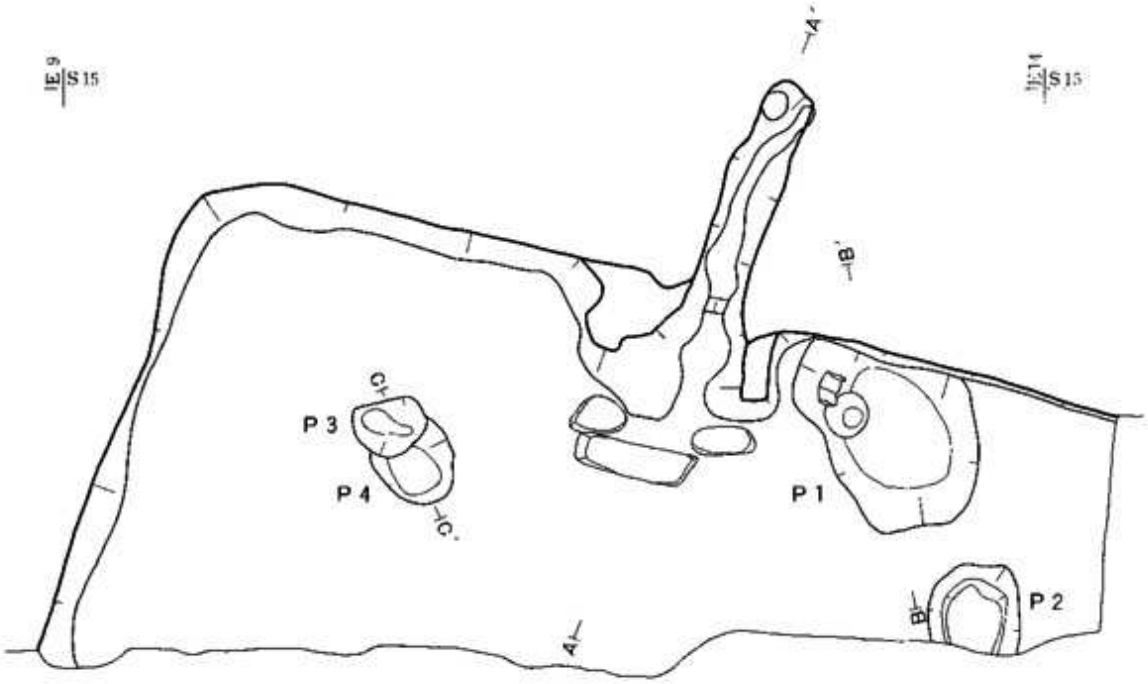
	土色	土性
P．64	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．65	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．66	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．67	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．68	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．69	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．70	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．71	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．72	10YR灰灰黄褐色	粘土質シルト
P．73	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．74	10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．75	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．76	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．77	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．78	10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．79	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．80	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．81	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．82	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．83	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．84	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．85	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．86	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．87	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．88	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．89	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．90	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．91	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．92	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．93	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．94	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．95	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．96	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．97	不明	
P．98	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．99	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．100	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．101	10YR灰灰黄褐色	粘土
P．102	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．103	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．104	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．105	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．106	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．107	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト

	土色	土性
P．108	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．109	㉖10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状に部分的に多く含む。	粘土質シルト
	㉗10YR灰褐灰色	シルト質粘土
P．110	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．111	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．112	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．113	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．114	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．115	㉘10YR灰褐灰色 黄褐色土、黒色土をブロック状に多量に含む	粘土質シルト
	㉙2.5Y 灰黄灰色	粘土
P．116	10YR灰褐灰色 灰白色火山灰をブロック状に多く含む。	粘土質シルト
P．117	10YR灰褐灰色 灰白色火山灰をブロック状に多く含む	粘土質シルト
P．119	2.5Y 灰黄灰色	粘土質シルト
P．120	㉚10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状に多く含む。	粘土質シルト
	㉛10YR灰暗褐色	シルト質粘土
P．121	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．122	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．124	不明	
P．125	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
P．126	7.5Y 灰灰色	粘土質シルト
P．127	7.5Y 灰灰色 炭化物を含む。	粘土質シルト
P．128	㉜10YR灰黒褐色 黄褐色土をブロック状に少量含む。	粘土質シルト
	㉝10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状にわずかに含む。	粘土質シルト
P．129	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．130	10YR灰褐灰色 Ⅲ層のブロックを含む。	シルト質粘土
P．131	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
P．134	10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状にわずかに含む。	粘土質シルト
P．135	10YR灰褐灰色 炭化物、灰白色火山灰を含む。	粘土質シルト
P．136	10YR灰黒褐色 黄褐色土を少量含む。	粘土質シルト
P．137	10YR灰褐灰色	粘土質シルト
SX 1275	10YR灰褐灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
SX 1276	2.5Y 灰黄灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト
SI 1269	7.5Y 灰灰色 黄褐色土をブロック状に含む。	粘土質シルト

※㉘は掘り方埋土、㉙は柱痕跡埋土



第16図　Ⅱd層上面平面図



SI1267煙道土層註記

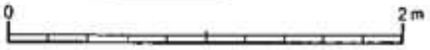
層位	土色	土性	備考
1	10YR3/4黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土、黒色土をブロック状に多量に含む。ブロックの大きさは径1～3cm程（SI1267埋土の大半）
2	10YR4/4褐灰色	粘土質シルト	黄褐色土をブロック状に少量含む。炭化物（炭）焼土を下部にやや多く含む。カマド周辺に分布
3	7.5YR4/4褐灰色	粘土質シルト	焼土、炭を多量に含む（煙道部にあり）
4	7.5YR3/4暗褐色	粘土質シルト	焼土、炭を多量に含む（煙道部にあり）
5	2.5Y4/4黄灰色	粘土質シルト	基本層2d層崩壊土

SI1267P1土層註記

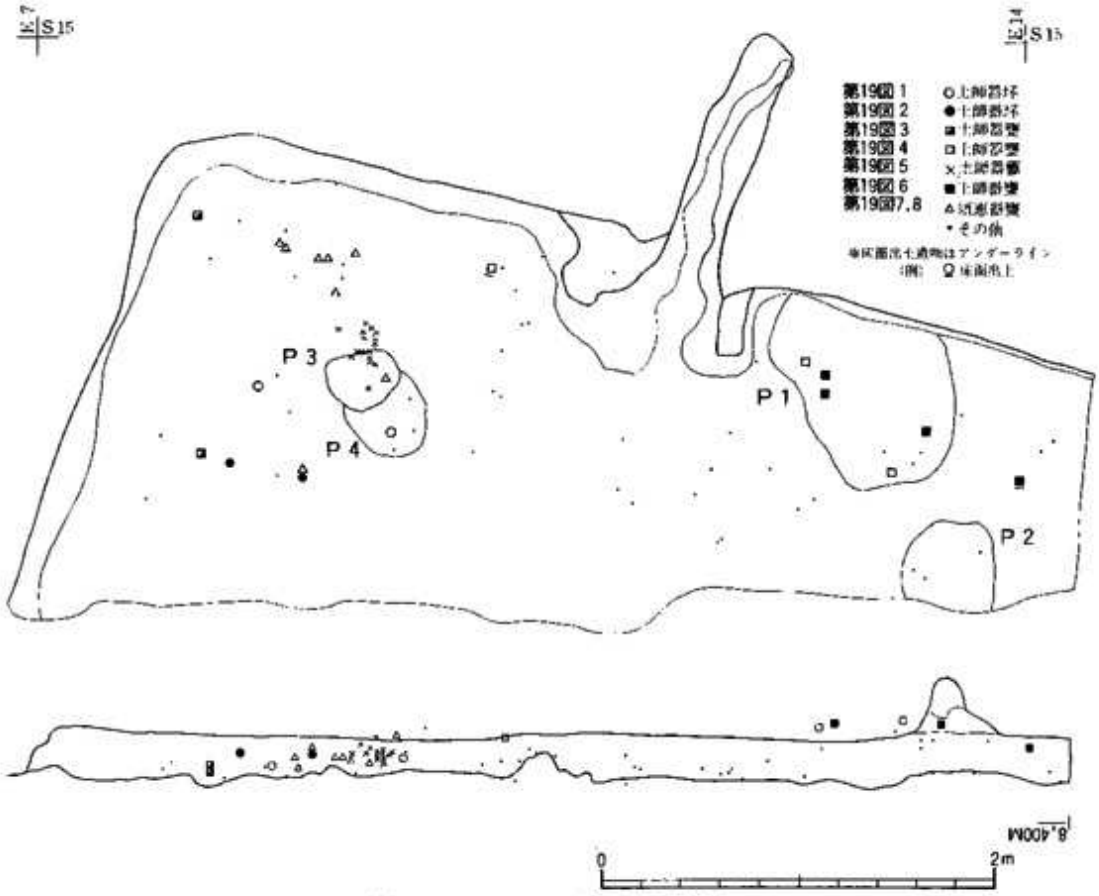
層位	土色	土性	備考
1	10YR4/4褐灰色	シルト質粘土	炭を含む。黄褐色土をブロック状に含む。

SI1267P3P4土層註記

層位	土色	土性	備考
1	10YR4/4褐灰色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に含む。
2	10YR4/4褐灰色	シルト質粘土	黄褐色土をブロック状に含む。(下部多い) 炭、焼土粒を含む



第17図　SI1267平面図・セクション図



第18図　SI1267遺物出土状況図

器形復原のできるものを含め、8点を図示した（第19図）。これらの遺物の出土状態については、第18図に示すように、平面分布ではカマドの袖の両側から比較的多く出土する傾向はあるが、垂直分布でも知られるように埋土中出土のものが大半である。

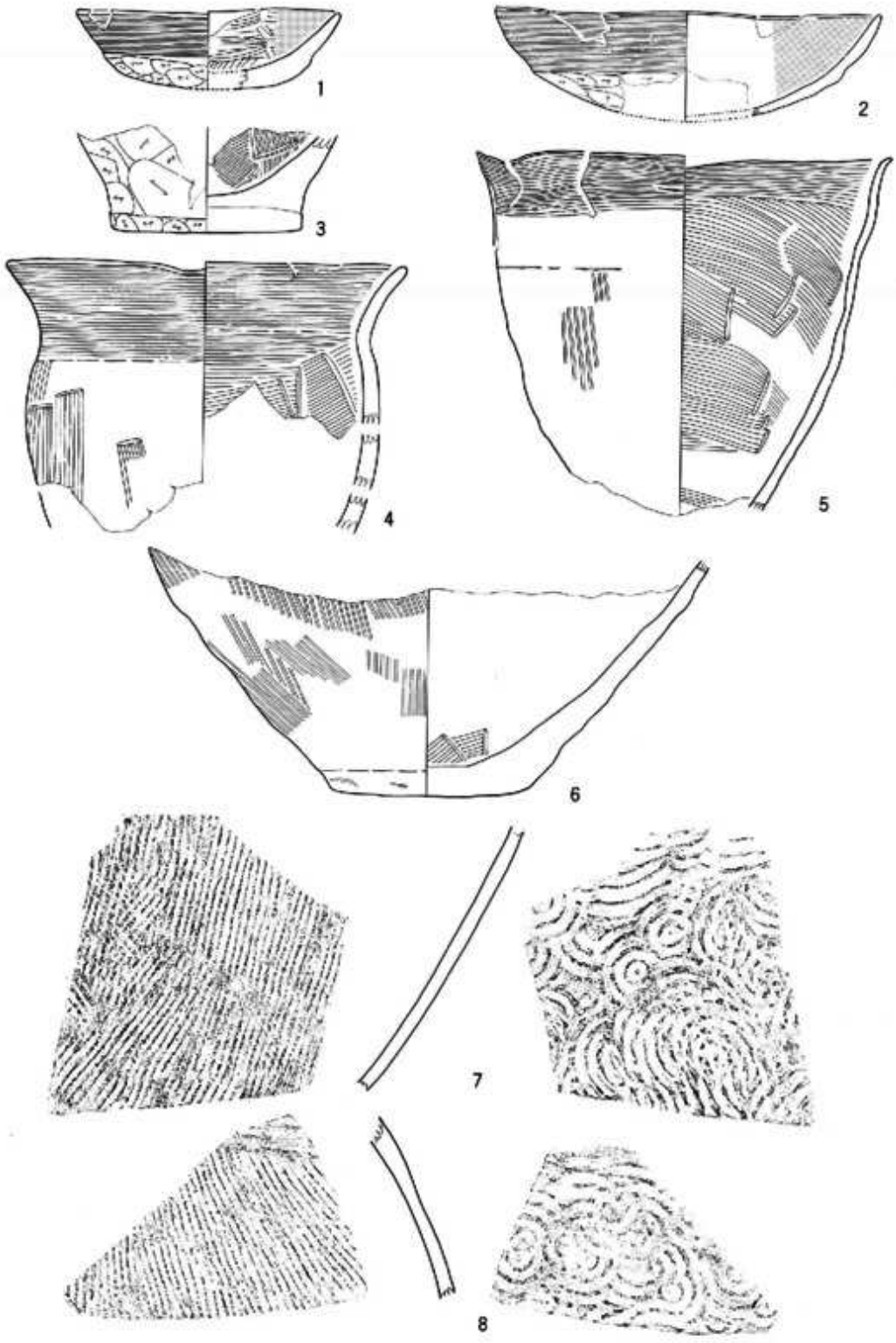
第19図1：土師器坏。小形の坏である。内面に段は認められない。器厚は体部で4～6㎜、底部で8～10㎜と比較的厚い。1層中出土の破片2点が接合した。

第19図2：土師器坏。1層中出土の破片2点が接合した。内面に段は認められない。

第19図3：土師器。甕の底部と考えられる。1層中出土の2点が接合した。

第19図4：土師器甕。口縁部から体部上半にかけて残存している。外面の口縁部から体部にかけて明瞭な段は認められない。床面出土の破片1点とP1底面出土の破片2点の計3点が接合した。

第19図5：土師器。下端を欠損しているが、甑と考えられる。1層中出土の破片17点が接合した。P3付近に集中しており、一括した出土状況を呈している。



第19図　SI1267出土遺物実測図・拓影

観察表

番号	登録番号	種別	器形	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C-686	土師器	坏	1層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ → 黒色処理			3.6	11.6		¼	—	90—17
2	C 685	土師器	坏	1層中	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ → 黒色処理			(4.9)	17.0	—	¼	—	90—18
3	C-686	土師器	甕	1層中	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	4.3以上	—	8.4	½	—	90—20
4	C-687	土師器	甕	P1底面床面	ヨコナデ	ハケメ	…	ヨコナデ	ヘラナデ	—	11.8以上	17.5	—	口縁部完形	—	90—19
5	C-688	土師器	甕	1層中	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ	—	15.9以上	18.2	—	⅝	—	91—2
6	C-689	土師器	甕	P1底面床面	—	ハケメ	ヘラケズリ→ヘラナデ	…	ヘラナデ	ヘラナデ	11.0以上	…	4.1	⅓	—	91—4
7	E-307	須恵器	甕	1層中	—	平行叩き目	—	—	同心円文	…	—	…	…	破片	同一個体	91—1
8	E-338	須恵器	甕	1層中	—	平行叩き目	—	—	同心円文	—	—	—	—	破片		91—3

第19図6：土師器。体部下半から底部にかけて残存している。器種は甕と考えられる。床面出土の破片1点と、P1底面出土の破片3点の計4点が接合した。P1底面出土のうち1点は比較的大きな破片であり、底部を上にした状態で出土している（写真58）。

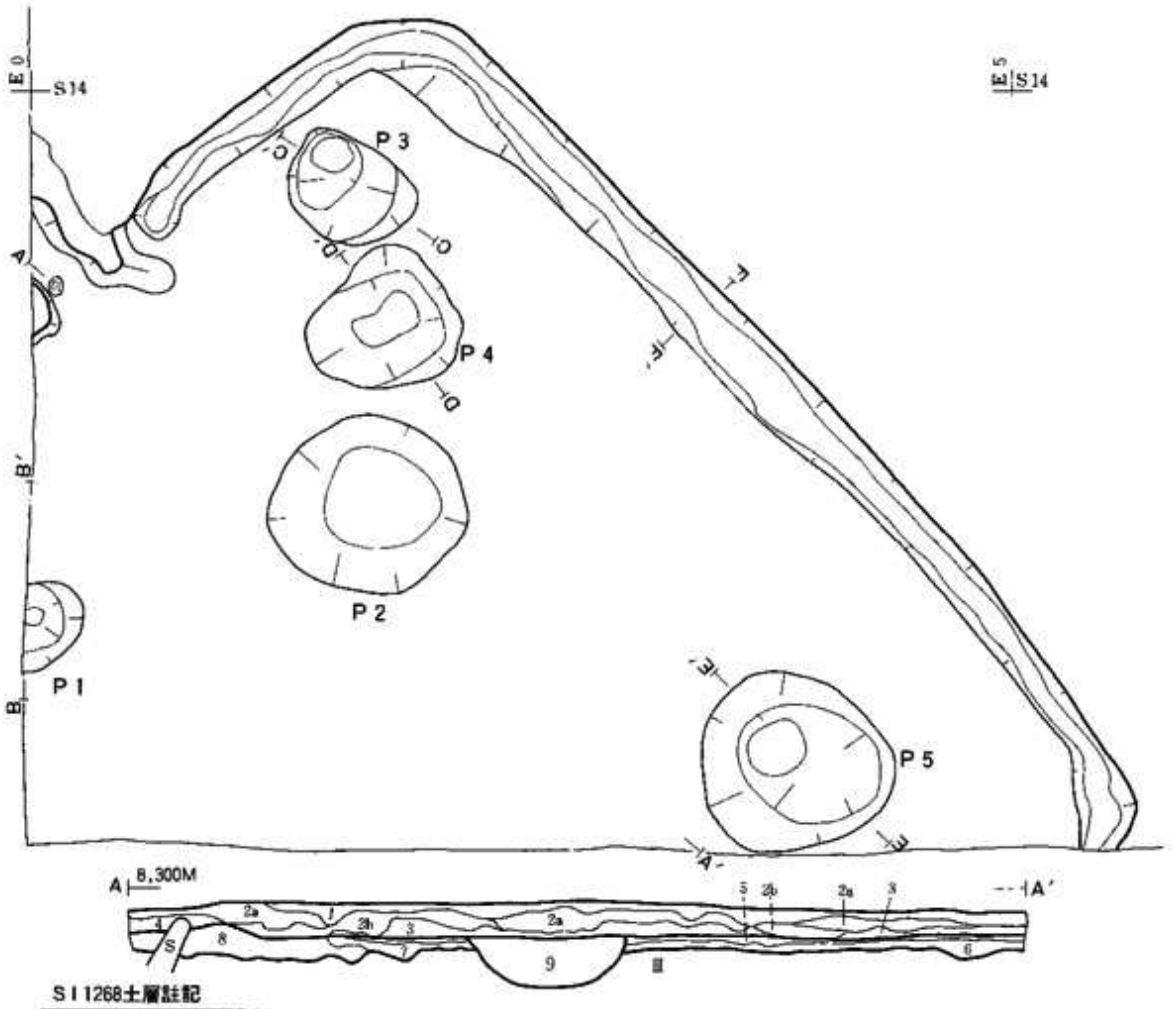
第19図7・8：須恵器。甕の体部破片であり、同一個体と考えられる。1層中から出土している。外面は平行叩き目、内面にはオサエ目として同心円文が認められる。この他にも6点の同一個体と考えられる破片が1層中から出土しており、これら8点の出土地点はP3、P4周辺に集中している。

この他、図示しえなかったが、接合例として土師器甕の底部付近の残存している資料がありそれは床面出土の破片2点とP1底面出土の破片3点、1層中出土の破片1点の計6点が接合している（第18図）。

遺物の接合関係からは、カマドの袖の東側ではP1底面出土遺物と床面出土遺物の接合関係が認められ、第19図4、6の甕は、図示しえなかった甕とともに住居廃絶時に伴なう遺物として位置付けられる。また、カマドの袖の西側で接合関係の認められた遺物は全て埋土1層中の出土であり、カマドの東側と比べ、比較的近い距離で接合しており、1層堆積時に混入したものと考えられ、その時点で割れた可能性を示すものもある。これら第19図1～3・5・7・8は、住居廃絶時に伴なう遺物とは位置付けられない。住居の埋没時期については、カマドを除き、埋土がほぼ単一層で、人為的な堆積状況を示していることから、住居廃絶時に近い時期と考えられる。

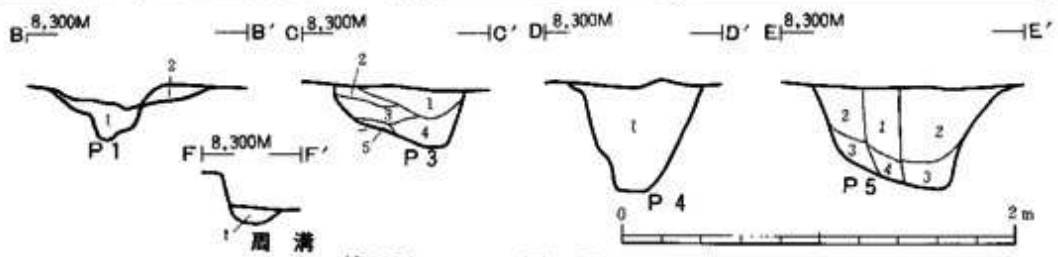
この住居跡の時期については、明確にしえないが、第19図4の土師器甕などから、郡山官衙期に所属するものと推定される。

SI1268（第20～22図、写真60～68）：C－1グリットに位置する。北東及び南東コーナーを検出しており、全容は不明であるが、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。東西長4.55m以上、南北長5.78m以上、深さ17cmを測る。東壁における南北ラインは真北に対してN－26°－

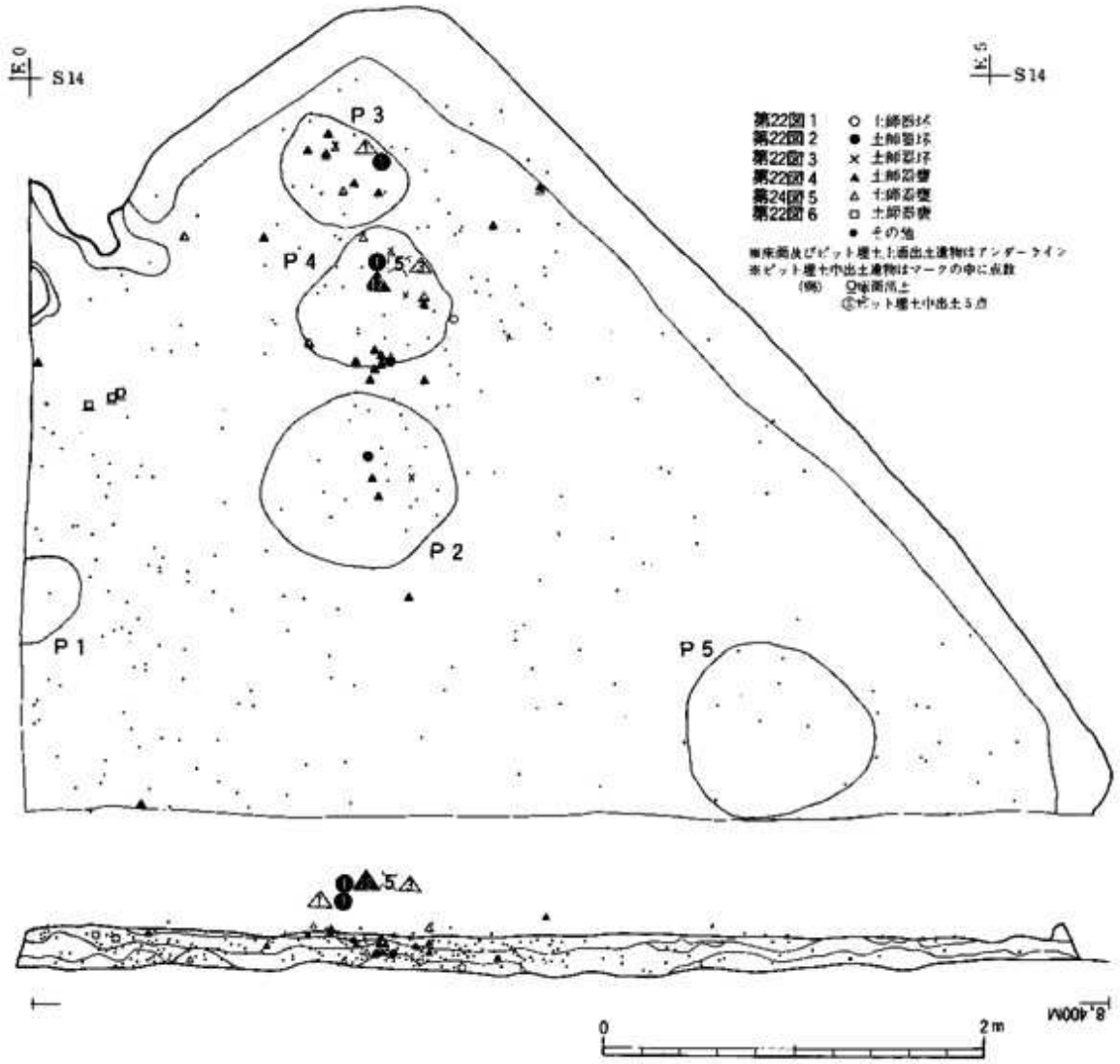


SI1268土層註記

	層位	土色	土性	
P1	1	10YP3/3にぶい黄褐色	粘土	白色、黄橙色粘土、焼土、炭化物を含む
	2	10YR3/3灰黄褐色	粘土	黄橙色粘土を含む
P2	1	10YR3/3黒褐色	粘土	白色粘土、焼土を少量含む
P3	1	10YR3/3暗褐色	粘土	焼土、炭化物を含む
	2	10YR3/4黄褐色	シルト質粘土	(貼床1)
	3	10YR4/4褐灰色	粘土	(貼床2)
	4	10YR5/6明黄褐色	粘土	焼土、炭化物を含む
	5	10YR5/6明黄褐色	粘土	(貼床2) 下層の掘り方埋め土
P4	1	10YR3/3にぶい黄褐色	粘土	
P5	1	10YR3/3黒褐色	粘土質シルト	
	2	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	黄橙色粘土質シルトを少量含む
	3	10YR5/6明黄褐色	粘土質シルト	黒色、白色粘土をまだらに含む
	4	10YR5/4明黄褐色	粘土質シルト	黒色粘土の量が多い
周溝	1	10YR3/3黒褐色	粘土	



第20図　SI1268平面図・セクション図

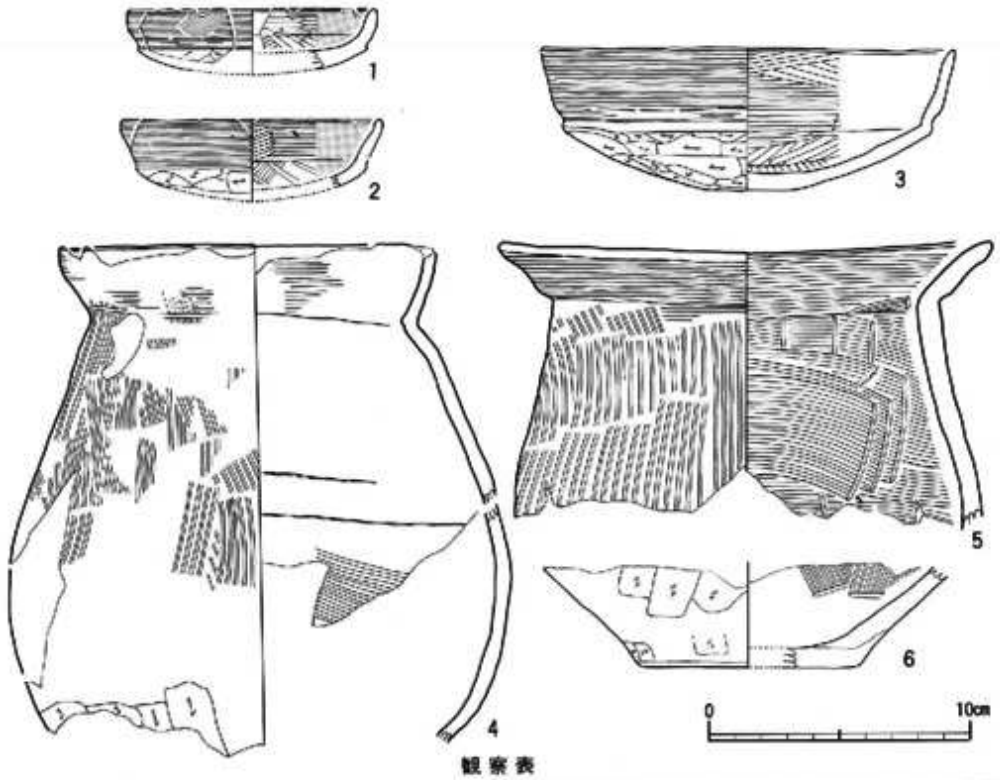


SI1268住居跡土層註記

層位	土色	土性	備考
1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土でブロック状に(径3mm～1cm)含む。
2a	10YR3/4黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土でブロック状に(径1～2cm)多く含む。
2b	10YR5/6にぶい黄橙色	粘土質シルト	この層がブロック状に多量にある。本来のマトリックスは2a層住居中央には、あまりみられない。
3	10YR5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	基本的に黄褐色を含まない。(部分的にわずかには黄褐色は床面近くにみられる。
4	7.5YR3/2黒褐色	粘土質シルト	焼土多く含む。炭化物(炭)を含むが少ない。

層位	土色	土性	備考
5	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	黄褐色土を多量に含む(貼床)
6	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	黄褐色土をわずかに含む(貼床?)
7	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	焼土をブロック状に含む。
8	10YR5/4褐灰色	粘土質シルト	焼土をブロック状に含む。炭を多く含む。
9	10YR5/4褐灰色	シルト質粘土	焼土、炭を極めて多量に含む。

第21図　SI1268遺物分布図



観察表

番号	登録番号	種別	器形	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
					口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	C-690	土師器	坏	1層	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ→黒色処理		—	(2.3)	9.6	—	¼	—	90—12
2	C-691	土師器	坏	1層 P3・P4	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ→黒色処理		—	(3.1)	10.1	—	¼	4点接合	90—13
3	C-692	土師器	坏	1・2層 床面・P4	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	5.5	15.8	—	½	10点接合	90—11
4	C-693	土師器	甕	1～4層 床面・P4	ハケメ→ヘラナデ	ハケメ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	—	19.5以上	14.5	—	½	粘土紐痕有 33点接合	90—16
5	C-694	土師器	甕	1・3層 床面・P4	ヨコナデ	ハケメ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	11.0以上	19.0	—	½	7点接合	90—14
6	C-695	土師器	甕	4層 床面	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	3.7以上	—	8.8	¼	3点接合	90—15

第22図　SI1268出土遺物実測図

Wの方向を示す。埋土は4層である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁際には幅22～28cm、深さ8cmの周溝がめぐる。床は貼床であり、4層に分かれる。6層あるいはIII層上面での先行する床面の存在も考えられる。床面はほぼ平坦である。床面にはピットが5基認められ（P1～5）、P1、4、5は柱穴と考えられるが、P1、4の柱痕跡は確認されていない。またP2の埋土には焼土及び炭化物が多量に含まれている。北壁にはカマドが付設されており、燃焼部と煙道部が検出された。燃焼部の付近には焼土、炭化物が分布している。燃焼部の底面は比較的堅く、中央には細長い円礫を用いた支柱が検出されている。煙道部の検出長は40cmであり、先端は確認できなかったが、北端では壁がやや立ち上がっており、その長さは検出長をわずかに上回る規模と推定される。幅は27cm以上である。煙道部の底面はほぼ水平である。煙道部の東側には、

先行する煙道部あるいは煙道部の掘り方と考えられるプランが確認されている。裾部は両裾とも残存している。

遺物は埋土1～4層中から255点、周溝から18点、床面から14点、ピット1～5から45点の計318点が出土している。煙道部からの出土はない。全て土器破片であり、種別ごとでは非ロクロ土師器316点、須恵器2点である。器形復原のできるもの6点を図示した（第22図）。これらの遺物の出土状態については、第21図に示すように平面分布では住居内全域から出土しており、カマドの東側からの出土が比較的多い傾向はあるが、垂直分布でも知られるように、埋土中出土のものが大半である。

第22図1：土師器坏。1層中出土の破片1点を図示した。小形の坏である。内外面に段をもつ。

第22図2：土師器坏。小形の坏である。内外面に段をもつ。外面の段は体部上半のナデにより作り出されている。1層中出土の破片2点と、P4埋土中出土の破片1点、P3埋土中出土の破片1点の計4点が接合したものである。

第22図3：土師器坏。内外面に段をもつ。口縁部はほぼ直線的にやや外傾して立ち上がる。底部はケズリにより平底状に成形されている。10点の破片が接合したものである（1層中1点、2層中2点、P3埋土上面1点、P4埋土上面1点、P4埋土中5点）。

第22図4：土師器甕。口縁はやや内変気味に立ち上がる。口縁部と体部の境は明瞭に屈曲しており、内面に稜を形成している。最大径は体部下半にある。底部を欠損している。33点の破片が接合したものである（1層中7点、2層中8点、3層中2点、4層中1点、P3埋土上面1点、床面1点、P4埋土中12点）。

第22図5：土師器甕。口縁はわずかに外反気味に立ち上がる。口縁部と体部の境は明瞭に屈曲している。体部下半から底部を欠損している。9点の破片が接合したものである（1層中1点、3層中2点、P4埋土上面2点、P3埋土中1点、P4埋土中3点）。

第22図6：土師器。甕の底部と考えられる。3点の床面出土の破片が接合したものである。

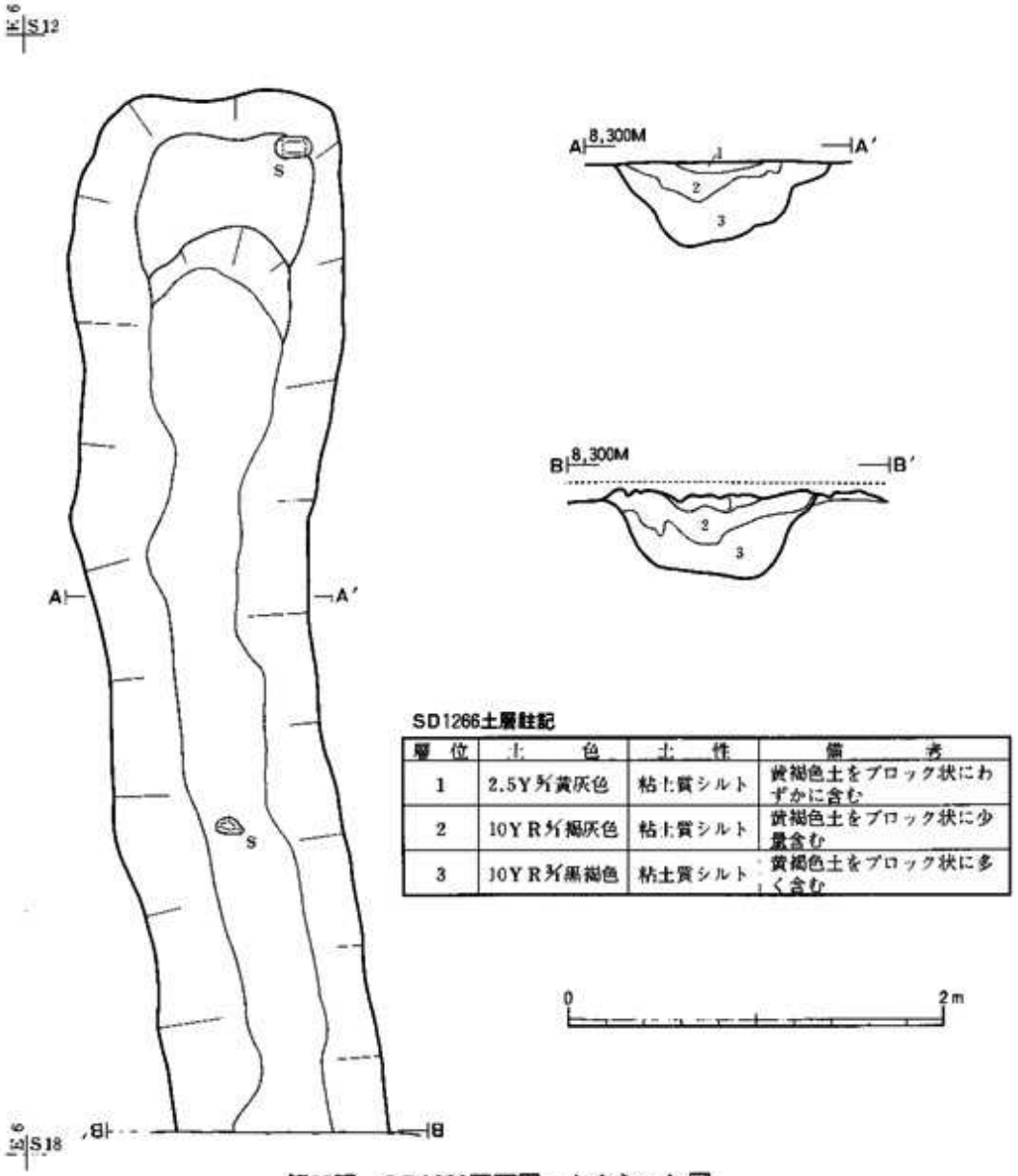
遺物の接合関係からは、第22図6は接合した3点の破片が床面出土であることから、住居廃絶時に伴なう遺物である可能性が考えられる。また第22図2～5の4点については、その平面分布はカマド東側に多く、第22図3、4のように、比較的離れたところから出土しているものもあるが、全てP4埋土中からも出土している。P4には柱痕跡は確認されているが、位置、規模などから柱穴と考えられており、抜き取り痕跡もないことから、これらはこの住居の構築以前の時期の遺物として位置付けられる。このSI1268は、床面より下の調査は一部の断面の観察を行なっているだけであるが、先行する床面が存在している可能性があり、これら4点の遺物はそれと関連するのかもしれない。

この住居の時期は、第22図2～6から、郡山官衙期に所属するものと推定される。

尚、この住居の床面について、25cmメッシュの土壌サンプリングを行ない、1㎜メッシュで水洗選別をしたが鍛造剝片等は検出されていない。

SI1269(第16図、写真50)：A・B－1グリットに位置する。平面プランを確認している。北西コーナーを検出しており、全容は不明であるが、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。東西長2.60m以上、南北長2.80m以上を測る。西辺のラインは真北に対してN－25°－Wの方向を示す。埋土上面から非ロクロ土師器破片2点、土器小破片2点の計4点が出土している。

SD1266(第23図、写真49、69)：C－2グリットに位置する。方向性はほぼ直線的であり、真北

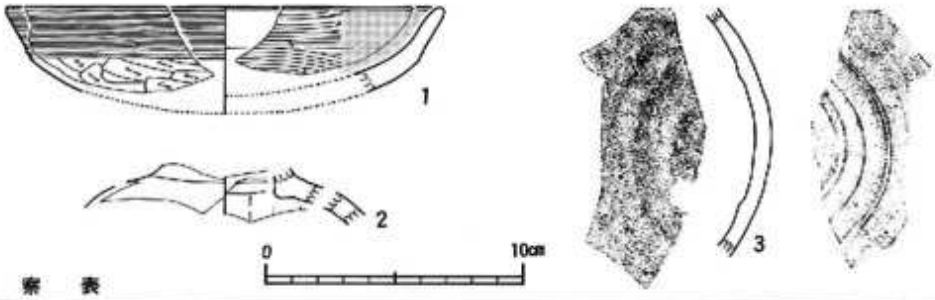


SD1266土層註記

層位	土色	土性	備考
1	2.5Y½黄灰色	粘土質シルト	黄褐色土をブロック状にわずかに含む
2	10YR½褐灰色	粘土質シルト	黄褐色土をブロック状に少量含む
3	10YR½黒褐色	粘土質シルト	黄褐色土をブロック状に多く含む

0　2m

第23図　SD1266平面図・セクション図



観　察　表

番号	登録番号	種別	器形	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体部	内面調整 底部	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備考	写真図版
1	C-696	土師器	坏	2層	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ→黒色処理		—	(4.2)	17.0	—	1/4		91-5
2	E-329	須恵器	横瓶	1・2層	—	ロクロ調整	—	—	ロクロ調整	—					外面自然釉付 内面付着物有り	91-7
3	E-330	須恵器	横瓶	2層	—	ロクロ調整	—	—	ロクロ調整	—			—	破片		91-6

第24図　SD1266出土遺物実測図拓影

に対してはN－9°－Wの方向を示す。北端が検出されている。検出長5.56m、幅1.46m、深さ45cmを測る。底面の標高は7.69～7.79mで、傾斜方向については不明である。底面はほぼ平坦である。埋土は3層である。

遺物は埋土中より土器破片27点が出土している。第24図1は土師器坏である。内外面に軽い段をもつ。第24図2・3は須恵器横瓶の破片である。同一個体と考えられる。第24図2はSD1266出土の破片2点と、IIa層上面で検出されたSK1255から出土した破片1点が接合したものである。

SK1270(第25図、写真70)：C－1グリットに位置する。平面形は楕円形を呈する。上端長軸長92cm、上端短軸長70cm、深さ17cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は1層である。SI1268を掘り込んでおり、それより新しい。

遺物は埋土中より土器破片76点が出土している。

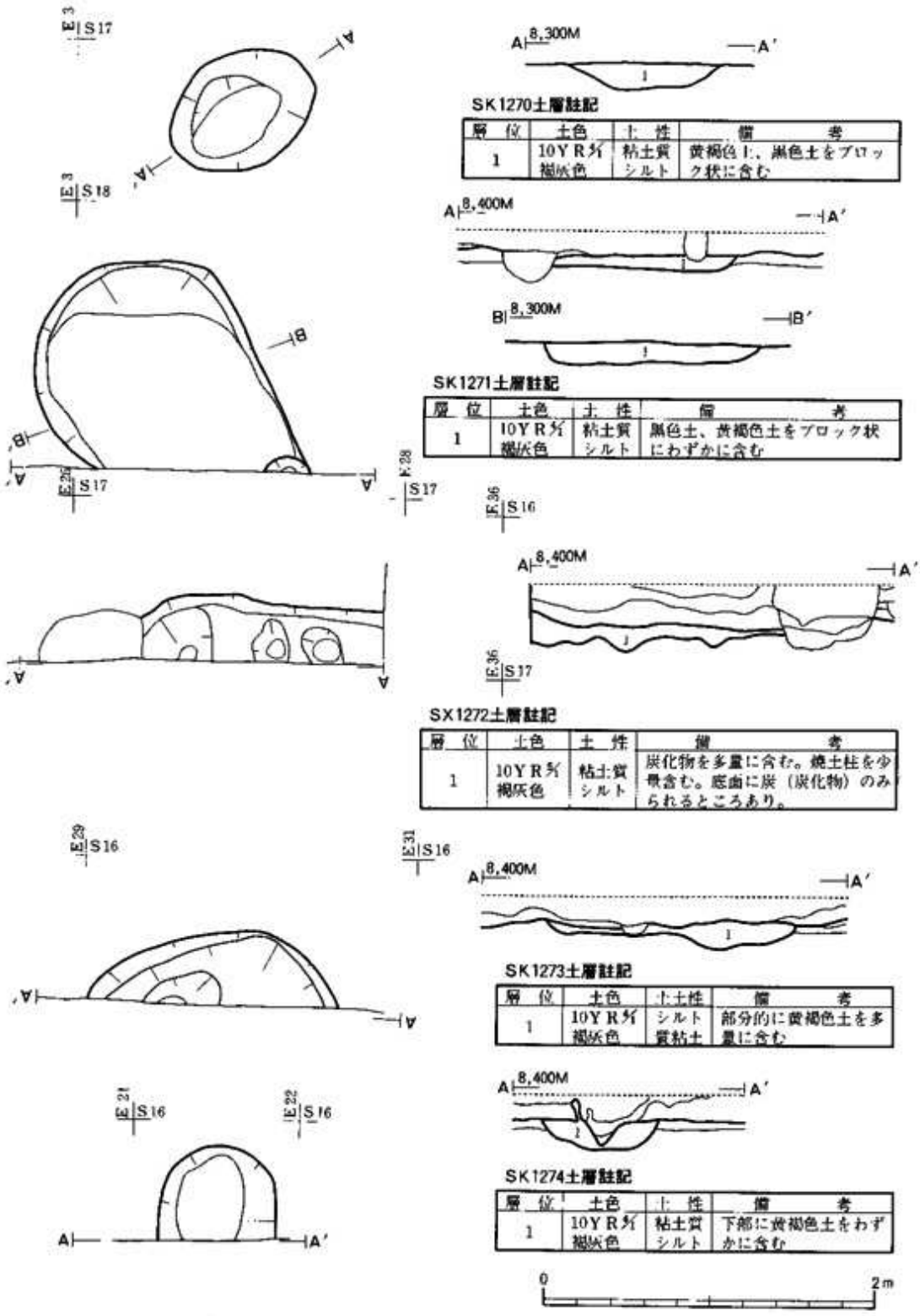
SK1271(第25図、写真71)：C－5グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。上端長軸長171cm以上、上端短軸長130cm、深さ13cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は1層である。

遺物は出土していない。

SK1273(第25図、写真73)：C－5・6グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は円形あるいは楕円形を呈するものと想定される。上端東西長152cm、深さ13cmを測る。底面にはピット状の凹みが認められる。埋土は1層である。

遺物は出土していない。

SK1274(第25図、写真74)：C－4グリットに位置する。全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。上端長軸長70cm以上、上端短軸長58cm、深さ26cmを測る。底面は



第25図　Ⅱd層上面検出遺構平面図・セクション図

ほぼ平坦である。埋土は1層である。

遺物は出土していない。

SX1272(第25図、写真72)：C－6グリットに位置する。全容は不明である。上端東西長145cm以上、深さ19cmを測る。底面には凹凸が認められる。埋土は1層である。

遺物は埋土中より土器破片4点、底面から土器破片14点が出土している。底面から出土した土器は、土師器甕の体部下半から底部にかけての破片で、製作にロクロは使用されておらず、外面には刷毛目による調整が施されている。

SX1275(写真50)：B－1グリットに位置する。平面プランを確認している。平面形は不整楕円形を呈する。長軸長123cm、短軸長101cmを測る。

SX1276(写真50)：A－1グリットに位置する。平面プランを確認している。西壁セクションを参考にすると、東西長290cm以上、南北長182cm以上、深さ18cmを測る。平面形は不明である。

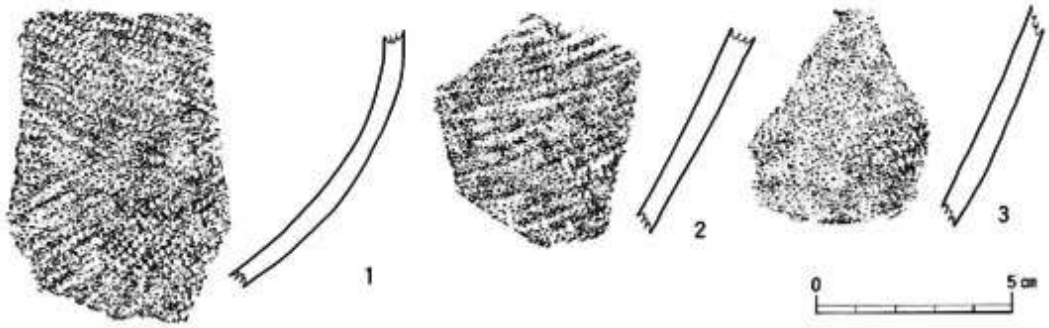
7．基本層出土遺物

遺構外出土遺物の中で、器形復原のできるものなどを第26・27図に示した。

第26図1～3はC－7グリットIIｄ層中から出土している。同一個体である。外面には単節LR縄文が施文されており、第26図1のように羽状を呈する部分もある。弥生土器の体部破片と考えられる。第26図4～6はIIｂ層より出土している。第26図4は須恵器蓋である。内面にカエリがある。第26図5は土師器坏である。体部上半に軽い段をもち、口縁は直立気味に立ち上がる。底部は丸底と考えられる。第26図6は須恵器盤である。

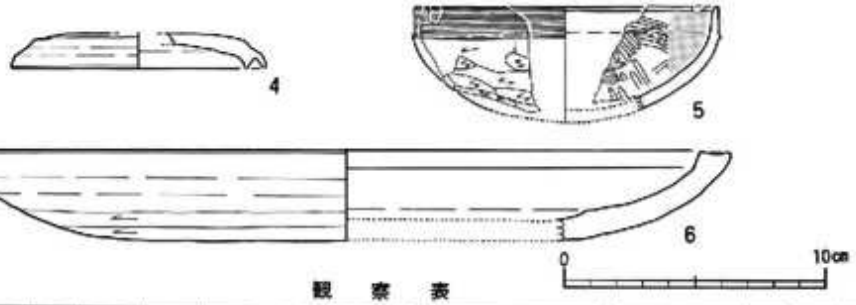
この他、基本層1層中より石器4点（2次加工のある剥片1点、剥片3点)、C－6－aグリットIIｄ層中から石器1点（剥片）が出土している。石質は2次加工のある剥片が頁岩である他は、全て流紋岩である。IIｄ層中からの遺物の出土は少ないが、第26図1～3の土器や、石器が含まれている点で、今後注意していく必要があろう。

第27図には瓦の拓影を6点示した。1～5が平瓦破片、6が丸瓦破片である。瓦は調査区内から総数106点出土しているが全て破片である（I層60点、IIａ層41点、IIｂ層4点、P11、51点)。平瓦は凸面：縄叩き目→ナデ、凹面：糸切痕→布目、模骨痕が観察され、桶巻き作りで製作されており、丸瓦は凸面：縄叩き目→ロクロナデ、凹面：布目が観察され、粘土板巻き作りであることが知られる。



観　察　表

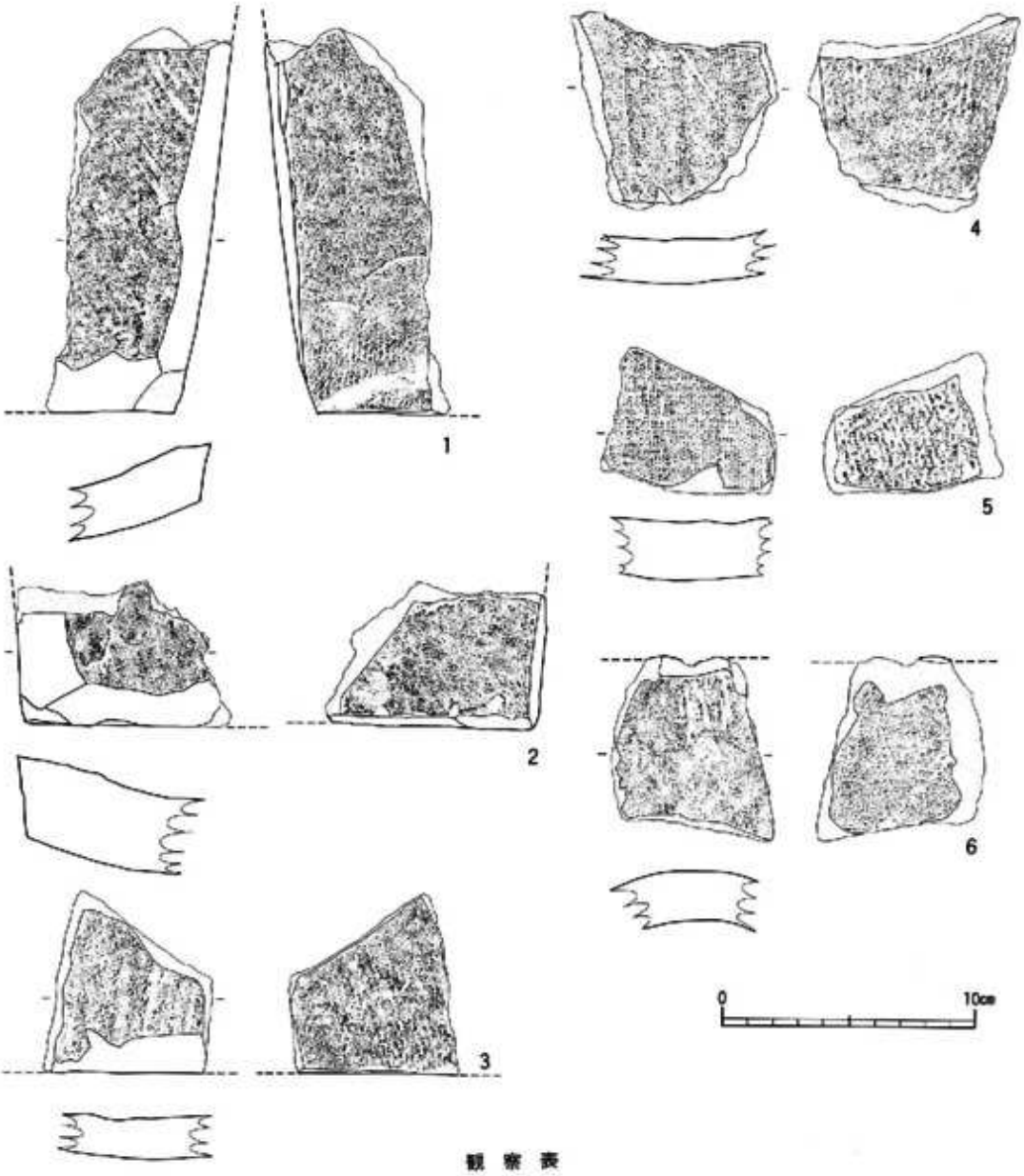
番　号	出土地点	層　位	登録番号	器種	部位	施文調整 口唇部	施文調整 外面	施文調整 内面	備　考	写真図版
1	C-7aG	Ⅱd層	B-122	不明	体部		単節LR縄文	ミガキ		92—7
2	C-7aG	Ⅱd層	B-123	不明	体部		単節LR縄文	ミガキ		92—8
3	C-7aG	Ⅱd層	B-124	不明	体部		単節LR縄文	ミガキ		92—9



観　察　表

番　号	登録番号	種　別	器形	出土遺構	層位	外面調整 口縁部	外面調整 体　部	外面調整 底部	内面調整 口縁部	内面調整 体　部	内面調整 底部	法量(cm) 器　高	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	残存	備　考	写真図版
4	E-331	須恵器	壺		Ⅱb層	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	—	ロクロ調整 内面カエリ		—	1.3以上	9.8	—	1/4		
5	C-697	土師器	坏		Ⅱb層	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ→黒色処理		—	(4.4)	11.6	—	1/4		91—8
6	E-332	須恵器	盤		Ⅱb層	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	—	ロクロ調整	ロクロ調整	—	(3.5)	29.8	—	1/8		91—9

第26図　第84次調査区出土遺物実測図・拓影



観 察 表

番号	種別	地区名	層 位	登録番号	凸 面	凹 面	写真図版
1	平瓦	C－1－c	Ⅱa層	G－64	縄叩き目←ナデ	糸切痕→模骨痕・布目	92－1
2	平瓦	C－1－d	Ⅰb層	G－65	ナデ	糸切痕→布目	92－2
3	平瓦	C－6－c	Ⅱa層	G－66	縄叩き目←ナデ	糸切痕→布目	92－3
4	平瓦	C－5－c	Ⅱa層	G－67	縄叩き目→ナデ	糸切痕→布目	92－4
5	平瓦	C－1－d	Ⅱd層	G－68	縄叩き目	糸切痕→布目	92－5
6	丸瓦	C－3－b	Ⅱd層	G－69	ナデ	布目	92－6

第27図 瓦 拓 影

V　第85次調査A区

1．基本層序

第85次調査A区においては、Ⅰ層～Ⅷ層の基本層が確認されている。それらの成因については、Ⅰ・Ⅱ層には不明な点もあるが、Ⅲ～Ⅷ層は主に河川による砂、シルト、粘土の供給に基づいているものと考えられる。尚、Ⅲ層より下位の層については、2箇所の坪掘りによって確認している。

Ⅰ層：10YR4/1 褐灰色粘土質シルト。現水田耕作土。

Ⅱ層：10YR6/1 褐灰色粘土質シルト。黄褐色土、黒褐色土をブロック状に多量に含む。この層の下面には凹凸が顕著に認められ、Ⅲ層とは不整合面をなしている。人為的な攪乱等を受けた土壌と考えられる。

Ⅲ層：10YR7/2 にぶい黄橙色粘土質シルト。砂粒を含む。この層は調査区全域に分布している。層厚は8cm～21cmである。

Ⅳ層：10YR7/3 にぶい黄橙色粘土。細かな砂粒を含む。層厚は約10cmである。

Ⅴ層：10YR6/1 褐灰色粘土。層厚は9cm～13cmである。

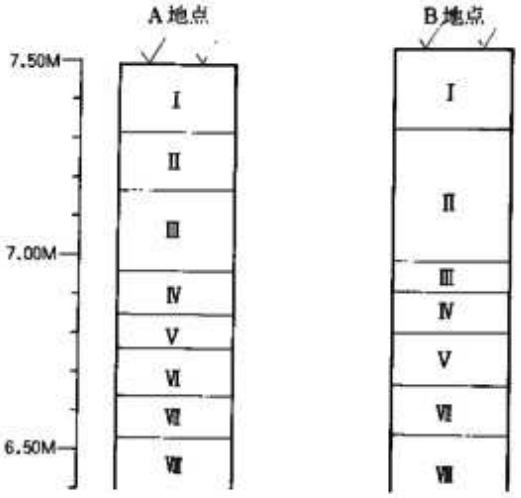
Ⅵ層：10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土。層厚は約16cmである。第2地点には認められない。

Ⅶ層：10YR5/1 褐灰色粘土。層厚は11cm～13cmである。

Ⅷ層：2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土。層厚は15cm～18cmである。

2．調査概要

Ⅲ層上面において遺構を検出している。その内容は、溝跡1条（SD35）、掘立柱建物跡1棟（SB1279）性格不明遺構1基、ピット4基である。遺物は遺構と基本層Ⅰ・Ⅱ層中から出土しており、その総数は441点である。



第28図　A区基本層序柱状図

第12表　A区Ⅰ層中出土遺物数量表

グリット	弥生土器	非ロクロ土師器	ロクロ土師器	赤焼土器	須恵器	陶　器	磁　器	不明土器小破片	その他	小　計
A－1G	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
A－2G	0	1	0	0	4	1	0	6	0	12
A－3G	0	4	0	0	2	0	0	3	0	9
A－4G	0	11	0	0	2	0	0	10	人の頭1	24
A－5G	0	16	0	0	6	2	1	15	0	40
A－6G	0	7	0	0	0	0	1	9	0	17
B－1G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B－2G	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
B－3G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B－4G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B－5G	0	12	0	0	8	1	1	10	0	27
B－6G	0	6	0	0	0	0	0	6	0	12
B－7G	0	9	0	0	0	1	0	12	0	22
B－8G	0	17	0	0	10	0	0	20	0	47
B－9G	0	18	0	0	5	0	0	22	0	45
B－10G	0	5	0	0	4	1	0	15	0	25
B－11G	2	6	0	0	1	0	0	12	0	21
C－6G	0	3	0	0	1	0	0	4	0	8
C－7G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C－8G	0	8	0	0	1	0	0	5	0	14
C－9G	0	10	0	0	2	0	0	9	0	21
C－10G	0	10	0	0	2	1	0	2	0	15
C－11G	0	4	0	0	1	2	0	4	0	11
地点不明	1	5	0	0	5	1	0	3	0	15
合　計	3	152	0	0	49	10	3	174	1	392

第13表　A区ＳＤ35埋土中出土遺物数量表

グリット	層　位	弥生土器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小　計
A－1G	1層	0	1	0	0	1
B－5G	1層	0	4	0	0	4
B－6G	1層	0	2	1	0	3
B－7G	1層	0	2	0	0	2
B－8G	1層	0	9	1	4	14
B－9G	1層	0	6	0	6	12
B－10G	1層	1	1	0	0	2
B－11G	1層	1	7	1	2	11
合　計		2	32	3	12	49

3．III層上面の調査

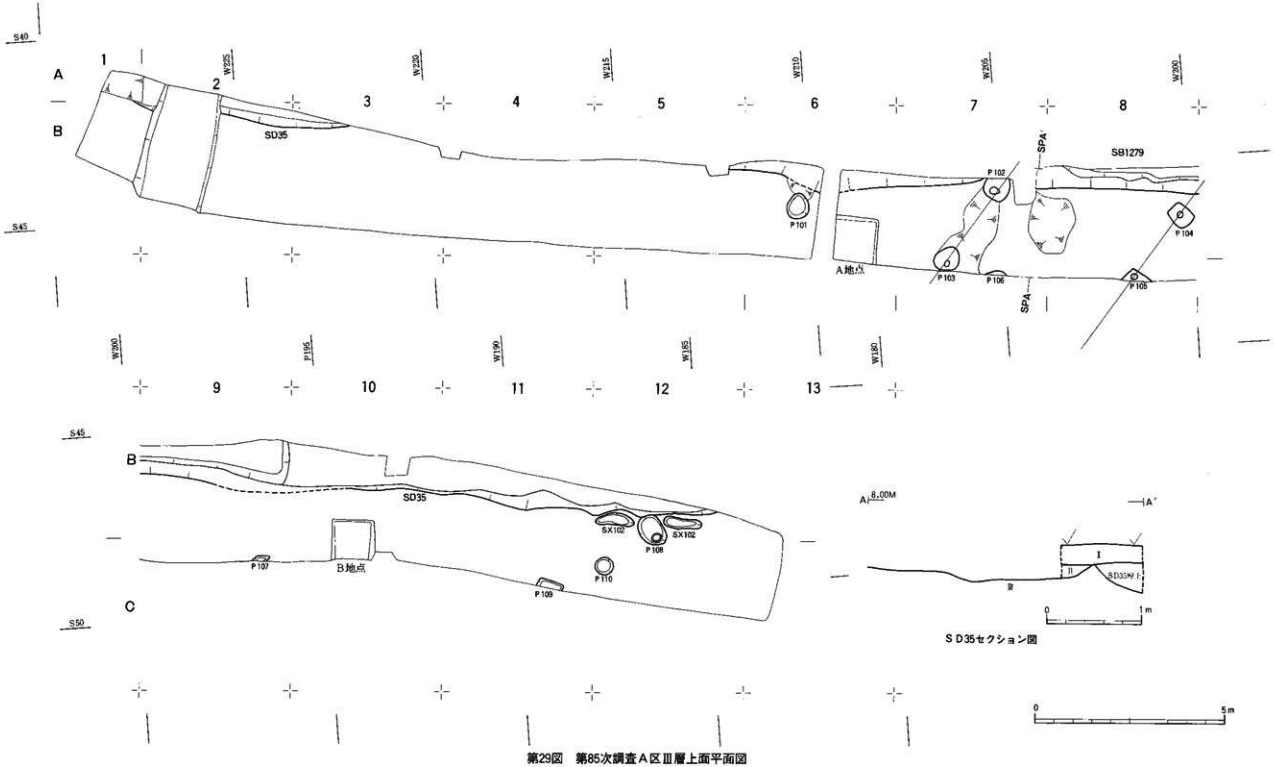
SB1279(第29図、写真88)：B・C－7・8グリットに位置する。南北3間以上、総長4.35m以上（柱間寸法230cm、205cm)、東西2間（推定)、総長4.22mの南北棟の掘立柱建物跡である。南北柱列の方向はN－32°－Eである。柱穴の平面形は円形で、その規模は直径16～26cmである。

遺物は出土していない。

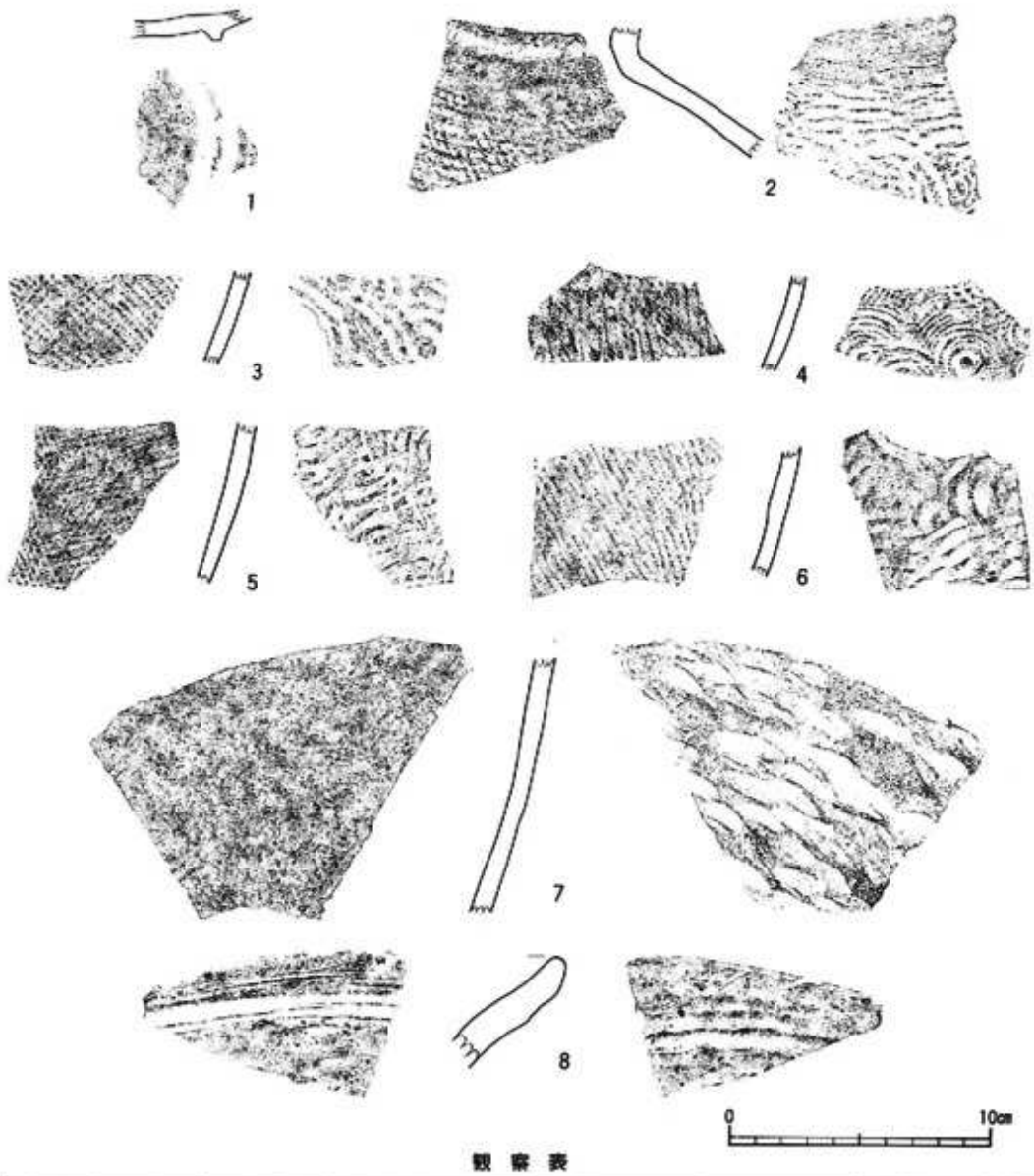
SD35(第29図、写真88・89)：調査区西側及び東側の北端部で検出された。II期官衙南辺の外郭大溝である。検出長44m、方向はほぼ真東西方向である。底面にはやや凹凸があり、B－9グリット付近では段差が認められた。北側の立ち上がりは検出されなかった。溝幅は1.4m以上である。埋土は1層である。

遺物は埋土中より計49点出土しており、全て土器破片である。その内訳は弥生土器2点（第31図3・4)、非ロクロ土師器32点、須恵器3点（第30図7)、土器小破片12点である。

I・II層出土遺物(第30・31図)：I層及びII層中からは総数392点の遺物が出土している。ほとんどが土器破片であり、その内訳は弥生土器3点（第31図1・2・5)、非ロクロ土師器152点、須恵器49点（第31図1～6)、陶器10点（第31図8)、磁器3点、不明土器破片174点、土製品1点である。



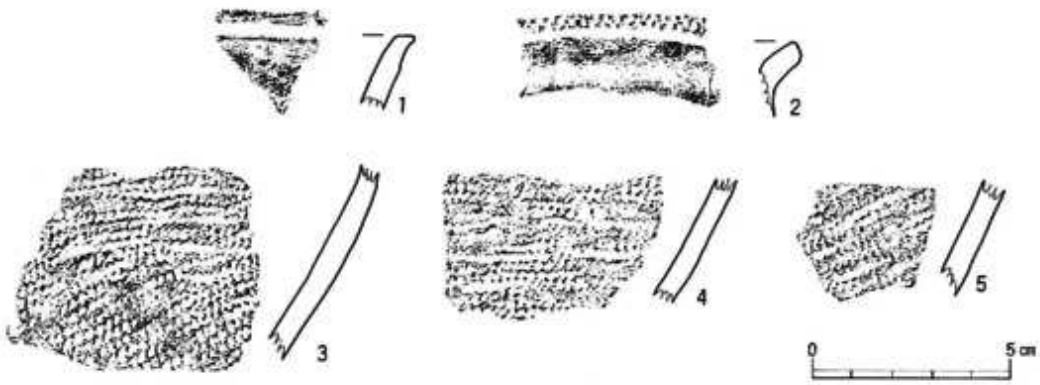
第29図　第85次調査Ａ区Ⅲ層上面平面図



観察表

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	単位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E-333	須恵器	坏		Ⅰ層										破片		93－1
2	E-334	須恵器	甕		Ⅰ層		格子状叩き			青海波文					破片		93－2
3	E-335	須恵器	甕		Ⅱ層		平行叩き目			青海波文					破片		93－3
4	E-336	須恵器	甕		Ⅱ層		平行叩き目								破片		93－4
5	E-337	須恵器	甕		Ⅰ層		平行叩き目			青海波文					破片		93－7
6	E-338	須恵器	甕		Ⅱ層		平行叩き目			青海波文					破片		93－9
7	E-339	須恵器	甕		Ⅰ層		平行叩き目								破片		93－11
8	I－35	陶器	鉢(?)	SD35	Ⅱ層		－						(37.2)		破片	県内産？	93－8

第30図　第85次調査Ａ区出土遺物拓影 (1)



観　察　表

番　号	出土地点	層位	登録番号	器種	部　位	施文調整 口縁部	施文調整 外面	施文調整 内面	備　考	写真図版
1	B—11G	1層	B-125	鉢?	口縁部	撚糸文?	ミガキ	ミガキ		92—10
2	B—11G	1層	B-126	壺	口縁部	単節LR縄文	ヨコナデ	ミガキ		92—11
3	SD35	1層	B-127	不明	体部		LR＋r付加条縄文	ミガキ		92—13
4	SD35	1層	B-128	不明	体部		LR＋r付加条縄文	ミガキ		92—14
5		1層	B-129	不明	体部		LR＋r付加条縄文	ミガキ		92—15

第31図　第85次調査A区出土遺物拓影 (2)

VI　第85次調査B区

1．基本層序

第85次調査B区においては、I～III層の基本層が確認され、III層はa～eに細分されている。それらの成因については、I・II層には不明な点もあるが、III層は主に河川による砂、シルト、粘土の供給に基づいているものと考えられる。また、プラント・オパール分析によって、I層・II層・IIIc層からイネ機動細胞のプラント・オパールが検出されている（第VII章参照）。

I層：N4/ 灰色粘土質シルト。現水田耕作土。

II層：N6/ 灰色粘土質シルト。旧水田耕作土。出土遺物から極めて新しい時期の水田土壌である。

IIIa層：10YR6/1 褐灰色粘土質シルト。黄褐色土をブロック状に含む。この層は調査区西半部、R～U－1・2グリットに分布する。層厚は7cm～15cmである。

IIIb層：10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト。マンガン斑を含む。この層は主に調査区西半部に分布するが、その範囲はIIIa層に比べると狭い。層厚は約11cmである。

IIIc層：10YR7/1 灰白色シルト質粘土。砂粒を部分的にブロック状に含む。また黄褐色土をブロック状に含むところも調査区東南部には認められ、下面の凹凸も所々にみられ、水田土壌の可能性もある。しかし、断面観察のできるところでは、層中に黄褐色の薄い水平な層がみられ、自然堆積の状況を示すところもある。この層は調査区全域に分布している。層厚は14cm～19cmである。弥生時代遺物包含層。

IIId層：2.5Y6/2 灰黄色シルト質粘土。この層は調査区西半部に分布する。層厚は約20cmである。

IIIe層：10YR7/2 灰黄色粘土質シルト。砂粒を含む。

2．調査概要

II層直下のIIIa層、IIIb層、IIIc層上面において遺構を検出している（以下、この遺構検出面をIII層上面と総称する）。その内容は掘立柱建物跡3棟（SB1277、1278、1280）、溝跡1条（SD1283）、性格不明遺構2基（SX1281、1282）、ピット40基（P66～105）である。遺物は遺構と基本層I～III層中より出土しており、その総数は1377点である。基本層の中でIIIc層は、弥生時代の遺物包含層である。弥生時代の遺物については、I層、II層、IIIa層、IIIb層、III層上面検出遺構からも出土しており、それについてはIIIc層出土遺物とともに後述することとする。

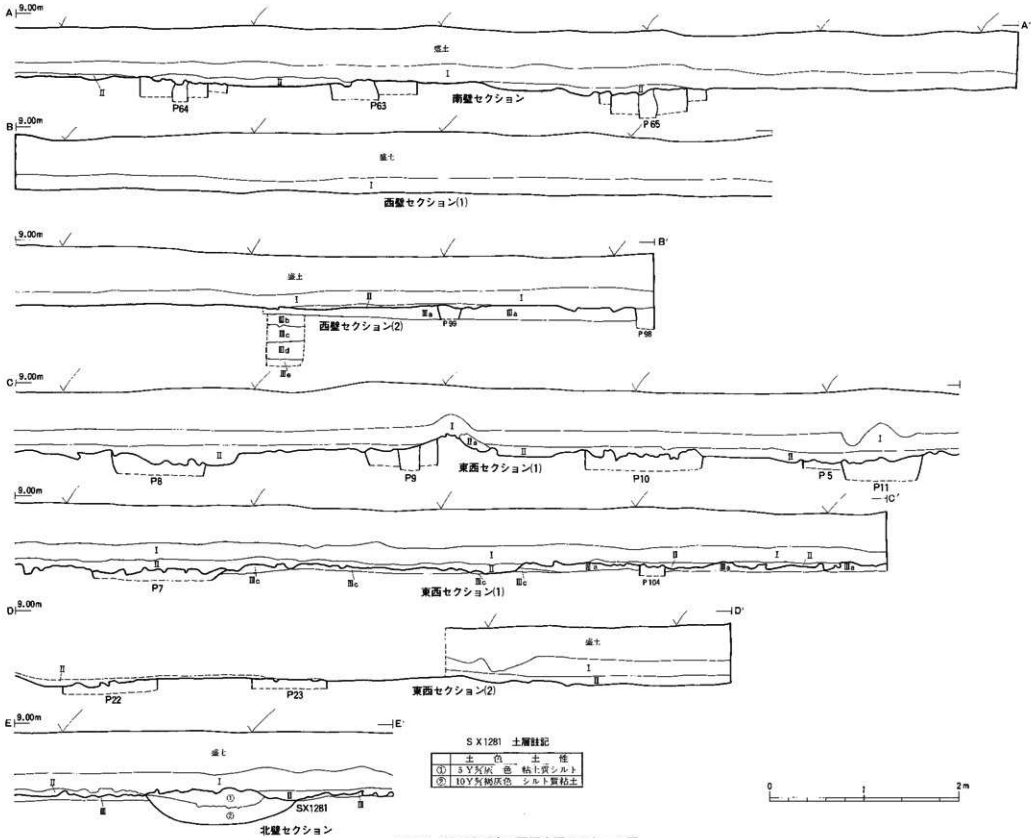
3．III層上面の調査

SB1277（第33図、写真75、81、82）：東西桁行８間、総長19.60m（身舎部分柱間寸法240～278cm、平均260cm、廂部分柱間寸法185～218cm、平均199cm）、南北梁行５間、総長10.97m、（身舎部分柱間寸法190～225cm、平均207cm、南廂部分柱間寸法235～250cm、平均244cm、北廂部分柱間寸法227～257cm、平均236cm）の東西棟で、四面廂付掘立柱建物跡である。SB1277は、SB1278、SB1280、SD1283、SX1282と重複関係があり、これらより新しい。南北柱列の方向はN－2°－Eである。柱穴は全て残存しており、平面形は隅丸長方形、隅丸方形あるいは不整方形を呈する。その規模は、身舎部分では140～100×130～62cm、廂部分では142～80×110～62cmである。柱痕跡の平面形は円形で、その規模は身舎部分で直径23～31cm、平均26.7cm、廂部分で直径17.5～30.5cm、平均23.2cmである。P29、P33の柱痕跡は確認されなかったが、柱穴の底面まで掘り下げており、その検出面からの深さはP29で24cm、P33で14cmである。柱穴の掘り方埋土及び柱痕跡に焼土、炭化物は含まれていない。柱筋の通りは東廂部においてやや不整であるが、他の各柱筋はほぼ一直線上に柱痕跡が配置されている。身舎の内部に束柱の痕跡は認められていない。

出土遺物は、第17表に示すように、柱穴から総数400点出土している。土器は全て破片である。土師器、須恵器には器形復原のできるものはなかった。また、土師器には製作にロクロを使用

第14表　B区基本層出土遺物数量表

グリット	層位	弥生土器	石器	土師器	須恵器	陶器	磁器	不明土器片	不明遺物	小計	層位	弥生土器	石器	小計	合計
R－1G	II層	3	0	1	0	1	0	0	0	5	III層	0	1	1	6
R－2G	II層	3	0	3	0	5	1	0	0	12	III層	4	1	5	17
R－3G	II層	2	1	1	1	1	0	0	0	6	III層	16	3	19	25
R－4G	II層	2	0	6	0	0	0	0	0	8	III層	46	11	57	65
R－5G	II層	12	8	23	11	13	1	0	1	69	III層	5	0	5	74
R－6G	II層	1	0	1	1	0	0	1	1	5	III層	2	1	3	8
S－1G	II層	0	0	3	1	0	0	2	0	6	III層	0	0	0	6
S－2G	II層	1	0	2	0	0	0	0	0	3	III層	3	0	3	6
S－3G	II層	1	1	3	0	0	0	2	0	7	III層	29	10	39	46
S－4G	II層	6	3	17	7	7	0	0	1	41	III層	18	16	34	75
S－5G	II層	9	0	13	2	9	0	3	0	36	III層	44	8	52	88
S－6G	II層	4	1	7	0	3	0	0	0	15	III層	18	4	22	37
S－7G	II層	0	1	7	2	0	0	0	0	10	III層	3	0	3	13
T－1G	II層	2	1	6	0	1	0	0	1	11	III層	2	0	2	13
T－2G	II層	2	0	12	0	4	0	0	0	18	III層	1	0	1	19
T－3G	II層	1	1	6	1	0	0	1	0	10	III層	11	9	20	30
T－4G	II層	6	0	15	0	2	0	2	0	25	III層	9	2	11	36
T－5G	II層	5	1	15	3	6	0	0	1	31	III層	25	7	32	63
T－6G	II層	6	1	18	1	4	0	2	0	32	III層	14	1	15	47
T－7G	II層	1	0	8	0	0	1	2	0	12	III層	11	0	11	23
U－2G	II層	0	0	3	3	0	0	0	0	6	III層	0	0	0	6
U－3G	II層	6	0	19	0	1	0	0	0	26	III層	0	1	1	27
U－4G	II層	4	0	16	3	4	1	0	1	29	III層	0	0	0	29
U－5G	II層	3	2	4	4	8	1	2	0	24	III層	3	0	3	27
U－6G	II層	3	1	11	3	2	0	0	1	21	III層	5	0	5	26
U－7G	II層	1	0	3	0	0	0	0	0	4	III層	2	0	2	6
V－4G	II層	0	0	2	0	0	0	0	0	2	III層	0	0	0	2
V－5G	II層	0	2	0	0	3	0	2	0	7	III層	0	1	1	8
V－6G	II層	0	0	3	0	0	0	1	0	4	III層	2	0	2	6
V－7G	II層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	III層	0	1	1	1
地点不明	I層中	10	1	18	5	4	1	0	1	40	III層	0	0	0	40
小　計		94	25	216	48	78	6	20	8	325	合計	273	77	350	675



第32図 第85次調査B区調査区セクション図

第15表　ＳＢ1277柱穴出土遺物数量表

遺構名	弥生土器	石器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小計
P. 8	2	2	2	0	0	6
P. 9	1	0	3	1	0	5
P. 10	2	2	6	1	1	12
P. 11	7	0	1	0	0	8
P. 12	3	1	7	0	0	11
P. 13	4	0	0	0	2	6
P. 14	0	1	7	2	3	13
P. 15	0	0	5	1	0	6
P. 16	1	0	0	0	0	1
P. 17	7	0	4	0	0	11
P. 18	2	0	5	1	0	8
P. 22	3	1	2	0	0	6
P. 23	6	0	3	0	0	9
P. 24	4	0	13	0	1	18
P. 25	1	0	8	0	4	13
P. 26	4	0	1	0	0	5
P. 27	3	0	6	0	4	13
P. 28	0	0	5	2	2	9
P. 30	0	0	2	0	0	2
P. 31	2	0	12	0	1	15
P. 32	1	0	6	2	0	9
P. 33	0	1	4	0	0	5
P. 34	0	3	8	0	2	13
P. 35	4	0	19	2	0	25
P. 37	0	0	3	1	0	4
P. 38	1	1	6	0	0	8
P. 39	2	0	3	2	0	7
P. 40	4	0	3	0	1	8
P. 41	0	0	7	2	0	9
P. 42	0	0	1	0	0	1
P. 43	8	2	2	3	2	17
P. 44	0	0	3	1	1	5
P. 45	1	0	4	0	0	5
P. 46	0	0	6	0	1	7
P. 47	5	1	8	0	2	16
P. 48	5	4	1	0	0	10
P. 49	1	0	5	1	0	7
P. 50	0	0	2	0	1	3
P. 51	0	0	4	0	0	4
P. 52	1	0	0	0	0	1
P. 53	7	2	8	2	4	23
P. 54	3	1	12	0	2	18
P. 55	1	0	13	0	4	18
合計	96	22	220	24	38	400

第16表　ＳＢ1278柱穴出土遺物数量表

柱穴	弥生土器	石器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小計
P. 1	2	0	1	0	0	3
P. 2	2	1	4	0	2	9
P. 3	0	0	1	0	1	2
P. 5	3	3	5	0	1	12
P. 19	8	3	7	0	1	19
P. 20	0	0	3	0	0	3
P. 56	2	0	0	0	0	2
P. 58	0	3	0	0	0	3
P. 59	3	0	0	1	1	5
P. 60	1	0	2	0	0	3
合計	21	10	23	1	6	61

第17表　ＳＢ1280柱穴出土遺物数量表

柱穴	弥生土器	石器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小計
P. 63	0	0	1	0	0	1
合計	0	0	1	0	0	1

第18表　ＳＤ1283出土遺物数量表

	弥生土器	石器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小計
埋土中	0	0	0	1	0	1

第19表　ＳＸ1281、ＳＸ1282出土遺物数量表

	弥生土器	石器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小計
SX1281	5	0	20	0	2	27
SX1282	2	1	3	1	1	8
合計	7	1	23	1	3	35

第20表　ピット出土遺物数量表

遺構名	弥生土器	石器	非ロクロ土師器	須恵器	土器小破片	小計
P. 61	1	0	0	0	0	1
P. 92	1	0	1	0	0	2
P. 94	0	0	1	0	0	1
合計	2	0	2	0	0	4

第21表　B区柱穴土層註記表

SB1277

14	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
13	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
12	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
11	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
10	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
9	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト
8	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む、砂粒を含む
22	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む、砂粒多含む
23	10YR3/3黒褐色シルト質粘土黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
37	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む、砂粒を含む
38	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、黒色土をブロック状に多く含む
39	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、黒色土をブロック状に多く含む
18	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、黒色土をブロック状に多く含む
17	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、黒色土をブロック状に多く含む
16	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/1黒にぶい黄褐色シルト質砂（細砂）
15	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む、炭粒を含む
24	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
25	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト
40	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
41	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
26	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、黒色土をブロック状に多く含む
27	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
42	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
43	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
28	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト
29	撹乱
	完掘
44	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
45	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土
46	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む、ブロックのかたよりみられる
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
47	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
48	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
49	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
30	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
31	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
32	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色、シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
50	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
51	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
52	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
53	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む、かたよりみられる
	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト
54	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
55	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト
33	充填
	不明
34	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に少量含む
35	10YR3/3黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、褐灰色土ブロックを多量に含む
	10YR3/2灰黄褐色粘土質シルト

※上段は掘り方埋土、下段は柱痕跡埋土

第33図　第85次調査B区Ⅲ層上面平面図

第22表　B区柱穴・ピット土層註記表

SB1278

3	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
4	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
5	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土ブロックを部分的に含む
	不明
56	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
57	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト、黄褐色土を少量ブロック状に含む
58	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
59	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
60	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土を大きなブロックで含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土を大きなブロックで含む
20	北側10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト、黄褐色土をブロック状に含む
	南側10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト黄褐色土をブロック状に含む
19	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	北：10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト 南：10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
2	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土、灰色土をブロック状に含む
	完掘
1	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土を大きなブロックで含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト、黄褐色土を含む

SB1280a

65a	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土少量ブロック少ない
	不明
61	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土少量
	不明
63a	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土を大きなブロックで含む
	不明
64a	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土少量
	不明

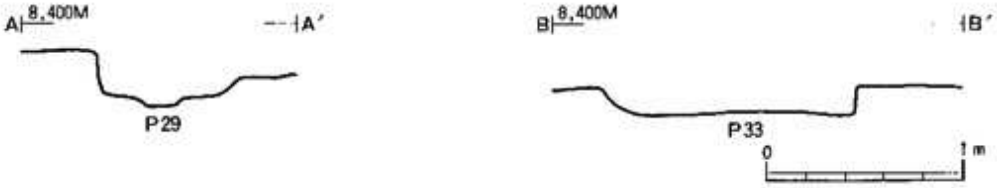
SB1280b

65b	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に多く含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
62	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に多く含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
63b	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に多く含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト
64b	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に多く含む
	10YR3/6灰黄褐色粘土質シルト

※上段は掘り方埋土、下段は柱痕跡埋土

ピット

66	10YR3/1黒褐色シルト質粘土、しまりなし、粘性ややあり黄褐色土黒色土をブロック状に含む
67	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
68	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
69	10YR3/1褐灰色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、黄褐色土、黒色土をブロック状に多量に含む P52と切りあいP52に切られている。
70	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
71	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
72	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
73	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
74	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
75	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
76	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
77	10YR3/1褐灰色粘土質シルト、しまりややあり、粘性ナシ、黄褐色土、黒色土をブロック状に含む
78	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
79	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
80	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
81	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
82	10YR3/1黒褐色シルト、しまりややあり、粘性ナシ炭（1～10mm）を多く含む
83	10YR3/1褐灰色粘土質シルト、しまりややあり、粘性ナシ、黄褐色土、黒色土をブロック状に含む
84	10YR3/6灰黄褐色シルト、しまりややあり、粘性ナシ
85	10YR3/6にぶい黄褐色シルト、しまりややあり、粘性ナ
86	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
87	10YR3/1褐灰色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、黄褐色土、黒色土を小さいブロック状に含む
88	10YR3/1褐灰色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、黄褐色土、黒色土をブロック状に多量に含む
89	10YR3/6灰黄褐色シルト質粘土、しまりなし、粘性ややあり、黄褐色土ブロック状に少量含む
90	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性わずかにあり、黄褐色土をわずかに含む
91	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、炭を少量含む、黄褐色土を少量含む
92	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性わずかにあり、黄褐色土をブロック状に多く含む、炭を多く含む、焼土粒わずかにみられる
93	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、炭を少量含む、黄褐色土を少量含む
94	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、炭を少量含む、黄褐色土を少量含む
95	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ナシ
96	10YR3/6灰黄褐色シルト質粘土、しまりなし、粘性ややあり、黄褐色土をブロック状に含む
97	10YR3/1黒褐色粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり、黄褐色土、黒色土をブロック状に多量に含む
98	10YR3/4暗褐色、粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり
99	10YR3/6灰黄褐色、粘土質シルト、しまりなし、粘性ややあり
100	10YR3/6灰黄褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に含む
101	10YR3/6灰黄褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に多量に含む
102	10YR3/6灰黄褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に含む
103	10YR3/6にぶい黄褐色シルト、しまりなし、粘性ややあり
104	不明
105	10YR3/6灰黄褐色シルト質粘土、黄褐色土をブロック状に多量に含む



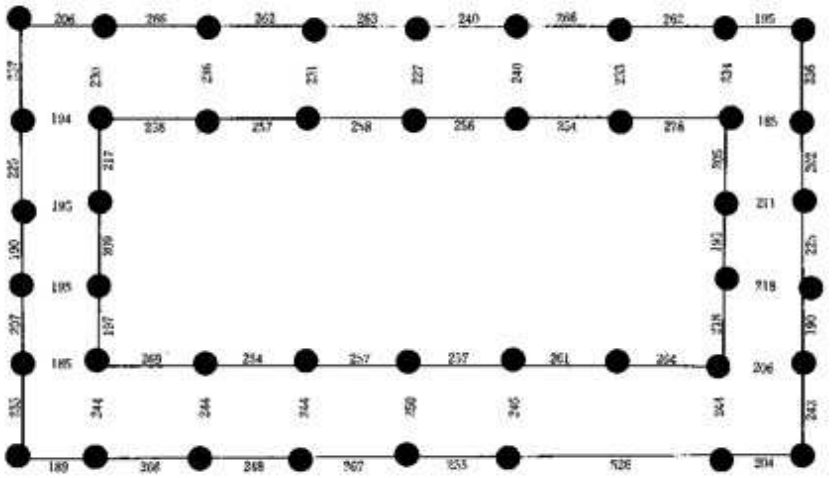
第34図　SB1277、P29・P33エレベーション図

しているものは確認されていない。

SB1278(第33図、写真79～83)：南北桁行７間以上、総長12.83m以上（柱間寸法156～235cm、平均186cm)、東西梁行３間、総長6.88m（柱間寸法216～246cm、平均229cm）の南北棟で、掘立柱建物跡である。南北柱列の方向はN－17°－Eである。柱穴には、平面形が細長い長方形で、柱痕跡を２つもつもの（長軸272・286cm、短軸88～130cm）と、正方形あるいは長方形で、柱痕跡を１つもつもの（12～170×82～126cm）がある。柱痕跡は、平面形が円形で、その規模は直径15.5～25cmである。柱穴の掘り方埋土及び柱痕跡に焼土、炭化物は含まれていない。

出土遺物は、第18表に示すように、柱穴から総数61点出土している。土器は全て破片である。土師器、須恵器には器形復原のできるものはなかった。また、土師器には製作にロクロを使用しているものは確認されていない。

SB1280(第33図、写真79、80)：SB1280は建て替えが行なわれており、古いほうをSB1280ａ、新しいほうをSB1280ｂとした。調査区南端部西側Ｕ－２・３グリットに位置する。SB1280ｂは、東西２間以上、総長4.54m以上（柱間寸法282cm、172cm)、南北１間以上（柱間寸法182cm）の掘立柱建物跡である。しかし、Ｐ62とＰ63の柱間寸法は282cmと比較的長い点でＰ62とＰ63には１本柱列の可能性もある。東西柱列の方向はＥ－31°－Ｓである。柱穴の平面形は方形を基調



第35図　SB1277柱間寸法図（単位：cm）

としている。柱痕跡の平面形は円形で、直径は17～27.5cmである。

出土遺物は、第19表に示すように、P63から非ロクロ土師器の破片が1点出土している。

SD1283(第33図、写真82)：調査区南端部、U・V－3～5グリッドに位置する。平面プランを確認している。方向性はほぼ直線的で、N－80°－Eの方向を示す。上端は30～65cmである。埋土は1層確認された。

遺物は、埋土上面から須恵器破片1点（第36図4）が出土している。

SX1281(第33図)：R－3グリッドに位置する。全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。上端長軸長225cm以上、上端短軸長124cm、深さ36cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は2層認められ、共に人為的な堆積状況を呈している。

遺物は埋土中より、弥生土器5点、非ロクロ土師器20点、土器小破片2点の計27点が出土している。

SX1282(第33図)：R・S－2・3グリッドに位置する。平面形は不整方形を呈する。上端長軸長215cm以上、上端短軸長135cmである。埋土は2層認で、SX1281と同様の土性、色調を示す。

遺物は埋土中より、弥生土器2点、石器1点、非ロクロ土師器3点、須恵器1点、土器小破片1点の計8点が出土している。

Ⅲ層上面で検出された遺構は、その重複関係から次のように新・旧2時期に分けられる。

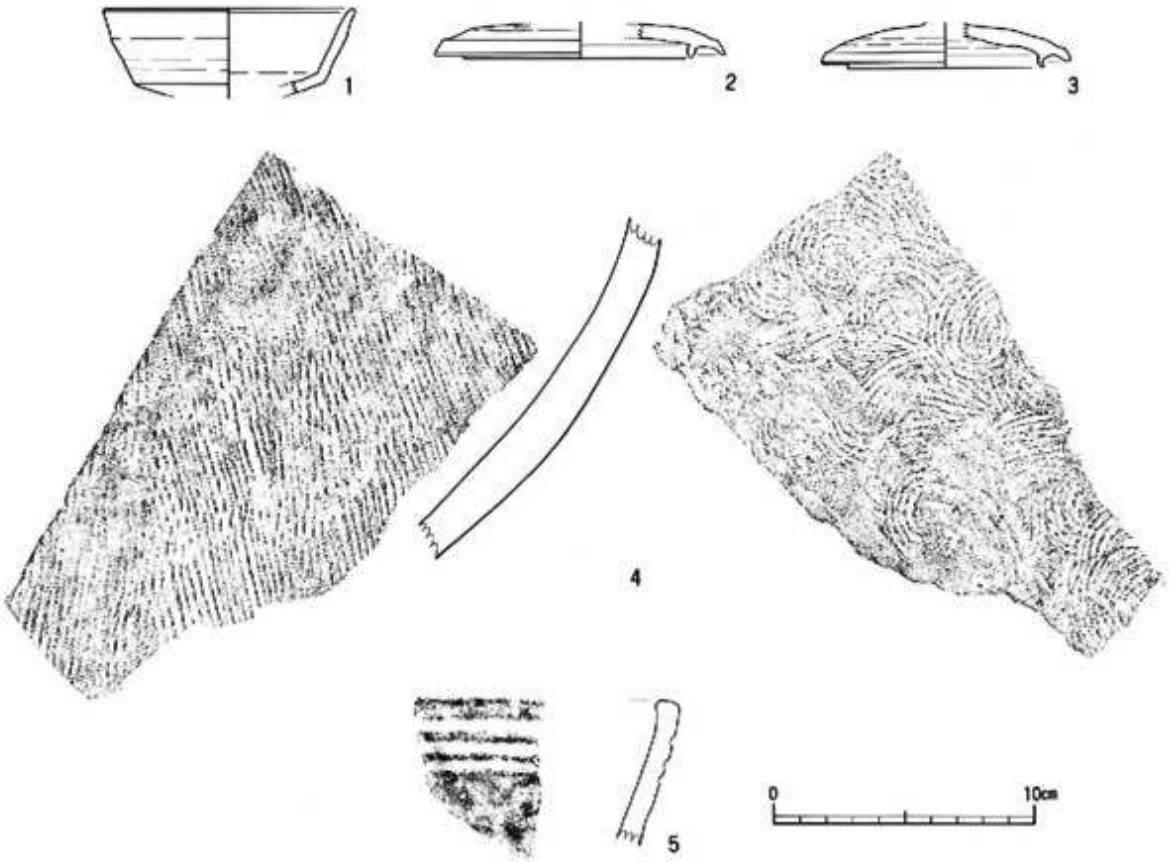
（新）　SB1277

（旧）　SD1283　SB1280b　SB1278……SX1282－(SX1281)

SB1280a

SX1282･1281については、埋土の類似性、規模などからほぼ同時期の遺構と考えられ、その配置と、長軸の方向がSX1282：N－15°－E、SX1281：N－13°－Eと、近接して位置するSB1278と数値が近似し、関連性が認められる。これらの遺構は、真北から東へ約30度偏向する方向を示すSB1280とともに、郡山Ⅰ期官衙に伴なうものと考えられる。SD1283については官衙跡との関連は不明である。またSB1277は、建物の方向が真北を基準としていることなどから郡山Ⅱ期官衙に伴なうものと考えられる。このSB1277は、その規模･構造の点で、郡山Ⅱ期官衙では大規模な建物であり、Ⅱ期官衙政庁正殿と推定されるSB1250と同じ構造を有するが、規模はそれを上回る。また、位置的には方四町官衙域と、郡山廃寺中枢伽藍の中間にあり、郡山廃寺中枢伽藍の南北中軸ライン（官衙域における西端から一町東を通る南北ラインとほぼ一致する）が、SB1277の南北中心ラインの西約100cmをほぼ平行して通る関係にある。

尚、Ⅰ・Ⅱ層から出土した遺物のうち、土師器・須恵器では器形復原のできるものは極めて少なく、須恵器3点を第36図1～3に示した。瓦は全く出土していない。また、Ⅰ・Ⅱ層からは第36図5のように近世の陶器破片も出土している。



観察表

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量(cm)			残存	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径			
1	E-340	須恵器	高杯(?)		Ⅱ層	ロクロ調整	ロクロ調整	ロクロ調整	ロクロ調整	ロクロ調整	ロクロ調整	3.3以上	(9.6)		1/6		93-12
2	E-341	須恵器	蓋		Ⅱ層	ロクロ調整	回転ヘラケズリ		ロクロ調整	ロクロ調整		1.3以上	(11.2)		1/7		93-13
3	E-342	須恵器	蓋		Ⅱ層	ロクロ調整	ロクロ調整		ロクロ調整	ロクロ調整		1.7以上	(9.6)		1/6		93-14
4	E-343	須恵器	壺	SD1288	検出面		平行叩き目								破片		93-15
5	I-36	陶器	鉢(?)		Ⅱ層										破片		93-16

第36図　第85次調査B区出土遺物実測図・拓影

4．Ⅲc層の調査

郡山Ⅰ期・Ⅱ期官衙に関連する遺構の検出面となったⅢ層上面（Ⅲa～c層上面）では、遺構確認作業の際、主にⅢc層から弥生時代の遺物が出土している。また、前述のように、基本層Ⅰ層中、Ⅱ層中、及びⅢ層上面で検出された遺構の埋土からも弥生時代の遺物が出土している。

Ⅲ層上面では、最近の土取りや耕作の影響のため凹凸がみられ、Ⅲc層の分布しているところでは、その本来の上面は残存していないものと推定される。弥生時代の遺物はⅢa層、Ⅲb層からも出土しているがその数は少なく、Ⅲc層が弥生時代の遺物包含層であると考えられる。

出土した遺物は土器・石器であるが、前述の調査経過をふまえ、遺物の取り上げはⅢc層上面で確認したものだけとし、R～T－3～6グリットで行なった50cmメッシュの土壌サンプリングも、Ⅲc層を削った土壌を対象とした。このため、Ⅲc層出土遺物としてここに報告するものはⅢc層に包含されている全ての遺物ではない。

Ⅲ層からの出土遺物の総数は第16表に示すように350点である。その内容は弥生土器273点、石器77点である。第37図はその平面・垂直分布図であり、これらの分布はR－3・4グリット、S・T－3～6グリットの東西12～13m、南北10mの範囲で比較的出土数量が多く、特にR－4グリット南西部、S－5グリット北東部に集中している傾向がある。また、第29表には水洗選別の地点別サンプル含水重量と検出された石器の数量を示してあり、その総数は399点、内訳は剥片7点、チップ392点である。これらの分布は対象とした範囲のほぼ全域に及ぶが、S－5グリット東半部、S－6グリット西半部、T－6グリット北西部からの出土数量が比較的多い。Ⅲ層出土の土器、石器の集中している地点と、水洗選別で得られた石器の集中する地点は異なる傾向が認められる。

以下、弥生土器、石器の分類を示し、分布とそれらの関連を考えてみたい。尚、分類に際してはⅠ層中、Ⅱ層中、Ⅲ層上面検出遺構出土の遺物も対象とした。

(1)弥生土器（第38～43図）

①分類：出土した弥生土器は全て破片であり、器形復原のなされたものは数少ない。そのため分類は、文様の有無及び器形によりⅠ～Ⅲ類に大別し、細別は文様の種類、施文具、残存部位などにより行った。また地文と文様の関係から磨消縄文となすものをa種、充填縄文となすものをb種、無文上に文様の施文されるものをc種、地文上に文様の施文されるものをd種とした。

Ⅰ類：壺、高坏、鉢、盌のいづれかの器形で、沈線により文様の描かれているもの。

ⅠA類：1本引きの比較的太い沈線（幅2～3㎜）で横位直線文が描かれているもの。以下の3つに分けられる。

ＩＡ１類：３～４本の平行する横位直線文を描くもの。第38図３と第42図５は同一個体、ａ種。口唇には連続した刻目が施されている。第38図２・第42図４はｃ種。第42図２は口縁直下に屈曲部をもつ。

ＩＡ２類：数条の平行する横位沈線文を描き、そのうちの何本かを従位の弧線で連結しているもの。第38図１。ａ種。広口の鉢である。底部を欠損している。Ｓ－５グリットで出土した比較的大きな破片に４点の小破片が接合した。第53図のように、最も離れて接合した遺物間の距離は5.15mである。口縁は直線的にやや外傾しており、体部との境は明瞭に屈曲している。波状口縁を呈し、頂部には刻目が施されている。地文の単節ＬＲ縄文は、口縁部は斜行、体部は縦走している。屈曲部を除く外面のほぼ全面、内面の口唇付近には炭化物が付着しており、沈線を埋めている部分もある。

ＩＡ３類：横位直線文が１条認められるもの。破片のため、他の平行する横位直線文などの有無は不明である。第38図４・６、第42図８。第38図６は、内外面丹塗りである。

ＩＢ類：１本引きの比較的太い沈線（幅２～３㎜）で、横位・縦位・斜位直線、弧線、曲線により文様の描かれるもの。第38図７・８、第42図６はａ種。第38図５、第42図７はｂ種。

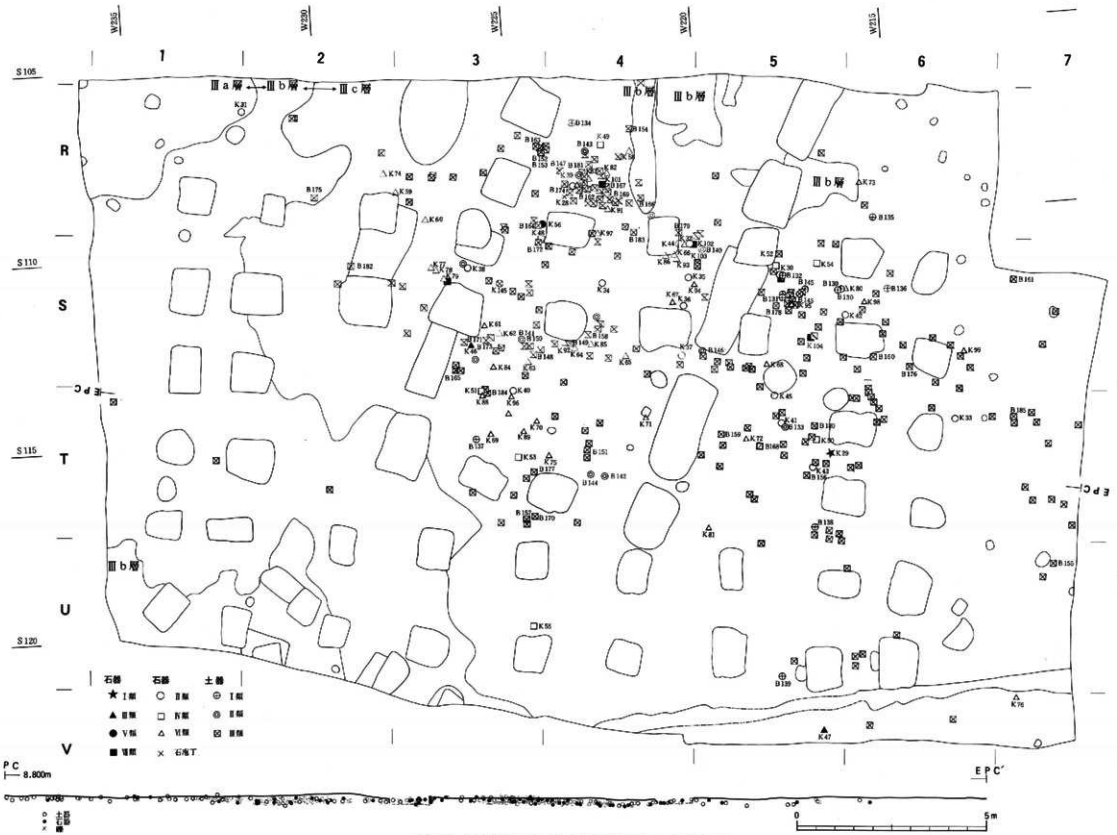
ＩＣ類：１本引きの比較的細い沈線（幅１㎜前後）で、横位直線文が描かれるもの。破片のため、他の平行する横位直線文などの有無は不明である。第42図13はａ種、９はｃ種、10はｄ種である。第42図９は壺の頸部下端から体部上端にかけての破片である。第42図10はｄ種としたが、甕の体部上半の破片（ⅡＡ３類）の可能性もある。

ＩＤ類：１本引きの比較的細い沈線（幅１㎜前後）を２本１組とし、横位・縦位・斜位直線、弧線、曲線により幾何学文の描かれるもの。ａ種、ｂ種、ｃ種が認められる。第39図１～４・７・８、第42図11・12・14、第43図１～３はａ種。第39図１は口唇に連続した刺突が施されている。地文は外面口唇直下にのみ認められる。第39図２、第42図11は外面丹塗り。第42図12は口唇に連続した刻目が施されている。第38図９・10はｂ種。同一個体。口縁部から体部にかけての鉢の破片である。口縁は内湾気味に立ち上がり、体部との境には明瞭な屈曲をもつ。口縁部の文様は横位直線文を基調としているが、体部はそれと異なり円文を基調としているものと考えられる。第39図５・６、第43図12・13はｃ種。第39図５を除き、全て甕である。第39図５にはＩＤ類ａ種の破片の可能性がある。第39図６の甕は、同一個体と考えられる破片３点が出土している。Ｓ－５グリットから近接して出土している２点は、内外面とも黒色を呈している

第23表　弥生土器類別数量表

類別	Ⅰ類						Ⅱ類				Ⅲ類						総数
	ⅠA1	ⅠA2	ⅠA3	ⅠB	ⅠC	ⅠD	ⅡA1	ⅡA2	ⅡA3	ⅡB	ⅢA	ⅢB	ⅢC	ⅢD	ⅢE	ⅢF	
Ⅲ層	2	1	3	3	10	11	4	1	3	5	7	5	118	5	6	68	252
Ⅰ・Ⅱ層	2	0	1	2	5	9	2	0	0	1	2	2	91	0	1	100	218

※遺物出土数量表との点数の差違は、接合では同一個体と認識されたものを１点として算出したことによる。



第37図　第85次調査Ｂ区Ⅲ層中出土遺物平面・垂直分布図

が、S－3グリットから約8m離れて出土した1点は内外面とも灰白色を呈しており、破片となった後に再酸化を受けた可能性がある。

II類：甕の口縁部～体部上半の破片資料である。

IIA類：体部と口縁部の境、あるいは体部上端に横位の文様が施文されるもの。

IIA1類：押し引き連続刺突文の施文されるもの。第39図9・10・12、第40図3、第43図6。

IIA2類：斜位連続刺突文（列点刺突文）の施文されるもの。第40図2。

IIA3類：1本引きの沈線により横位平行直線文、あるいは横位直線文が1条施文されるもの。第39図13・14、第40図1・4、第43図5。

IIB類：体部上端に文様の施文されないもの。第39図11、第43図4。

III類：文様が施されず、地文のみあるいは無文のもの。

IIIA類：復原などにより器形を推定できるもの。第41図4・8、第43図14・16。第41図4は台付鉢と考えられる。T－3グリットから近接して出土した破片3点が接合している。第41図8は鉢である。R－4グリットから出土した6点の破片が接合した。最も離れて接合した遺物間の距離は1.7mである。器形は体部がやや内湾しながら外傾し、口縁は直立気味に立ち上がる。底部は平底である。外面には粘土紐の積上痕が認められる。底部外面にはケズリが施され、黒斑がみられる。また、内外面に焼成後の丹塗りが施されている。第43図14・16は蓋と考えられる。

IIIB類：口縁部資料。

IIIC類：体部資料。第40図5～20、第41図1～3・5、第43図7～11。

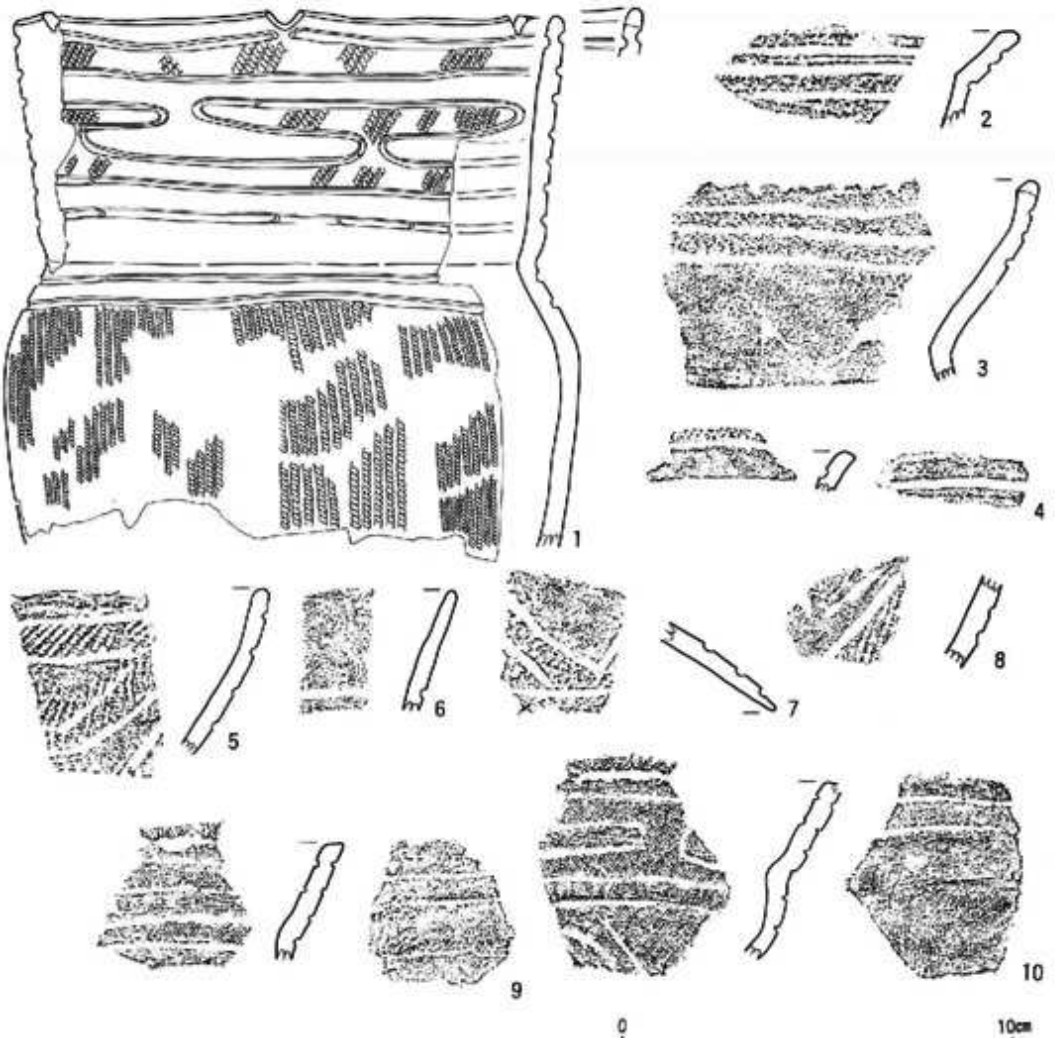
IIID類：底部資料。第41図6・7・9。

IIIE類：脚部資料。第42図1～3、第43図15。

IIIF類：部位不明資料。

②IIIc層出土弥生土器の類別と器形：IIIc層からはI～III類の細別を含め各類全てが認められる。I類では比較的細い沈線で文様を描くIC類・ID類がIA類・IB類（比較的太い沈線）に比べて数量として多い傾向にある。器形は、破片資料が多いため全体を知ることのできるものは極めて少ないが、壺、鉢、台付鉢、高坏、蓋、甕が認められる。

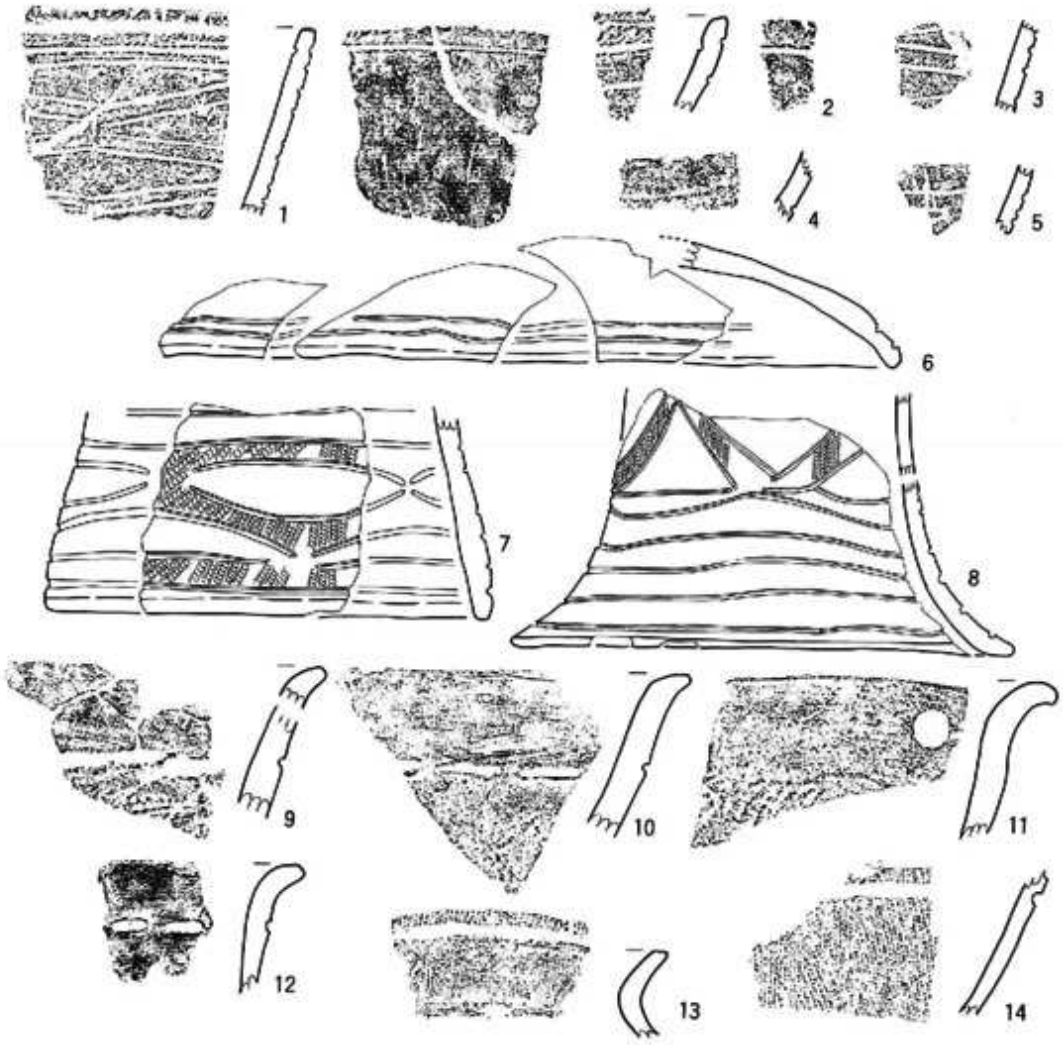
③IIIc層出土土器の地文・調整：地文には、無節Lを縄文、単節LR縄文、単節RL縄文、直前段多条（L{r＋r＋r）、直前段反撚（R{r＋r）、付加条縄文（LR＋r）、撚糸文R、擬似縄文がある。このうち、単節LR縄文が最も多く、次いで直前段多条（L{r＋r＋r）、擬似縄文がみられ、他は少ない傾向にある。単節LR縄文としたものの中には、第38図1のように直前段多条（L{r＋r＋r＋r）の可能性を示すものもあるが、その数は少ない。調整痕としては、ミガキ、刷毛目、ヨコナデがみられる。I類は内外面とも調整はミガキを主体としているが、II



観　察　表

図版番号	出土地点	層位	登録番号	器種	部位	施文・調整			備考	分類	写真図版
						口縁部	外面	内面			
1	S−5G	Ⅲc層	B-130	深鉢	口縁部から体部下半	刻目	体部上半：単節LR縄文(原副段多条の可能性有り)→横位平行沈線文+縦位の短い弧状の沈線文→すり消し→ミガキ 体部下半：単節LR縄文(直線段多縄の可能性有り)	口縁直下に横位沈線文→ミガキ	外面全体と内面口縁部付近に炭化物が付着	ⅠA2a	94−1
2	S−5G	Ⅲc層	B-131	鉢	口縁部	単節LR縄文	横位平行沈線文(3条)→ミガキ	ミガキ		ⅠA1c	94−2
3	S−5G	Ⅲc層	B-132	鉢?	口縁部	刻目	撮影縄文→横位平行沈線文→ミガキ	ミガキ	第42図5と同一個体	ⅠA1a	94−3
4	T−5G	Ⅲc層	B-133	鉢?	口縁部	単節LR縄文?	横位沈線文→ミガキ	横位沈線文→ミガキ		ⅠA3	94−4
5	R−4G	Ⅲc層	B-134	鉢	口縁〜体部	ミガキ	沈線文→単節LR縄文→ミガキ	ミガキ		ⅠBb	94−5
6	R−6G	Ⅲc層	B-135	鉢?	口縁部	ミガキ	撮影縄文→下部に横位沈線文	ミガキ	内外面丹塗	ⅠA3	94−6
7	S−6G	Ⅲc層	B-136	蓋	端部		単節LR縄文→沈線文→ミガキ	ミガキ	内外面端部にスス付着	ⅠBa	94−7
8	T−3G	Ⅲc層	B-137	鉢?	体部		単節LR縄文→沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠBa	94−8
9	T−5G	Ⅲc層	B-138	鉢?	口縁部	付加条縄文(単節LR+r)	沈線文→付加条縄文(単節LR+r)→ミガキ	沈線文→ミガキ		ⅠDa	94−9
10	U−5G	Ⅲc層	B-139	鉢?	口縁部〜体部	付加条縄文(単節LR+r)	沈線文→付加条縄文(単節LR+r)→ミガキ	沈線文→ミガキ		ⅠDa	94−10

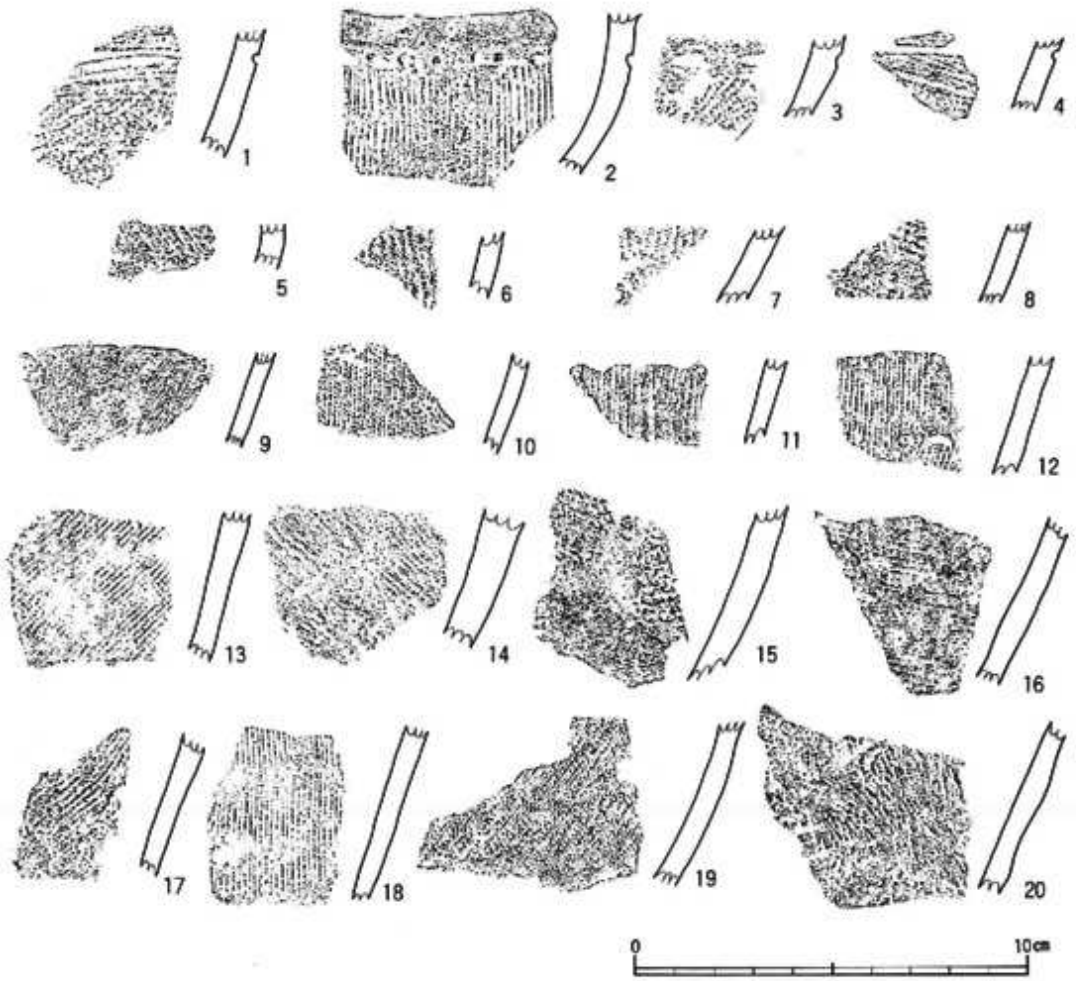
第38図　第85次調査B区弥生土器実測図・拓影 (1)



観　察　表

図版番号	出土地点	層位	登録番号	器種	部位	施文・調整 口唇部	施文・調整 外面	施文・調整 内面	備考	分類	写真図版
1	S−5G	Ⅲc層	B-140	鉢	口縁部〜体部	刻目	口縁直下に単節L.R縄文→平行沈線文→ミガキ	沈線文→ミガキ		ⅠDa	94−11
2	S−3G	Ⅲc層	B-141	鉢?	口縁部	単節L.R縄文	単節L.R縄文→横位平行沈線文→ミガキ	横位沈線文→ミガキ	外面丹塗	ⅠDa	94−12
3	T−4G	Ⅲc層	B-142	鉢?	体部		単節L.R縄文→平行沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠDa	94−13
4	R−4G	Ⅲc層	B-143	鉢?	体部		単節L.R縄文or撚糸文R→横位平行沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠDa	94−14
5	T−4G	Ⅲc層	B-144	鉢?	体部		平行沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠDc	94−15
6	S−3G・5G	Ⅲc層	B-145	壺	体部〜底部		横位平行沈線文→ミガキ	ミガキ	内外面ともススけ付着	ⅠDc	94−16
7	S−5G	Ⅲc層	B-146	高杯	脚部		単節L.R縄文→平行沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠDa	94−17
8	R−4G	Ⅲc層	B-147	高杯	裾部		単節L.R縄文→平行沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠDa	94−21
9	S−3G	Ⅲc層	B-148	壺	口縁部	不明	単節L.R縄文→押し引き連結環状文→ミガキ	ミガキ		ⅡA1	94−18
10	S−4G	Ⅲc層	B-149	壺	口縁部	ミガキ	(地文不明) 押し引き連結環状文→ミガキ	ミガキ		ⅡA1	94−19
11	S−3G	Ⅲc層	B-150	壺	口縁部	ミガキ	横ナデ→0段多条L.R縄文→ミガキ	ミガキ		ⅡB	94−20
12	T−4G	Ⅲc層	B-151	壺	口縁部	単節L.R縄文?	単節L.R縄文→押し引き連結環状文→横ナデ	ミガキ		ⅡA1	94−22
13	R−3G	Ⅲc層	B-152	壺	口縁部	単節L.R縄文	横位沈線文→横ナデ	ミガキorナデ	第10図4と同一個体	ⅡA3	94−23
14	R−3G	Ⅲc層	B-153	壺	体部上半		単節L.R縄文→横位平行沈線文	ミガキ	第10図3と同一個体	ⅡA3	94−24

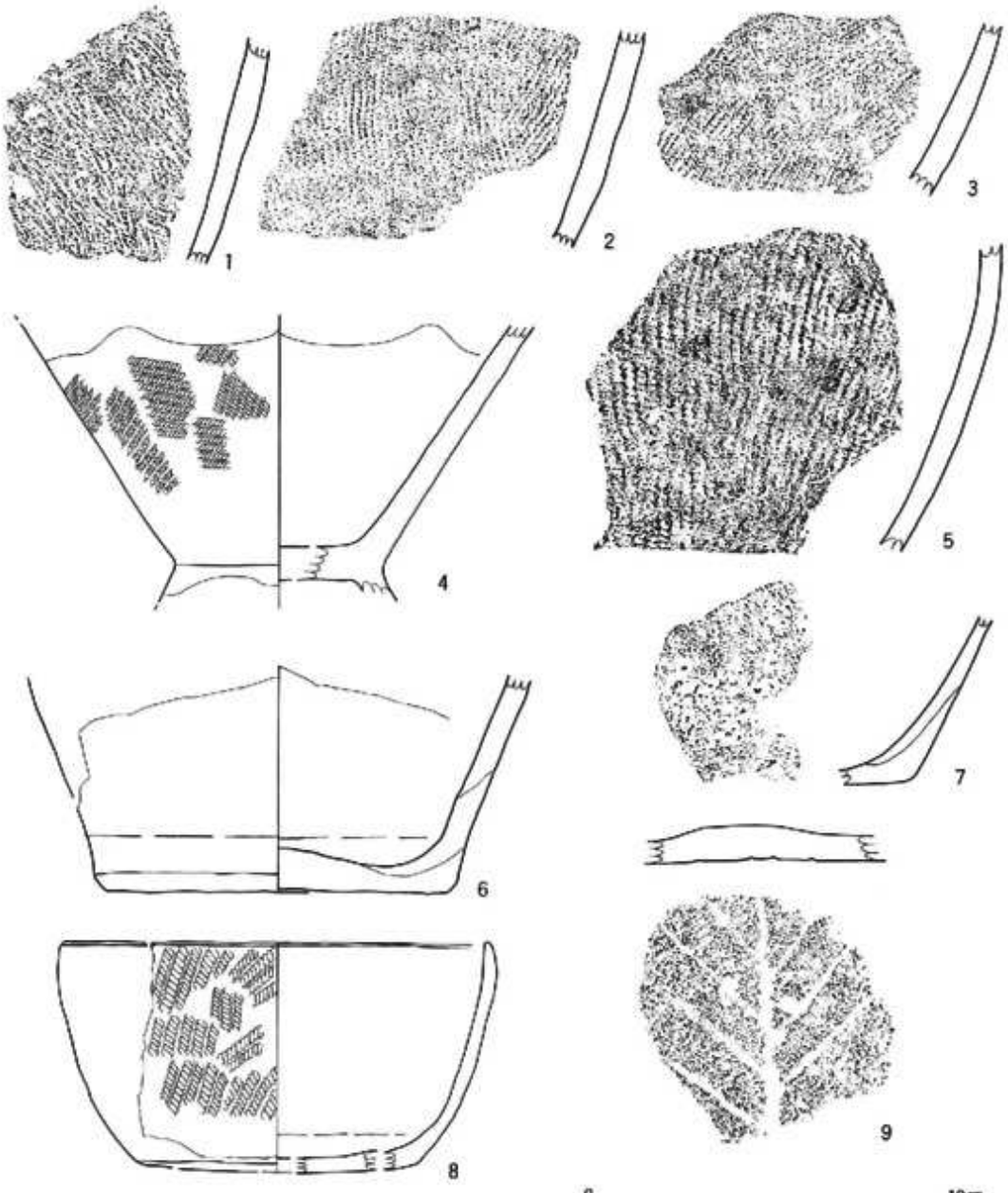
第39図　第85次調査B区弥生土器実測図・拓影 (2)



観　察　表

図版番号	出土地点	層位	登録番号	器種	部位	施文・調整 口縁部	施文・調整 外面	施文・調整 内面	備考	分類	写真図版
1	R−4G	Ⅲc層	B-154	甕	体部		単節LR縦文→爪ナデ→磨消沈線文	ミガキ		ⅡA3	95−6
2	U−7G	Ⅲc層	B-155	甕	体部上半〜口縁部		爪ナデ→擬似縄文→磨消沈線状施文→ミガキ	ミガキ		ⅡA2	95−1
3	T−5G	Ⅲc層	B-156	甕	体部上半		単節LR縦文→押し引き連続刺突	ミガキ		ⅡA1	95−2
4	T−3G	Ⅲc層	B-157	甕	体部		櫛毛目→横位沈線文	ミガキ		ⅡA3	95−3
5	S−4G	Ⅲc層	H-158	不明	体部		直前段反撚RL?	ミガキ		ⅢC	95−7
6	T−5G	Ⅲc層	B-159	不明	体部		羽条文R	不明		ⅢC	95−4
7	S−5G	Ⅲc層	B-160	不明	体部		単節RL縦文	ミガキ		ⅢC	95−5
8	S−7G	Ⅲc層	B-161	不明	体部		無節L縦文	ミガキ		ⅢC	95−8
9	R−4G	Ⅲc層	B-162	不明	体部		単節LR縦文	ミガキ		ⅢC	95−9
10	R−3G	Ⅲc層	B-163	不明	体部		単節LR縦文	ミガキ		ⅢC	95−10
11	R−3G	Ⅲc層	B-164	不明	体部		櫛毛目	ミガキ		ⅢC	95−11
12	S−3G	Ⅲc層	B-165	不明	体部		擬似縄文	ミガキ		ⅢC	95−12
13	R−4G	Ⅲc層	B-166	不明	体部		単節LR縦文	ミガキ		ⅢC	95−13
14	R−4G	Ⅲc層	B-167	不明	体部		櫛毛目	不明		ⅢC	95−14
15	T−7G	Ⅲc層	B-168	不明	体部		単節RL縦文・ミガキ	ミガキ		ⅢC	95−15
16	R−4G	Ⅲc層	B-169	不明	体部		櫛毛目→部分的な単節LR縦文→部分的なミガキ	ミガキ		ⅢC	95−16
17	T−3G	Ⅲc層	B-170	不明	体部		加節r縦文	ミガキ		ⅢC	95−17
18	S−3G	Ⅲc層	B-171	不明	体部		擬似縄文	ミガキ		ⅢC	95−18
19	S−3G	Ⅲc層	B-172	不明	体部		櫛毛目→単節LR縦文	ミガキ		ⅢC	95−19
20	S−3G	Ⅲc層	B-173	不明	体部		直前段反撚RL?	ミガキ		ⅢC	95−20

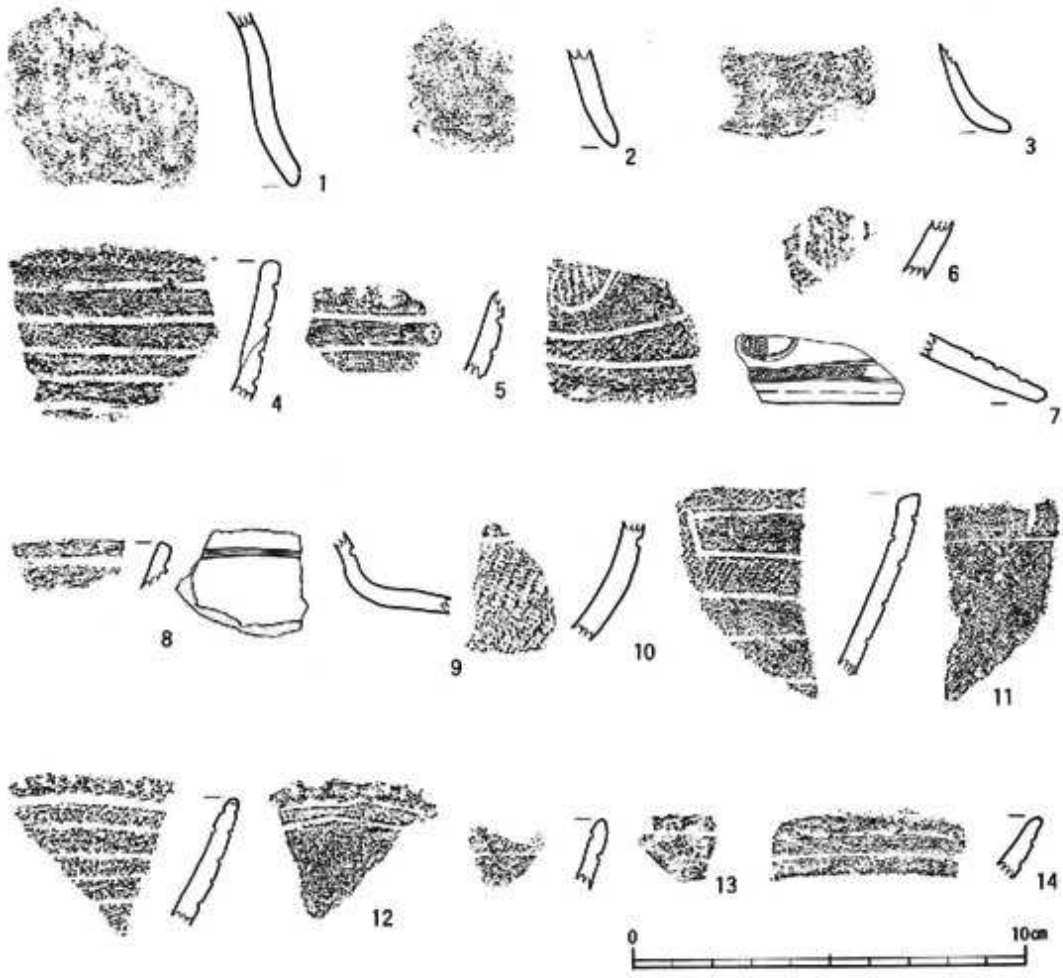
第40図　第85次調査Ｂ区弥生土器実測図・拓影（3）



観　察　表

図版番号	出土地点	層位	登録番号	器種	部位	施文・調整			備考	分類	写真図版
						口縁部	外面	内面			
1	R−4G	Ⅲc層	B-174	不明	体部		直前段反撚りRイ	ミガキ		ⅢC	95−21
2	R−2G	Ⅲc層	B-175	不明	体部		無糸文R	ミガキ		ⅢC	95−22
3	S−6G	Ⅲc層	B-176	不明	体部		単節LR縄文	ミガキ		ⅢC	95−23
4	T−3G	Ⅲc層	B-177	台付鉢	体下部		ケズリ→単節LR縄文	ミガキ		ⅢA	95−26
5	S−5G	Ⅲc層	B-178	不明	体部		単節LR縄文	ミガキ		ⅢC	95−24
6	R−4G	Ⅲc層	B-179	不明	体下〜底部		ミガキ	ミガキ		ⅢD	95−27
7	T−5G	Ⅲc層	B-180	不明	体下〜底部		単節LR縄文	ミガキ		ⅢD	95−25
8	R−4G	Ⅲc層	B-181	鉢	口縁〜底部	ミガキ	単節LR縄文（直前段多条の可能性も有り）	ミガキ	焼成後、内外面丹塗り。底部に黒斑。	ⅢA	95−29
9	S−2G	Ⅲc層	B-182	不明	底部		木葉文	ミガキ		ⅢD	95−28

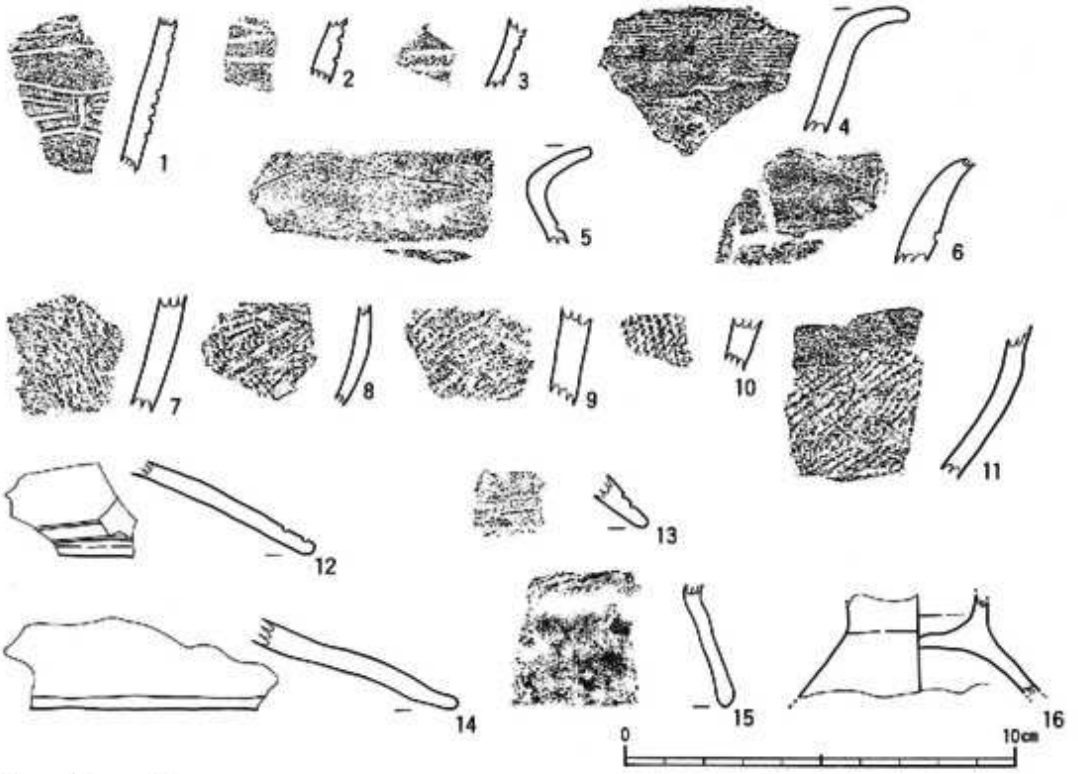
第41図　第85次調査B区弥生土器実測図・拓影（4）



観　察　表

図版番号	出土地点	層位	登録番号	器種	部位	施文・調整 口縁部 外面	施文・調整 内面	備考	分類	写真図版
1	R－4G	Ⅱc層	B-183	壺形?	胴部	ミガキ	ミガキ		ⅡE	95－30
2	T－3G	Ⅱc層	B-184	不明	胴部	ミガキ	ミガキ		ⅡE	95－31
3	T－7G	Ⅱc層	B-185	高杯?	脚部	単節LR縄文	ミガキ		ⅡE	95－32
4	T－6G	P．26	B-186	鉢?	口縁部	ミガキ	横位平行沈線文（4条）	ミガキ	ⅠA1C	96－1
5	R－5G	P．2	B-187	鉢?	口縁部	刻目	擬似縄文→横位平行沈線文→ミガキ	ミガキ	第38図3と同一個体	ⅠA1a	96－2
6	R－5G	Ⅱ層中	B-188	不明	体部		単節LR縄文→沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠBa	96－4
7	T-3,4G	P．59	B-189	壺	胴部		沈線文→単節LR縄文→ミガキ	ミガキ	内面磨滅，スス付着	ⅠHb	96－3
8	S－3G	Ⅱ層中	B-190	鉢?	口縁部	ミガキ	横位沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠA3	96－5
9	T－5G	Ⅱc層	B-191	壺			横位沈線文→ミガキ	ミガキ		ⅠCc	96－6
10	R－5G	P．8	B-192	鉢?	体部		単節LR縄文→横位沈線文	ミガキ		ⅠCd	96－7
11	R－3G	P．11	B-193	高杯?	口縁部 体部		単節LR縄文→横位平行沈線文→擬似の短い沈線文→ミガキ	横位沈線文→擬似の短い沈線文→ミガキ	外面丹塗り	ⅠDa	96－8
12		Ⅰ層	B-194	鉢?	口縁部	刻目	付加条縄文（単節LR＋r）→横位平行沈線文→ミガキ	横位平行沈線文→ミガキ		ⅠDa	96－9
13	R－5G	Ⅱ層中	B-195	鉢?	口縁部	ミガキ	擬似縄文→横位沈線文→ミガキ	横位沈線文→ミガキ		ⅠCa	96－10
14	U－6G	P．32	B-196	鉢?	口縁部	ミガキ	横位平行沈線文（3条）	ミガキ		ⅠDc	96－11

第42図　第85次調査B区弥生土器実測図・拓影（5）



観　察　表

図版番号	出土地点	層位	登録番号	器種	部位	施文・調整 口縁部	施文・調整 外面	施文・調整 内面	備考	分類	写真図版
1	U−3G	P. 47	B-197	鉢	体部		平行沈線文→ミガキ	ミガキ	第38図1と同一個体	IDa	96−12
2	U−4G	Ⅱ層	B-198	鉢?	体部		斜位縄文→平行沈線文→ミガキ	ミガキ		IDa	96−13
3	U−4G	Ⅱ層中	B-199	鉢?	体部		斜位縄文→沈線文→ミガキ	ミガキ		IDa	96−14
4	U−6G	Ⅱ層中	B-200	壺	口縁部	単節LR縄文	単節LR縄文(横縄文)→横ナデ	ミガキ		IIB	96−15
5	不　明	Ⅰ層中	B-201	壺	口縁部	ミガキ	横位沈線文→横ナデ	ミガキ		IIA3	96−16
6	S−4G	P. 17	B-202	壺	口縁部		横ナデ→押し引き連続刺突文→ミガキ	ミガキ		IIA1	96−22
7	S−4G	P. 15	B-203	不明	体部		直線沈線文RL?	ミガキ		IIC	96−17
8	R−1G	Ⅱ層中	B-204	鉢	体部		単節LR縄文	ミガキ		IIC	96−18
9	S−6G	Ⅱ層中	B-205	不明	体部		単節RL縄文	ミガキ		IIC	96−19
10	S−5G	Ⅱ層中	B-206	不明	体部		単節RL縄文	ミガキ		IIC	96−20
11	U−7G	Ⅱ層中	B-207	壺?	体部		単節LR縄文	ミガキ		IIC	96−21
12	R−3G	P. 11	B-208	壺	底部		ケズリ→ミガキ→横位平行沈線文	ミガキ	内面スス付着	IDe	96−24
13	T-3.4G	P. 59	B-209	壺	底部		横位平行沈線文	ミガキ		IDe	96−23
14	R−3G	P. 6	B-210	壺	底部		ミガキ	ミガキ	内, 外面底部スス付着	IIA	96−25
15	R−3G	Ⅱ層中	B-211	不明	胴部		ミガキ	ミガキ		IIE	96−26
16	R−3G	P. 11	B-212	壺	体部		ミガキ	ミガキ	内面スス付着	IIA	96−27

第43図　第85次調査B区弥生土器実測図・拓影 (6)

類では外面の口縁部にヨコナデがなされる例が多く、押し引き連続刺突文が施文された後にミガキを施しているものもある。III類は外面がミガキのもの、地文のものが大半を占めるが、稀に刷毛目のものも認められる（第40図11・14）。また、地文の施文に先行して刷毛目の施されている例もある（第40図16・19）。

⑵石器（第44～50図）

①分類：出土した石器は、磨製石庖丁１点を除き、他は全て打製石器であることから、分類は打製石器を対象とし、形態、規模などにより１～Ⅶ類に大別し、さらにⅠ～Ⅵ類については細別した。

Ⅰ類：２次加工により定形化した形態を作り出しているもの。Ⅰ類には石鏃２点が該当する。基部の形態により以下のように細別される。

ⅠＡ類：有茎の石鏃。第44図１は基部の一部を欠損しているが、長さ17.1㎜と小形である。２次加工は側縁部にのみ施されている。

ⅠＢ類：アメリカ式石鏃（第49図１）。

Ⅱ類：２次加工のある剥片。２次加工は施されているが、定形化した形態を作り出しているとは認識されないものである。残存形態における２次加工の施され方、折れ面の有無などから以下のように細別される。

ⅡＡ類：剥片の１側縁に連続した急角度の２次加工が施されているもの。側縁部の形状によりａ種：直線的なもの（第44図２）、ｂ種：鋸歯状のもの（第49図３）に分けられる。第49図３は鋸歯縁石器として、「不定形石器」の中に含められるものである。

ⅡＢ類：剥片の側縁に連続的あるいは部分的な２次加工が施されているもの。折れ面の有無と２次加工との関係によりａ種：折れ面のないもの（第44図３～５）、ｂ種：折れ面があり、２次加工を切っているもの（第45図１～４）、ｃ種：折れ面はあるが、２次加工との切り合いがないもの（第45図５・６）に分けられる。ｂ種のなかには第45図１のように平坦剥離が施され、「スクレイパーエッジ」の形状を呈するものもある。

ⅡＣ類：剥片の折れ面に連続的な２次加工が施されているもの（第45図７）。

Ⅲ類：楔形石器（ピエス・エスキーユ）。相対する２側縁に連続した両極剥離痕が認められるもの。断面形などにより以下のように細別される。

ⅢＡ類：断面形がレンズ状を呈するもの。ａ種：相対する両極剥離痕が２つあるもの（第46図２）、ｂ種：１つのもの（第46図１）に分けられる。

ⅢＢ類：断面形が三角形を呈するもの（第49図５）。

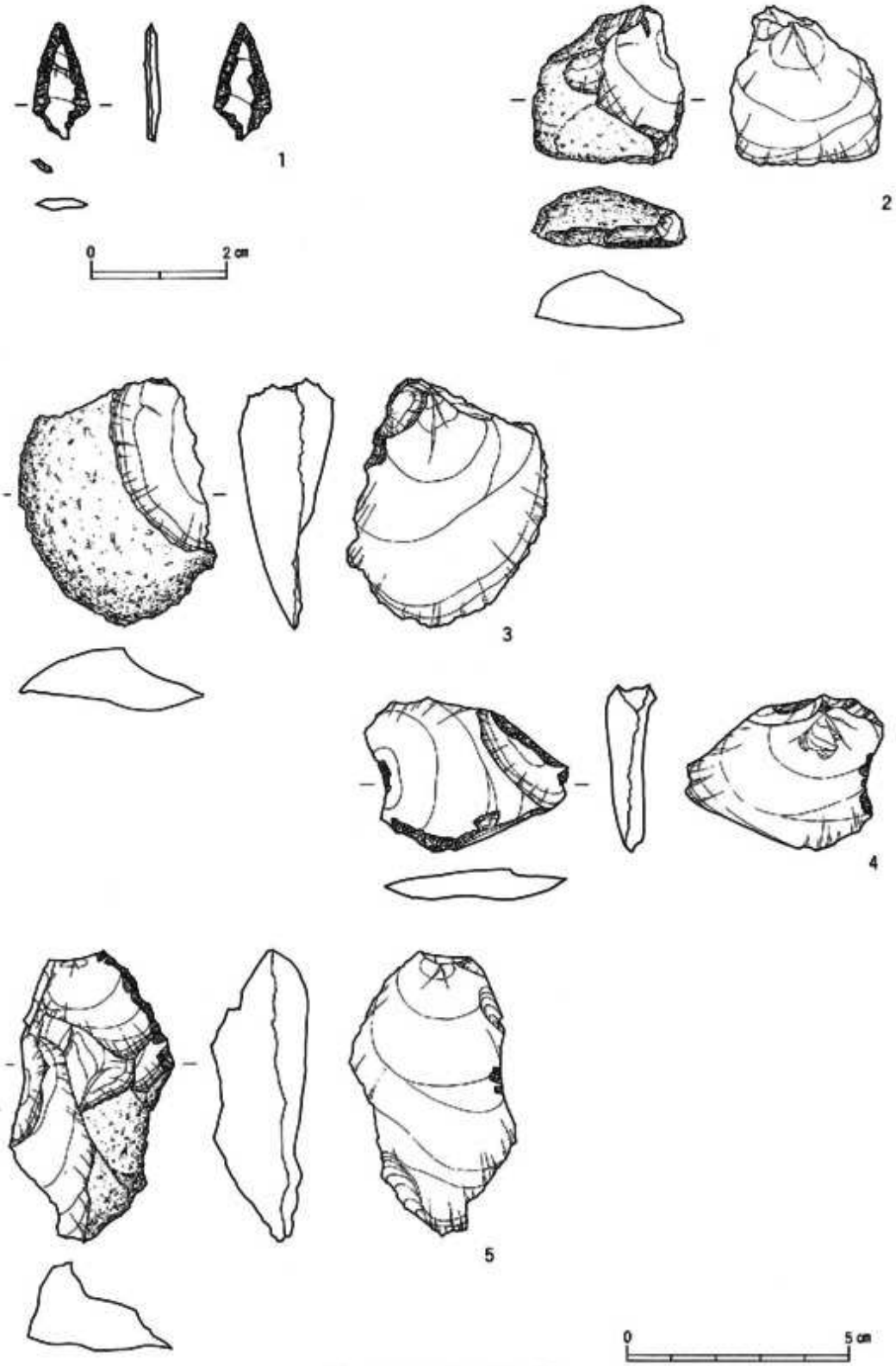
Ⅳ類：微細剥離痕のある剥片。剥片の形状によりａ種：折れ面をもたないもの（第46図３、第49図２）、ｂ種：折れ面があり、打点を残しているもの（第46図４）、ｃ種：折れ面があり、打

第24表　Ⅲc層出土石器類別・石材一覧表

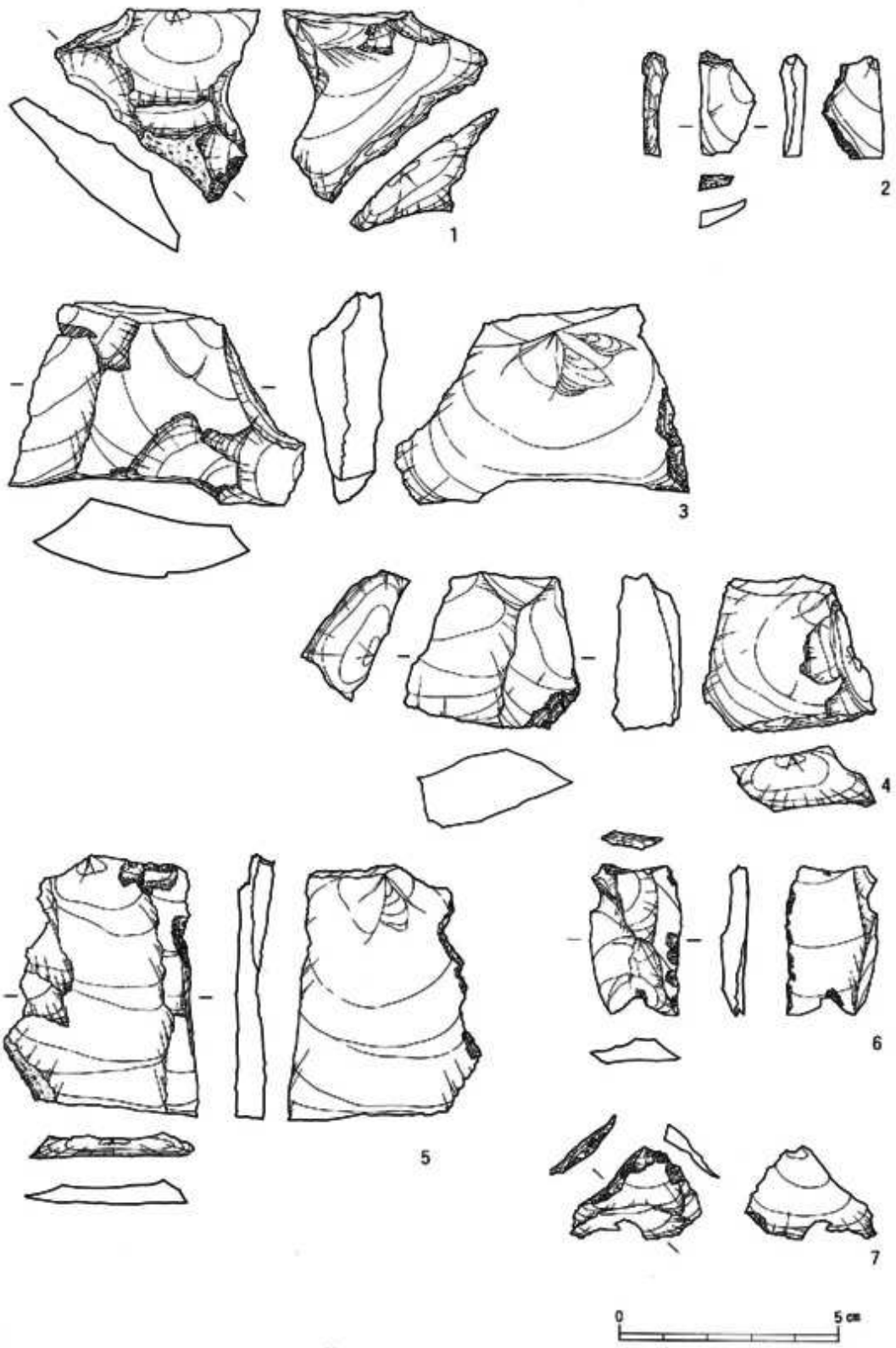
類別	数量				石材										
					流紋岩	石英安山岩	安山岩	片岩	玉髄	珪質凝灰岩	凝灰岩	頁岩	チャート	ウッドオパール	珪質砂岩
石核	1							1							
Ⅰ類（石鏃）	1	A 1											1		
		B 0													
Ⅱ類（2次加工のある剥片）	16	A 1	a 1		12	1			1			2			
			b 0												
		B 13	a 3												
			b 5												
			c 5												
		C 2													
Ⅲ類（楔形石器）	2	A 2	a 1		2										
			b 1												
		B 0													
Ⅳ類（微細剥離）	8		a 4		4					1	1	1			1
			b 3												
			c 1												
Ⅴ類（石核）	2	A 2	a 1		1		1								
			b 1												
		B 0													
Ⅵ類（剥片）	43		a 24		32	4						7			
			b 9												
			c 10												
Ⅶ類（チップ）	4				2				1			1			
計	77				53	5	1	1	2	1	1	11	1	0	1

第25表　Ⅰ・Ⅱ層出土石器類別・石材一覧表

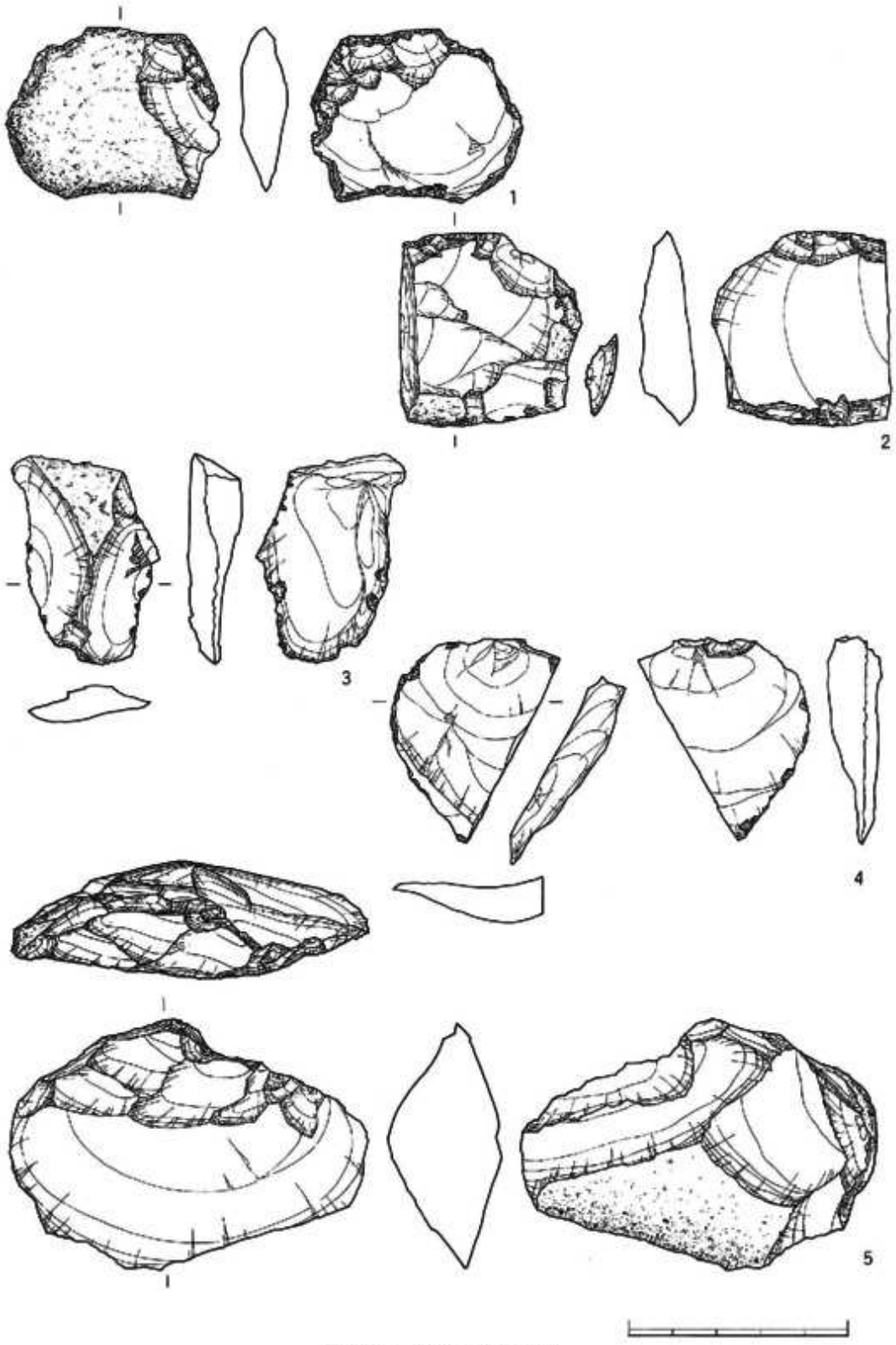
類別	数量				石材										
					流紋岩	石英安山岩	安山岩	片岩	玉髄	珪質凝灰岩	凝灰岩	頁岩	チャート	ウッドオパール	珪質砂岩
石核	0														
Ⅰ類（石鏃）	1	A 0			1										
		B 1													
Ⅱ類（2次加工のある剥片）	5	A 1	a 0		2	1						1		1	
			b 1												
		B 3	a 3												
			b 0												
			c 0												
		C 1													
Ⅲ類（楔形石器）	1	A 0	a 0		1										
			b 0												
		B 1													
Ⅳ類（微細剥離）	12		a 6		10	1	1								
			b 1												
			c 5												
Ⅴ類（石核）	2	A 0	a 0		2										
			b 0												
		B 2													
Ⅵ類（剥片）	9		a 4		8							1			
			b 4												
			c 1												
Ⅶ類（チップ）	1				1										
計	31				26	2	1	0	0	0	0	2	0	1	0



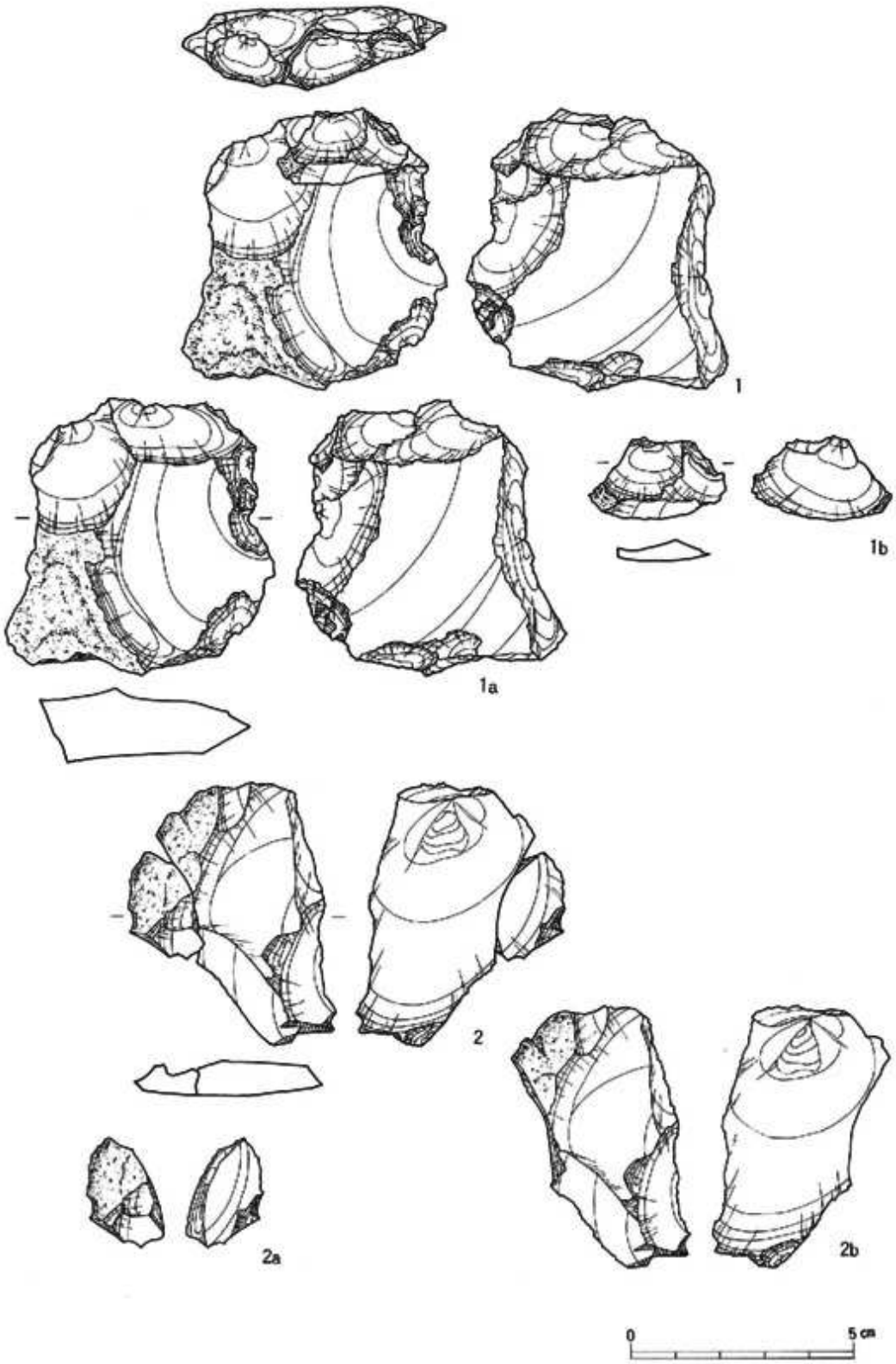
第44図　石器実測図 (1)



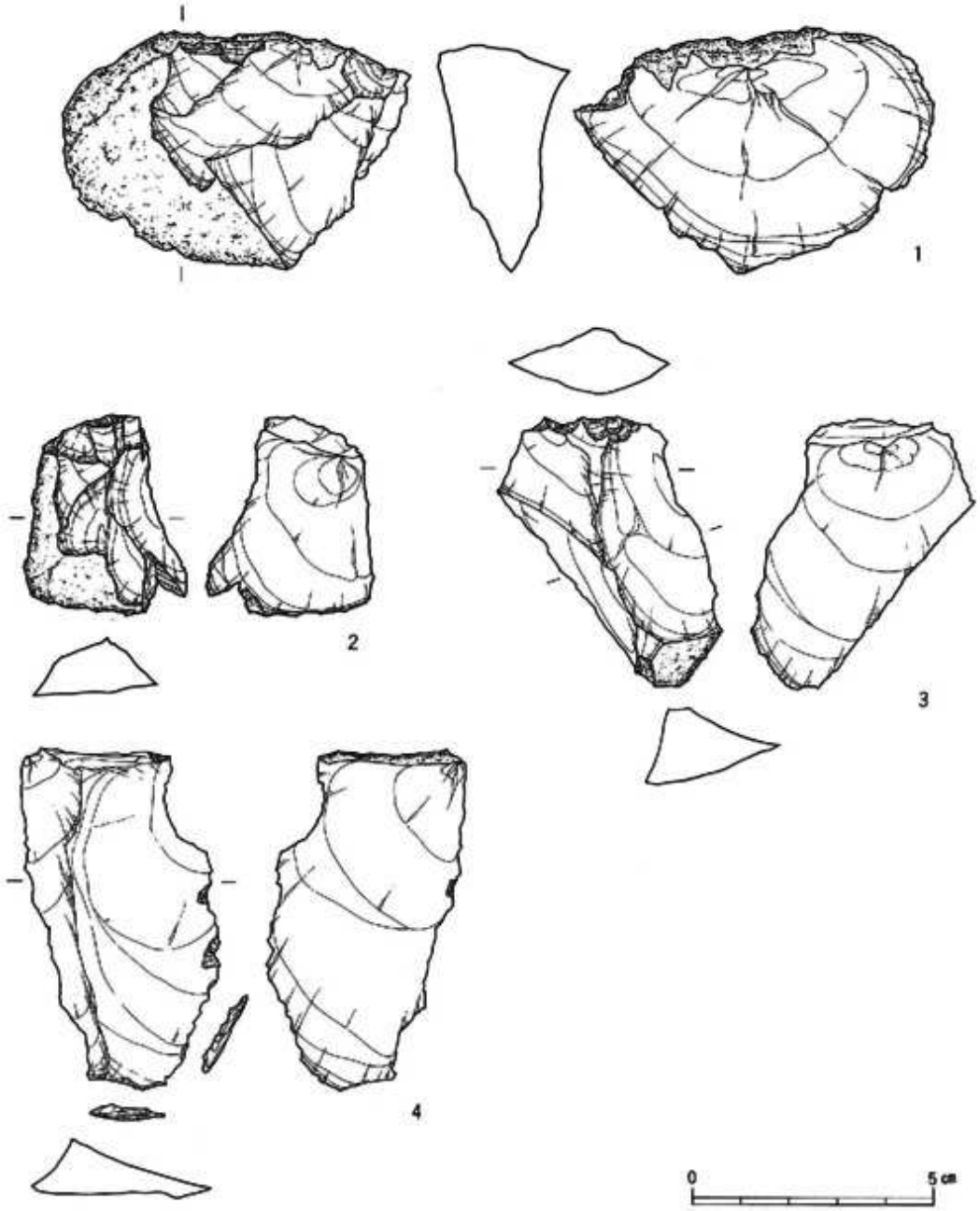
第45図　石器実測図 (2)



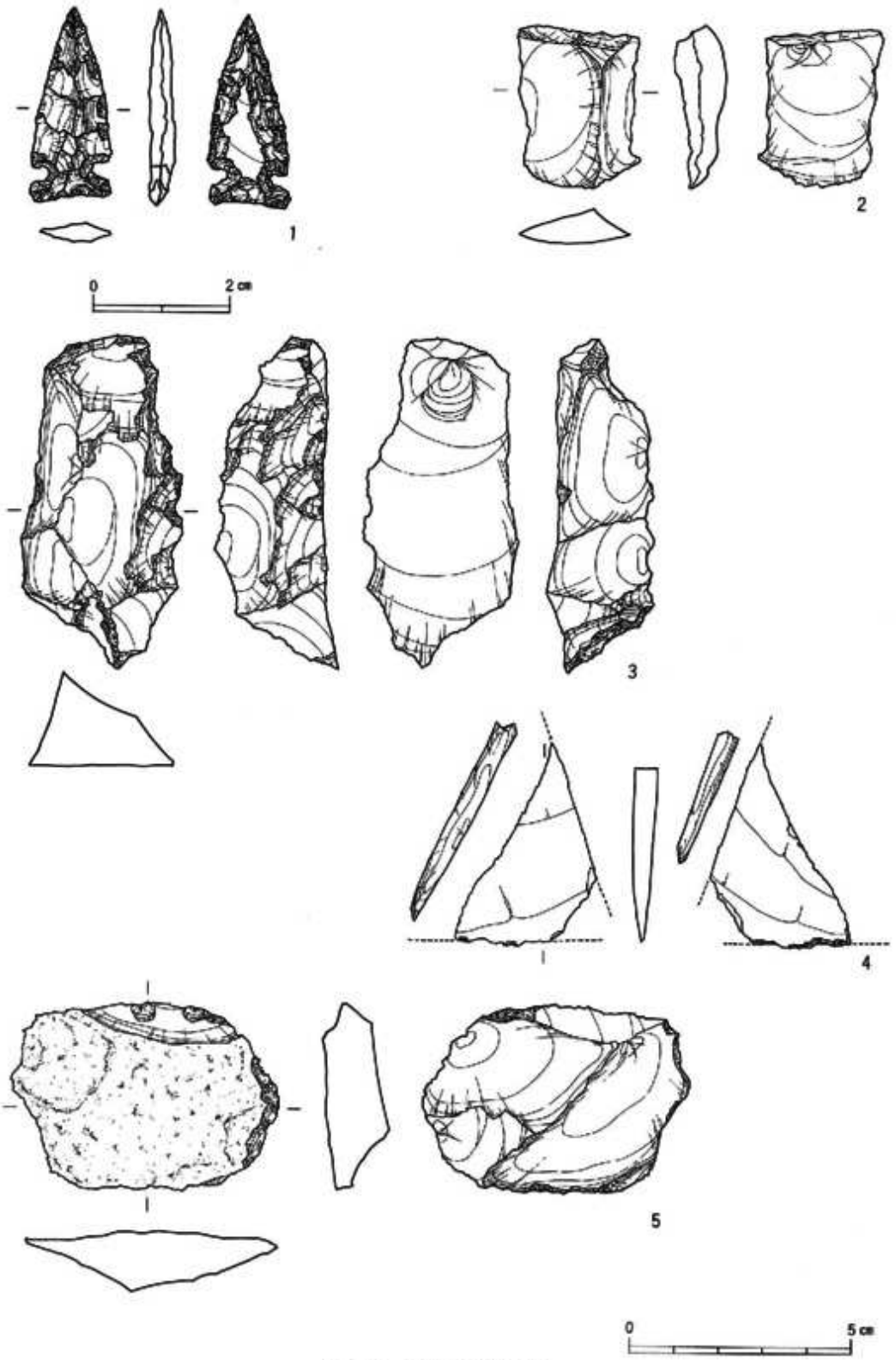
第46図　石器実測図 (3)



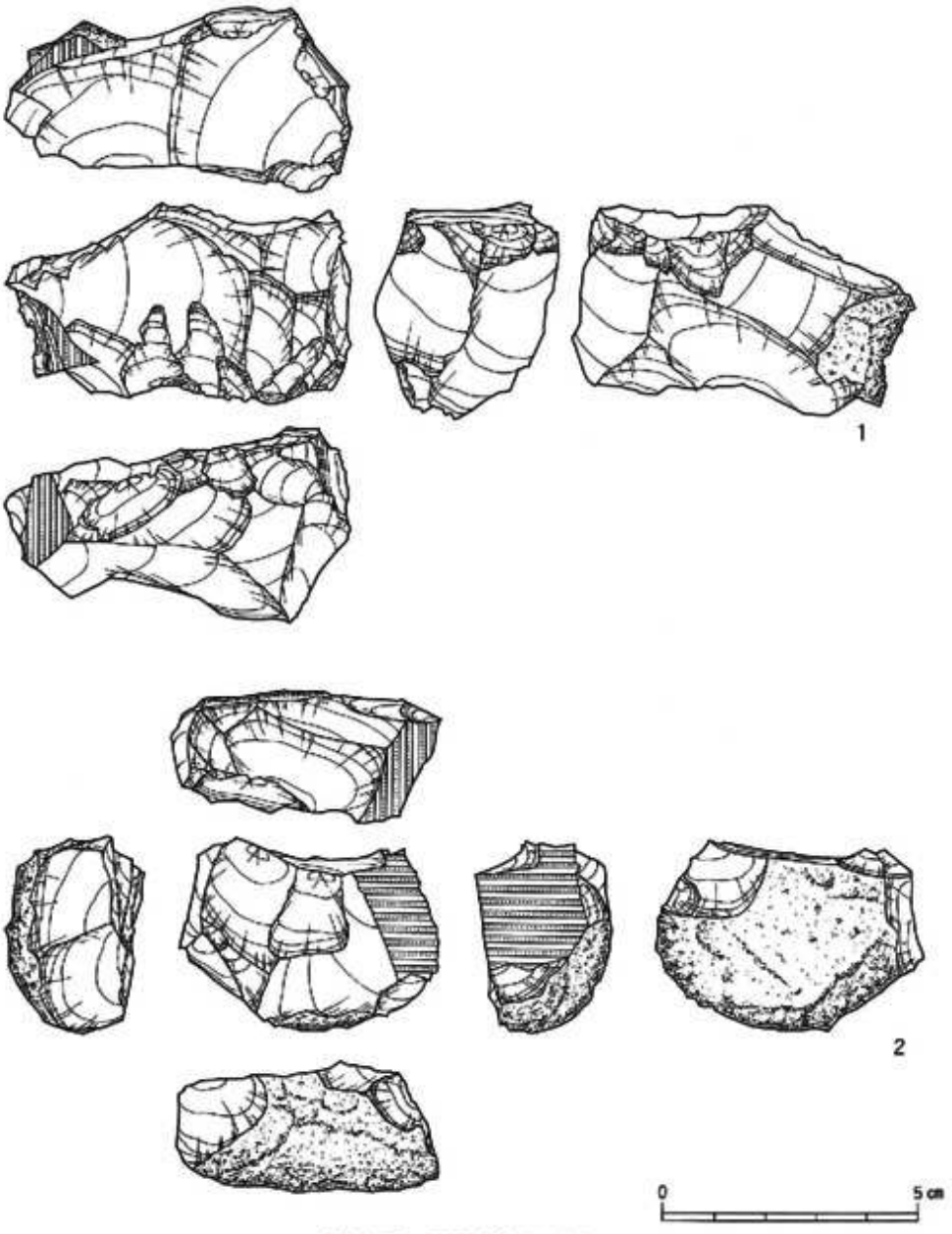
第47図　石器実測図（4）



第48図　石器実測図 (5)



第49図　石器実測図 (6)



第50図　石器実測図 (7)

第26表　石器観察表(1)—Ⅲ層

[illegible]	挿図番号	分類	石器名称	グリッド	層位	標高	石質	同一母岩	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	刃角	折れ面	自然面	写真図版	遺物番号
K-28	(P.114)		[illegible]	R-4	Ⅲc層	上8.23 下8.19	片岩		38.25	41.70	7.10	79.15		○	×	(P.112)	207
K-29	第46図1	ⅠA	石鏃	T-5	Ⅲc層	8,183	チャート		17.10	8.55	1.70	0.20		○	×	97-1	401
K-30	第46図2	ⅡAa	2次加工のある剥片	S-5	Ⅲc層	8,204	流紋岩	⑦	40.70	34.75	12.10	13.85	87°	×	○	97-2	387
K-31	第46図3	ⅡBa	2次加工のある剥片	R-2	Ⅲc層	8,301	流紋岩	②	56.10	47.90	20.10	28.85	71°	×	○	97-3	108
K-32	第46図4	ⅡBa	2次加工のある剥片	S-4	Ⅲc層	8,246	頁岩		45.65	34.00	8.60	10.25	53°	×	×	97-6	166
K-33	第46図5	ⅡBa	2次加工のある剥片	T-6	Ⅲc層	8,203	流紋岩	⑧	68.50	34.50	20.90	30.50	55° 77°	×	○		323
K-34	第45図2	ⅡBb	2次加工のある剥片	S-4	Ⅲc層	8,25	流紋岩	ⓒ	23.40	12.85	5.40	1.10	66°	◎	○	97-4	151
K-35		ⅡBb	2次加工のある剥片	S-4	Ⅲc層	8,249	流紋岩	①	22.70	11.80	3.20	0.75	42°	○	×	97-5	369
K-36	第45図4	ⅡBb	2次加工のある剥片	S-4	Ⅲc層	8,15	流紋岩	ⓒ	41.60	39.80	15.00	21.15	62°	◎	×	97-7	171
K-37	第45図1	ⅡBb	2次加工のある剥片	S-4	Ⅲc層	8,141	流紋岩	⑩	50.20	42.80	15.35	36.75	67°	○	○	97-9	372
K-38	第45図3	ⅡBb	2次加工のある剥片	S-3	Ⅲc層	8,102	流紋岩		47.80	50.80	16.00	40.75	60°	◎	×	97-10	375
K-39		ⅡBc	2次加工のある剥片	R-4	Ⅲc層	8,268	玉髄		15.60	8.85	3.60	0.40	40°	○	×	97-8	97
K-40	第45図6	ⅡBc	2次加工のある剥片	T-3	Ⅲc層	8,175	頁岩		36.20	26.50	4.90	3.55	35°	○	×	97-11	215
K-41		ⅡBc	2次加工のある剥片	T-5	Ⅲc層	8,266	流紋岩		40.10	23.70	12.70	9.00	48°	◎	×	97-14	330
K-42	第45図5	ⅡBc	2次加工のある剥片	S-6	Ⅲc層	8,244	流紋岩		63.60	56.70	6.00	16.75	67°	○	○	97-15	400
K-43		ⅡBc	2次加工のある剥片	T-5	Ⅲc層	8,296	石英安山岩		23.30	16.00	4.75	1.35	47°	◎	×	97-12	496
K-44	第45図7	Ⅱc	2次加工のある剥片	S-4	Ⅲc層	8,277	流紋岩	③	29.90	21.10	3.60	1.55	30°	○	×	97-13	164
K-45		Ⅱc	2次加工のある剥片	T-5	Ⅲc層	8,226	流紋岩	④	40.95	26.80	6.20	4.20		○	○	97-4	229
K-46	第46図2	ⅢAa	ピエス・エスキーユ	S-3	Ⅲc層	8,104	流紋岩		52.00	48.00	17.50	29.30		◎	×	98-1	129
K-47	第46図1	ⅢAb	ピエス・エスキーユ	V-5	Ⅲc層	8,13	流紋岩		46.15	42.80	11.30	21.15		×	○	98-5	251
K-48		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	S-3	Ⅲc層	8,72	流紋岩		31.50	23.85	4.20	2.15	29°	×	×	98-2	20
K-49	第46図3	Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	R-4	Ⅲc層	8,265	珪質分岩?		31.40	33.30	11.30	11.25	34°	×	○	98-9	33
K-50		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	T-5	Ⅲc層	8,154	流紋岩		55.90	49.70	6.30	15.85	16°	×	×	98-7	234
K-51		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	T-3	Ⅲc層	8,138	流紋岩	ⓒ	23.00	16.60	8.15	1.85	61°	×	×	98-3	411
K-52	第46図4	Ⅳb	微細剥離痕のある剥片	S-3	Ⅲc層	8,722	頁岩		46.90	30.80	8.95	12.25		○	×	98-6	189
K-53		Ⅳb	微細剥離痕のある剥片	T-3	Ⅲc層	8,234	斑状流紋岩?		23.50	19.90	5.30	1.50	25°	○	×	98-10	435
K-54		Ⅳb	微細剥離痕のある剥片	S-5	Ⅲc層	8,195	流紋岩		28.30	30.90	3.10	2.95	26°	○	○	98-4	425
K-55	第47図2b	Ⅳc	微細剥離痕のある剥片	U-3	Ⅲc層	8,155	流紋岩	⑤	61.70	37.10	11.25	30.00	45°	○	○	98-11b	336
K-56	第46図5	ⅤAa	石核	R-3	Ⅲc層	8,157	石英安山岩	①	81.30	57.40	26.60	83.85		-	○	99-1	19
K-57	第47図1a	ⅤAb	石核	R-4	Ⅲc層	8,252	流紋岩	⑦	71.00	60.70	27.45	60.35		-	○	99-2a	39
K-58		Ⅵa	剥片	R-4	Ⅲc層	8,276	流紋岩	②	38.30	19.05	7.15	1.75		×	○	99-5	48
K-59		Ⅵa	剥片	R-3	Ⅲc層	8,387	流紋岩		41.70	38.05	13.80	24.30		×	○	99-6	86
K-60		Ⅵa	剥片	R-3	Ⅲc層	8,258	流紋岩		18.25	13.25	2.80	0.55		×	×	99-4	89
K-61	第48図1	Ⅵa	剥片	S-3	Ⅲc層	8,107	流紋岩		72.00	53.20	26.80	66.55		×	○	100-2	124
K-62	第48図3	Ⅵa	剥片	S-3	Ⅲc層	8,16	石英安山岩	ⓒ	61.30	35.20	15.85	21.85		×	○	99-13	127
K-63		Ⅵa	剥片	S-3	Ⅲc層	8,204	流紋岩	⑨	64.30	47.50	15.75	29.45		×	○		141
K-64		Ⅵa	剥片	S-4	Ⅲc層	8,228	流紋岩		17.30	14.35	1.55	0.30		×	×	99-11	145
K-65		Ⅵa	剥片	S-4	Ⅲc層	8,218	流紋岩	⑥	26.40	21.40	2.90	1.45		×	○	99-8	160
K-66		Ⅵa	剥片	S-4	Ⅲc層	8,259	流紋岩	⑪	35.40	24.40	9.80	5.30		×	○	99-10	185

＊折れ面：○は折れ面が1面認められるもの、◎は2面認められるもの、×は認められないもの
＊自然面：○は自然面が認められるもの、×は認められないもの
＊同一母岩：流紋岩⑦には接合関係が認められるが、他はいずれも接合関係は認められず肉眼観察により推定されたものである。

第27表　石器観察表(2)—Ⅲ層

登録番号	図版番号	分類	石器名称	グリッド	層位	標高	石質	図版番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	角度	折れ面	自然面	写真図版	通番
K—47		Ⅵa	斜片	S—4	Ⅲc層	8,163	流紋岩		26.80	17.05	2.30	0.90		×	○	99—3	170
K—68		Ⅵa	斜片	S—5	Ⅲc層	8,30	頁岩		36.50	14.35	5.80	1.35		×	×	99—7	195
K—69		Ⅵa	斜片	T—3	Ⅲc層	8,153	石英安山岩	①	32.30	38.10	6.05	3.05		×	×	100—5	214
K—70		Ⅵa	斜片	T—3	Ⅲc層	8,18	流紋岩	⑩	31.65	13.30	3.45	0.75		×	×	99—9	217
K—71		Ⅵa	斜片	T—4	Ⅲc層	8,264	流紋岩	②	36.70	15.60	3.60	2.65		×	×	100—6	273
K—72		Ⅵa	斜片	T—5	Ⅲc層	8,245	流紋岩		38.50	18.80	10.07	4.30		×	×	99—13	227
K—73		Ⅵa	斜片	R—6	Ⅲc層	8,163	珪質岩		31.40	15.90	2.90	1.05		×	×	100—4	251
K—74		Ⅵa	斜片	R—2	Ⅲc層	8,293	流紋岩	③	25.30	17.45	6.90	2.15		×	○	100—3	252
K—75	第48図2	Ⅵa	斜片	T—4	Ⅲc層	8,242	流紋岩		43.45	41.00	11.30	13.00		×	○	100—7	284
K—76		Ⅵa	斜片	V—7	Ⅲc層	8,185	頁岩		29.80	13.45	3.30	1.90		×	○	100—8	358
K—77		Ⅵa	斜片	S—3	Ⅲc層	8,189	流紋岩	⑤	28.70	22.45	7.00	3.20		×	○		370
K—78		Ⅵa	斜片	S—3	Ⅲc層	8,168	珪質岩	⑥	26.80	19.45	5.50	2.35		×	×	100—12	371
K—79		Ⅵa	斜片	S—3	Ⅲc層	8,163	頁岩		17.35	9.55	1.00	0.15		×	×	100—1	373
K—80		Ⅵa	斜片	S—6	Ⅲc層	8,137	頁岩		32.30	30.35	6.70	7.40		×	○	100—11	405
K—81		Ⅵa	斜片	T—5	Ⅲc層	8,223	珪質岩		17.80	12.50	4.20	0.65		×	○	100—10	435
K—82		Ⅵb	斜片	R—4	Ⅲc層	8,295	流紋岩		16.35	13.95	2.40	0.45		○	×	100—14	81
K—83		Ⅵb	斜片	R—4	Ⅲc層	8,223	流紋岩	⑨	24.00	23.30	7.85	3.50		○	×	100—15	103
K—84		Ⅵb	斜片	S—3	Ⅲc層	8,102	流紋岩	②	26.15	30.10	5.30	7.50		○	○	100—17	112
K—85	第48図4	Ⅵb	斜片	S—4	Ⅲc層	8,173	珪質岩		34.30	37.90	13.20	22.50		○	○	100—19	156
K—86		Ⅵb	斜片	S—4	Ⅲc層	8,278	流紋岩	⑦	23.10	20.30	7.25	2.70		○	×	100—16	162
K—87		Ⅵb	斜片	S—4	Ⅲc層	8,206	珪質岩		12.50	8.50	3.05	0.15		○	○	100—15	163
K—88		Ⅵb	斜片	T—3	Ⅲc層	8,164	流紋岩		47.75	36.30	9.80	23.30		○	×	100—23	212
K—89		Ⅵb	斜片	T—3	Ⅲc層	8,189	流紋岩	①	18.65	11.00	3.10	0.45		○	×	101—1	218
K—90		Ⅵc	斜片	R—4	Ⅲc層	8,243	千枚質凝灰岩		86.30	63.20	35.60	42.60		○	○	100—20	24
K—91	第47図1b	Ⅵb	斜片	R—4	Ⅲc層	8,258	流紋岩	⑦	30.50	18.40	3.90	1.80		○	○	99—2b	55
K—92		Ⅵc	斜片	S—4	Ⅲc層	8,26	珪質岩	③	27.00	17.60	4.80	1.65		○	×	101—2	143
K—93		Ⅵc	斜片	S—4	Ⅲc層	8,283	流紋岩	①	21.35	9.50	6.00	0.95		○	×	101—3	168
K—94		Ⅵc	斜片	S—5	Ⅲc層	8,225	珪質岩		19.10	13.00	3.65	0.60		○	×	100—18	178
K—95		Ⅵc	斜片	S—5	Ⅲc層	8,224	頁岩		11.35	5.70	1.40	0.10		◎	×		303
K—96		Ⅵc	斜片	T—3	Ⅲc層	8,265	頁岩		58.70	11.85	3.60	3.45		○	×	101—4	256
K—97		Ⅵc	斜片	R—4	Ⅲc層	8,197	流紋岩		14.50	8.55	3.20	0.20		○	×	101—5	267
K—98		Ⅵc	斜片	S—6	Ⅲc層	8,26	珪質岩		42.30	22.30	12.10	9.25		◎	○	101—6	295
K—99		Ⅵc	斜片	S—6	Ⅲc層	8,268	頁岩		32.30	13.60	4.30	1.30		○	×	100—21	299
K—100		Ⅵc	斜片	T—3	Ⅲc層	8,174	石英安山岩	①	27.30	10.20	3.30	0.65		○	×	100—22	413
K—101		Ⅶ	チップ	R—4	Ⅲc層	8,265	玉髄		9.15	5.80	2.70	0.05g以下		◎	×	101—7	76
K—102		Ⅶ	チップ	S—4	Ⅲc層	8,264	頁岩		9.90	4.80	2.30	0.05		×	×	101—8	357
K—103		Ⅶ	チップ	S—5	Ⅲc層	8,25	珪質岩		9.25	7.70	1.70	0.05g以下		×	×	101—9	176
K—104		Ⅶ	チップ	S—5	Ⅲc層	8,17	流紋岩		7.35	6.25	1.90	0.05g以下		×	○	101—10	396

※折れ面：○は折れ面が1面認められるもの、◎は2面認められるもの、×は認められないもの。
※自然面：○は自然面が認められるもの、×は認められないもの。
※同一母岩：流紋岩の○には接合関係が認められるが、他はいずれも接合関係が認められず、肉眼観察により確定されたものである。

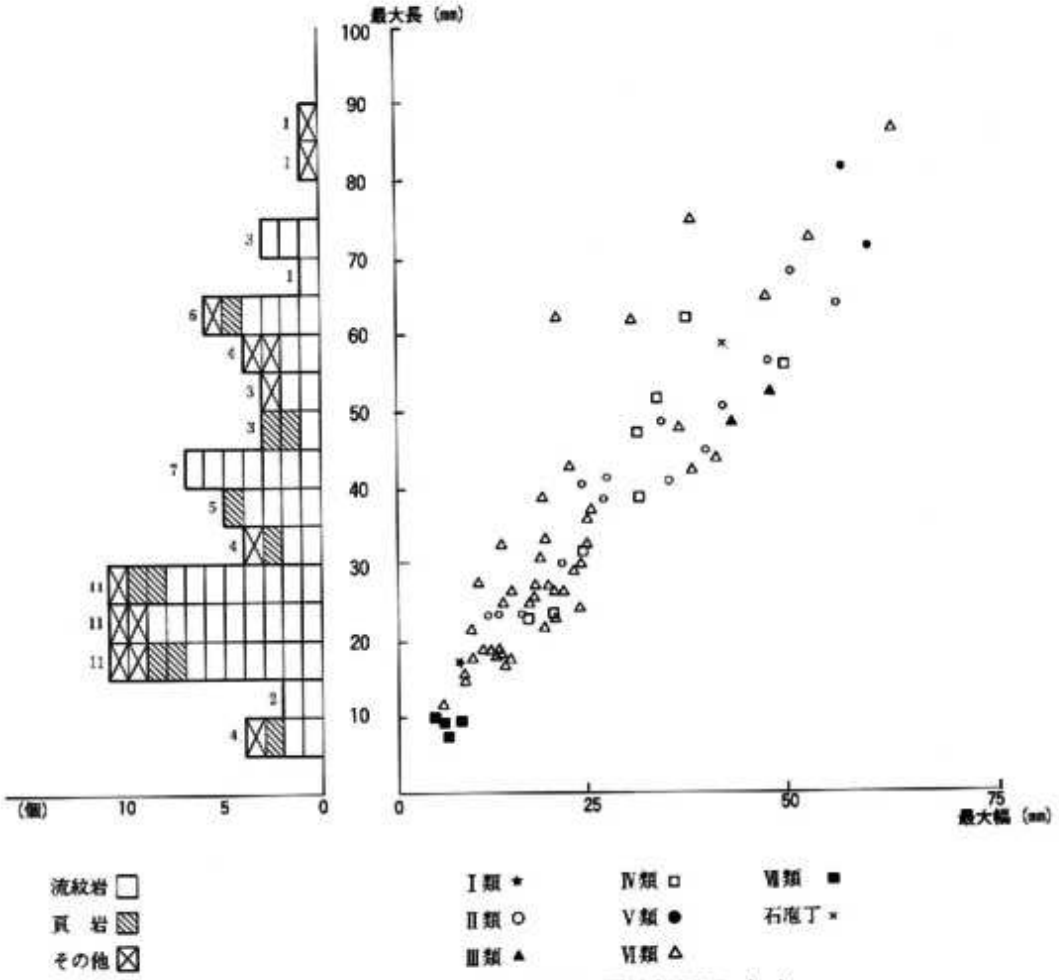
第28表　石器観察表(3)—Ⅰ・Ⅱ層

登録番号	図版番号	分類	石器名称	グリッド	層位	接点	石質	母岩記号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	刃角	折れ面	自然面	写真図版	遺物番号
K-105	第49図1	ⅠB	石鏃	S−7	Ⅱ層		流紋岩		28.00	11.75	3.50	0.85		×	×	101−11	561①
K-106	第49図3	ⅡAb	磨製石斧?	R−5	Ⅱ層		流紋岩	③	74.90	36.30	22.50	46.90		×	○	101−15	526④
K-107		ⅡBa	2次加工のある剥片	S−6 P23			頁岩		20.16	13.60	4.40	0.85	27°	×	×	101−13	473①
K-108		ⅡBa	2次加工のある剥片	T−1	Ⅱ層		ウッドオパール		19.30	17.25	13.40	2.56		×	×	101−16	563①
K-109		ⅡBa	2次加工のある剥片	U−6	Ⅱ層		石英安山岩(玢岩の可能性あり)		26.50	30.60	5.45	2.30	42°	×	×	101−21	399①
K-110		ⅡC	2次加工のある剥片	U−3 P48			流紋岩	⑦	35.90	22.90	6.65	5.70		○	×	101−12	530②
K-111	第49図5	ⅢB	ピエス・エスキーユ	S−5 P19			流紋岩		59.80	43.45	13.90	32.30		×	○	101−22	470①
K-112		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	R−5 P2			流紋岩	⑨	39.15	28.10	5.30	4.43	36°	×	×	101−30	449①
K-113		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	U−3 P47			流紋岩	④	24.60	21.35	5.70	2.25	34°	×	○	101−18	300①
K-114	第49図2	Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	T−3 P58			流紋岩	⑥	30.50	26.90	10.15	7.30		×	×	101−23	319②
K-115		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	R−5	Ⅱ層		流紋岩	③	36.20	13.30	6.95	1.35	51°	×	×	101−14	538①
K-116		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	R−5	Ⅱ層		流紋岩	⑤	36.75	18.65	5.15	1.90	47°	×	○	101−27	536①
K-117		Ⅳa	微細剥離痕のある剥片	S−3	Ⅱ層		流紋岩	⑤	28.10	29.80	4.70	2.05	58°	×	×	101−20	540①
K-118	第49図4	Ⅳc	微細剥離痕のある剥片	S−6	Ⅱ層		安山岩		49.25	31.40	5.90	6.10	29°	◎	×	101−26	358①
K-119		ⅣC	微細剥離痕のある剥片	T−3	Ⅱ層		流紋岩		32.60	23.00	5.00	2.95		◎	×	101−28	567①
K-120		Ⅳb	微細剥離痕のある剥片	T−3 P58			石英安山岩	①	45.40	20.90	7.60	3.95	49°	○	×	101−32	549①
K-121		ⅣC	微細剥離痕のある剥片	R−3	Ⅱ層		流紋岩		39.80	38.80	4.05	1.25	52°	○	×	101−17	533①
K-122		ⅣC	微細剥離痕のある剥片	R−5	Ⅱ層		流紋岩		47.00	34.70	14.40	25.83	46°	◎	×	101−25	536②
K-123		ⅣC	微細剥離痕のある剥片	−	Ⅰ層		流紋岩	⑥	25.35	10.20	4.90	2.10	36°	◎	×	101−19	615①
K-124	第50図2	ⅤB	石核	R−5 P8			流紋岩	④	52.00	38.40	28.15	50.95		−	○	102−2	49②
K-125	第50図1	ⅤB	石核	S−4	Ⅱ層		流紋岩	③	67.10	41.55	40.20	88.10			○	102−1	548①
K-126		Ⅵa	剥片	R−5 P8			流紋岩		30.85	25.85	7.10	4.10		×	○	101−29	68①
K-127		Ⅵa	剥片	U−3 P48			流紋岩	⑦	19.40	13.35	2.80	0.55	54° 43°	×	×	102−7	300①
K-128		Ⅵa	剥片	R−5	Ⅱ層		流紋岩	③	34.70	23.50	11.10	5.35		×	○	102−4	539③
K-129		Ⅵa	剥片	U−5	Ⅱ層		流紋岩	⑤	31.80	14.35	5.90	1.50		×	×	102−6	596①
K-130		Ⅵb	剥片	S−5 P19			流紋岩		54.20	26.50	6.50	9.70		○	○	102−3	468②
K-131		Ⅵb	剥片	U−3 P48			流紋岩		23.05	17.20	6.10	1.90		○	○	101−24	510①
K-132		Ⅵb	剥片	T−3 P58			流紋岩	⑥	22.90	13.50	5.50	1.50		○	×	102−5	519②
K-133		Ⅵb	剥片	S−4	Ⅱ層		頁岩		15.50	12.10	2.05	0.40		○	○	102−8	549①
K-134	第47図2a	Ⅵc	剥片	U−3 P54			流紋岩	⑧	26.00	15.60	6.60	2.35		◎	○	98−11a	516①
K-135		Ⅶ	チップ	U−5 P24			流紋岩		9.80	7.65	0.95	0.05以下		×	×	102−9	498①

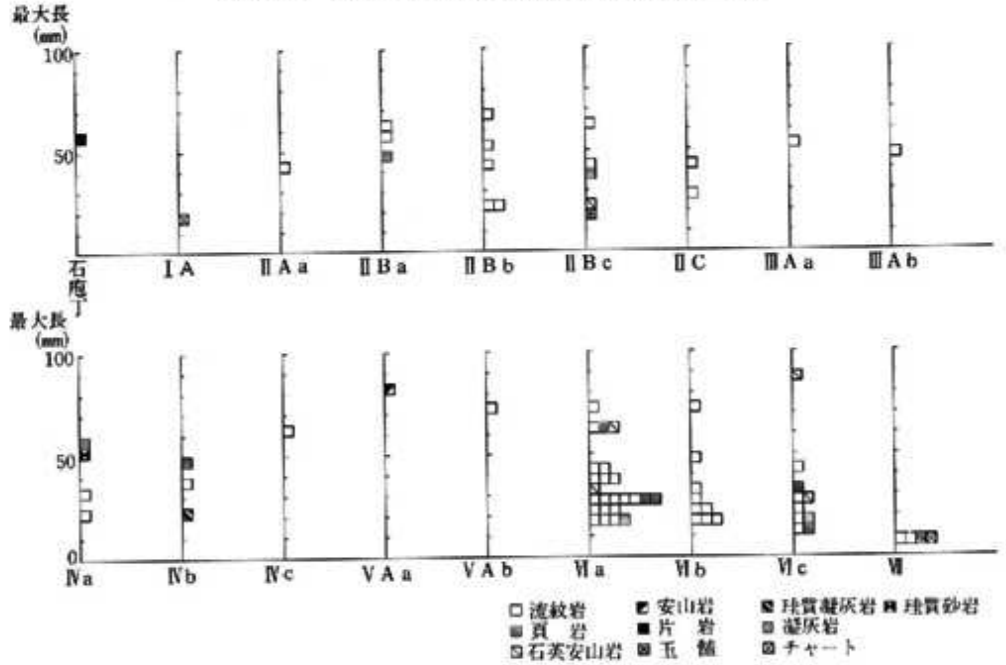
※折れ面：○は折れ面が1箇所認められるもの、◎は2か所認められるもの、×は認められないもの。
※自然面：○は自然面が認められるもの、×は認められないもの。
※母岩一母岩：流紋岩⑦には接合関係が認められるが、他はいずれも接合関係が認められず、肉眼観察により推定されたものである。

第29表　Ⅲ層出土礫観察表

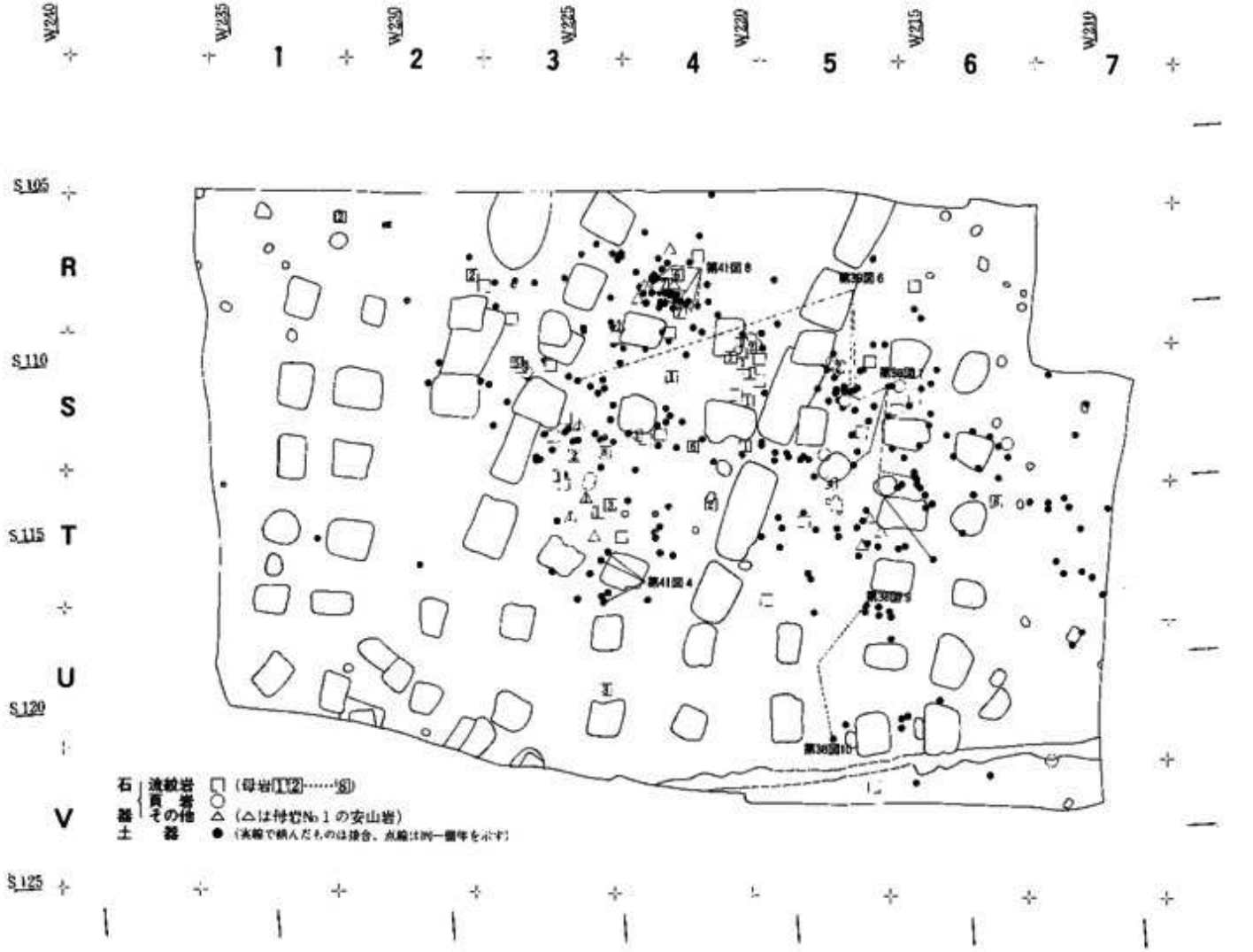
No.	グリッド	層位	標高(m)	石質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	登録番号	No.	グリッド	層位	標高(m)	石質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	登録番号
1	S−4	ⅢC層	8.29	砂質岩	76.60	48.75	36.35	98.45	149	6	S−5	ⅢC層	8.137	凝灰岩	133.70	120.80	63.80	768.55	210
2	S−4	ⅢC層	8.208	凝灰岩	60.55	37.55	34.40	70.60	159	7	S−5	ⅢC層	8.168	凝灰岩	193.00	95.30	60.10	683.85	211
3	S−4	ⅢC層	上 8.208 下 8.195	安山岩	152.35	63.20	32.45	409.80	174	8	T−4	ⅢC層	8.211	安山岩	161.00	69.55	36.15	580.70	219
4	S−5	ⅢC層	8.199	安山岩	123.30	62.50	40.40	454.50	203	9	T−2	ⅢC層	8.198	安山岩	154.30	114.05	82.60		287
5	S−5	ⅢC層	8.138	閃緑岩	107.30	106.70	58.35		209										



第51図　III層出土石器の類別と属性相関図（1）

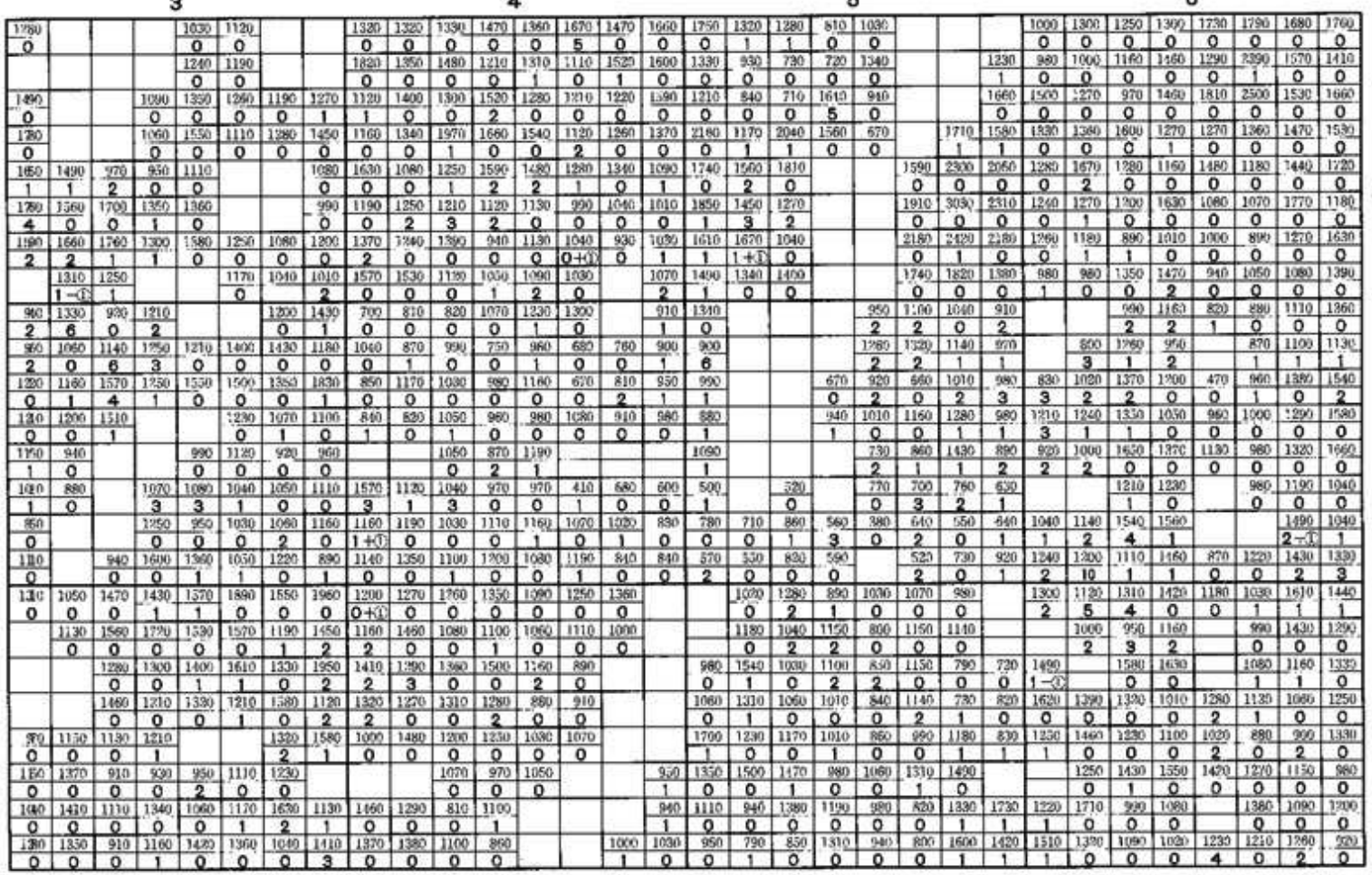


第52図　III層出土石器の類別と属性相関図（2）



第53図　土器及び石材別石器分布図

第30表　水洗選別検出遺物数量表



点を残していないもの（第47図2b、第49図４）に分けられる。

V類：石核。

ＶＡ類：剥片を素材とし、作業面を背腹両面にもつもの。打面調整は行なわれていない。ａ種：打点が１側縁を移動し、加撃方向が単方向のもの（第46図５）、ｂ種：打点が剥片の周囲を移動し、加撃方向が求心的なもの（第47図1a）に分けられる。

ＶＢ類：分割礫あるいは礫を素材とし、作業面を90度あるいは180度転換するもの（第50図１・２）。打面調整は行なわれていない。

VI類：剥片。剥片の形状によりａ種：折れ面をもたないもの（第47図1b・２、第48図１～３）、ｂ種：折れ面があり打点を残しているもの（第48図４）、折れ面があり打点を残していないもの（第47図2a）に分けられる。

VII類：チップ。最大長10㎜以下のもの。

この他、Ⅲｃ層からは円礫が９個出土しているが、Ⅰ～Ⅶ類の石質とは異なり、剥片石器の原材とは考え難い。また、それらに磨面あるいは敲打痕も認められない。

②Ⅲｃ層出土石器の類別と石材：Ⅲｃ層から出土した石器は、第24表に示すように総数が77点である。Ⅰ類からⅦ類まで認められ、Ⅶ類（チップ）を除くと、Ⅵ類（剥片）の出土数量が43点と最も多く、次いでⅡ類（二次加工のある剥片）の16点、Ⅳ類（微細剥離痕のある剥片）の８点であり、他は１～２点である。

定形化した石器は極めて少なく、石庖丁１点と１Ａ類の石鏃１点の計２点であり、どちらも欠損している。出土数量の多いⅡ・Ⅳ・Ⅵ類には、折れ面をもつものがⅡ類：10／16点、Ⅳ類：4/8点、Ⅵ類：19／43点あるが、特定の石材との関係は認められない。

石器の規模は、最大長を第51・52図に示している。Ⅱ～Ⅳ類の最大長は7.0～2.0㎝の範囲にあり、折れ面のないⅡ・Ⅳ類では6.5～2.0㎝である。Ⅵ類の最大長は9.0～1.0㎝の範囲にあるが、折れ面の有無にかかわらず、5.0㎝以下のものが大半を占める。Ⅱａ・Ⅳａ類の出土数量が少ないため、素材剥片としての有効的な規模を明確にはできないが、Ⅱｃ類（第45図７）の最大長は29.9㎜であり、折れ面のあるものや、より小規模な剥片についても素材剥片としての有効性を考えることが必要であろう。

石材は10種類認められる。磨製石庖丁の石材である片岩は、当遺跡南方約15㎞以南の阿武隈山系に産するものであるが、他の打製石器の石材は遺跡周辺で採取可能なものである。種類別では流紋岩の出土数量が53点と最も多く、次いで頁岩の11点、石英安山岩の５点であり、他は１～２点である。このなかには、肉眼観察によるものではあるが、同一母岩と推定される石器が７種類含まれている。

③石核と剥片の形態：石核の出土は２点（ＶＡａ類、ＶＡｂ類）であり、どちらも剥片を素材

としている。この2種類の石核から得られる剥片にはＶＡｂ類と接合する第47図１ｂがある。

この他、出土した剥片やII類・IV類のなかで剥片の形状をとどめるものには、分割礫や礫を素材とする石核から得られたと推定される剥片も多く認められる。

また、II～IV・VI類には背面に自然面を残すものが多く、69点中31点を占める。そのうち、26点が流紋岩であり、流紋岩の中に占める比率は26／50である。各類の比率は、II類7/12、III類1/2、IV類16／32である。自然面を残すものには、比較的規模の大きなものが多い傾向はあるがVIａ類では5.0cm以下の剥片に両者がほぼ同数認められる。これは、流紋岩の原石が比較的小規模なことに起因しているものと考えられる。

(3)遺物の所属時期

IIIｃ層から出土した弥生土器は、Ｉ～III類に大別されるが、郡山遺跡においては類似性のある資料が第44次調査（第85次調査Ｂ区の北方約100mの地点）で出土している[註7]。この資料は古代の遺構堆積土中や耕作土から出土したものであるが、直径約20mの範囲から出土していることから、一時期の可能性が考えられており、桝形囲式期の古い段階に位置付けられている。概要報告のため抽出資料によって77点の弥生土器が報告されており、第85次調査のＩＡ１ｃ類、ＩＡ２類が認められず、ＩＢ類が多いこと、第85次調査ではみられない地文上に沈線文が施文されるものや、１本引きの比較的細い沈線を３本１組とする文様がある点でやや異なるが、他のＩ類、II類を共有している。

また、郡山遺跡以外での類例には、多賀城市桝形囲貝塚出土資料があげられる。これは、山内清男により型式設定がなされた「桝形式」の標式資料である[引31・32]。この資料のなかには前型式の様相を示す比較的太い沈線で文様を描くものも含まれ、第85次調査のＩＡ１類・ＩＡ２類・ＩＢ類に共通性がみられる。またＩＡ２類との器形的な類似性を示すものもあり、他の比較的細い沈線で描かれるＩＣ・１Ｄ類や、II類の各類を含んでおり、類似性を認めることができる。

桝形囲貝塚出土資料は、仙台市南小泉遺跡出土資料[註36]とともに伊東信雄により「桝形式」[註37]・「桝形囲式」[註38]として把握されてきたが、当初から両者には異なる点もあるが、共通点の多いことも示されており[註37]、将来の細分も考えられていた[引39]。南小泉遺跡出土資料には、桝形囲貝塚出土資料に後続するものの存在も指摘されているが[註35・40]、今のところそれを示す良好な資料は少なく、南小泉遺跡においても第12次調査６号溝２・３層出土資料[引41]があげられる程度である。そのため、ここでは、第85次調査で出土した弥生土器については、桝形囲貝塚出土資料との類似性から桝形囲式期のなかでも古い段階に位置付けておきたい。また、IIIｃ層から出土した石器についても、その分布範囲は弥生土器とほぼ同じであることから同時期のものと考えられる。尚、第44次調査出土弥生土器との関連性については今後の課題とされる。

Ⅶ　分析・同定

松谷　暁子　仙台市郡山遺跡（第84次調査）の灰像
古環境研究所　仙台市郡山遺跡（第84次調査）のプラント・オパール分析
山田しょう　仙台市郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）出土石庖丁の使用痕分析
古環境研究所　仙台市郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）のプラントオパール分析

仙台市郡山遺跡（第84次調査）の灰像

東京大学　松　谷　暁　子

1．はじめに

古墳時代の住居址のかまどの灰を顕微鏡で観察すると、植物の表皮細胞を反映した組織像が見出されることがある。これらの像を灰像と呼んでいるが、燃焼によって有機物が消失した後、表皮細胞の細胞壁や細胞内に沈積していた珪酸などの無機物部分を観察しているのである。イネ科の植物は珪酸を多く取り入れる傾向があり、穀類はほとんどイネ科に属するので、遺跡の灰などの灰像を観察して、利用された穀類を推定できる場合が多い。郡山遺跡（84次）で住居址からかまどの灰が出土したので、この試料について灰像の検出と識別を試みた。

2．試　料

SI－1267住居址のかまどから採取された灰の塊で、部分的に褐色の混じった灰色を呈している。厚さが約5㎜で、径2㎝の塊が4個位の量の半分について、以下の方法で処理を行った。

3．方　法

試料をスパチュラで時計皿に取り、蒸留水を注いだ後、時計皿を回転させながら揺り動かして、砂など重い部分を沈め、灰の含まれている軽い部分をるつぼに移し、乾燥させたものをオイキットで封入して、光学顕微鏡用のプレパラートを作成した。遠心分離を利用しなくてもこの簡便な方法で良く見える。念のため沈澱物の方からもプレパラートを作成したが鉱物ばかりで灰像はほとんど見当たらなかった。

4．結　果

イネ科に由来する灰像が豊富に観察されたので、この住居址の竈では燃料としてイネ科の植物が使用されたことがわかる。

観察された灰像は大きく三つに分けられる。

一つは、イネ科の籾殻の表皮細胞に類似の細胞である（写真1－2）。イネ科の表皮細胞を構成する細胞には“長い細胞”と“短い細胞”とがあるが、イネの籾殻（外頴と内頴）の表皮細胞には“短い細胞”がなく、波うった長い側枝をもつ“長い細胞”と基部が円形で先細りの長い毛から構成されている（写真13）。この特徴を持った灰像が、あまり多くはないが観察された。ただし、長い毛は抜け落ちて円形の基部が残っている。

二つ目のタイプは、イネの葉身や葉鞘の“短い細胞”に形成される特徴的な形態の珪酸体であるため、“イネ細胞”と称される細胞（写真14）を含む灰像である（写真3－6）。“短い細胞”の中に形成される珪酸体はイネ科の分類群によって独特の形態を示し、まゆ状、十字状、鞍型

などに分類されているが、“イネ細胞”は、「蝶が羽を広げて葉の軸の方向に一列に飛んでいるような格好の細胞が数珠つなぎに等間隔に列んでいる」(渡辺1973) との表現があるが、まゆ状細胞を直角に回転させたものから十字状に近いものまで、いくつかの変異がある。マコモ属の葉（写真15）やサヤヌカグサ属の葉（写真16）にも同じ形態の細胞が認められるが、イネで認められる“イネ細胞”との区別はこの細胞だけでは困難である。しかし、出土試料のイネ細胞を含む灰像の中に、乳頭突起の顕著な気孔を伴ったものが多く、このタイプの気孔はイネに特徴的であることから、イネに由来する可能性が高いといえるであろう。イネの籾殻に特徴的な灰像を伴うことも、イネ由来を支持している。

三つ目のタイプは、量が最も多いが、“長い細胞”の細胞壁が細かく波打っており、小型の気孔が数列配列しているもの（写真７－10）と、基部が円形で先端が尖った円錐形の小さな毛が存在するもの（写真11－12）がある。“短い細胞”の中に形成される珪酸体の存在ははっきりしない。波打った細胞壁をもつ“長い細胞”と、小型の気孔列、円錐形の毛等は、湿地に生育するヨシの葉身や葉鞘の表皮細胞の形態（写真17、18）とよく似ているが、葉身の“短い細胞”の中に形成される鞍型の珪酸体がほとんど見いだされないことや、葉身の内軸面に分布する機動細胞が少ないことは、大部分が茎（葉鞘や稈）に由来するように思われる。

5．考　察

筆者はこれまでにも日本の弥生時代や古墳時代の住居跡から出土したかまどの灰を観察した経験がいくつかあるが、イネの籾殻と藁に由来する灰像がきわめて多い。仙台市の六反田遺跡、郡山遺跡、山口遺跡の竈の灰についても同様で、イネの籾殻と藁が大部分であった（松谷1987、松谷未印刷)。それに比べて今回の郡山遺跡（84次）の場合はイネが少なく、ヨシの葉や茎に似た灰像の方が多く検出されたということが顕著な違いである。しかし、千葉市上ノ台遺跡の竈の灰の場合は、ヨシの灰像が多く検出されている住居址もあった（松谷1981)。また、古川市の留沼遺跡の灰層からも、ヨシの灰像が多く検出されたが、この場合は敷物としてヨシが利用されていた可能性がある（松谷1980)。いずれにせよ、イネの他に利用されたわら状の植物としてヨシの利用がきわめて多かったことは十分に考えられる。もっとも、ガマやイグサが利用されたとしても珪酸体がほとんど無いので検出されていないことを考慮する必要があろう。

文　献

松谷暁子　1980：留沼遺跡出土ワラ状灰化物の灰像分析。宮城県文化財調査報告書65、205－209。

松谷暁子　1981：千葉市上ノ台遺跡の灰像分析。千葉市上ノ台遺跡付篇、45－47。

松谷暁子　1987：六反田遺跡出土灰、炭化物、土壌の顕微鏡による観察。六反田遺跡III、仙台市文化財調査報告書102、397-399。

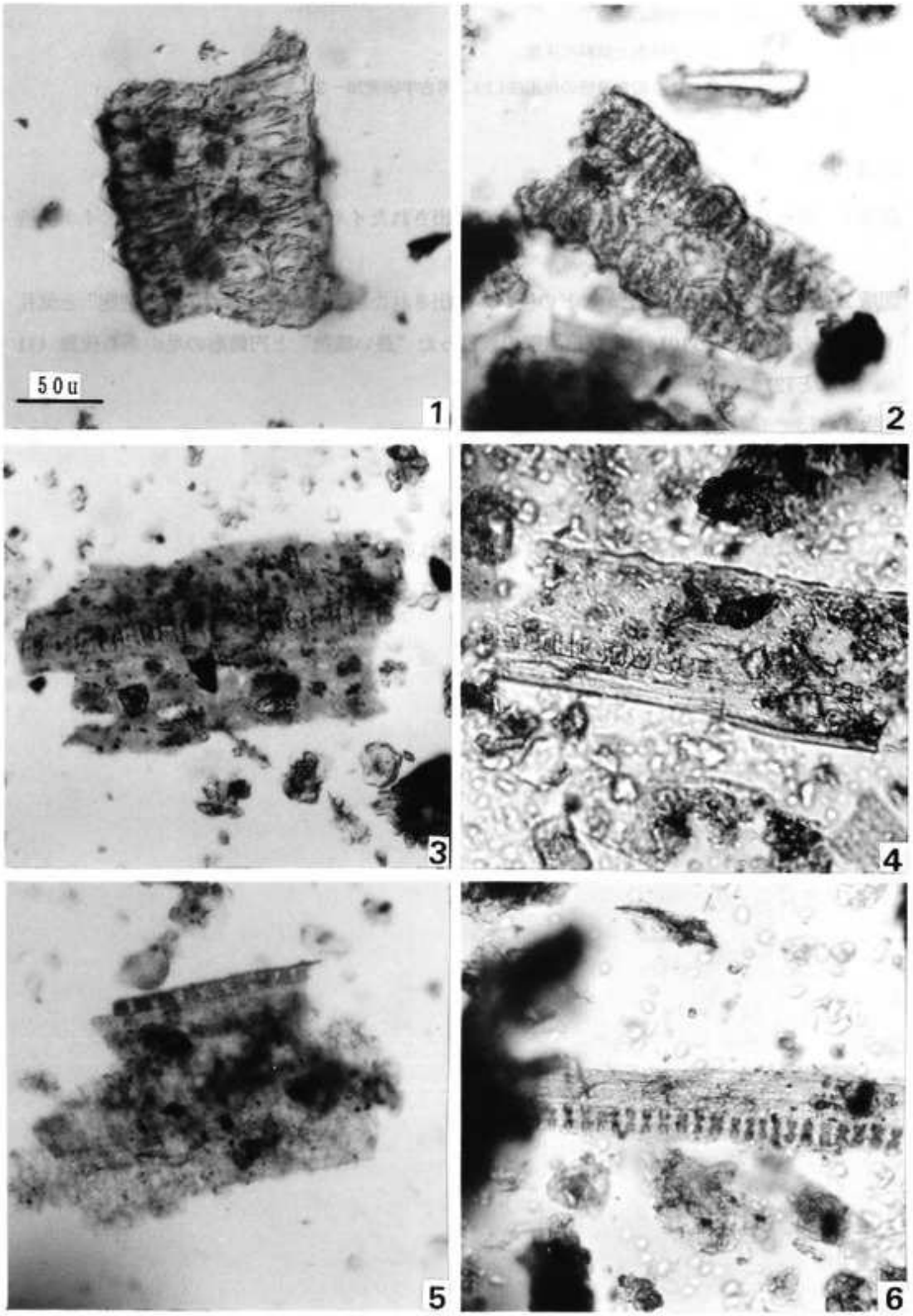
松谷暁子　未印刷：郡山遺跡の灰像
松谷暁子　未印刷：山口遺跡出土試料の灰像。
渡辺直経　1973：灰像による穀物遺残の検出法(上)。考古学研究20－２。

写真説明

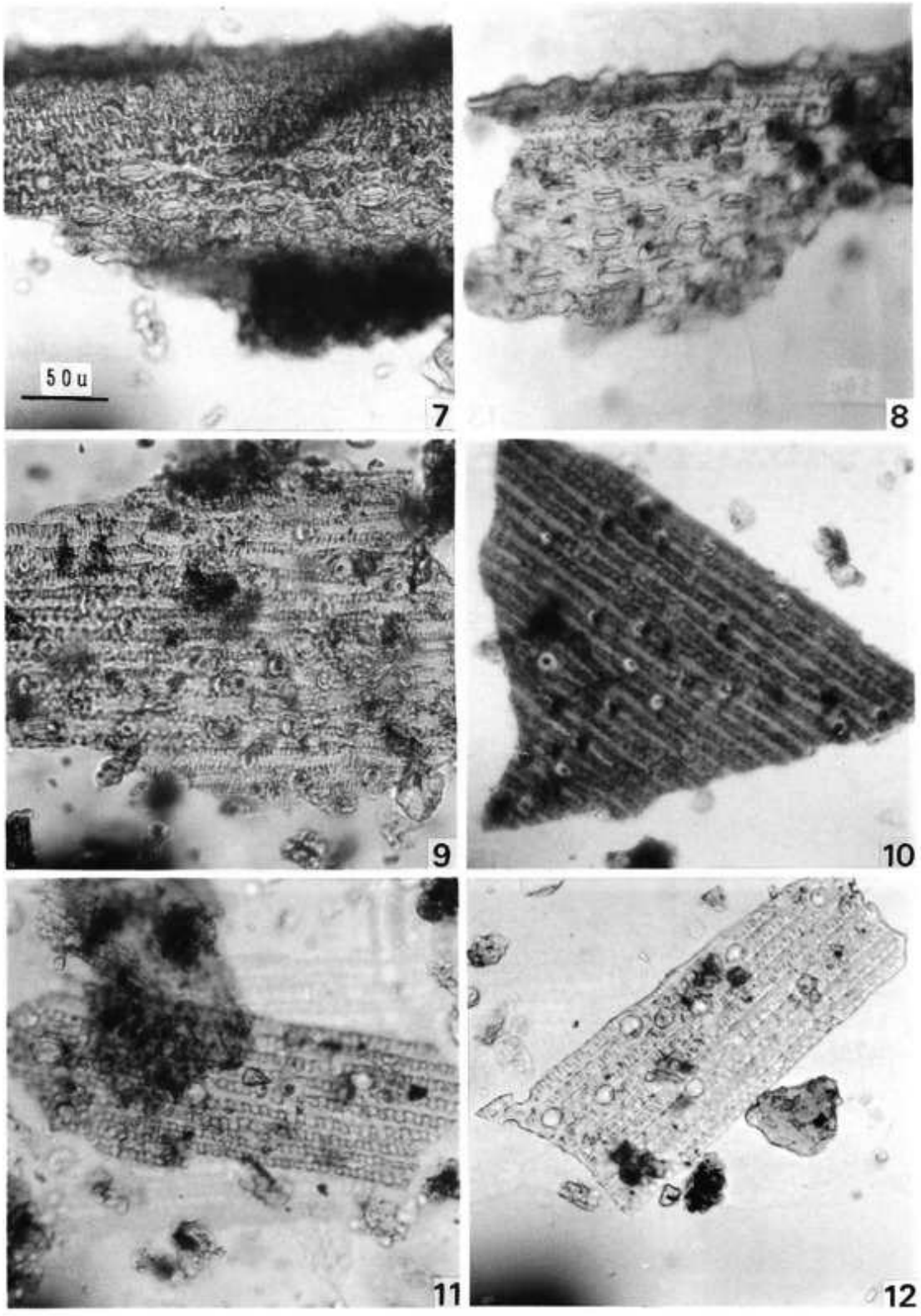
図版１　SI－1267 住居址出土かまどの灰から検出されたイネ籾殻の灰像（１・２）とイネ細胞（３から６）

図版２　SI－1267 住居址出土かまどの灰から検出された細胞壁の波打った“長い細胞”と気孔の列（７から10）および細胞壁の波打った“長い細胞”と円錐形の毛のある灰像（11と12）

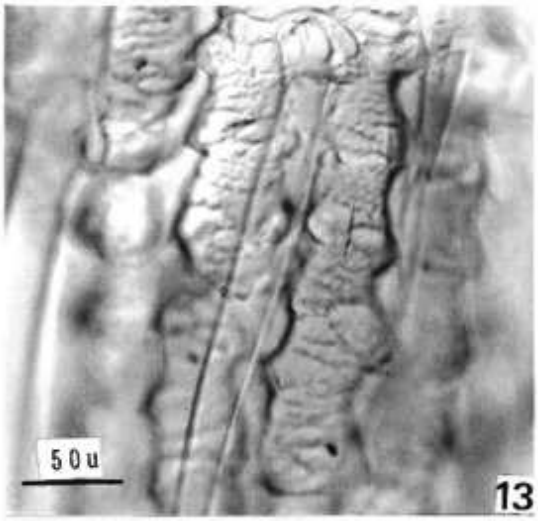
図版３　13　イネの籾殻の灰像
14　イネの葉身に認められるイネ細胞
15　マコモの葉身に認められるイネ細胞
16　エゾノサヤヌカグサの葉身に認められるイネ細胞
17　ヨシの葉鞘に認められる細胞壁の波打った“長い細胞”と円錐形の毛
18　ヨシの葉鞘に認められる気孔列

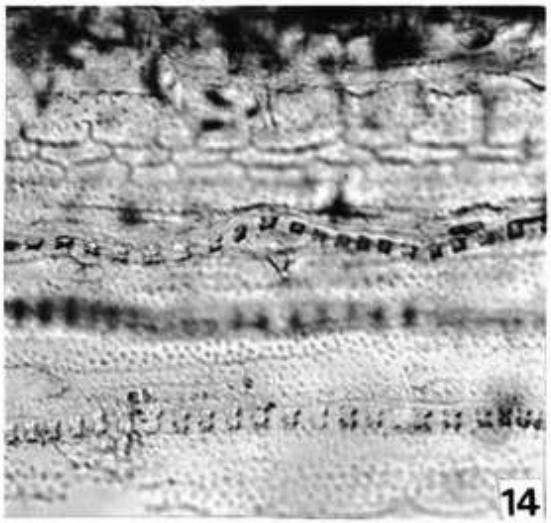


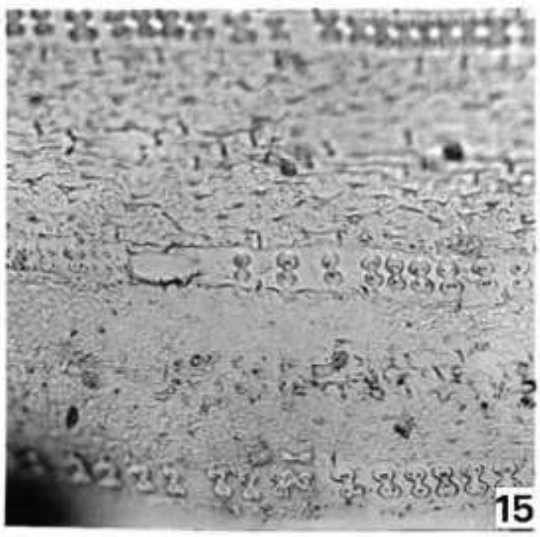
図版1

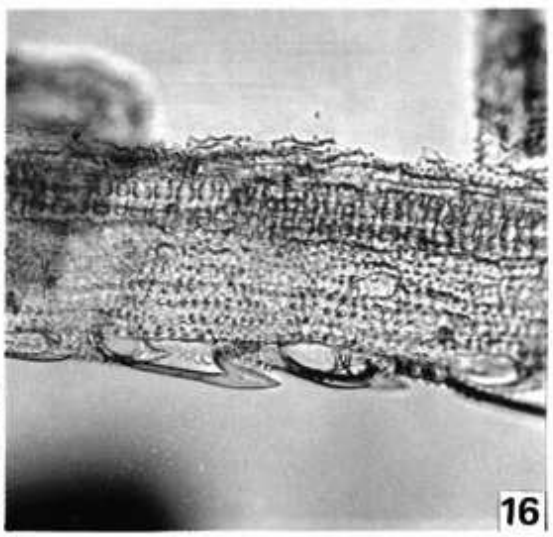


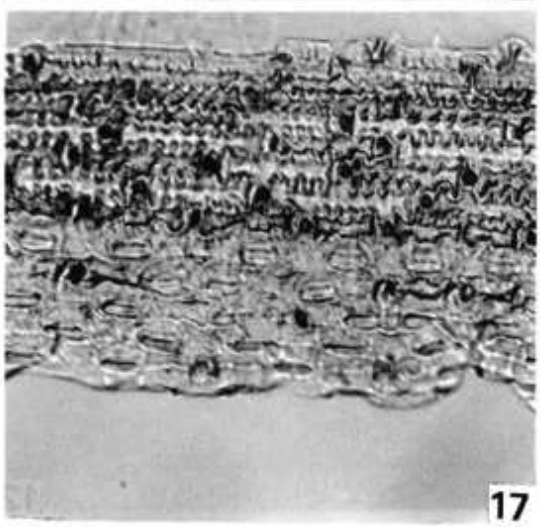
図版 2

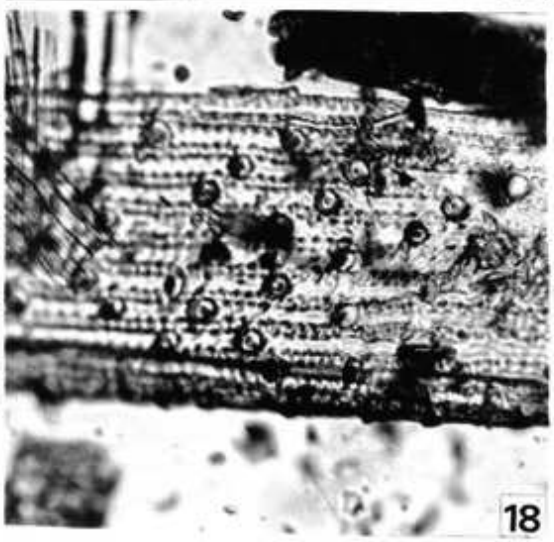












図版 3

仙台市郡山遺跡（第84次調査）における プラント・オパール分析

古環境研究所

1．はじめに

郡山遺跡（第84次調査）では、7～8世紀初めとされる土層から小溝状遺構群が検出され、当時の畑跡と見られていた。この調査は、プラント・オパール分析を用いて、同遺構におけるイネ科栽培植物の検討、およびその他の層における稲作跡の検証と探査を行なったものである。

2．試　料

試料は、遺跡調査の担当者によって採取され、当研究所に送付されたものである。7～8世紀初めの畑跡とされる小溝状遺構群が検出されたのは、IIc層の上面である。分析試料は、同層の土壌や溝の埋土などから計17点が採取された。図1に、土層断面図と分析試料の採取箇所を示す。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）」をもとに、次の手順で行なった。

(1) 試料土の絶乾（105℃・24時間）、仮比重測定

(2) 試料土約1ｇを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μm、約0.02ｇ）

※電子分析天秤により1万分の1ｇの精度で秤量

(3) 電気炉灰化法による脱有機物処理

(4) 超音波による分散（300w・42KHz・10分間）

(5) 沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥

(6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成

(7) 検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行なった。計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行なった。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1ｇ中のプラント・オパール個数を求めた。

また、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}ｇ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、

イネは赤米、ヨシ属はヨシ、タケ亜科はゴキダケの値を用いた。その値は、それぞれ2.94（種実重は1.03）、6.31、0.48である（杉山・藤原、1987）。

4．分析結果

プラント・オパール分析の結果を表1および図1、図2に示す。なお、プラント・オパールの定量は、イネ、ヨシ属、タケ亜科、ウシクサ族（ススキやチガヤなどが含まれる）、キビ族（ヒエなどが含まれる）の主要な5分類群に限定した。巻末に各分類群の顕微鏡写真を示す。

5．考　察

(1) 畑状遺構について

畑状遺構では、遺構面の土壌についてC－6G地点の東壁と南壁、小溝③、④、⑥、⑦、⑨、㉙の埋土、計6点について分析を行なった。その結果、これらのすべてからイネのプラント・オパールが検出された。密度は、900～3,600個1gとやや低いことから、同遺構で稲作が行なわれていた可能性はあるものの、上層などからの混入の危険性も考えられる。

小溝③の埋土では、キビ族（ヒエやアワなどが含まれる）が検出されたが、密度は900個／gと微量である。同族には、ヒエやアワ、キビなどが含まれるが、現時点ではプラント・オパールの形態から、これらの栽培種と他の野・雑草とを識別するに至っていない（杉山ほか、1988）。

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、上記以外にも、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）やムギ類などがあるが、これらのプラント・オパールはいずれの試料からも検出されなかった。

以上のことから、同遺構ではイネが栽培されていた可能性が考えられる。なお、プラント・オパール分析で復原できる種生はイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は対象外となっていることに留意されたい。

(2) その他の層について

C－1G地点では、Ⅰa層～Ⅲ層について分析を行なった。その結果、Ⅰa層～Ⅱb層の各層でイネのプラント・オパールが検出された。このうち、Ⅰa層については、現在もしくは最近の水田耕作に伴うものと考えられる。Ⅰb層、Ⅰc層、Ⅱb層では、密度が5,300～9,300個／gと高い値である。したがって、これらの層で稲作が行なわれていた可能性は高いと考えられる。Ⅱa層では密度が2,500個／gとやや低いことから、稲作が行なわれていた可能性はあるものの、上層もしくは他所からの混入の危険性も考えられる。Ⅱd層およびⅢ層ではイネのプラント・オパールは検出されなかった。

以上のことから、C－1G地点ではⅡb層の時期に稲作が開始され、ほぼ継続して行なわれて現在に至ったものと推定される。

この他にも、C－3G地点のⅡa'層とC－5G地点のⅣ層について分析を行なった。その結

果、これらの両者からイネのプラント・オパールが検出された。このうち、後者では密度が5,500個／gと高いことから、稲作の可能性は高いと考えられる。前者では、密度が2,700個／gとやや低いことから、稲作の可能性はあるものの、上層もしくは他所からの混入の危険性も考えられる。

<参考文献>

杉山真二・藤原宏志　1987：川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析。赤山 — 古環境編 —。川口市遺跡調査会報告、第10集、281－298。

杉山真二・松田隆二・藤原宏志　1988：機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用 — 古代農耕追究のための基礎資料として —。考古学と自然科学、20：81－92。

藤原宏志　1976：プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) — 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 —。考古学と自然科学、9：15－29。

藤原宏志　1979：プラント・オパール分析法の基礎的研究(3) — 福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（O. sativa L.）生産総量の推定 —。考古学と自然科学、12：29－41。

藤原宏志・杉山真二　1984：プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) — プラント・オパール分析による水田址の探査 —。考古学と自然科学、17：73－85。

表1　プラント・オパール分析結果

仙台市、郡山遺跡84次調査

C－1G 西壁北隅地点　　単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
Ⅰa	20,800	2,800	11,300	0	0
Ⅰb	9,300	900	9,300	0	0
Ⅰc	5,300	0	13,400	0	0
Ⅱa	2,500	800	21,600	0	0
Ⅱb	6,400	1,800	12,800	0	0
Ⅱd	0	800	5,900	0	0
Ⅲ	0	0	4,400	0	0

C　3G 南壁地点　　単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
Ⅱa	2,700	1,800	18,200	0	0

C－6G 東壁地点　　単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
Ⅱc	900	1,800	12,000	900	0

C－6G 南壁地点　　単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
Ⅱc	2,500	1,700	15,400	0	0
小溝③埋土	900	1,900	19,400	0	900
小溝④埋土	3,600	1,800	10,900	0	0
小溝⑥埋土	1,800	7,500	14,100	900	0

C－5G 南壁地点　　単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
Ⅳ	5,500	900	16,600	0	0
小溝⑦埋土	1,800	900	12,000	0	0
小溝⑨埋土	900	1,800	6,400	0	0

C－2G 南壁地点　　単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
小溝⑩埋土	1,800	0	8,100	0	0

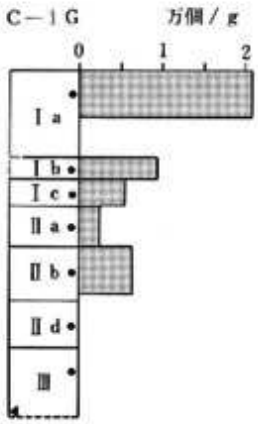


図1　イネのプラント・オパールの検出状況

(注) ◀印は50cmごとのスケール、・印は分析試料の採取箇所

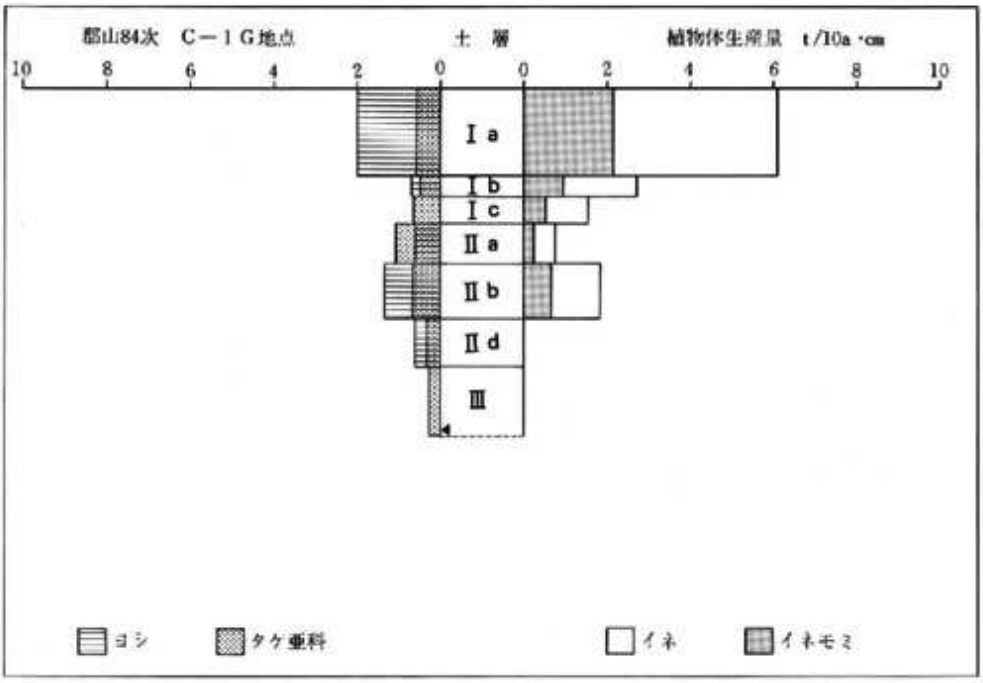
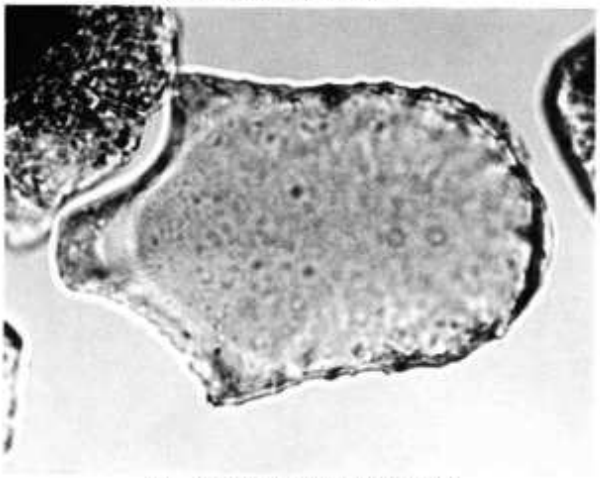


図2　おもな植物の推定生産量と変遷

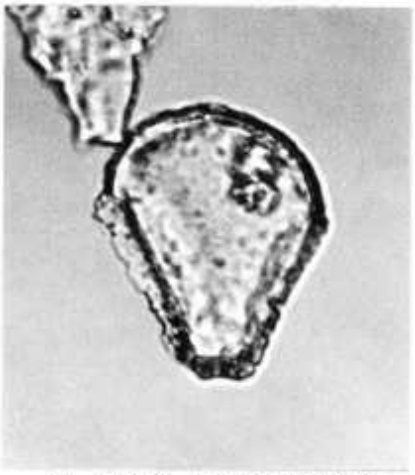
(注) ◀印は50cmごとのスケール

1　イネ　C-6G南小溝③ 400倍

2　イネ　C-6G南小溝⑨ 400倍

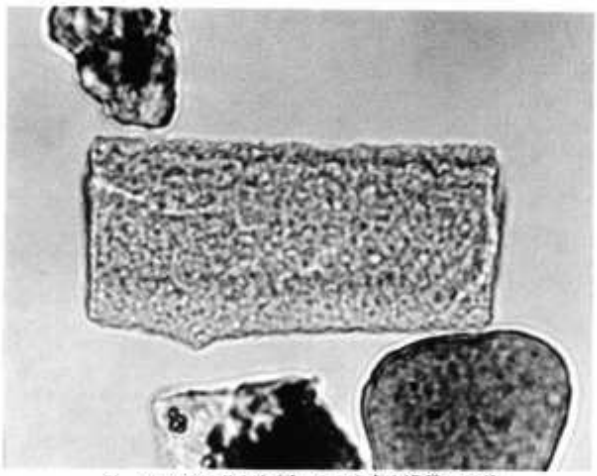


3　ヨシ属　C-5G南小溝⑨ 400倍



4　タケ亜科　C-1G西Ⅱd層 400倍

5　タケ亜科　C-5G南Ⅳ層 400倍



6　イネ科の茎部起源　C-5G南小溝⑨ 400倍

仙台市郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）出土石庖丁の使用痕分析

東北大学（埋蔵文化財調査室）　山　田　しょう

本資料は、仙台市郡山遺跡第85次調査Ｂ区において、弥生時代併形開式期の遺物包含層であるⅢｃ層から出土したものである。

金属顕微鏡の100倍と200倍で表面の光沢面（摩耗面）を観察した。その結果ほぼ全面に須藤、阿子島によって「パッチ状のコーン・グロス」と呼ばれた、主にイネ科植物で現れる使用痕の光沢面の斑が認められた。Ａ面では刃部を除く全面に光沢面が発達しているが、Ｂ面では光沢面の発達が弱く、図で同じ中程度として示した部分でも、Ａ面側の光沢斑の方がより発達している。線状痕は全体に不明瞭で、刃部で一部刃に平行するものがあるが、これは砥石の擦痕が重なったものだろう。砥石による光沢面は、斑状の明瞭なものは見られない。

使用痕の特徴は須藤・阿子島（1985）によって報告されている東北地方の石庖丁の、両面とも向かって左側が光沢面が強くなるという一般的な特徴と一致し、実験との対比から穂摘みの痕跡と解釈されるものである。刃部の光沢面が相対的に弱いのは、刃の研ぎ直しと解される。

Ｂ面上辺にも光沢面の強い部分が認められることは、この石庖丁が左手でも使用され、かつ御堂島（1989）が打製石庖丁について推定した握り方が正しい可能性を示唆する。

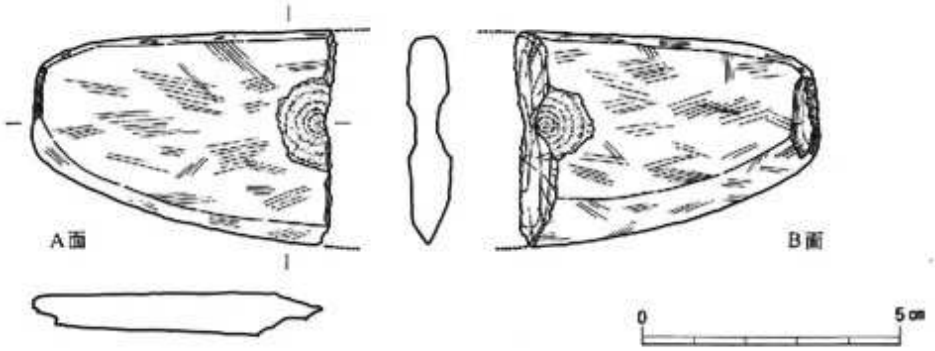
この石庖丁は折れており、かつ孔が貫通していなかったように観察されるため、穿孔中に破損した未製品と考えられた。しかし、実際には使用痕が検出されたので、孔の無い状態で使っていたか、実際には孔が、失われた側の破片に開いていた可能性が考えられる。後者の場合は孔が孔全体の中央からずれたところで貫通していたことになる。光沢面の斑は孔の縁ぎりぎりまで及んでいるが、孔の内部及び縁に形成されたものは一つもない。孔の内部は窪んでいるので、たとえ使用時に孔が存在していたとしても光沢面は形成されにくいが、孔の縁に形成された光沢面が全く無いことは、この孔が使用後に開けられた可能性を支持している。他方、折れ面の縁には折れによって切断された光沢面の斑がいくつか認められる。孔に切られた光沢面の斑は無いが、これは偶然の結果とも解釈できる。そうであれば、この石庖丁は既に完成し使用されていたが、何らかの理由で孔を開け直そうとした際に、破損したと考えられる。

引用文献

須藤　隆・阿子島香(1985)：「東北地方の石包丁について」『日本考古学協会第51回総会研究発表要旨』

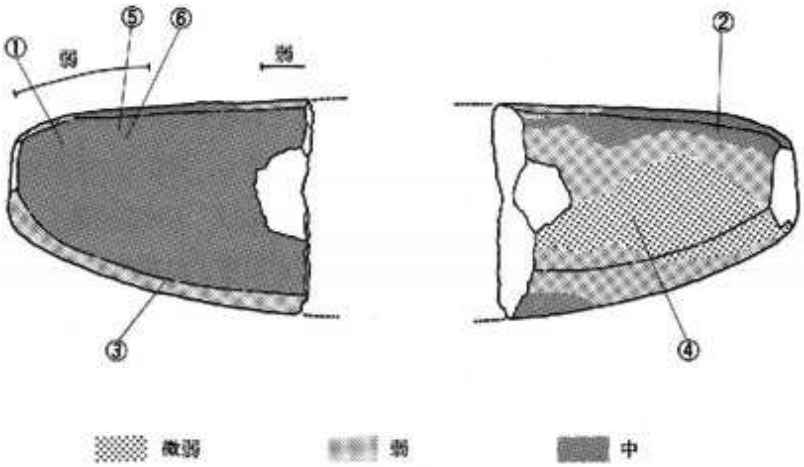
御堂島正(1989)：「『抉入打製石包丁』の使用法」『古代文化』第41巻第８号 pp.1－15

金属顕微鏡は東北大学考古学研究室所蔵のオリンパスBHMを使用させていただいた。

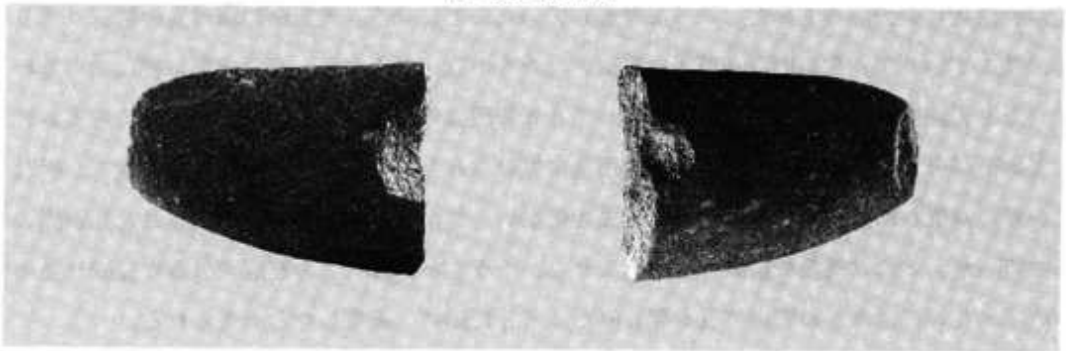


石庖丁実測図

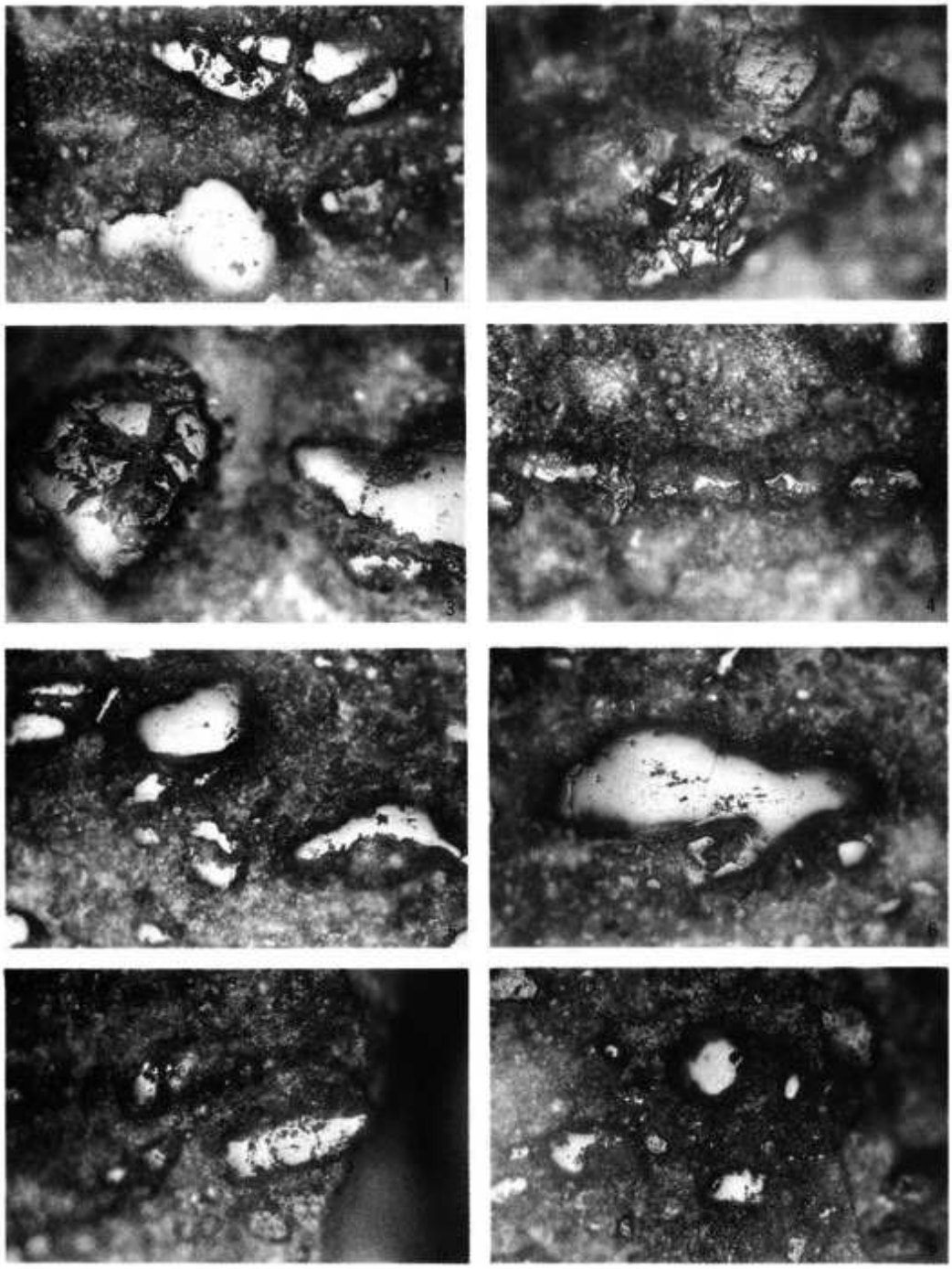
登録番号	石器名称	グリット	層位・地点	標 高	石質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	刃角	備 考	遺物番号
K－1	石 庖 丁	R－4	盲e層	8.19m	片岩	58.35	41.70	7.10	29.15	60°	剝離囲式期、欠損品	107



ポリッシュ分布図



写真



1．5～8は⊢⊣が100μm・2～4は⊢⊣が100μm

イネ科植物の使用痕光沢斑（写真の水平方向が刃の方向）

2．砥石による擦痕（水平方向）が重なったもの
4．水平方向の微高部が摩耗し、使用による線状痕のように見える光沢面
7．折れ面（右端）に切られた光沢面
8．紐穴（右端）の近くの光沢面の分布

仙台市郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）における プラント・オパール分析

古環境研究所

1．はじめに

この調査は、プラント・オパール分析を用いて、郡山遺跡（第85次調査Ｂ区）における稲作跡の探査を行なったものである。

2．試　料

試料は、遺跡調査の担当者によって採取され、当研究所に送付されたものである。調査地点の土層は、Ⅰ層～Ⅲｅ層に分層された。このうち、試料が採取されたのは、Ⅱ層～Ⅲｄ層の各層である。これらの層では、いずれも水田土壌の可能性が考えられており、Ⅲａ層は７～８世紀初め、Ⅲｄ層は弥生時代中期とされていた。図１に、土層断面図と分析試料の採取箇所を示す。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）」をもとに、次の手順で行なった。

(1) 試料土の絶乾（105℃・24時間）、仮比重測定

(2) 試料土約１ｇを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μm、約0.02ｇ）

※電子分析天秤により１万分の１ｇの精度で秤量

(3) 電気炉灰化法による脱有機物処理

(4) 超音波による分散（300w・42KHz・10分間）

(5) 沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥

(6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成

(7) 検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行なった。計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行なった。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中のプラント・オパール個数を求めた。

また、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}ｇ）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、

イネは赤米、ヨシ属はヨシ、タケ亜科はゴキダケの値を用いた。その値は、それぞれ2.94（種実重は1.03）、6.31、0.48である（杉山・藤原、1987）。

4．分析結果

プラント・オパール分析の結果を表1および図1、図2に示す。なお、稲作跡の検証および探査が主目的であるため、同定および定量は、イネ、ヨシ属、タケ亜科、ウシクサ族（ススキやチガヤなどが含まれる）、キビ族（ヒエなどが含まれる）の主要な5分類群に限定した。巻末に各分類群の顕微鏡写真を示す。

5．考　察

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行なう場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行なわれていた可能性が高いと判断している。また、その層にプラント・オパール密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行なわれていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて、稲作の可能性について検討を行なった。

II層～IIIｄ層について分析を行なった結果、II層およびIIIｃ層でイネのプラント・オパールが検出された。このうち、II層では密度が12,700個／ｇと非常に高いことから、稲作が行なわれていた可能性はきわめて高いと考えられる。IIIｃ層では、密度が800個／ｇと低いことから、稲作の可能性はあるものの、上層もしくは他所からの混入の危険性も考えられる。IIIａ層、IIIｂ層、IIIｄ層では、イネのプラント・オパールは検出されなかった。

以上のように、同遺跡ではII層で稲作の可能性が高いと判断され、IIIｃ層でも稲作の可能性が認められた。しかし、その他の層では稲作の可能性は認められなかった。

参考文献

杉山真二・藤原宏志　1987：川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析。赤山―古環境編―。川口市遺跡調査会報告、第10集、281－298。

藤原宏志　1976：プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―。考古学と自然科学、9：15－29。

藤原宏志　1979：プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)―福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（O. sativa L.）生産総量の推定―。考古学と自然科学、12：29－41。

藤原宏志・杉山真二　1984：プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―。考古学と自然科学、17：73－85。

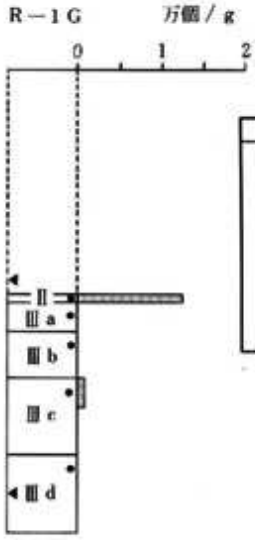


表1　プラント・オパール分析結果

仙台市郡山遺跡85次調査

R－1G西壁地点

単位：個／g

試料名	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
Ⅱ	12,700	1,900	12,700	1,900	0
Ⅲa	0	1,600	13,300	0	0
Ⅲb	0	900	11,100	0	0
Ⅲc	800	800	17,800	0	0
Ⅲd	0	900	18,700	900	0

図1　イネのプラント・オパールの検出状況

(注) ◀印は50cmごとのスケール、・印は分析試料の採取箇所

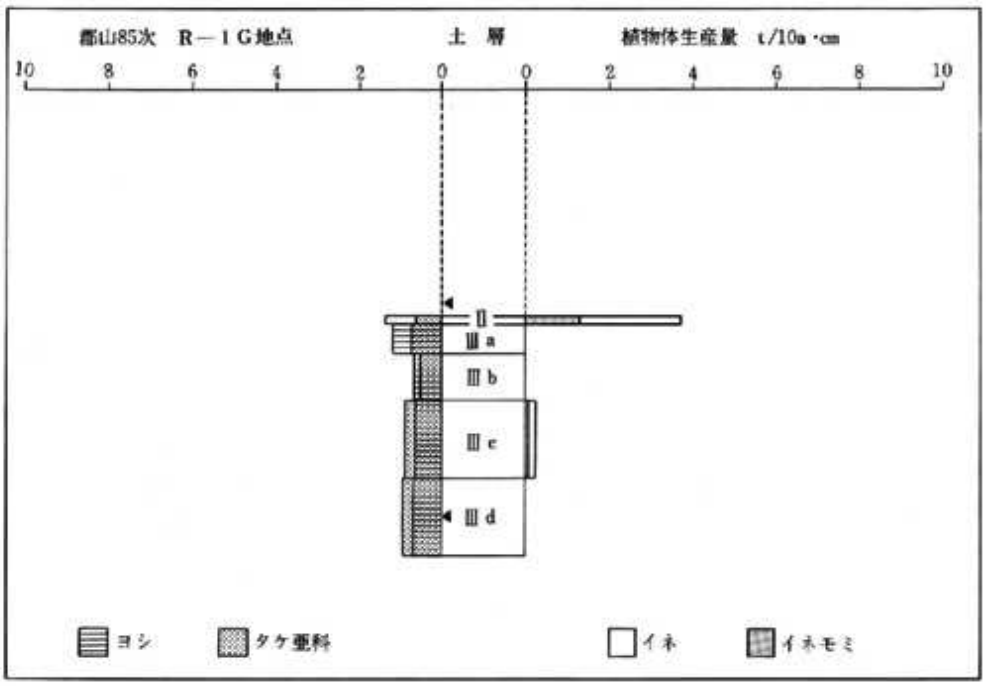
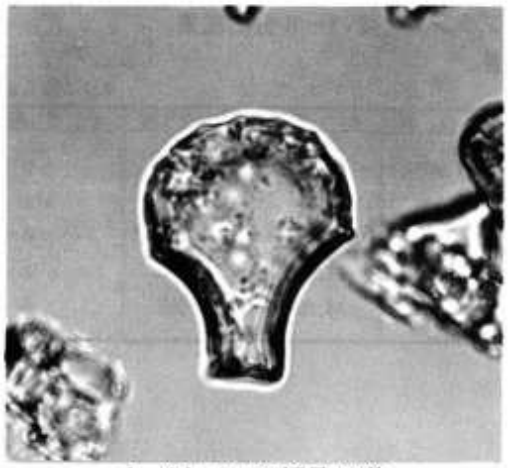
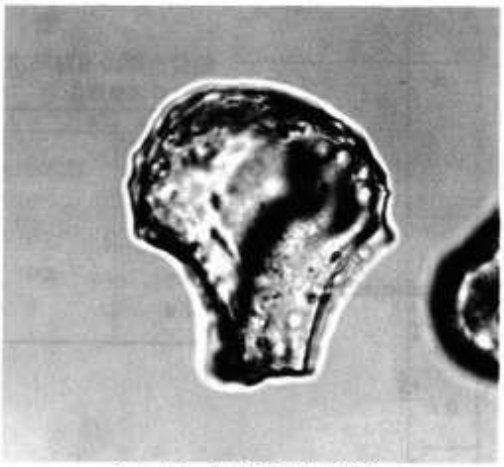


図2　おもな植物の推定生産量と変遷

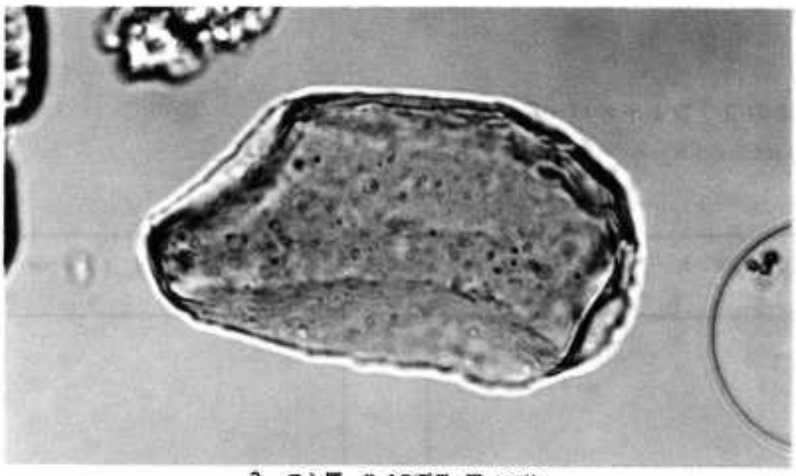
(注) ◀印は50cmごとのスケール



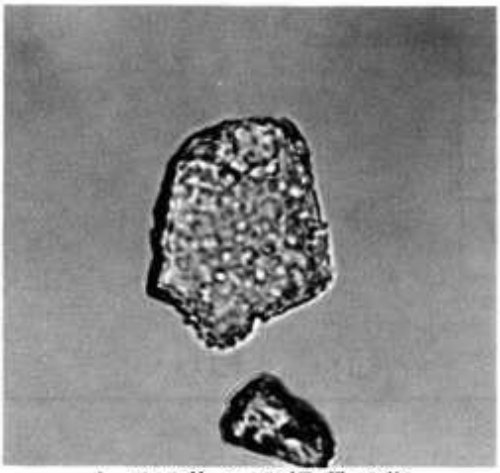
1　イネ　R-1G西Ⅱ層 400倍



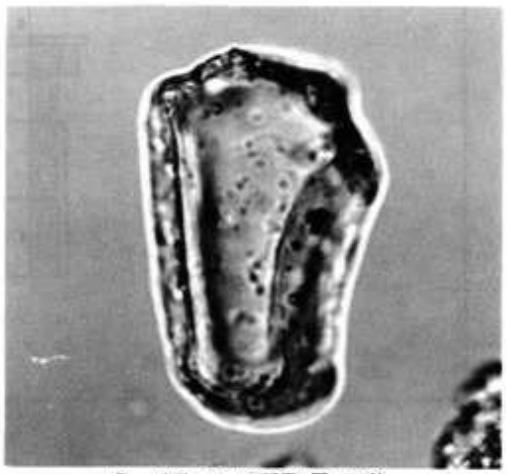
2　イネ　R-1G西Ⅱ層 400倍



3　ヨシ属　R-1G西Ⅲa層 400倍



4　タケ亜科　R-1G西Ⅲa層 400倍



5　不明　R-1G西Ⅲb層 400倍

Ⅷ　ま　と　め

今回の第84・85次調査では、3地点の調査が南北140m、東西90mの範囲で行われ、古墳時代後期から平安時代の遺構が検出され、出土した遺物の時期は弥生時代から近世に及んでいる。なかでも、第84次調査では4面の遺構面が検出され、層位的な遺構の変遷も把握されている。また、豊島正幸氏による航空写真の判読により、郡山遺跡を中心としたより細かな微地形分布が示され、広瀬川右岸の段丘崖の存在も明らかにされている。ここでは、検出された遺構・遺物を弥生時代から順に要約しておきたい。尚、郡山遺跡では検出された遺構を第1～第5段階に時期区分している。

(1)弥生時代(第1段階)：弥生時代の遺物は各調査区から出土しているが、第85次調査B区では桝形囲式期の古い段階の遺物が基本層Ⅲc層から土器273点、石器77点の総数350点出土している。これらの遺物には、分布、接合関係、分類を通して以下のようなことが認められる。

①分布

・遺物の出土は東西12～13m、南北10mの範囲で比較的多く、地点的に集中するところがある。

・土器の集中するところと石器の集中するところは異なる傾向がある。

・土器及び石器（Ⅰ～Ⅵ類）の集中するところとチップの集中するところは異なる。

②接合関係

・接合する土器には近接した位置関係を示すものと、比較的離れた位置関係を示すものがある。

・石器の接合資料は1例だけであり、接合した2点の石器は近接した位置から出土している。

③土器・石器

・土器は主に文様からⅠ～Ⅲ類に分けられ、桝形囲貝塚出土資料との類似性が認められる。

・土器の器種には甕、鉢、台付鉢、高坏、盌、甕が認められる。

・土器はほとんど破片であり、器形を復元できる個体は極めて少ない。

・石器は、形態から磨製石器と打製石器Ⅰ～Ⅶ類にわけられたが、定形化した石器は極めて少なく、石庖丁1点と石鏃1点の計2点である。

・石庖丁には、使用痕分析によりイネ科植物に対して機能したことが明らかにされた。

・石材は10種類認められ、磨製石庖丁の石材は阿武隈山系に求められるが、他の石材は遺跡周辺で採取可能なものであり、流紋岩が多用されている。

これらの遺物の分布はひとつのまとまりを示しているが、前述のようにⅢc層の上面で検出されたものに限られているため、その性格については言及できないが、近くにこの時期の居住域が存在することは十分に考えられる。また、プラント・オパール分析によりⅢc層からはイネ機動細胞のプラント・オパールが800個／g検出されており、調査区及び周辺での水田跡の存

在も推定されている。今後この周辺の調査では、弥生時代の集落の存在を念頭におく必要があろう。尚、第84次調査基本層IV層からもイネ機動細胞のプラント・オパールが5500個／g検出されており、その層位的な対応関係も課題とされる。

(2)古墳時代後期～奈良時代初頭(第2～第4段階)：この時期の遺構検出面は、第84次調査では基本層IIｄ層上面、第85次調査ではA区、B区ともにIII層上面である。各調査地点で検出された遺構は以下の通りである。

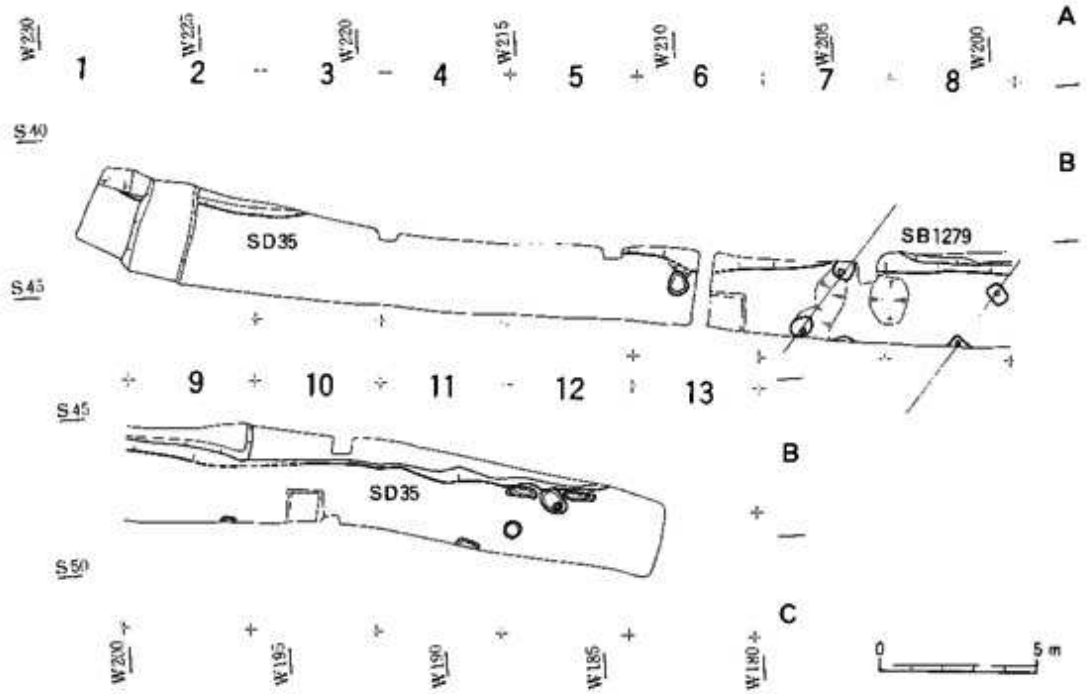
①第84次調査：掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡3軒、溝跡1条、土坑4基、性格不明遺構1基、ピット73基

②第85次調査A区：掘立柱建物跡1棟、溝跡1条（方四町II期官衙外郭南辺大溝SD35)、ピット4基

③第85次調査B区：掘立柱建物跡3棟、溝跡1条、性格不明遺構2基、ピット40基

掘立柱建物跡は5棟検出されており、II期官衙外郭南辺大溝（SD35）を含めると、その新旧関係は、次のように示される。

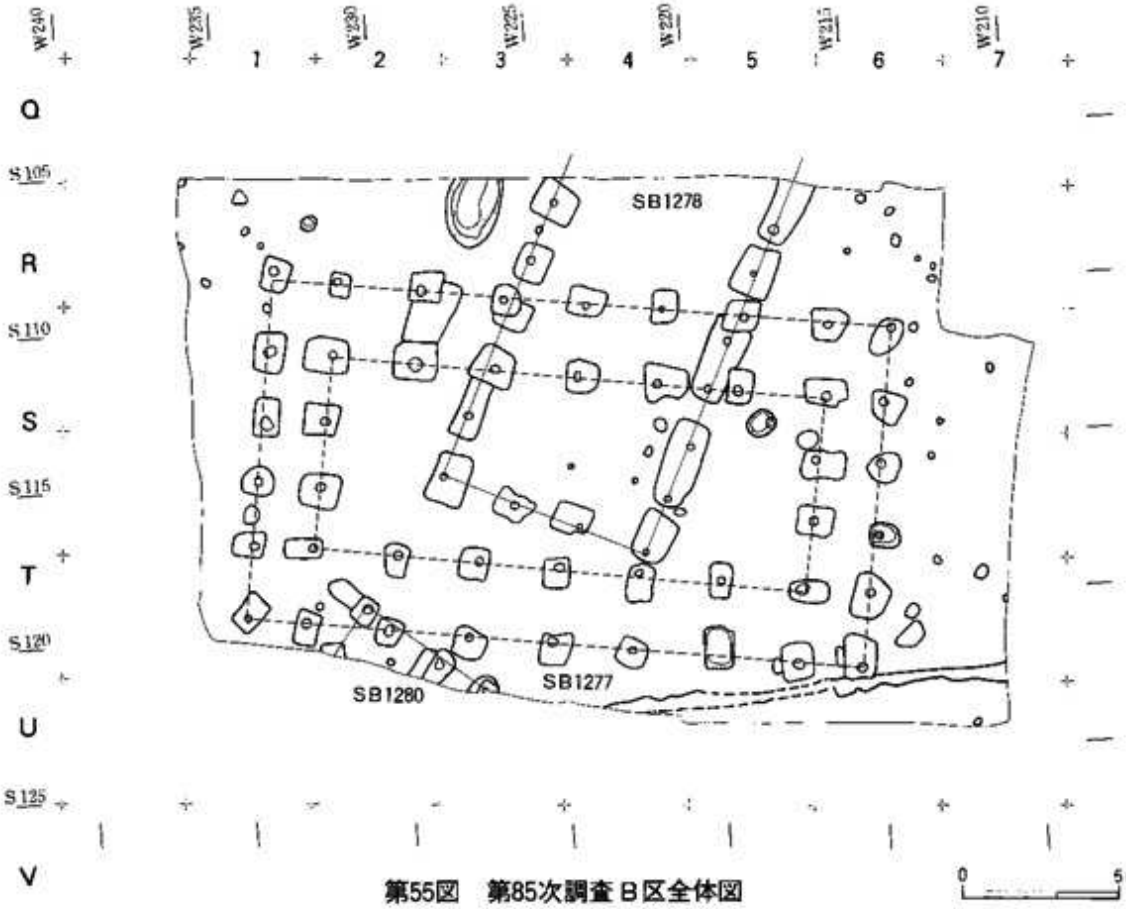
		第84次		第85次A		第85次B	
非真北基準	旧	SB1265	……	SB1279	……	SB1278	……SB1280
		(E-36°-S)		(N 32° E)		(N-17°-E)	(E-31°-S)
真北基準	新			SD35		SB1277	
						(N-2° E)	



第54図　第85次調査A区全体図

これらの掘立柱建物跡はいずれも出土遺物からその時期を明確にできないが、真北方向を基準とするSB1277は、方四町II期官衙、郡山廃寺の基準線と密接な関連性があり、SD35との同時性を考えることができる。また、他の4棟の掘立柱建物跡については真北から約30度東に偏向する方向性を示すI期官衙に伴う可能性がある。しかし、SB1278のように真北から17度東に偏向しているものや、SB1265、SB1279のように他の遺構との新旧関係をもたないものもあり、なお検討を要する。

竪穴住居跡は、第85次調査では検出されておらず、第84次調査で3棟（SI1267、SI1268、SI1269）検出されている。いずれも全容は明らかではないが、平面形は方形を基調とし、SI1267、SI1268には北辺にカマドが施設されている。SI1267では、カマドの灰の灰像分析の結果、イネが少なく、ヨシの葉や茎に似た灰像が多く検出され、ヨシの利用が多かった可能性が指摘されている。各住居の時期は、SI1269は掘り込みを行ってはおらず、SI1267、SI1268についても遺物の出土状態からは時期を明確にできない。しかし、埋土などから出土した遺物のうち土師器坏には、口縁が内湾気味に立ち上がり、丸底であることなどの共通性とともに、SI1267の3点は内外面に段をもつが、SI1268の2点は共に外面にのみ段をもつ違いもみられる。これらに類



第55図　第85次調査B区全体図

似する遺物は、郡山遺跡では第３段階、第４段階の遺構から出土しており、２棟の竪穴住居跡の時期を示す可能性がある。また、住居の方向性については、SI1267 のようにN－32°－Eと I 期官衙と同様の数値を示すものもあるが、SI1268 はN－26°－E、SI1269 はN－25°－Eと異なる。住居の方向性は、東偏30度を示すものが I 期官衙以前の竪穴住居跡にもあり、第83次調査までに検出された総数109棟の竪穴住居跡、竪穴建物跡などにおいても真北及び東偏30度を基準として集中する傾向は材木列による区画ブロック内や方四町II期官衙中央部の竪穴建物跡、寺院東方建物群周辺には認められるが、第84次調査地区など、他の地区では顕著でない。そのため、方向性からの所属時期の検討は慎重を要する。

さて、今回の調査では、方四町II期官衙外郭南辺と郡山廃寺の間の第85次Ｂ区で四面廂付の東西棟掘立柱建物跡 SB1277 が検出されている。また、その位置は郡山廃寺南北中軸線の延長上にあり、計画的な配置によるものと考えられる。この建物跡は、桁行８間・梁行５間で、第83次調査で検出された掘立柱建物跡 SB1250 と同じ構造を示している。SB1250 は政庁正殿と考えられているが、規模の点では SB1277 のほうがひとまわり大きい。この建物跡の性格については、今後の課題とされる。

ところで、こうした四面廂付の掘立柱建物跡は他の遺跡でも例が少なく、同じ頃のものとしては名生館遺跡の政庁正殿があるが、桁行間数が７間と奇数間であり、SB1277、SB1250 とは異なる。また、桁行間数だけでいえば、多賀城 I 期の政庁正殿も５間と奇数間である。偶数間の四面廂付の建物跡は、礎石立ちの建物であるが多賀城廃寺の講堂があげられ、桁行８間、梁行４間である。郡山廃寺の全容はまだ明らかではないが、多賀城廃寺との類似性が指摘されており、同様の偶数間の可能性がある。その解明は今後の課題とされるが、SB1277 については SB1250 とともに桁行が偶数間であることには留意していく必要があろう。

(3)奈良時代～平安時代（第５－Ａ段階）：この時期の遺構は、第84次調査のII c・II d 層上面において小溝状遺構群がＡ群・Ｂ群の２群検出されている。この遺構は畑跡の存在を示すことが推定されており、プラント・オパール分析結果もその可能性を指摘している。小溝状遺構群は、郡山遺跡の他の調査でも検出されているが、I 期・II期の官衙跡との関係では、それらより古いか、あるいは第84次調査のように新しいかのいずれかであり、その間にはいるものは今のところ認められていない。これは、I 期・II期の官衙跡の連続性を傍証するものであろう。

(4)平安時代(第５－Ａ段階)：この時期の遺構は、第84次調査のII b 層上面で検出されたII a 層を耕作土とする水田跡（II a 層水田跡）とII a 層上面で検出された土坑、ピットなどであり、その間の土地利用の変化を示している。前者は10世紀前半と推定される灰白色火山灰降下以前、後者は灰白色火山灰降下前後に位置付けられる。郡山遺跡では、平安時代の遺構の検出例は少ないが、第84次調査区に隣接する第62次調査や第55次調査、第70次調査で検出されている。

(5)中世～近世(第５－Ｂ段階)：今回の調査では遺構は検出されなかったが、遺物が出土している。郡山遺跡の東には北目城跡があり、それに関連する遺構も今後明らかにされていくものと考えられる。

以上のように、第84次調査、第85次調査では、弥生時代から近世にかけての遺構あるいは遺物が検出されているが、これらと地形環境との関連性についても考えておきたい。

豊島正幸氏の航空写真の判読によって明らかにされた郡山遺跡周辺の微地形は、この地域にはいくつもの旧河道が広く分布している事を示しており、北部には段丘崖が認められる。今回の調査地点は自然堤防から旧河道にかけて立地しているが、３地点とも古墳時代後期から平安時代（第２～第５段階）では河道は検出されておらず、河道が存在した時期はそれ以前であることを示している。しかし、それらが弥生時代（第１段階）の地形環境を示すものであるかどうかは遺構面が確認されていないため不明である。第２段階以降では、河道の埋積にともない、微起伏のある地形面が展開していたものと考えられ、それは第84次調査における水田の形態や小溝状遺構群の方向と関連しているものと理解される。また、遺跡全体でも旧河道部分に位置する他の地点の調査結果もそれらの多くが第２段階以前のものであることを示しており、今回の調査地点と同様の地形面の展開を考えることができる。これは、水田耕作や畑作にとって、耕地としての土地条件が地形面の制約を受けやすい環境にあったことを推測させる。しかし、官衙にともなう掘立柱建物跡の配置と地形面との間には密接な関連性はほとんど認められない。

ところで、旧河道のなかには遺跡の南縁から西南縁にかけて比高差が１～２ｍあり、現在でも水田として利用されているものがある。ここでの調査は行われておらず、時期は不明であるが、第２段階以前の旧河道とは異なるものであり、遺跡の南縁を示すものと推定されている。また、遺跡北部の段丘崖の形成時期は明確ではないが、段丘崖の北側で行われた２地点の調査では遺構、遺物はまったく検出されていない。この段丘崖の崖線は、広瀬川に面するところでは、約60度西偏しており、Ⅰ期官衙にともなう掘立柱建物跡などの方向と関連する可能性があり、Ⅱ期官衙外郭線の北辺や北東コーナーと段丘崖の位置には密接な関連性を認めることも可能である。こうした地形と遺構の関係は、竪穴住居跡の方向についても、より近い位置にある崖線や、現況でも認めることのできる比高差のある旧河道の方向などからも考えていく必要があろう。

今後、地形環境とともに植生などの復原が各時代をとおして進むことにより、郡山遺跡における通時的な人類の営みが解明されていくものと考える。

註

1．仙台市教育委員会　1980「３．郡山遺跡発掘調査概報」『年報１』仙台市文化財調査報告書第23集

2．仙台市教育委員会　1981『郡山遺跡Ⅰ―昭和55年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第29集
3．仙台市教育委員会　1982『郡山遺跡Ⅱ―昭和56年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第38集
4．仙台市教育委員会　1982『郡山遺跡―宅地造成に伴う緊急発掘調査―』仙台市文化財調査報告書第42集
5．仙台市教育委員会　1983『郡山遺跡Ⅲ―昭和57年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第46集
6．仙台市教育委員会　1984『郡山遺跡Ⅳ―昭和58年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第64集
7．仙台市教育委員会　1985『郡山遺跡Ⅴ　昭和59年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第74集
8．仙台市教育委員会　1986『郡山遺跡Ⅵ―昭和60年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第86集
9．仙台市教育委員会　1987『郡山遺跡Ⅶ―昭和61年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第96集
10．仙台市教育委員会　1988『郡山遺跡Ⅷ　昭和62年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第110集
11．仙台市教育委員会　1989『郡山遺跡Ⅸ―昭和63年度発掘調査概報　』仙台市文化財調査報告書第124集
12．仙台市教育委員会　1990『郡山遺跡Ⅹ―平成元年度発掘調査概報―』仙台市文化財調査報告書第133集
13．地団研仙台支部編　1980「新編　仙台の地学」
14．経済企画庁　1967「地形・表層地質・土じょう　仙台」
15．中田他　1976「仙台平野西縁・長町―利府線に沿う新期地殻変動」『東北地理』第28巻第2号
16．伊藤玄三　1958「仙台市西台畑出土の弥生式土器」『考古学雑誌』第44巻第1号
17．伊藤玄三　1961「東北日本における弥生時代の墓制」『文化』第25巻第3号
18．仙台市教育委員会　1983「3．西台畑遺跡」『年報4』仙台市文化財調査報告書第57集
19．仙台市教育委員会　1985『大ノ上Ⅰ遺跡』仙台市文化財調査報告書第79集
20．山田一郎・庄子貞雄「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報』1979
21．白鳥良一　1980「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』Ⅶ　宮城県多賀城跡研究所
22．仙台市教育委員会　1987『富沢―富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第98集
23．今泉隆雄氏の御教示による
24．氏家和典　1957「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14集
25．仙台市教育委員会　1981『六反田遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第34集
26．仙台市教育委員会　1987『六反田遺跡Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第102集
27．山内清男　1979『日本先史土器の縄紋』東京・先史考古学会
28．阿子島香　1984「不定形石器分析の視点」『文化』第47巻第3・4号
29．岡村道雄　1979「ピエス・エスキーユについて」『東北考古学の諸問題』
30．佐々木隆氏の御教示による
31．山内清男　1930「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第1巻第3号
32．伊東信雄　1977「山内博士東北縄文土器編年の成立過程」『考古学研究』第24巻第3・4号
33．杉原荘介　1936「下野・野沢遺跡及び陸前・桝形囲貝塚出土の弥生式土器の位置に就いて」『考古学』第7巻第8号
34．須藤　隆　1987「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』第73巻第1号
35．馬目順一　1987「桝形式と南御山式土器」『弥生文化の研究』第4巻弥生土器Ⅱ
36．伊東信雄　1950「仙台市の古代遺跡」『仙台市史』第1巻
37．伊東信雄　1950「東北地方の弥生式文化」『文化』第2巻第4号
38．伊東信雄　1955「東北」『日本考古学講座』第3巻
39．伊東信雄　1960「東北北部の弥生式土器」『文化』第24巻第1号
40．中村五郎　1976「東北地方南部の弥生式土器編年」『東北考古学の諸問題』
41．仙台市教育委員会　1985『南小泉遺跡　第12次発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第80集

写　真　図　版

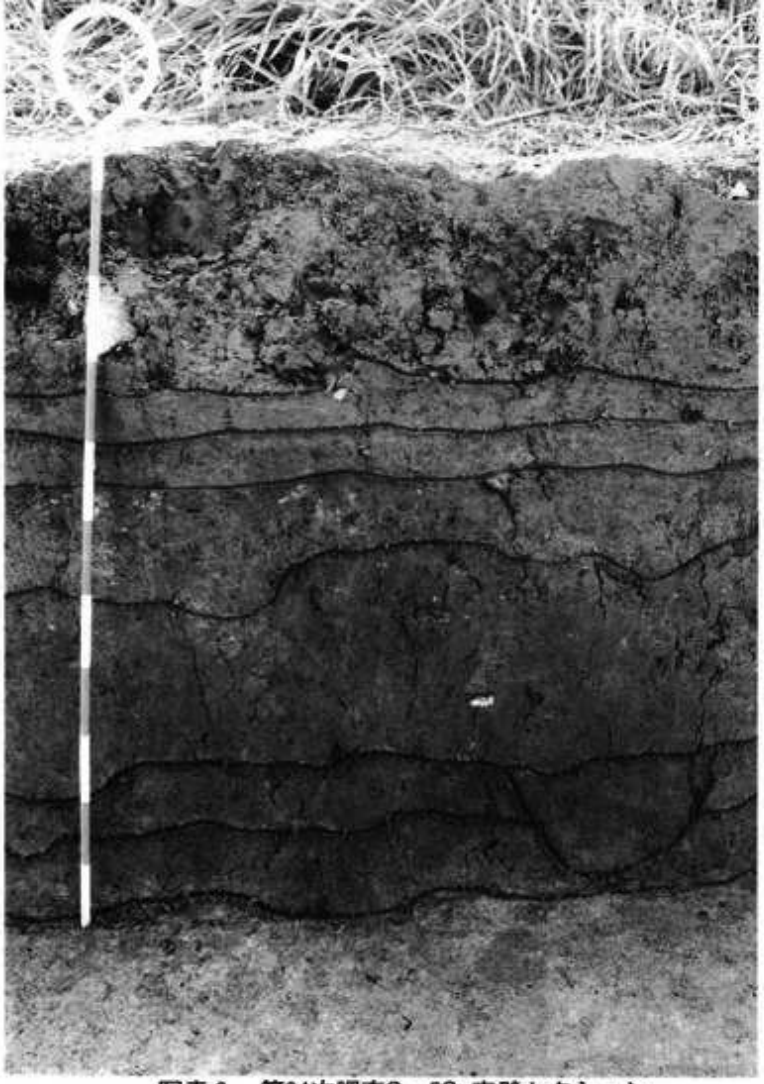


写真3　第84次調査C－5G 南壁セクション

写真4　SX1258全景(南から)

写真5　SK1256全景(南から)

写真6
SK1256セクション
（南から）

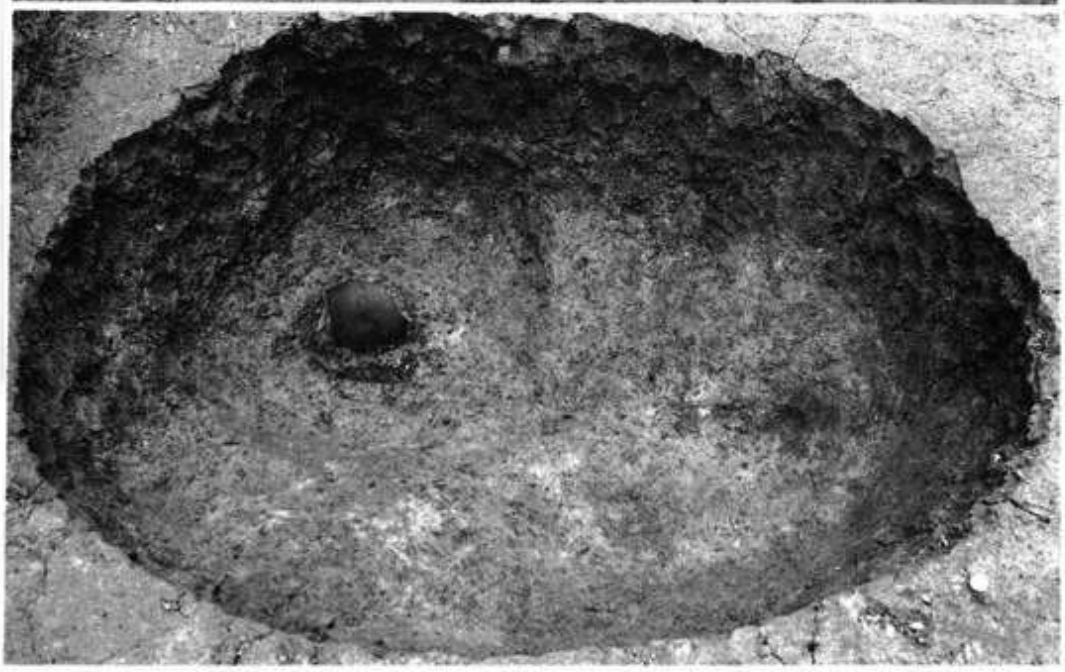


写真7
SK1257全景
（東から）

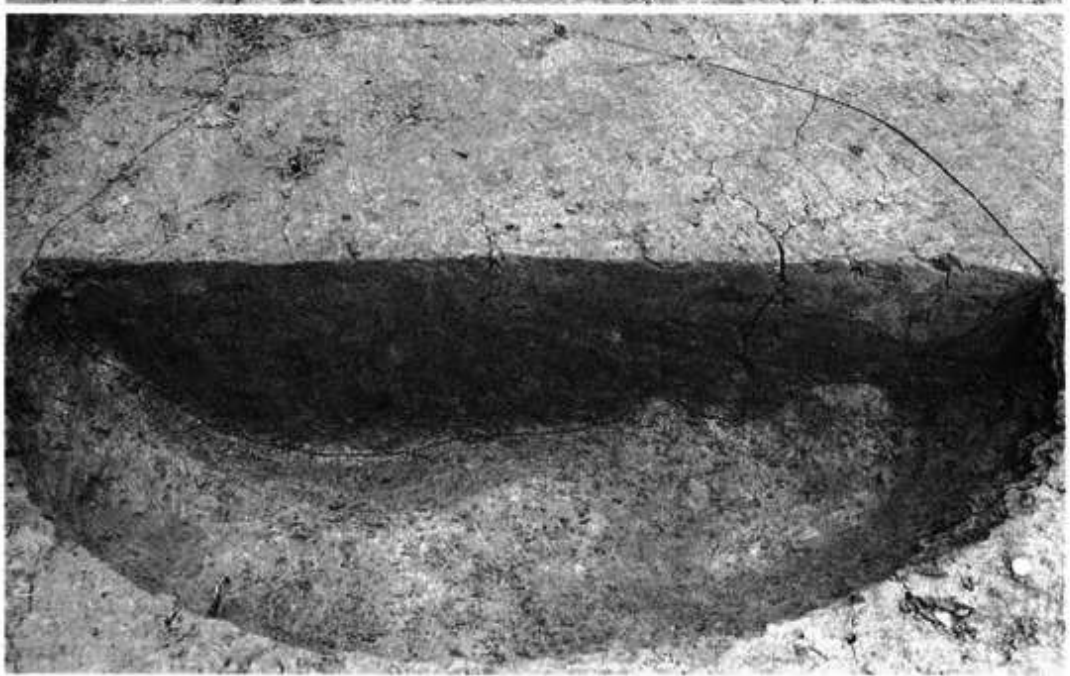


写真8
SK1257セクション
（東から）

写真9
SK1255全景
（東から）

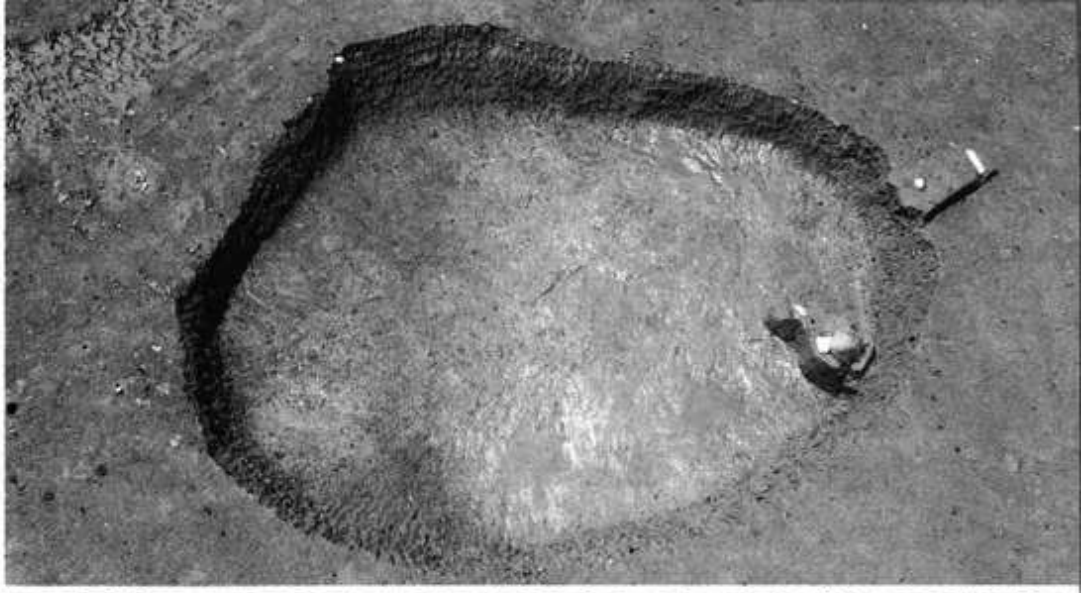


写真10
SK1255セクション
（南から）

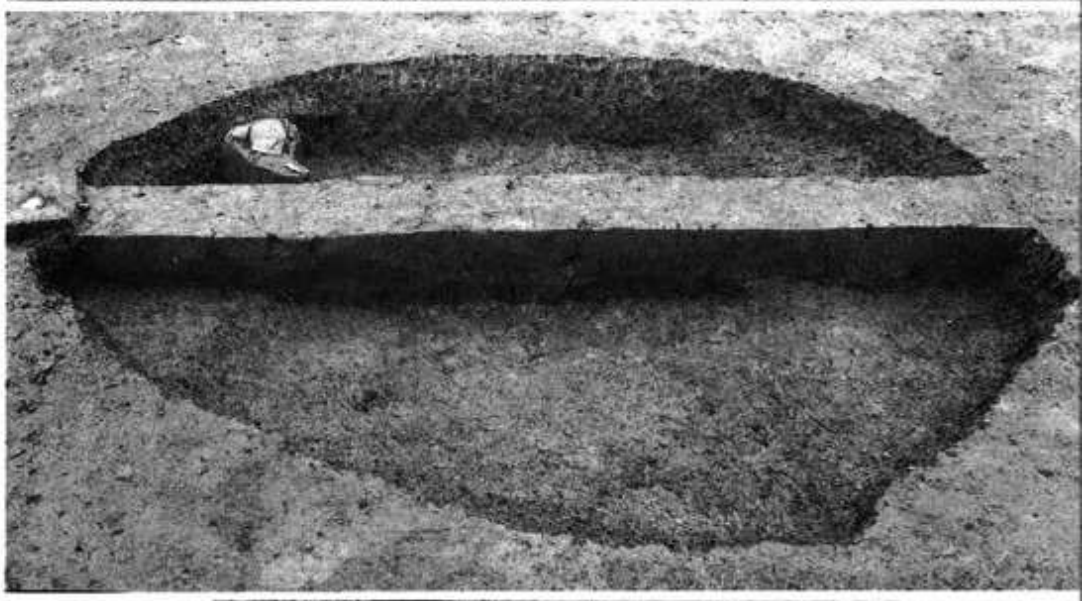
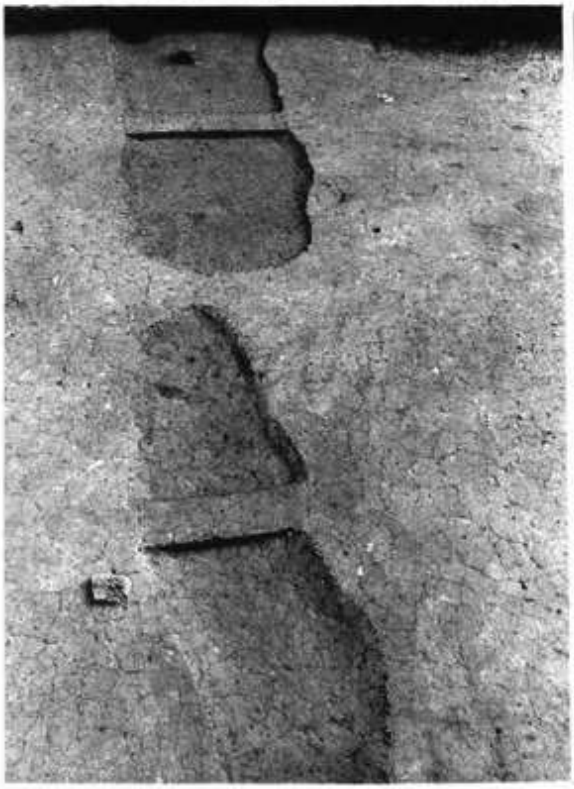


写真11
SK1259全景
（東から）

写真12
SK1259
確認プラン

写真13
SK1259
セクション



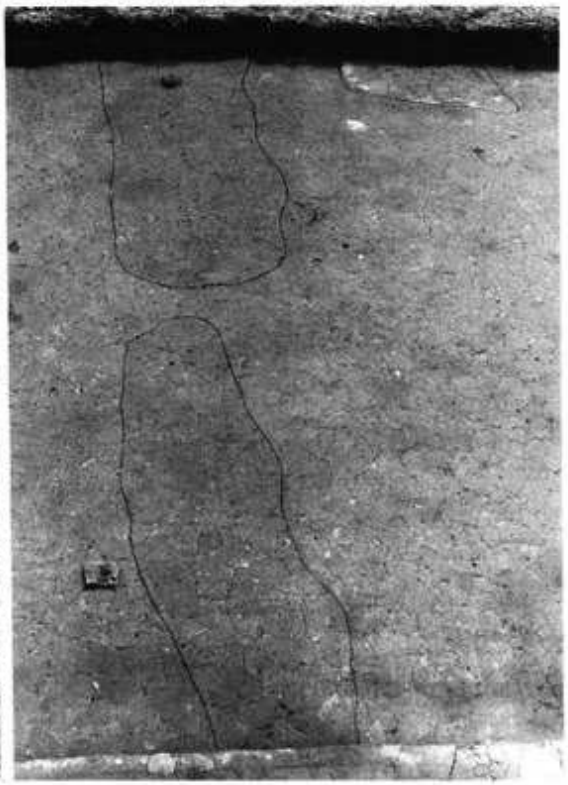


写真14(左)
SX1260
SX1261
全景(北から)

写真15
SX1260
SX1261
確認プラン
(北から)

写真16
SK1262セクション
(西から)

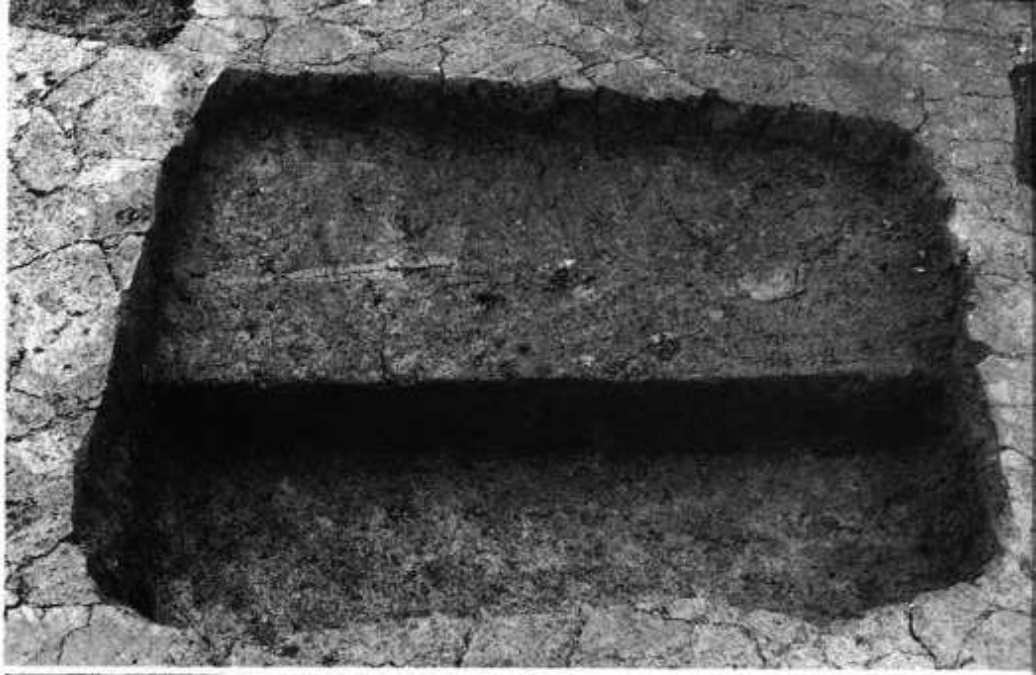
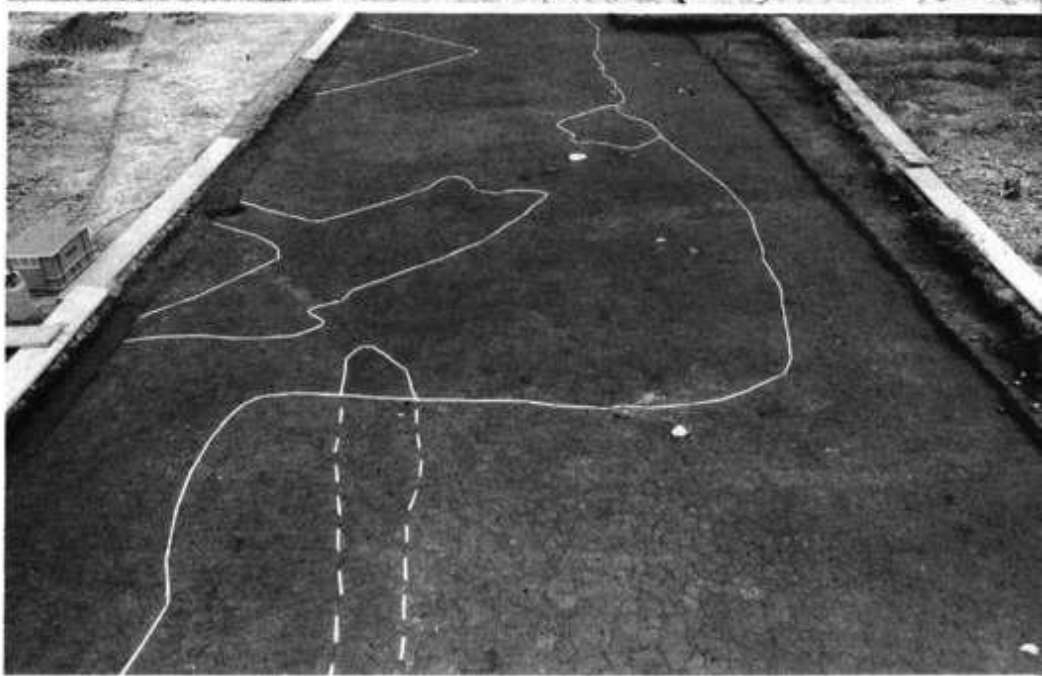


写真17
SK1263全景
セクション

写真18
C−1～3G
Ⅱa層中遺構
確認プラン
(西から)



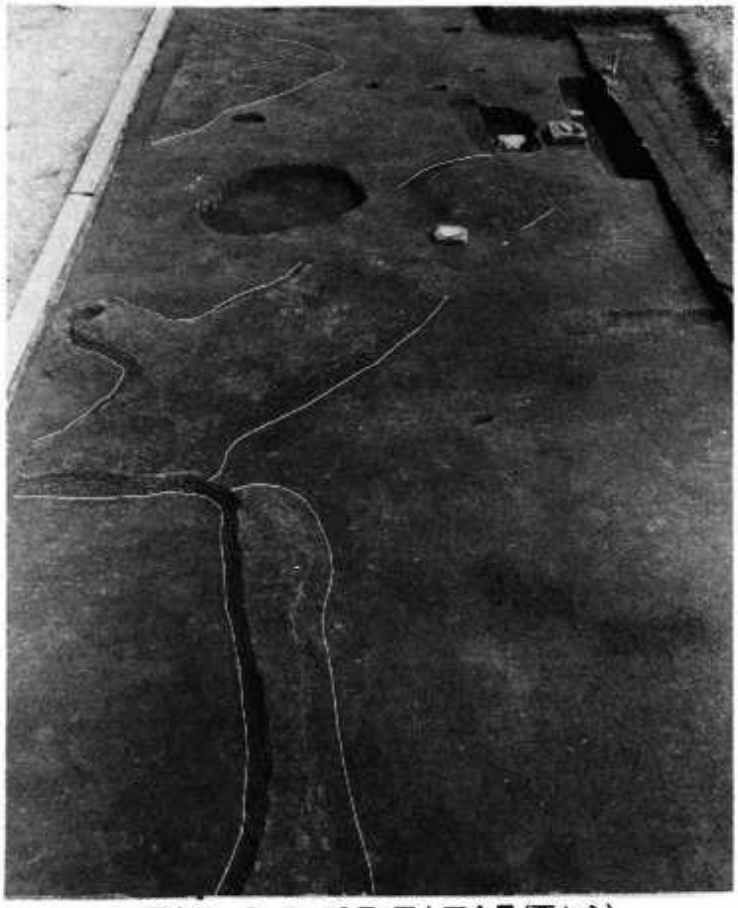


写真19　C－1～3GⅡb層上面全景（西から）

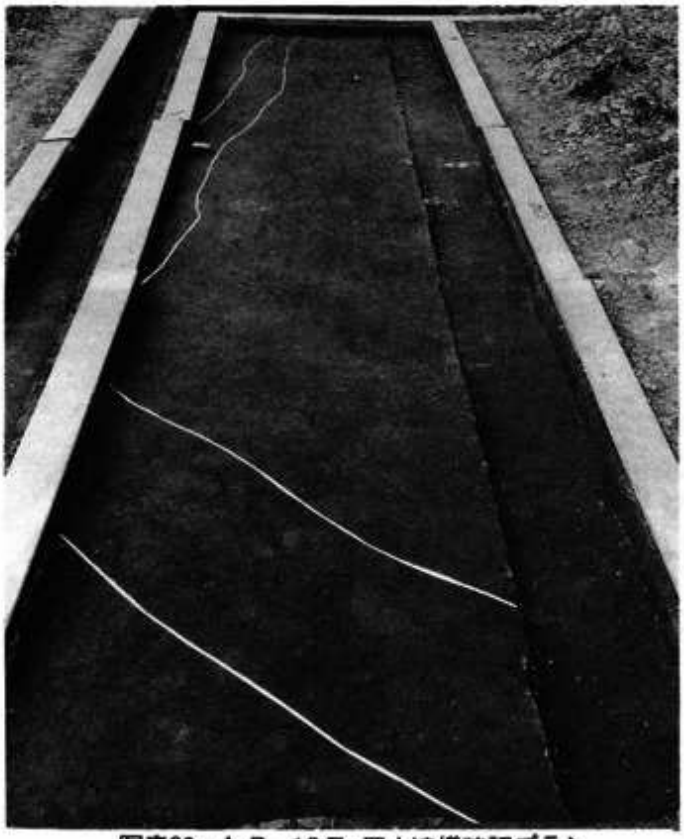


写真20　A・B－1GⅡa層中遺構確認プラン（南から）

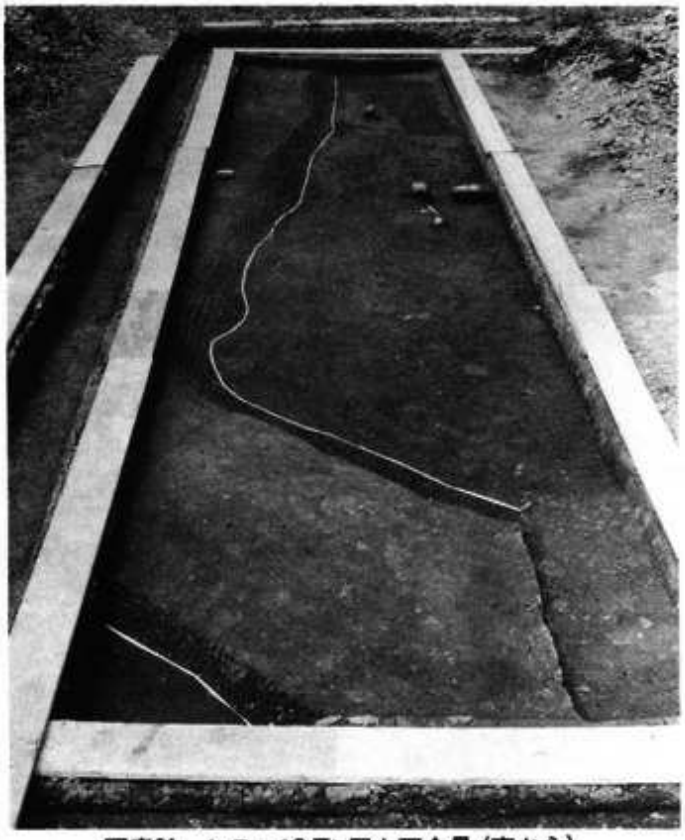


写真21　A・B－1GⅡb層上面全景（南から）

写真22
IIa層中土器一括
出土状況(1)
(北から)

写真23(上・左)
IIa層中土器一括
出土状況(2)
(北から)

写真24(上・右)
IIa層中土器一括
出土状況(3)
(東から)

写真25(右)
IIa層中土器一括
出土状況(4)
(北から)

写真26　C−4〜6GⅡcⅡd層上面遺構確認プラン(東から)

写真27　C−4〜6GⅡcⅡd層上面小溝状遺構群全景(東から)

写真28　小溝①セクション(北から)

写真29　小溝②セクション(北から)

写真30　小溝③セクション(北から)

写真31　小溝④セクション(北から)

写真32　小溝⑦セクション(北から)

写真33　小溝⑧セクション(北から)

写真34　小溝⑨セクション(北から)

写真35　小溝⑪セクション(北から)

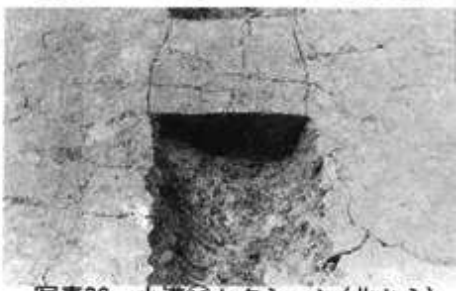


写真36　小溝⑫セクション(北から)

写真37
C−2,3G
Ⅱd層上面遺構
確認プラン(北から)

写真38
Ⅱd層上面小溝状
遺構群全景
(北から)

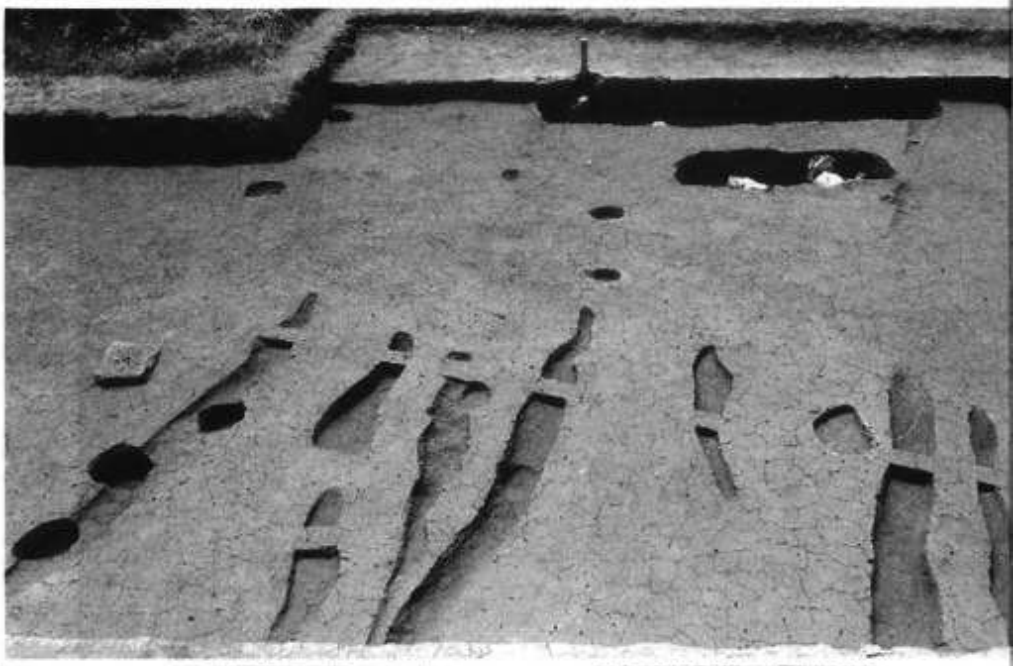


写真39　小溝⑬セクション(北から)

写真40　小溝⑭セクション(北から)

写真41　小溝⑮セクション(北から)

写真42　小溝⑰セクション(北から)

写真43　小溝⑱セクション(北から)

写真44　小溝⑲セクション(1)(北から)

写真45　小溝⑲セクション(2)(北から)

写真46　小溝⑲セクション(3)(北から)

写真47　小溝⑳セクション(北から)

写真48
Ⅱd層上面全景
（西から）

写真49
SI1268
SD1266全景
（西から）

写真50
A・B－1G
Ⅱd層上面遺構
確認プラン(北から)

写真51
SB1265全景
(南から)

写真52
SI1267全景
(南から)

写真53　SI1267カマド全景(南から)

写真54　SI1267カマドセクション(東から)

写真55　SI1267 P1遺物出土状況(東から)

写真56　SI1267南壁セクション(北から)

写真57
SI1267
P3,P4全景
(上から)

写真58
SI1267
P1セクション
(東から)

写真59
SI1267
P3,P4
セクション
(西から)

写真60
SI1268
P5セクション
(東から)

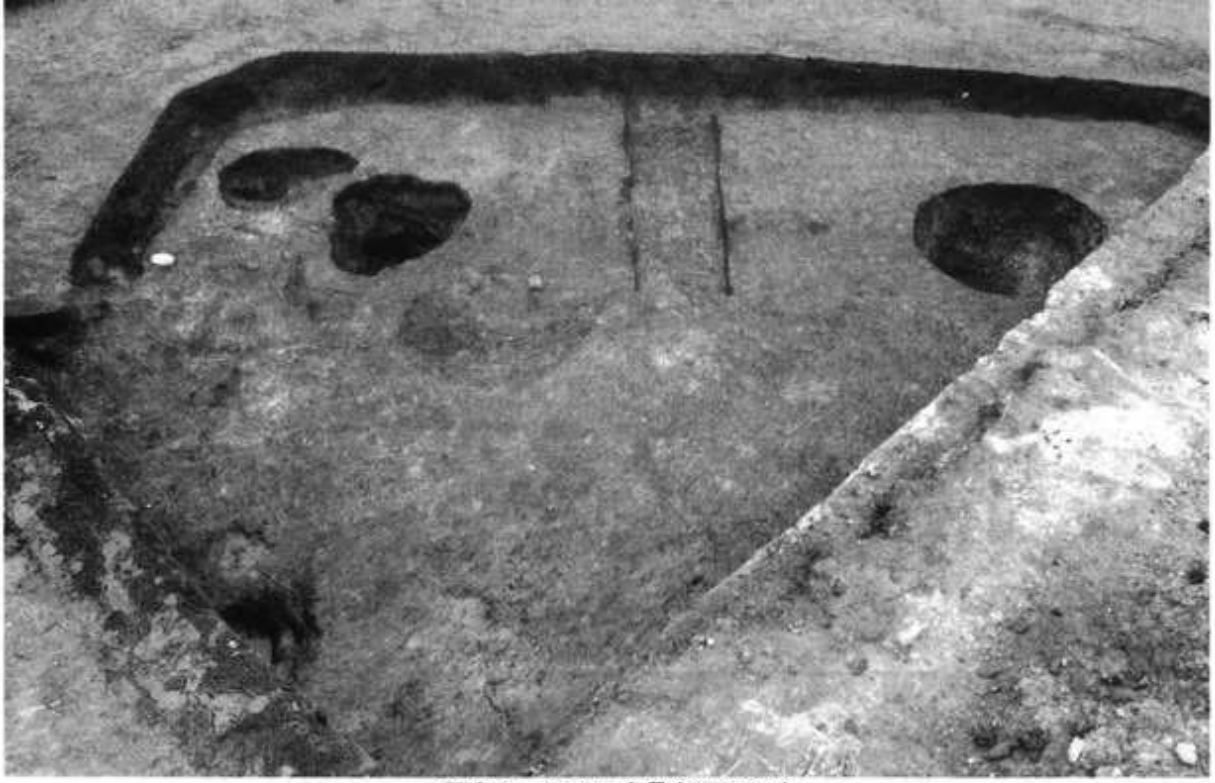


写真61　SI1268全景(南西から)

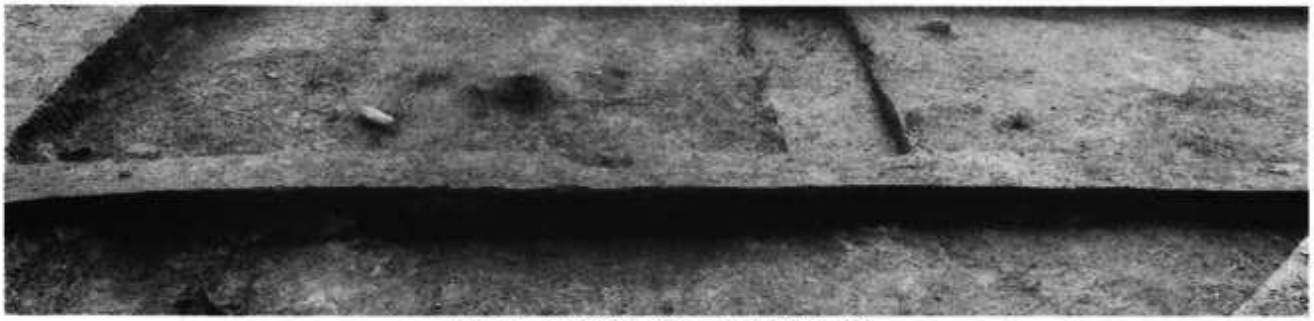


写真62　SI1268セクション(南西から)

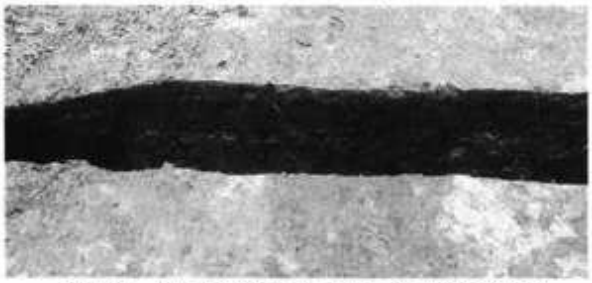


写真63　SI1268貼床セクション(南西から)

写真64　SI1268貼床P5セクション(南西から)

写真65
SI1268
P1セクション
(東から)

写真66
SI1268
P3セクション
(東から)

写真67
SI1268
P4セクション
(東から)

写真68
SI1268
周溝セクション
(北から)

写真69
SD1266セクション
（北から）

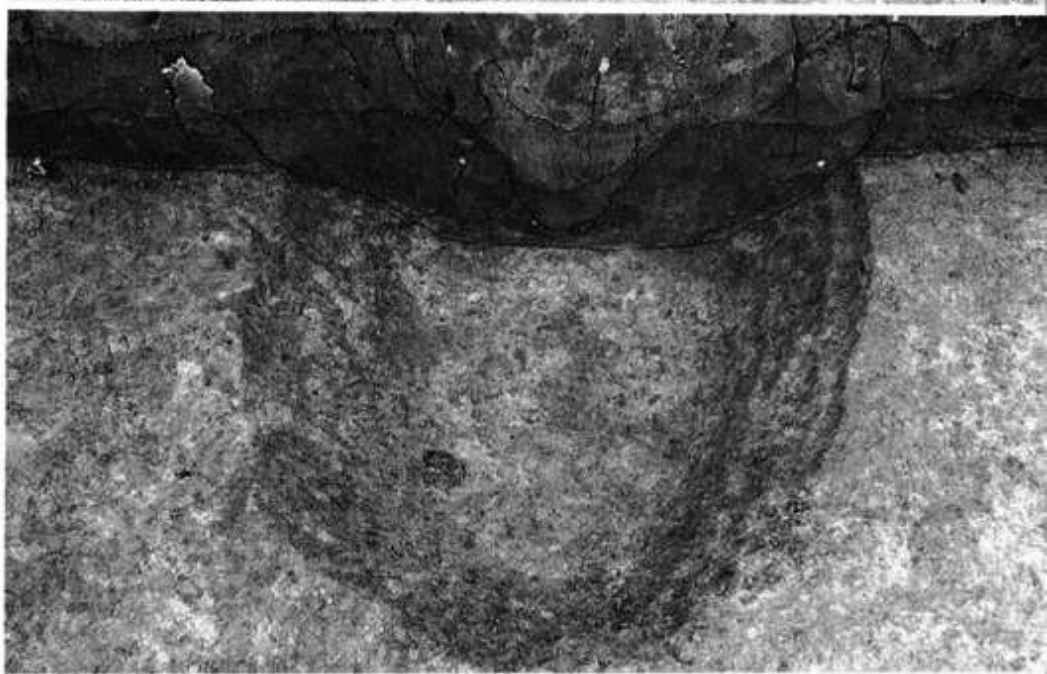
写真70
SK1270全景
（北西から）

写真71
SK1271全景
（北西から）

写真72
SX1272全景
（北から）

写真73
SK1273全景
（北から）

写真74
SK1274全景
（北から）



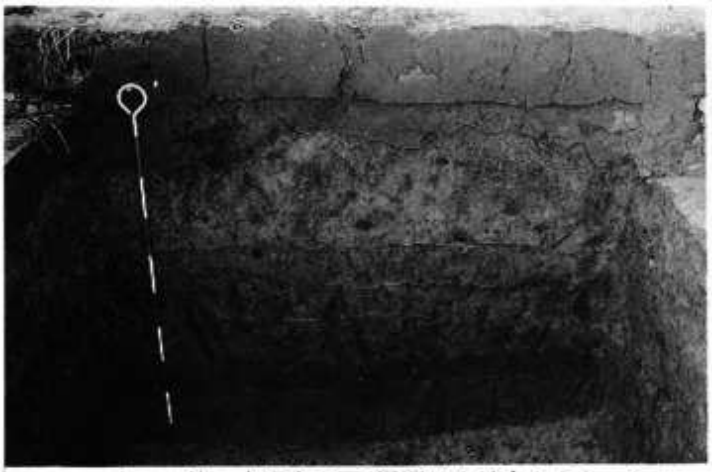


写真75　第85次調査A区 坪堀りA地点セクション（東から）

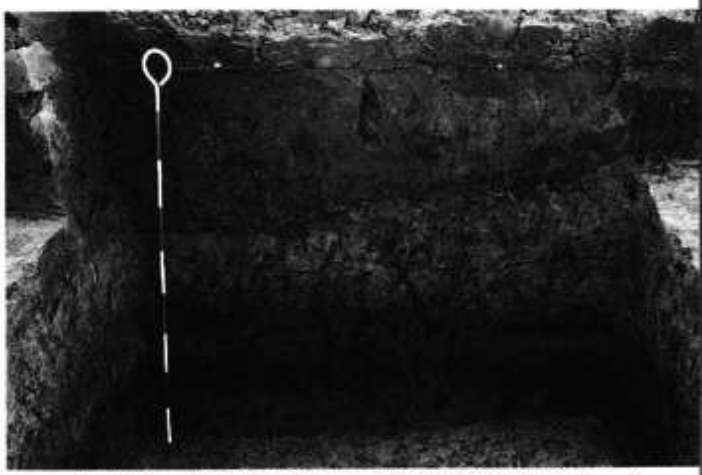


写真76　第85次調査A区 坪堀りB地点セクション（北から）

写真77　第85次調査A区全景（西から）

写真78　第85次調査A区全景（東から）

写真79
第85次調査B区
全景(南から)

写真80
SB1278
SB1280全景
(南から)

第81図
SB1277全景
(南から)

写真82
第85次調査B区
全景（東から）

写真83
SB1278全景
（北から）

写真84
SB1280全景
（北から）

写真85　SB1277(P5)SB1278(P11)セクション(北から)

写真86　SB1280(P65a, P65b)セクション(北から)

写真87　Ⅲc層中弥生土器出土状況

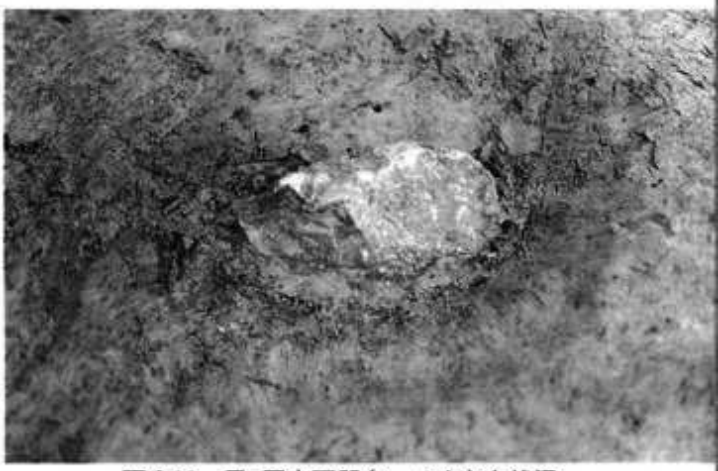


写真88　Ⅲc層中石器(K－61)出土状況

写真89　第85次調査B区作業風景(北西から)

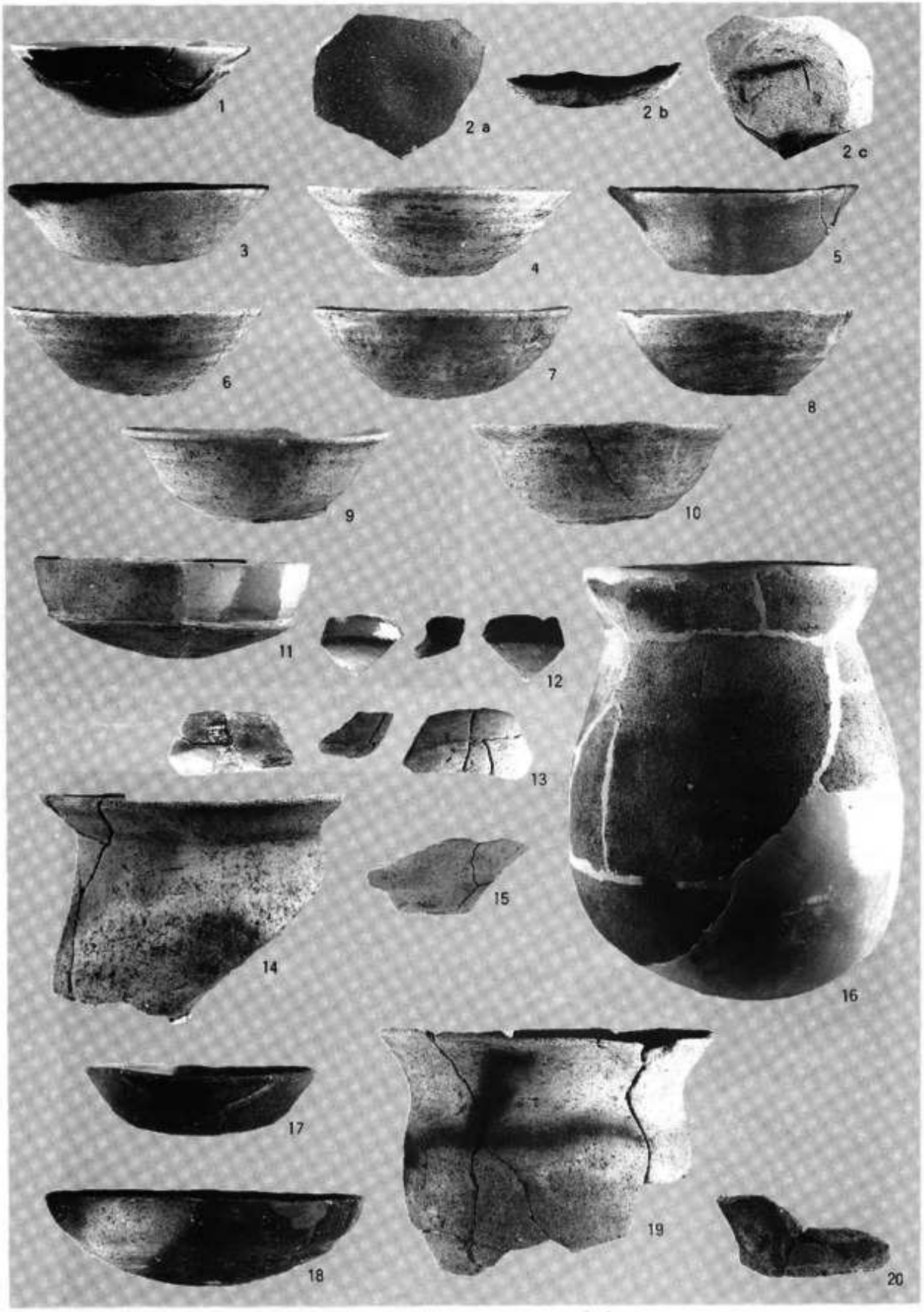


写真90　第84次調査区出土土器（1）

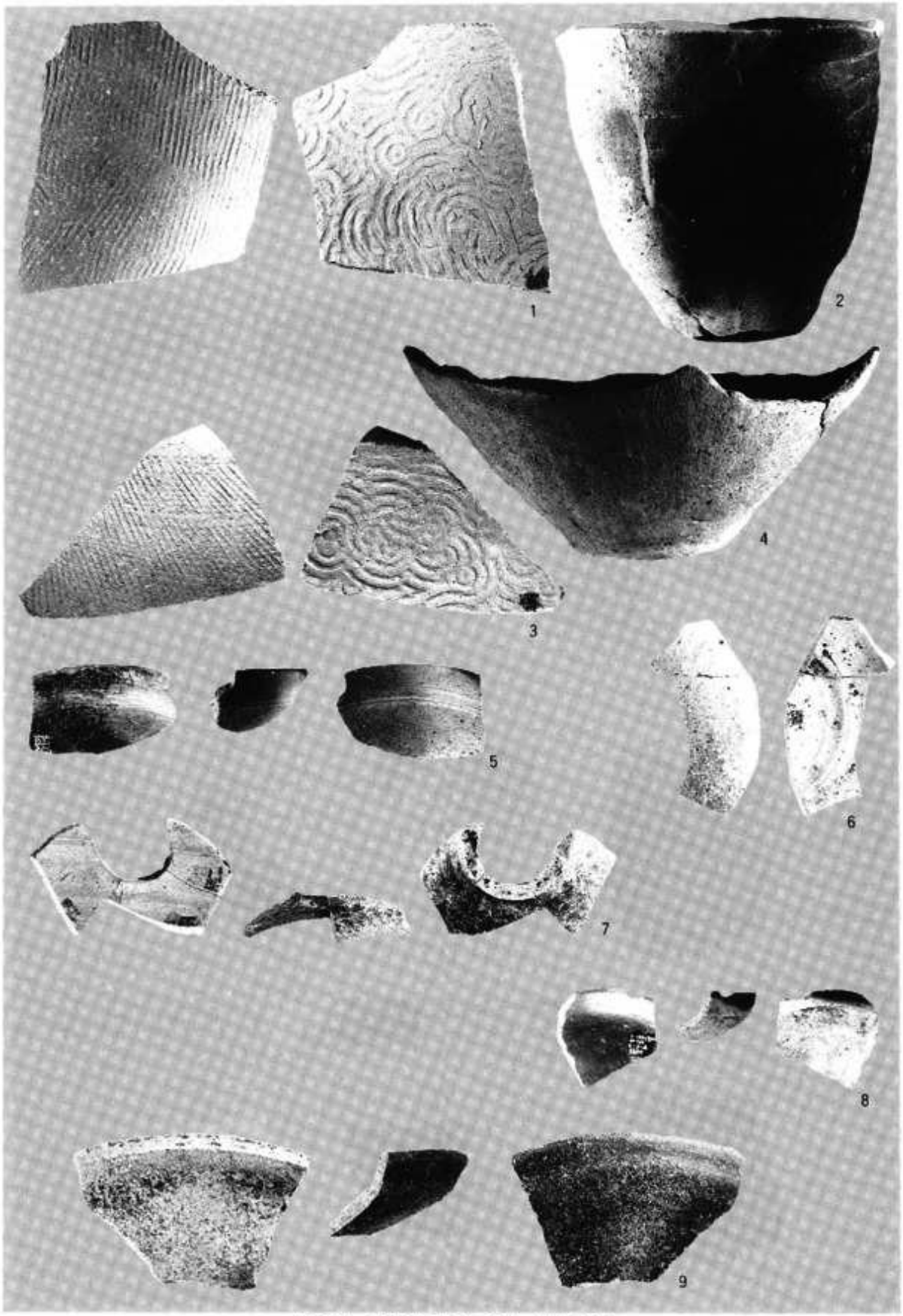


写真91　第84次調査区出土土器（2）

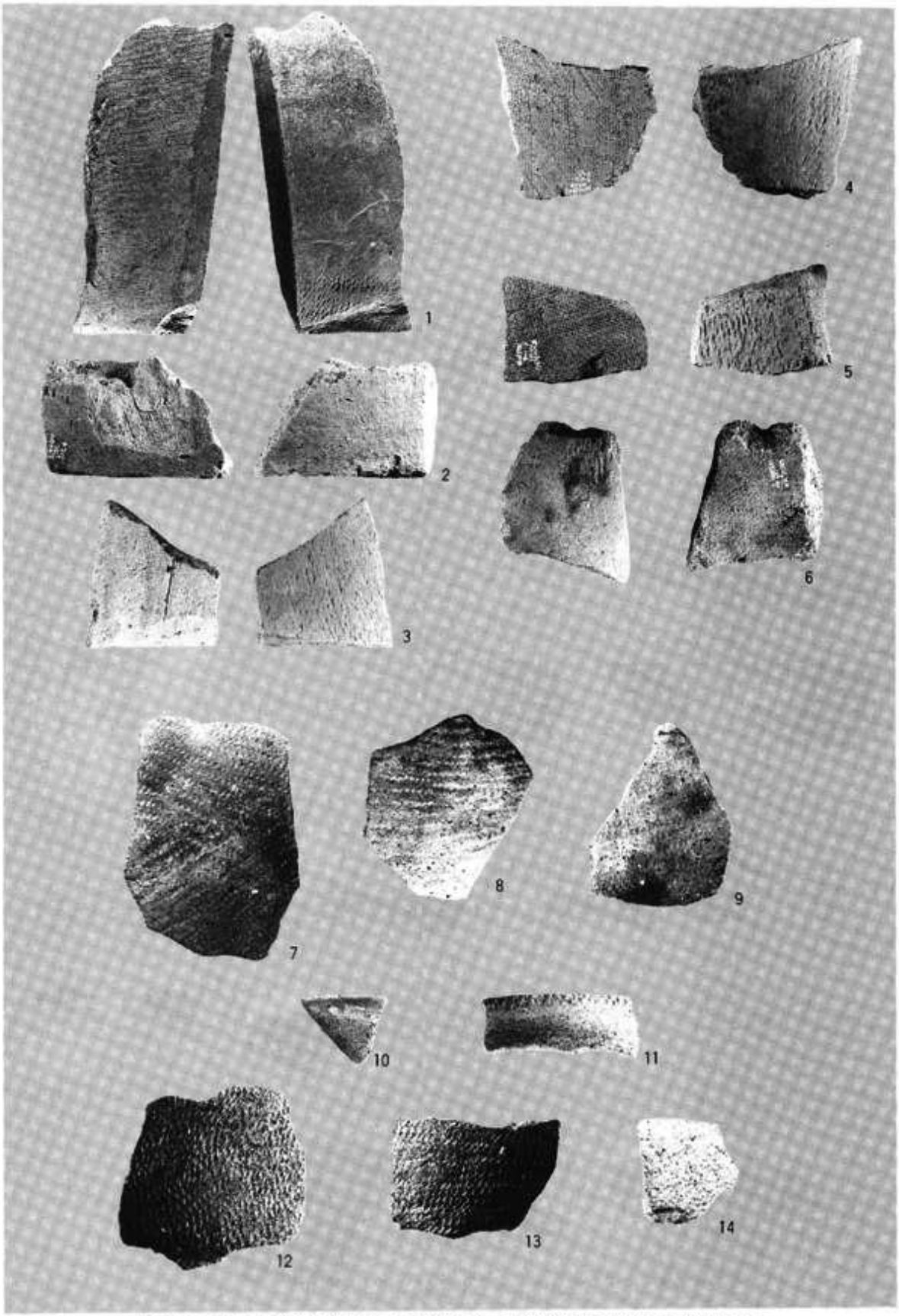


写真92　第84次調査区出土瓦・弥生土器、第85次調査A区出土弥生土器

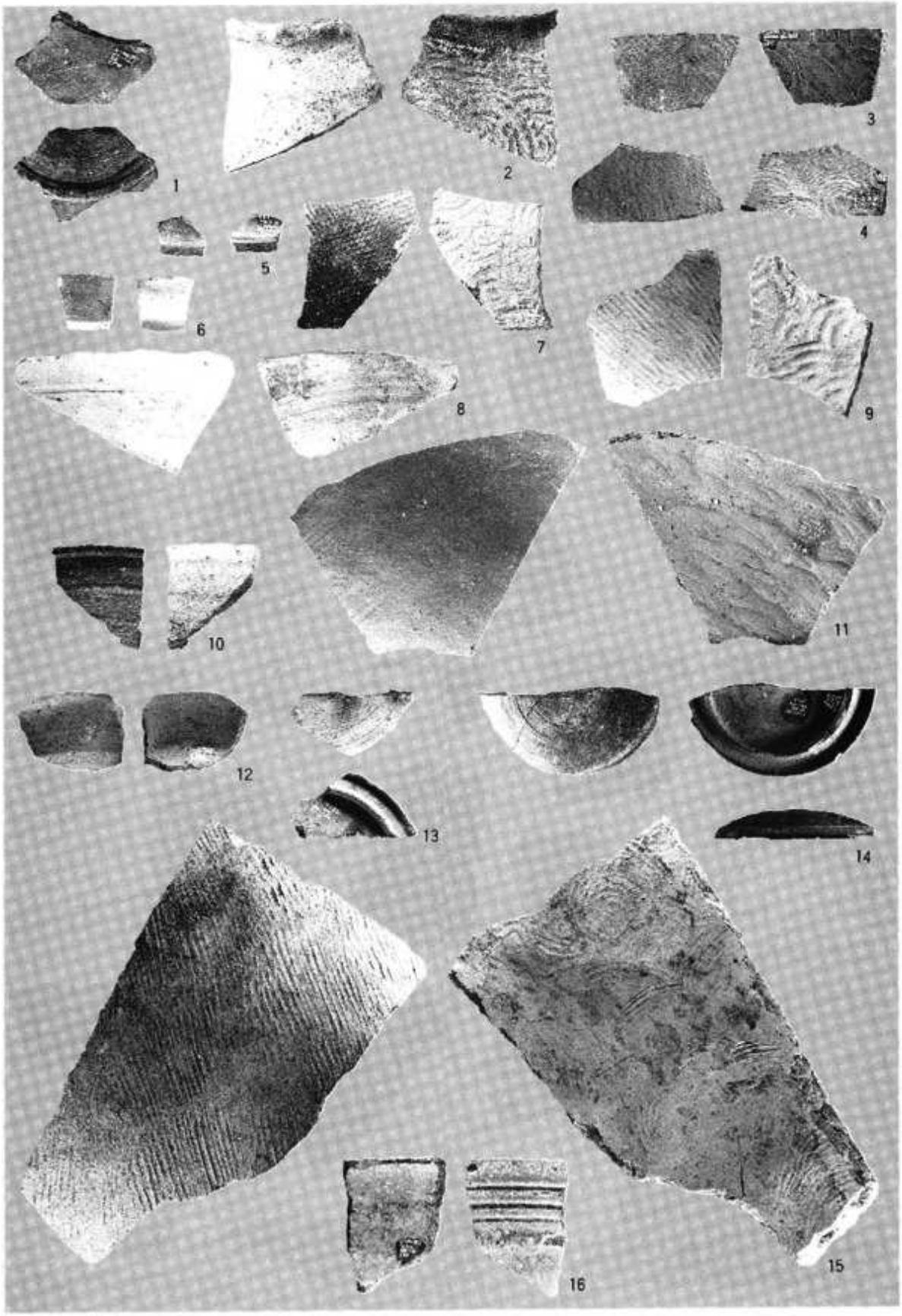


写真93　第85次調査区出土土器

写真94　第85次調査B区出土弥生土器（1）

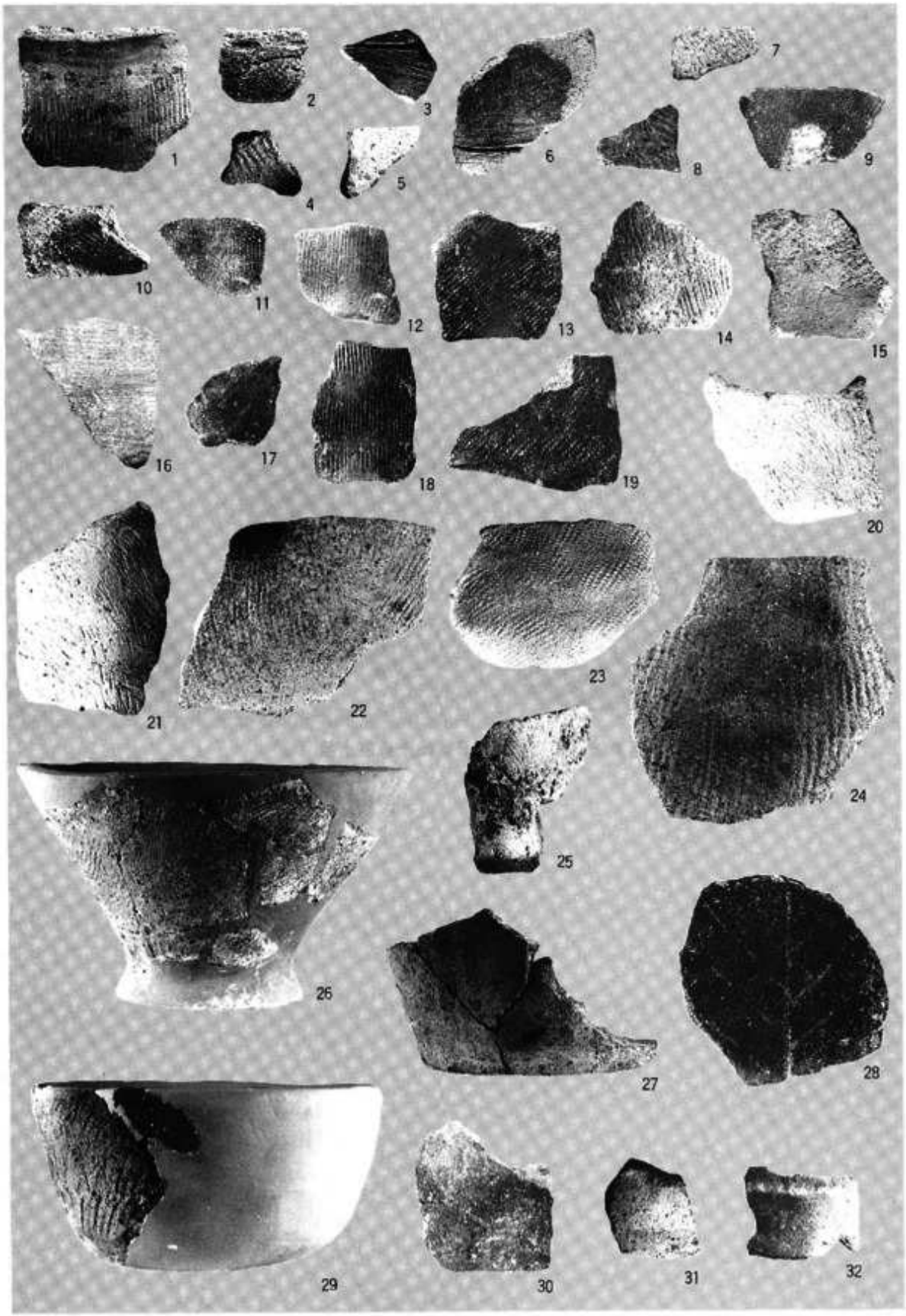


写真95　第85次調査B区出土弥生土器（2）

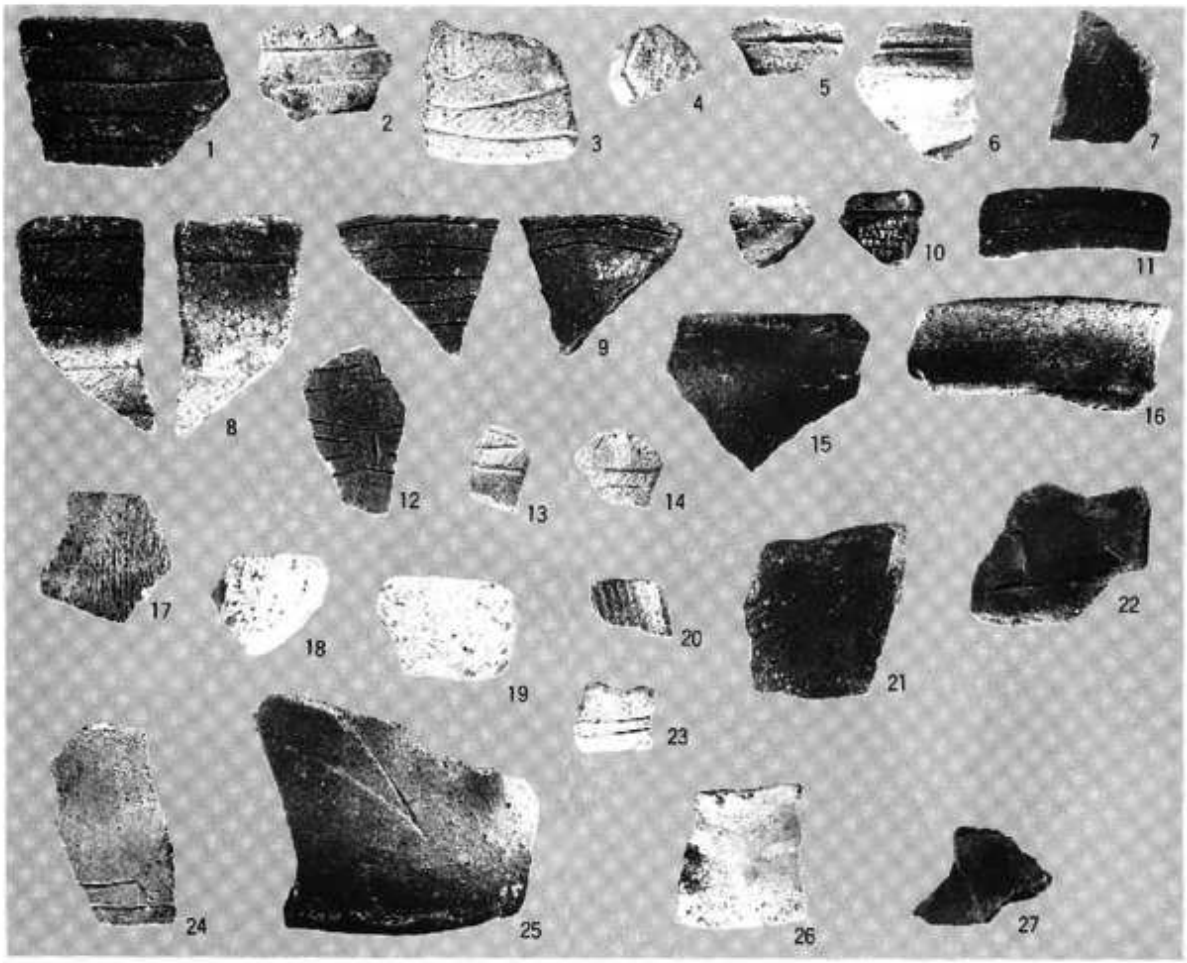


写真96　第85次調査Ｂ区出土弥生土器（3）

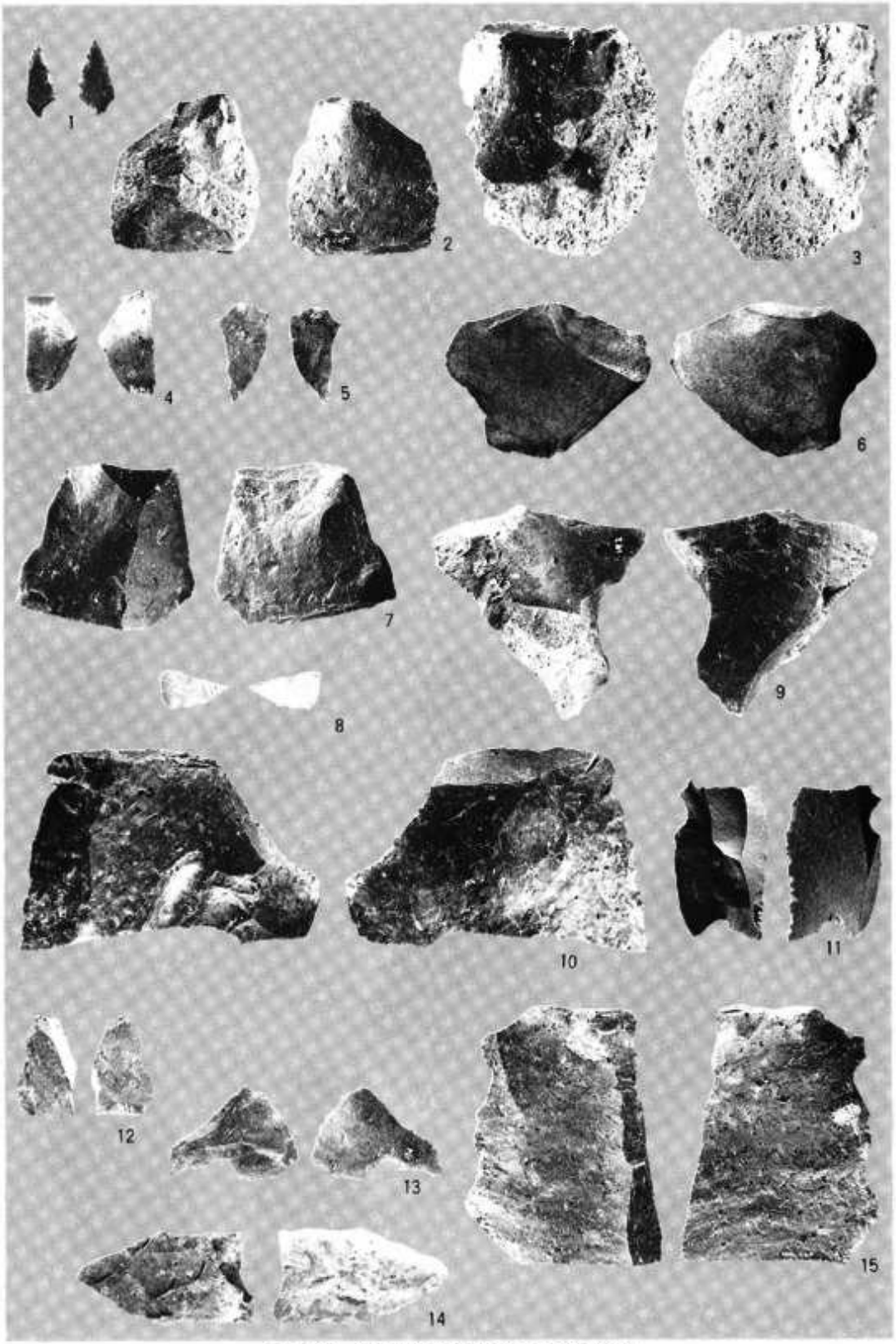


写真97　第85次調査B区出土石器（1）

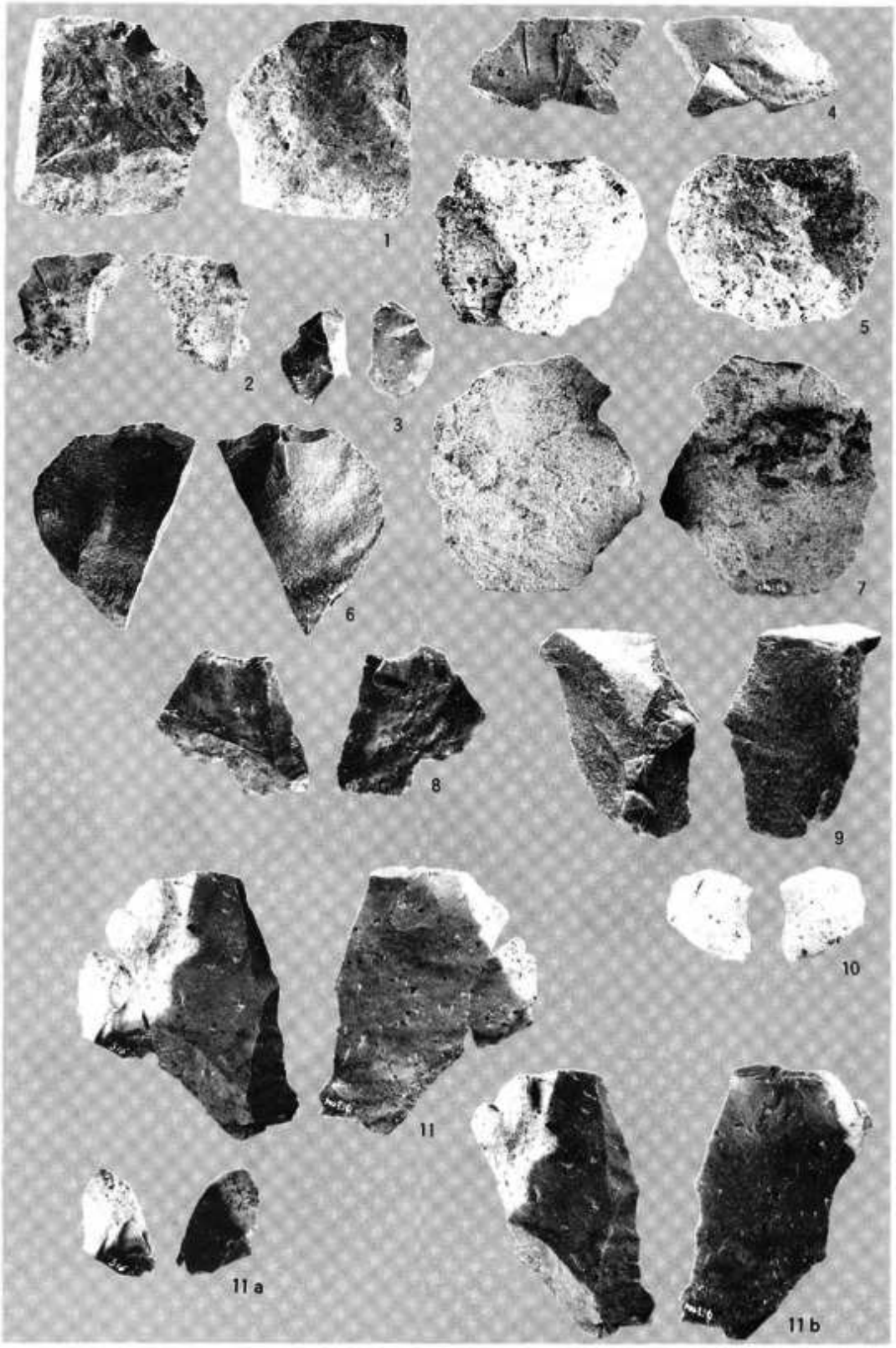


写真98　第85次調査B区出土石器（2）

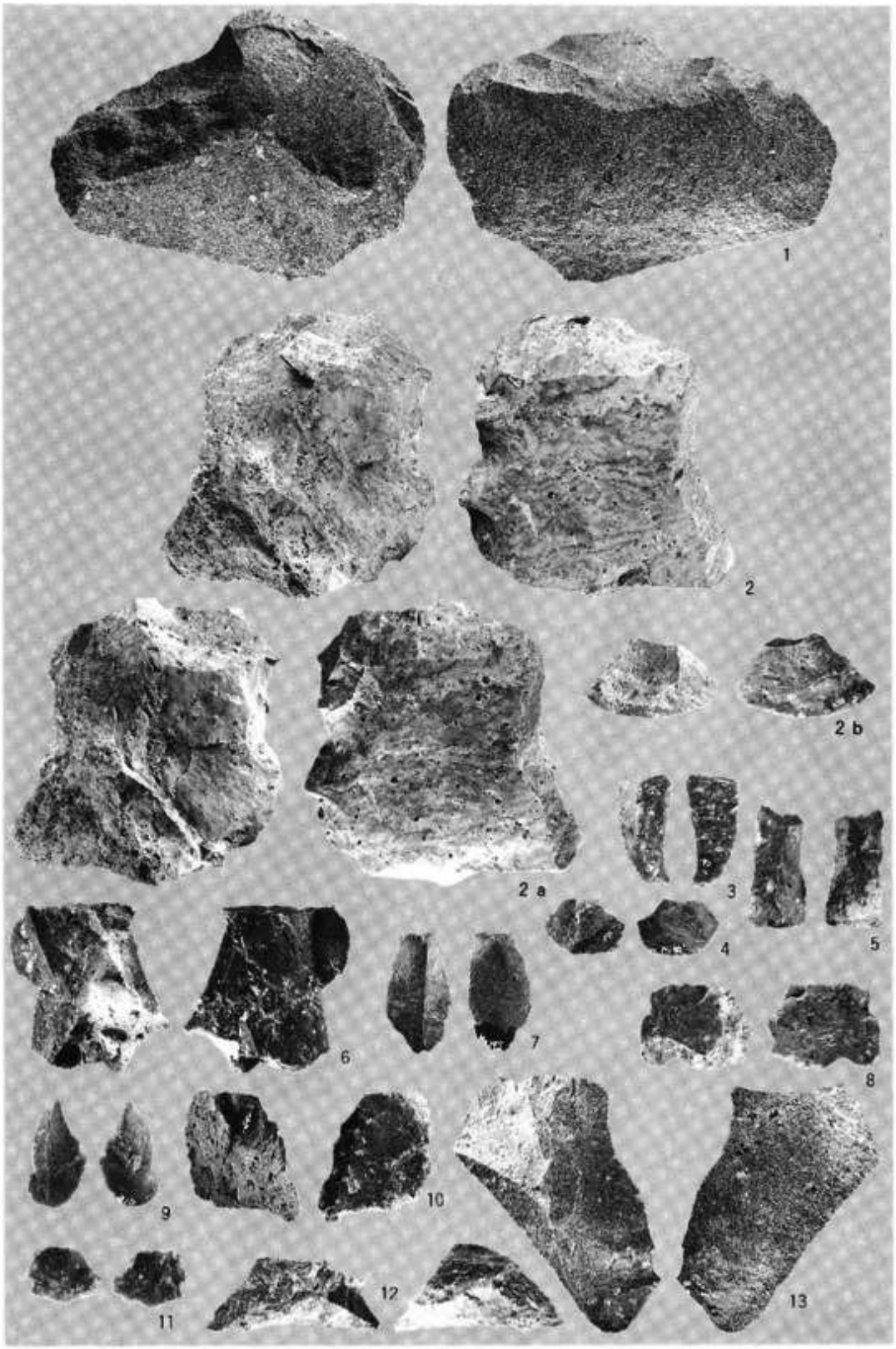


写真99　第85次調査B区出土石器（3）

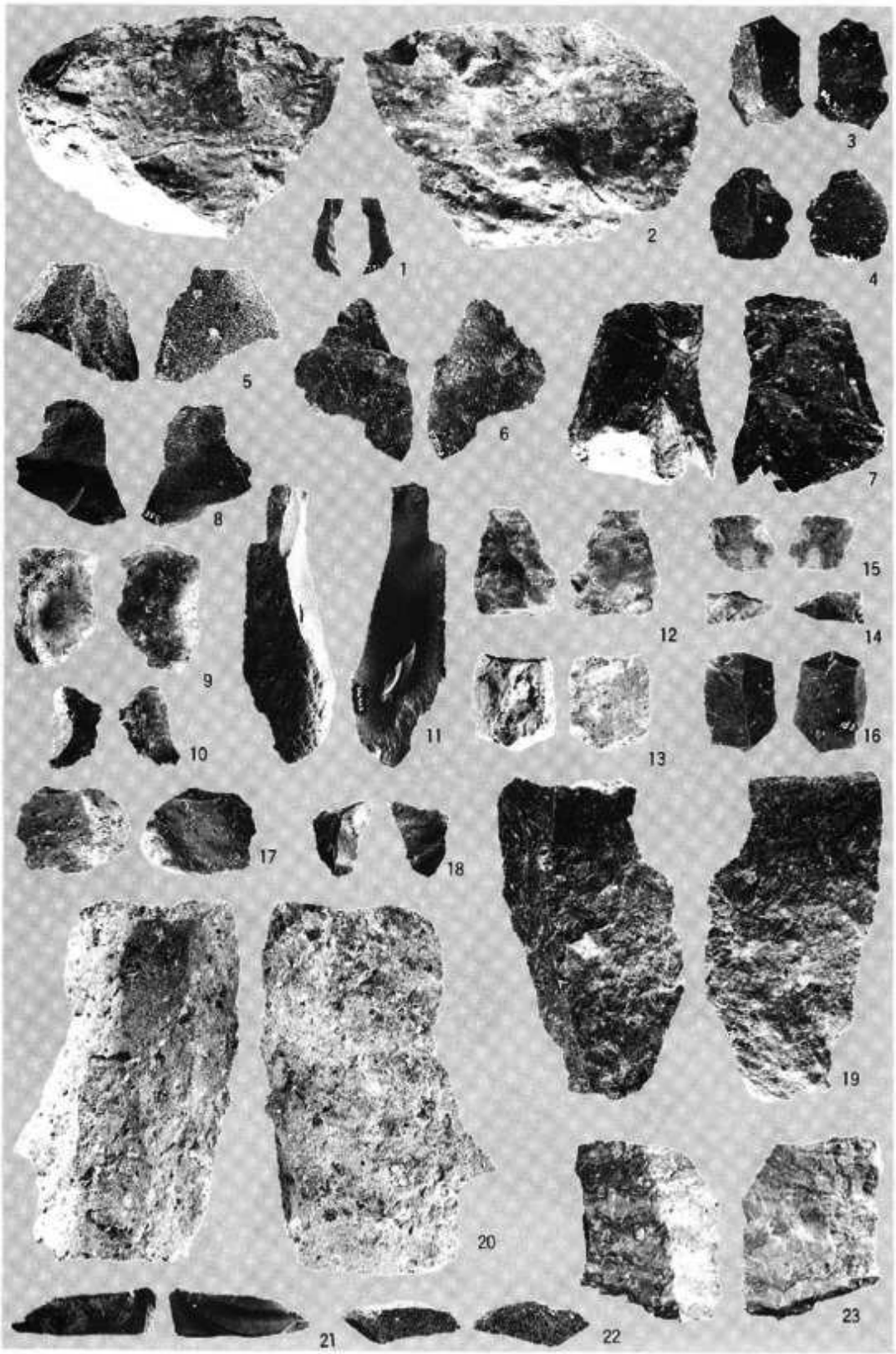


写真100　第85次調査B区出土石器（4）

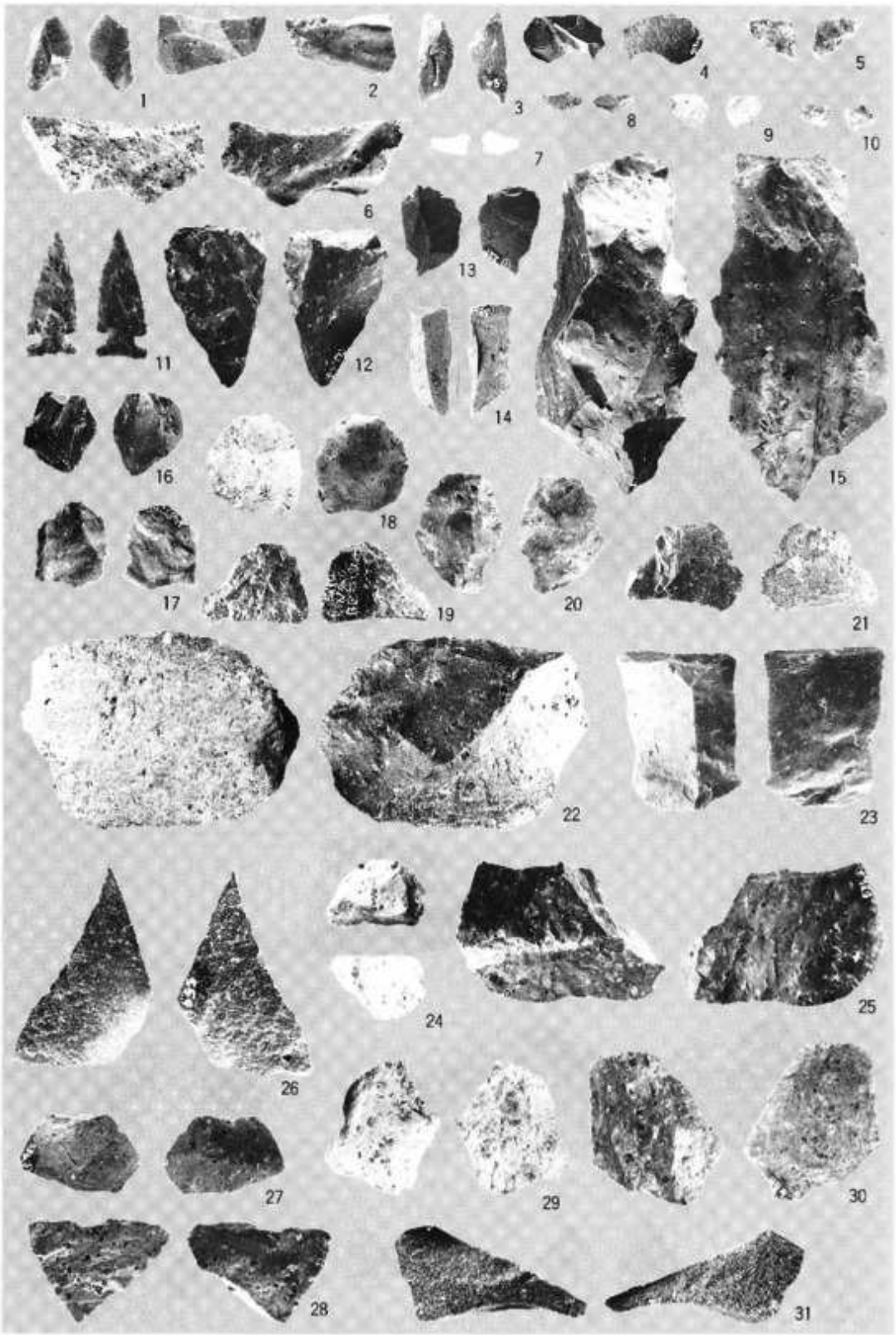


写真101　第85次調査Ｂ区出土石器（５）

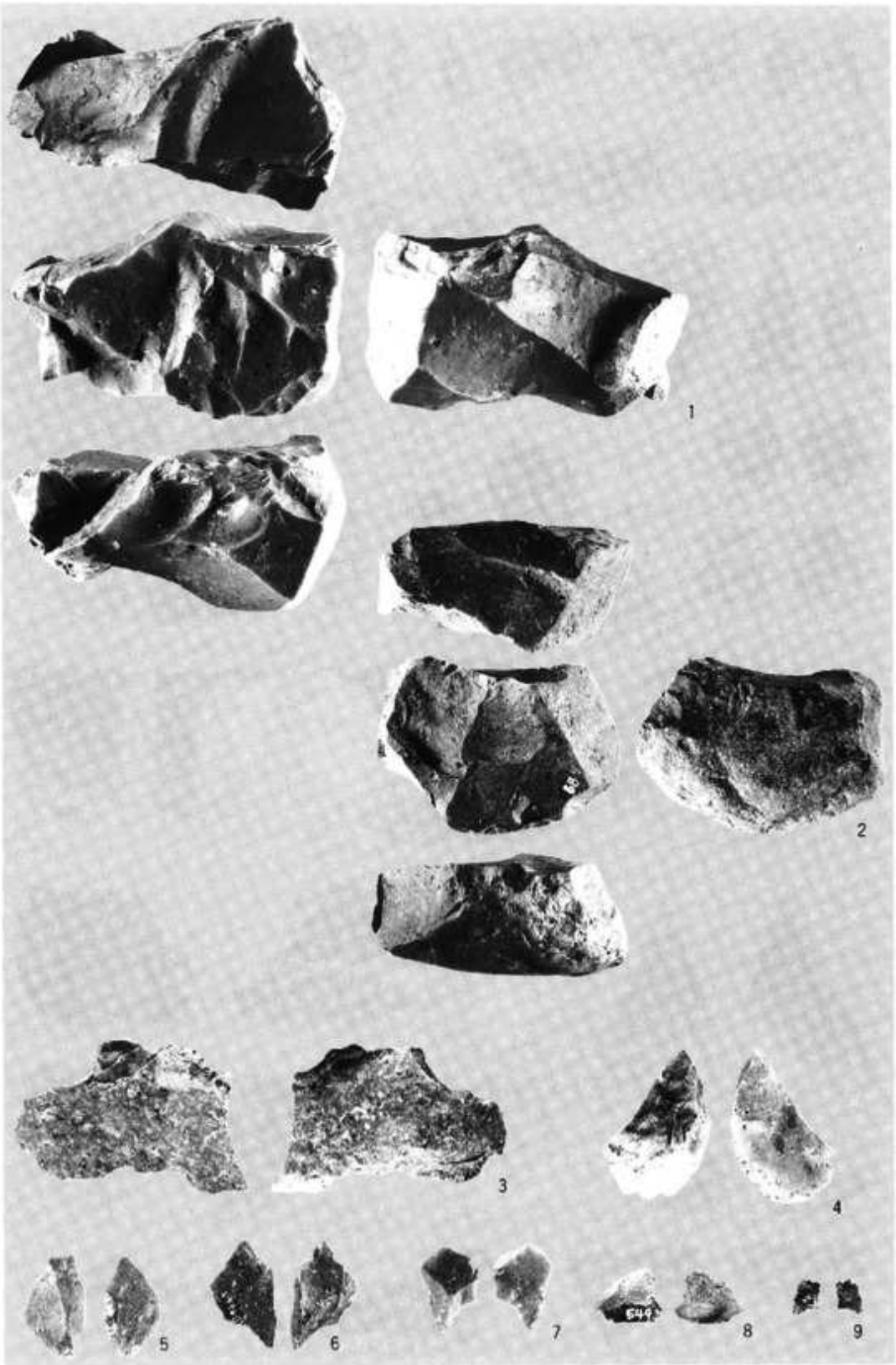


写真102　第85次調査B区出土石器（6）

文化財課職員録

課長　早坂春一

管理係		調査第一係			
係長	楊田義幸	係長	佐藤　隆	教諭	佐藤好一
主事	白幡靖子	主任	田中則和	主事	佐藤　洋
〃	佐藤良文	教諭	太田昭夫	〃	金森安孝
〃	高橋三也	主任	篠原信彦	教諭	小川淳一
〃	庄司　厚	〃	木村浩二	主事	渡部弘美
		主事	吉岡恭平	〃	工藤哲司
		〃	斎野裕彦	〃	主浜光朗
		教諭	五十嵐康洋	〃	長島榮一
		〃	渡辺雄二	〃	工藤信一郎
		主事	大江美智代	〃	荒井　格
				〃	中富　洋
		調査第二係		〃	平間亮輔
		係長	加藤正範	教諭	高倉祐一
		主任	熊谷幹男	主事	佐藤　淳
				〃	渡部　紀

「郡山遺跡」発掘調査報告書刊行目録

第23集　年　　報1 —昭和54年度発掘調査略報—(昭和55年3月)
第29集　郡山遺跡Ⅰ—昭和55年度発掘調査概報—(昭和56年3月)
第38集　郡山遺跡Ⅱ—昭和56年度発掘調査概報—(昭和57年3月)
第42集　郡山遺跡—宅地造成に伴う緊急調査—(昭和57年3月)
第46集　郡山遺跡Ⅲ—昭和57年度発掘調査概報—(昭和58年3月)
第64集　郡山遺跡Ⅳ—昭和58年度発掘調査概報—(昭和59年3月)
第74集　郡山遺跡Ⅴ—昭和59年度発掘調査概報—(昭和60年3月)
第86集　郡山遺跡Ⅵ—昭和60年度発掘調査概報—(昭和61年3月)
第96集　郡山遺跡Ⅶ—昭和61年度発掘調査概報—(昭和62年3月)
第110集　郡山遺跡Ⅷ—昭和62年度発掘調査概報—(昭和63年3月)
第124集　郡山遺跡Ⅸ—昭和63年度発掘調査概報—(平成元年3月)
第133集　郡山遺跡Ⅹ—平成元年度発掘調査概報—(平成2年3月)
第145集　郡山遺跡—平成2年度発掘調査概報—(平成3年3月)

仙台市文化財調査報告書第145集
平成2年度
郡山遺跡
第84次・85次発掘調査報告書
平成2年6月
発行 仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町3－7－1
印刷 ㈱東北プリント
仙台市青葉区立町24－24 TEL 263－1166